

川は北東部及び西北部より二支流を合せて南流し、沿岸に耕地拓く。米・麥・蔬菜等を産す。道路はその東部を南北に通じ北方平市、南方小名濱町へはバスの便あり。西北より東部に社線磐城炭礦鉄道通じ村内に野田・住吉・大原の三驛を置く。この地は和名抄、磐城郡九部郷の内なるべく、大字住吉に住吉館址（一に玉川城ともいふ）あり、岩城判官政氏の居りし所なりと。また大字島には島倉館址あり海東太郎成衡の三男、三郎隆久以來、隆嗣まで九代の居館なりと。大字宮岡は成衡の役に出陣ありし地。（住吉神社）大字住吉に御座。神社。祭神、上筒之男命、中筒之男命、底筒之男命。式内社。例祭日、十月十三日。（禪長寺）大字林城にあり。臨濟宗妙心寺派。普門山と號し、大同二年徳一大師の開基にして、始め法相宗たりしを、文中後鳥羽帝の皇子家岩義尹禪師之を中興し、弘安中龜山皇の勅願所となり、天正七年正親町天皇再び勅願所の輪旨を賜ふ。今もこれを藏すといふ。

【玉川村】 茨城縣常陸國行方郡の中部。霞ヶ浦の東岸にて玉造町の南方にあり、間に手賀村を挟む。中部より東部にかけては低き臺地をなして地多多く西部の霞ヶ浦沿岸には低地ありて水田をなす。農業は最近大いに發達し、水田を満溢して水田の二毛作をなし、米・大麥・小麥を多産す。その他麥藁も行はれ産品も多し。

【玉川村】 埼玉縣武蔵國比企郡の西部。小川町の南方にて間に大河村の一部を挟む。關東山脈一支脈の東部を占め殆ど山地にて西境は約二五〇米、南境は約一〇〇米、北境は約二〇〇米にて三方より村内に傾斜し森林多く裾合を視川の支流東北に流れその流域のみ田畑あり。米・蕎麥を産す。小川町へはバスの便あり。この地は和名抄、男衾郡津郷の内に屬せしものか。近世、比企郡玉川郷或は妙聲郷と稱せりといふ。江戸時代、知行所・幕領・采地入り交りし地なり。

【玉川村】 長野縣信濃國諏訪郡の中部。八ヶ岳西麓の裾野を占め、上諏訪町の東南方約十軒。略中央に泉野村を併し本村を東西の二部分に分割す。東部は裾野東端に八ヶ岳連峰中の阿彌陀嶽（二八〇七米）聳立し、西に向ひて傾斜し祖原と稱せらるる裾野の一部をなす。西部は裾野廣く裾野の諏訪盆地に移化せんとする部分、湧泉の湧出により灌漑よく水田多し。粟藁も概し西部に類集し農業・養蠶に従事す。裾野の草原は牧畜に利用され、近時桑の栽培盛なり。此の地方は又冬季寒天製造地にして、隣村の茅野驛より全國市場に搬出さる。西部を東西に走り各部落を結ぶ縣道村内に合して更に西走

し、大門街道に會して諏訪盆地に通ず。省線中央本線茅野驛へ三軒、バスの便あり。此地は和名抄、諏訪郡山鹿郷の内。【玉川村】 静岡縣駿河國安曇郡の中部。安倍川の支流中河内川に沿ふ一帯の地。東部に静岡市に、東より北にかけては安倍川上流の大河内・梅ヶ島兩村に界す。面積九五・二五方軒の大村。東部の一部を除く村境は概し千米以上の山脈にして、東部山麓を中河内川南流し、西部山地より出づる西河内川を合して東部に曲流し、村境にて安倍川に合し、静岡市に入る。粟藁は大部分この兩河の谷に散在し、僅かの畑地の耕作に従事する外、村内は概し森林繁茂す。林業を主産業とし、農業・養蠶業之に次ぐ。静岡市より谷沿に來る道路は更に西北境より井川村に入り、大井川上流に連絡す。その他安倍川上流及び支流葛科川上流へは山道通ず。静岡市へバスの便あり。古くは和名抄、安曇郡葛岡郷の地にして、中世は玉川庄と呼ばれし處。村内に布澤澤（高五五米、幅一米）あり。

【玉川村】 岡山縣備中國用上郡の東部。高梁川の左岸に位し、東北は上房郡高梁町に隣す。中國山脈の南斜面の高さ三〇〇—四〇〇米の山地を占め起伏緩なる地勢を有し成羽川北境を東に流れ北東隅にて高梁川に注ぎ高梁川は東境を南流し其流域に狭長なる沖積地を拓く。米・蕎麥を産し生柿・蒟蒻の特産あり。山地は牧

牛を産し木炭を産す。對岸に省線備前線通過し備中廣渡驛を設け、こゝに渡船を以て連絡す。【玉川村】 福岡縣筑後國三池郡の東南隅。大牟田市の東に位し間に鞍馬町を挟み三池町の南に隣り東及び南は熊本縣玉名郡に界す。面積八・四四方軒。東北境に久重山（三八八米）ありて南及び西に山麓を横げ東南境に沿ひて諏訪川西流し一度平井村に入りて西南隅に於て玉川村に接し鞍馬村に入り、大牟田市より有明海に往ぐ。川に沿へる低地には田畑多く拓けて米・蕎麥を産し山地は針葉樹林多し薪炭を供給す。西部に藤立炭坑あり。三池町方面より東南方玉名郡高瀬町方面を結ぶ街道中央を貫きバスの便あり。古くは和名抄、三毛郡米生郷の内に屬し、大字東米生はその遺稱とす。

【玉川村】 若狭國（福井縣）の古地名。和名抄に遠敷郡玉置郷あり。東鑑、元暦元年の條に若狭國玉置郷を國城寺に寄附せる由見ゆるも蓋し同地とす。その地は今の遠敷郡野木村、松永村の地に當る。野木村の大字玉置はその遺稱とす。【玉置】 ↓津川村（奈良縣）

上に、小さき札を作りて立て、某處の米と書きて、持ちて参りて、御覽せさせけるに、河内國玉瀧の莊の米、一によかりけり云々。

タマクスク 玉城村

神龜縣島尻郡の東南部。郡制市を距る東南約一〇軒、東北は佐敷・知念、西は具志頭、北は大里の諸村に接し南は海に面す。面積約一六・七方軒。隆起珊瑚礁より成る丘陵地にて南岸に小舟入を抱き中に奥武島あり前面の海中には新珊瑚礁よく發達す。甘藷・甘蔗の産を主とし黒糖製造行はる。大字玉城に玉城城址あり。一にアマツシ城ともいふ。アマミキヨこれを築き、初め天香子の次男玉城按司これに居城すといふ。當城の周圍にはその支城とも見るべき垣花城・赤敷城・大成城など小規模ながら未だに城壁遺存す。赤敷按司は眞和志間切上間按司に亡ぼさるといふ。また大字仲村葉ミントン城は天孫氏の最初に築けるものと傳ふ。奥武島に奥武觀音堂あり。浮龜山と號す。昔支那難民此地に漂泊し、四方瞻望是れ國濟世の遺場なりと、即ち一字を建立し、觀音大士の像を安置して歸國すといふ。乾隆十八年堂を再興し、更に嘉慶十七年向玉城按司領長・玉城親方盛林これを改築すといふ。祠堂清淨にして雅趣に富めるも地不便なる爲世に知られず。附近の支那船を繋留せし跡をミツラヤ瀬と呼ぶ。

タマコ 多摩湖鐵道

社線。東京府

タマサキ 田方崎村

山口縣長門國阿武郡の東北海岸を占むる農漁村。須佐町の東北。東は島根縣石見國美濃郡、北の一面は日本海に臨む。地勢は概ね多山にして平地乏しく山脈は海岸に沿ふもの並に南東に於て海岸山脈に並行するものあり。高さは前者に一六八米のもの、後者に三〇九米三に達する高峰を有す。海岸は出入に富み、殊に江崎灣の如く奥深く灣入せる港あり。平地は此等兩山脈の中間に狭長に延び、耕地を形成す。河川は田方崎川稍々大なり。山脈本線は本村を通り、江崎縣(昭和三年設置)を設く。海上の交通も繁く、江崎灣には造船並びに帆船・汽船の出入あり。生業は農漁を主とし、米の産出最も多く、また養蚕を出し、木材・木炭等の林産もまた少

タマシマ 玉島

大阪府河内國三島郡の南部。玉島町の東に隣る。地は大阪平野の一部を占むるを以て低平肥沃、且つ灌漑の便良好にして耕地廣く拓く。隨つて米産頗る多し。また杞柳製品の産多し、阿片栽培行はる。美木町(バス)の便あり。本村は昭和十年高野・宮島の二村を合併して置けるもの。

タマサキ 玉瀧

岡山縣備中國津口郡の東南部。東北より西南の方向に走る鴨方斷層によつて切りなされたる中國山地の南端の小陸塊が、南流し来る高梁川下流の沖積作用によりて本土と連絡し、肥沃平坦な平野を造成す。町は高梁川河口の西部の地を占め、従つて全町は耕作よく行はれ、米・麥・粟・粟・粟及び柿その他の果實を産し、蠶桑・麥稈製田・清酒等の工業あり。西南海岸は鹽田ひらけ製鹽行はる。近年は綿糸紡績さかんとなり綿糸及び足袋の製造は次第に生産業となりつつあり。町は縣下第四の商工業都市として紡績業・麥稈製田製造等にて賑ひ人口二萬三千を算す。食穀市・金光町に縣道

タマサキ 玉瀧

からす。水産物は頗る豊富にして、ほかに工農品を有す。特産として、菓子に地蔵餅・地蔵巻あり。本村は古く田萬郷に屬し、明治維新以前には毛利氏の藩領に領せられ、當時田萬郷上・田萬郷下などの稱あり。また田萬村とも稱したり。明治以後には、上田万・下田万・江崎の三村に分立せしが、明治二十二年町村制實施と共に三村を併合して現時の如く田方崎村となす。村内の部落中にては江崎最も繁華にして、宛然小都市の觀を呈す。(西堂寺) 大字江崎にあり。五百餘年前の建立と傳へられ、宗派は曹洞宗、本尊は地藏菩薩にして、古來靈驗あらたかなりとして參詣者多し。寺宇は江崎灣上に突出せる小半島上に設けられ、浮島かと疑はるゝ風光を有し、俗に浮島寺とも呼ばる。

タマサト 玉里

臺灣花蓮港廳玉里郡の街。花蓮港街と臺東街を結ぶ鐵道臺東線の中央に位し兩街間に於ける最繁華なる地。往古は横石園と稱され附近理番上の要衝として内地人の居住者も比較的多かりき。最近街制を敷かれ、大字玉里はその中心地となる。八通關鐵道は新高山の中都附近の八通關を越えて臺中州下に出づる道路にして玉里はその東端をなす。

タマサト 玉瀧

岡山縣備中國津口郡の東南部。東北より西南の方向に走る鴨方斷層によつて切りなされたる中國山地の南端の小陸塊が、南流し来る高梁川下流の沖積作用によりて本土と連絡し、肥沃平坦な平野を造成す。町は高梁川河口の西部の地を占め、従つて全町は耕作よく行はれ、米・麥・粟・粟・粟及び柿その他の果實を産し、蠶桑・麥稈製田・清酒等の工業あり。西南海岸は鹽田ひらけ製鹽行はる。近年は綿糸紡績さかんとなり綿糸及び足袋の製造は次第に生産業となりつつあり。町は縣下第四の商工業都市として紡績業・麥稈製田製造等にて賑ひ人口二萬三千を算す。食穀市・金光町に縣道

を北流し、大川は東境を北流す。米・麥・粟・大豆等を産す。道路は西部を南北に通ずるものと北部を西北より東南に通ずるものとあり。前者は北方本郷町に接する西北高田町に至る。本村は正十四年、米玉瀧村・川路村の二村を合併して成れるもの。

タマサト 玉里

臺灣花蓮港廳玉里郡の街。花蓮港街と臺東街を結ぶ鐵道臺東線の中央に位し兩街間に於ける最繁華なる地。往古は横石園と稱され附近理番上の要衝として内地人の居住者も比較的多かりき。最近街制を敷かれ、大字玉里はその中心地となる。八通關鐵道は新高山の中都附近の八通關を越えて臺中州下に出づる道路にして玉里はその東端をなす。

タマサト 玉瀧

岡山縣備中國津口郡の東南部。東北より西南の方向に走る鴨方斷層によつて切りなされたる中國山地の南端の小陸塊が、南流し来る高梁川下流の沖積作用によりて本土と連絡し、肥沃平坦な平野を造成す。町は高梁川河口の西部の地を占め、従つて全町は耕作よく行はれ、米・麥・粟・粟・粟及び柿その他の果實を産し、蠶桑・麥稈製田・清酒等の工業あり。西南海岸は鹽田ひらけ製鹽行はる。近年は綿糸紡績さかんとなり綿糸及び足袋の製造は次第に生産業となりつつあり。町は縣下第四の商工業都市として紡績業・麥稈製田製造等にて賑ひ人口二萬三千を算す。食穀市・金光町に縣道

タマサト 玉瀧

岡山縣備中國津口郡の東南部。東北より西南の方向に走る鴨方斷層によつて切りなされたる中國山地の南端の小陸塊が、南流し来る高梁川下流の沖積作用によりて本土と連絡し、肥沃平坦な平野を造成す。町は高梁川河口の西部の地を占め、従つて全町は耕作よく行はれ、米・麥・粟・粟・粟及び柿その他の果實を産し、蠶桑・麥稈製田・清酒等の工業あり。西南海岸は鹽田ひらけ製鹽行はる。近年は綿糸紡績さかんとなり綿糸及び足袋の製造は次第に生産業となりつつあり。町は縣下第四の商工業都市として紡績業・麥稈製田製造等にて賑ひ人口二萬三千を算す。食穀市・金光町に縣道

タマサト 玉瀧

岡山縣備中國津口郡の東南部。東北より西南の方向に走る鴨方斷層によつて切りなされたる中國山地の南端の小陸塊が、南流し来る高梁川下流の沖積作用によりて本土と連絡し、肥沃平坦な平野を造成す。町は高梁川河口の西部の地を占め、従つて全町は耕作よく行はれ、米・麥・粟・粟・粟及び柿その他の果實を産し、蠶桑・麥稈製田・清酒等の工業あり。西南海岸は鹽田ひらけ製鹽行はる。近年は綿糸紡績さかんとなり綿糸及び足袋の製造は次第に生産業となりつつあり。町は縣下第四の商工業都市として紡績業・麥稈製田製造等にて賑ひ人口二萬三千を算す。食穀市・金光町に縣道

タマサト 玉瀧

岡山縣備中國津口郡の東南部。東北より西南の方向に走る鴨方斷層によつて切りなされたる中國山地の南端の小陸塊が、南流し来る高梁川下流の沖積作用によりて本土と連絡し、肥沃平坦な平野を造成す。町は高梁川河口の西部の地を占め、従つて全町は耕作よく行はれ、米・麥・粟・粟・粟及び柿その他の果實を産し、蠶桑・麥稈製田・清酒等の工業あり。西南海岸は鹽田ひらけ製鹽行はる。近年は綿糸紡績さかんとなり綿糸及び足袋の製造は次第に生産業となりつつあり。町は縣下第四の商工業都市として紡績業・麥稈製田製造等にて賑ひ人口二萬三千を算す。食穀市・金光町に縣道

タマサト 玉瀧

岡山縣備中國津口郡の東南部。東北より西南の方向に走る鴨方斷層によつて切りなされたる中國山地の南端の小陸塊が、南流し来る高梁川下流の沖積作用によりて本土と連絡し、肥沃平坦な平野を造成す。町は高梁川河口の西部の地を占め、従つて全町は耕作よく行はれ、米・麥・粟・粟・粟及び柿その他の果實を産し、蠶桑・麥稈製田・清酒等の工業あり。西南海岸は鹽田ひらけ製鹽行はる。近年は綿糸紡績さかんとなり綿糸及び足袋の製造は次第に生産業となりつつあり。町は縣下第四の商工業都市として紡績業・麥稈製田製造等にて賑ひ人口二萬三千を算す。食穀市・金光町に縣道

タマサト 玉瀧

岡山縣備中國津口郡の東南部。東北より西南の方向に走る鴨方斷層によつて切りなされたる中國山地の南端の小陸塊が、南流し来る高梁川下流の沖積作用によりて本土と連絡し、肥沃平坦な平野を造成す。町は高梁川河口の西部の地を占め、従つて全町は耕作よく行はれ、米・麥・粟・粟・粟及び柿その他の果實を産し、蠶桑・麥稈製田・清酒等の工業あり。西南海岸は鹽田ひらけ製鹽行はる。近年は綿糸紡績さかんとなり綿糸及び足袋の製造は次第に生産業となりつつあり。町は縣下第四の商工業都市として紡績業・麥稈製田製造等にて賑ひ人口二萬三千を算す。食穀市・金光町に縣道

られ、また萬葉集の歌にて名高し。萬葉集その他に見ゆる松浦川は今の松浦川に
てはなくこの玉島川を指せしもの。この
川はもと梅豆瀬川ともいひ、往古は虹ノ
松原と鏡山との間を流れ満島にて鏡川に
合せりといふ。古くより結を以て聞え、
今もこれを産す。萬葉・五ノ松浦川玉島
のうちにわかゆつるいもらを見らむ人の
ともしき

タマタ 玉田 愛知縣中島郡にありし
村。明治三十四年北島村と合し、島田村
（のうち大里村となる）を置く。

タマダキ 玉瀧村 三重縣伊賀國阿
山郡の北島。上野町の北方約一〇軒。全
村丘陵起伏し西北境に岩尾山（四七一米）
あり、西境は約五〇〇米の高さを呈し東
部に低し。玉瀧川は西境に源流し中部に
て南下し河合村に入る。農産類最も多く
米に次ぎて蕎麦を産し蕎麦の産もあり。特産
には茶・繭あり。山には薪炭を出し他に
畜産も出ず。此地古くは和名抄、阿拜郡
川合郷に属す。玉瀧寺の中に坐落の跡十
餘ヶ所あり。天正中伊賀の郷土が輪田勢
に抗したる處と傳ふ。

タマチ 田町 東京市芝区の町。東海道本線の
一驛（明治四十二年設置）あり。
【田町】 従貢線の貨物驛（昭和四年設置）
臺灣高津市にあり。

タマツ 玉津 玉津村 滋賀縣近江國野洲郡の南西

【本】 小鎮山（二二六二米）等の諸山あり。
一般に南方に低く荒瀬川は荒瀬嶺の山麓
に發し四國山地の溪流を合して東南に流
る。上流には玉造八湯・鬼首湯等の温泉
あり、下流沿岸には沖積地ありて耕地を
つくり仙臺平野に續く。郡内殆ど農村に
して米・稗・大豆・蕎麥・大麻・粟・蕪
菜、桑を産し、養蠶も近年増立漸次増
加しつつあるも未だ盛ならず。且つ天惠
に薄く今後の施設に待つ所多し。林産類
も割合に少なると鬼首村附近は馬の名産
地として著はる。なほ冬季積雪多きを以
て梅・盆・鉢・重箱等の家内工業に従事
する者多し。縣道登米街道中部を東西に
通じ、また荒瀬川沿ひにも縣道走り近年
バスを通じ、省線南東線も南部荒瀬川
に沿うて走る。顯紀聖武天皇の天平九年
紀に健甕四五人を墓りこれを玉造嶺等
の五墓に配せしことあり、同書稱徳天皇
の神護景雲三年に初めて郡名見ゆ。和名
抄は太萬豆久里と註し備見・玉造・信太
の三郷及び餘戸一を置く。（玉造八湯）
宮城縣玉造郡鳴子町・川渡村の地籍に湧
出する温泉群の舊稱。湯は荒瀬川の西岸
にあり、東より數へ川渡・田中・赤湯・
元車湯・新車湯・鳴子・阿原湯・中山の八
湯を稱せしが、今は湯坂・新赤湯・一ノ
坂・多賀下の四湯を加へて十二湯と稱す。
泉質硫酸・酸性・アルカリ・泉等あり。
【玉造】 陸奥國（陸前・宮城縣）の古地名。
和名抄に玉造郡玉造郷あり、その地今の

部。守山町の北隅。西は琵琶湖に面し、
野洲川下流の三角洲上の沖積低地にして
全村海拔九〇米以下にあり。野洲川の分
流又は本流沿岸の諸處より湧出する清泉
に源を發する小川と人工による溝渠が縱
横に村内を流れて灌漑に便す。農産は米
を主とし二九三・三三八の畝の外、大麥・
小麥・粟・蕎麥・蕪菜等、水産は鮒・鯉等一
二、四三〇畝を産す。縣道朝鮮人街道が
村の中央部を南北に貫き、別に野洲より
來り大字石田・赤野井を経て濱に移るも
のあり。定期バスは守山驛より下ノ郷經
由本村に入り石田・赤野井まで通す。上
古の縣里制の跡を存し野洲郡の十五條十
二里に當るを以て大字十二里が村の南端
にあり。道路・耕地・溝渠等格子状を呈
す。和名抄の明見郷は大字赤野井附近よ
り南方小津村大字三宅に至る間に當り本
村の大半に之に屬す。中世の玉津莊は火
字矢島を中心とし小津村の北部、河西村
の西部が之に入り、赤野井は大字赤野井
を中心とし大字十二里附近を含めり。江
戸時代は大字矢島は大溝藩、赤野井及十
二里は淺藩、石田は私野藩其他に分領さ
る。十二里には秀吉時代の慶長三年八月
附の檢地帳存し田畑面積も石高も江戸時
代末期と大差なく早くより開拓の進みた
る事證せらる。明治に至り聯合戸長役場
制の下に赤野村外七ヶ村となりしが廿二
年現制となれり。（赤野井別院） 大字赤
野井にあり。眞宗本願寺派。曆應元年本願

玉造郡岩出山町・荒山村・一栗村の邊に
當り延喜長部省式の陸奥國、玉造郡馬五
疋とあるは岩出山町の邊なるべし。

【玉造】 陸奥國（磐城・福島縣）の古地名。
和名抄に磐城郡玉造郷あり、その地今の
和名抄に磐城郡玉造郷あり、その地今の
和名抄に磐城郡玉造郷あり、その地今の

【玉造町】 茨城縣常陸國行方郡の北部。
霞ヶ浦の東岸。中部より東部にかけては
低き臺地をなして地あり。所々林を交
ふ。西部は霞ヶ浦沿岸の低地にて水田あ
り。全戸數の約七割は農家にて他は牛馬
牛馬を産す。米・蕎麥を産す。縣道は臺
地の麓を南北に通じ、社稷島多宮鐵道

の玉造町驛（昭和三年設置）あり。古くは
和名抄、行方郡會津郷の地に當る。會津
郷とは現置郷の内なりしを水野なりし
を以て分れしものならん。然し此地は海
道の大路の經由すべき所に非ざれば、蓋
し國府より鹿島への神拜路のみ。弘仁六
年板来と共に廢せられしものならん。中
世小高六郎幹政の地に居し玉造氏を稱
す。大宮神社の祠官にして、風に動玉の
志駕かりし瀬平主殿（附正五位）は此地の
人とす。

【玉造】 下總國（千葉縣）の古地名。和名
抄に匝理郡玉造郷あり、その地いまは香
取郡に入り常磐村に當り。大字南玉造は
郷の遺稱なるべし。玉造とは蓋し玉造郡
の居し所なり。東鑑・文治二年の條に
「下總國玉造庄、三井寺領」とあるも此
地にして、後世は千田莊に屬す。

寺三世覺如の長子在覺の創立に係るとい
ふ。（觀音堂） 大字矢島にあり。眞宗大
谷派。桓武天皇の勅願により、空海當
に京都東寺の別院を創せしを以て本寺の
遺稱とす。本尊木造聖觀音坐像一軀は藤
原初別之作と推せられ現に國寶たり。

【玉津村】 兵庫縣播磨國明石郡の南部。
明石市の北に隣る。村内は殆ど低平に
て明石川中央を南流し、灌漑に便して耕
地よく拓く。産業中農業最も盛んにして
珠に米を以てその大宗とす。麥・樟草・
蕪菜等の畑作これにつき、蕪菜は大量需
要地明石市を控へて近年益々發達す。ま
た美置業行はれて繭の産多し。交通は明
石市にバスの往來頻りに便なり。

【玉津島】 和歌山市。
【玉津村】 岡山縣備前國邑久郡の中部海
岸。瀬戸内海に面し岡山平野の東部に位
す。南に瀧水を隔てて牛窓町に對す。海
岸線の出入れども海は遠淺なり。尻海
の港存す。村内地勢平坦變化なし。米・
麥・蕎麥・柿・薄荷・酒類の産あり。岡山
市にバスを通ず。もと佐井田或は尻海と
稱されし地にて、いま尻海・庄田の二大
字に分る。玉津航空燈臺あり、燈質自然
電燈閃白色、燭光一二〇萬燭光、先連航
燈塔の暗夜約五〇軒。

【玉津村】 愛媛縣伊豫國東宇和郡の西南
部。法華津河に臨み北に宇和町、東に北
宇和郡に隣す。東北境に高森山（六三五
）あり、西斜面は急に降りて海に迫り、そ

【玉造】 大阪市の地名。玉造は大阪城址
の邊より南は天王寺邊に至る一帶の丘陵
の稱なりしが、いま東區の南部にその名
稱殘る。江戸時代、大阪岡場所の一。城
東線の玉造驛（明治二十八年設置）は中道
唐屋町にあり。浪花今八卦・眞田山、玉
造：此のあたり前に相かわらず、品く
だり、新家の方も在所請なればはかばか
しき事もなく、玉造いなりのへんは近來
しる人出多うし。

【玉造江】 鹿児島府。玉造江は大阪城址
の邊より南は天王寺邊に至る一帶の丘陵
の稱なりしが、いま東區の南部にその名
稱殘る。江戸時代、大阪岡場所の一。城
東線の玉造驛（明治二十八年設置）は中道
唐屋町にあり。浪花今八卦・眞田山、玉
造：此のあたり前に相かわらず、品く
だり、新家の方も在所請なればはかばか
しき事もなく、玉造いなりのへんは近來
しる人出多うし。

【玉造】 鳥根縣八東郡にありし村。明治
三十八年湯村と合併して、湯村を置く
く。玉造温泉はこの地にあり。
【玉造】 土佐國（高知縣）の古地名。和名
抄に安藝郡玉造郷ありて多滿郡久里と調
す。いまの安藝郡土居村これにして、中
世は安藝庄に入る。

タマテ 玉手 大阪府南河内郡にあり
し村。昭和六年國分村と合し新に國分村
を置く。

タマテ 玉出 大阪府西成郡にありし
町。大正十四年、大阪府西成區に編入せ
らる。

タマツク 玉造 宮城縣（陸前國）十六郡の一。
東は栗原郡に、南は志太・加美二郡に接
し、北は秋田縣、西は山形縣に界す。北
部に那須火山帯の高峰荒瀬嶺（九八四米）
コニテア型をなして聳立し、この周圍に
奥羽山脈に屬する山嶺羣（一〇三四米）・
須金嶺（一一四三米）・大鎮山（一一二〇

の崖下の海岸に沿ひて細長き砂濱地を拓
く。沿岸平地は耕作行はれ米・麥・蕎麥を
産したる柑類を出す。一部に漁業行は
る。海岸に沿ひて縣道通り法華津河の東
南隅から南方吉田町に至る。宇和町へバ
スの便あり。村内に法華津城址あり。城
主法華津播磨守範延及び其子綱八郎前延
は西園寺家十五将の一人にして高四千石
を知行せり。のち清原氏を稱へ、俗に法
華津殿といふ。

【玉津】 愛媛縣新居郡にありし村。大正
十四年本村外一町二村を廢して西條町を
置く。

【玉津】 大分縣西國東郡にありし村。明
治四十年高田町と合併し、其地城を以て
新たに高田町を置く。

タマツキ 玉瀧 對馬國（長崎縣）の
古地名。和名抄に下總郡玉瀧郷あり。中
世以降仁佐郷といふも同地なり。玉瀧と
は眞珠を貢進する意なりや。仁佐郷の淺
海浦には眞珠を産し、俗にこれを玉貝とい
ひ、延喜式に對馬の眞珠を貢進の事見
ゆ。郷城は今の下總郡仁佐村の邊なり。

タマツク 玉造 宮城縣（陸前國）十六郡の一。
東は栗原郡に、南は志太・加美二郡に接
し、北は秋田縣、西は山形縣に界す。北
部に那須火山帯の高峰荒瀬嶺（九八四米）
コニテア型をなして聳立し、この周圍に
奥羽山脈に屬する山嶺羣（一〇三四米）・
須金嶺（一一四三米）・大鎮山（一一二〇

【玉名郡】 熊本縣（肥後國）十二郡の一。
菊池川下流域一帯を占め島原海灣に面し
大牟田市の南に接し東南部は熊本市の西
北境との間に約四軒を隔つ。東南は鹿
郡に東は鹿本郡に北及び西北は福國縣筑
後國八女郡・山門郡・三池郡に界す。面積
四三三・九四方軒。山地北境及び東境を取
囲み即ち西北境には久重山（三八八米）
尾山（四〇九米）あり。東境中央には國見
山（三八九米）東南隅には野野岳（六八五
米）等あり。一體に北牛は山地の起伏多
く、北部に二城山（三一九米）・中央西部
に小代山の筒ヶ岳（五〇一米）・觀音岳等
聳立し其西南麓に白岳（二〇五米）あり。
鹿本郡より流れる菊池川は東境中央に
て本郡に流れ入り、それより中央を郡内
の水を集めて南下し下流にて西南に向ひ
島原海灣に注ぐ。流域に沖積低地開け疎
に下流は菊池平野をなす。海岸は西北よ
り東南に西南方へ彎曲して延び扇曲に乏
しき單調なる砂濱海岸なり。西部に栗切
川・東南隅に唐入川等あり。平地は地味
肥沃にて肥後米の産多く麥も産し、副業
とし養蠶行はる。郡内は高瀬町・大隈町・
伊倉町・南郷町・長海町・荒尾町の六町三
十七箇村を含む。人口は一四四・七三一
八（昭和十年）にて人口密度三三四人なれ
ども菊池川に沿ふ高瀬町は一方軒四六四

二人の稠密なり。鹿兒島街道中央を西
北より東南に横切り、熊本市に向ひ、ま
た三遊街道は、西方海岸に沿ひて大牟田
市より来る街道と高瀬町に於て合し、鹿
本郡植木町へ通じ、他に高瀬町より山鹿
町に至る街道もあり。大牟田市より海岸
に沿ひて南下する省線鹿兒島本線は南部
を東に横切り東南方熊本市へ通じ、西北
部には社線九州肥後鐵道の終點南阿蘇あり
り。書紀發行紀の十八年に「自高來縣一
渡玉件名邑」と見ゆる玉件名はのち郡
名となり二字に修し玉名に作り、タマキ
ナと訓ぜしもの如し。和名抄は玉名に
作り多萬伊奈と訓じ、日置、島本、石津、
下宅、宗部、大町、大水、江名の八郷を
置く。後専ら玉名に作りタマノと訓ず。
【玉名村】熊本縣肥後國玉名郡の中部。
菊池川下流の西岸に位し南方の高瀬町と
の間に彌富村の東南部細長く西より突入
して兩者と分つ。面積四・八六方軒。北
に一〇〇—一五〇米程度の山地傾斜する
外は一帯に地形低平にて菊池川東堤に沿
ひて南流す。田畑よく拓け米、粟を産す。
高瀬町より東北方江田村方面へ至る道路
東南部を通じ、西部には高瀬町より北
方坂下村方面に走る道路北上し、兩者を
結ぶ村道は東西に走りて交通の便よく、
高瀬町には省線鹿兒島本線東西に走り高
瀬驛は西南方約三軒にあり。古くは和名
抄、玉名郡宗部郷の内に屬せしものか。
阿蘇文書興國七年閏七月申中納言狀に

タマノ

肥後國玉名庄西郷とあるは此地とす。ま
た一に玉井名庄にも作ると。村内の玉名
明神遷拜宮は肥後守平貞能、當國七社草
創の一なりと。一説に延久三年、右近將
監則陸奥郡に下向の朝、其女玉依姫に
玉名郡を化粧田として與へ、住宅を辻の
城(或は今の社地か)といふ所に構へ、日
毎に阿蘇に參詣せしが明神の告げに依り
て遷拜宮を造營すといふ。また此地は明
治十年西南ノ役の古戰場にして、賊軍此
地に死力を盡して戦ひしも大敗し是より
大いに靈氣沮喪す。
【タマノ】玉名 神奈川縣鎌倉
郡にありし村。昭和八年大船町に合併さ
れ村名を失ふ。
【タマニユ】玉生村 栃木縣
下野國鹽谷郡の南部。矢板町の西北に降
り、北は鹽原町、西は鹽原町に隣接す。
北境に那須火山帯に屬する高原山(釋迦
ヶ嶽にて一七九五米)あり。村内はこれ
に續く山地にて森林草地多く、次第に南
方に傾斜し麓川は北部に發源して山間を
南流し南部には細き流域平野ありて田地
畑地をなす。米、麥、蕎麥を産す。日光
北街道は南部を横斷し、社線下野電氣鐵
道線これに沿ひ、桐原、玉生、鹽場の三
驛を置く。なほ日光鐵道の一部を占め、
また玉生嶺山あり。古くは和名抄、鹽谷
郡鹽谷郷の内に屬す。一に村名玉生はも
と玉丹生なりしを中略せしものならん。
中世字郡宮の族玉生氏居せし由鹽谷系圖

タマノ

に見ゆ。(日光鐵道)玉生村及び船生村、
大宮村の地籍にある金鑛山にて本邦重要
鑛山の一。鑛區三あり(一)は玉生村と船
生村に跨り鑛區四十五萬餘坪、鑛種は金・
銀・銅。(二)は玉生、船生、大宮の三村に
跨り鑛區九十二萬餘坪、鑛種は金・銀・銅・
亞鉛。(三)船生村の地籍にあり、鑛區十
三萬餘坪、鑛種は金・銀・銅・亞鉛。以上
三鑛區は現在日本鑛業會社によつて合併
採行せられ、鑛石は日立鑛山に送られ製
錬せらる。附近一帯の地質は火成石英粗
面岩及び凝灰岩にして鑛床は石英粗面岩
の裂隙を充填したる正規鑛脈とす。昭和
十年には金・銀・銅・鐵一七九三七噸、社
鐵四萬噸を産し、同年六月末現在の就業鑛
夫三五二人。當鑛山は根拠地を玉生村内の
字長峯澤に置く。(玉生鑛山)本村内に
十六萬四五百坪の鑛區をもつ金・銀・銅山に
て本邦重要鑛山の一。昭和十年には金・
銀・銅・鐵八〇八噸此價額五萬餘圓を産す。
現在高球鑛業會社の經營に屬し昭和十年
六月末現在にて使用鑛夫五三人とす。
【タマニワ】玉庭村 山形縣羽前
國置賜郡の北部。米澤市の西方にあり
てその間に廣幡村を挟み、北は東置賜郡
小松町に、西は西置賜郡豊川村に界す。
面積九三方軒餘。北流する最上川上流の
一支松川の支流黒川及び大川に沿ふ舟底
形の東西二盆地とこれらに隔む山地とよ
り成る。盆地には水田拓けて米を産し、
山地よりは蕎麥を出す。大川の盆地より

タマノ

は小松町へ自動車の便あり。大川の盆地
には文祿頃百五十戸の百姓が主として日
當のよき西側の山麓に散在せるのみなり
しが、慶長時代に至るや上杉氏の家臣駐
川信濃守に從ひ約二百名程の士族入り込
み屯田兵となり、大川、御伊勢町、新藏、
酒町、明才、馬場、西原等の聚落をなせ
るものなり。これ荒蕪地の開拓と會津街
道の押への目的にて配置せられたるもの
ならん。開原役の後上杉氏の滅封に違ふ
や、住民は指物大工・左官・草履表製造・
筆結ひの材料たる白馬の飼育等の内職を
營みて生活し、中には他姓を買致し二姓
三姓を名乗り、一戸分にて三戸分の扶持
を集めし者さへありし程なり。のち上地
せらるるに及び生活に窮し、俸給生活者
となりて離村せる者頗る多し。多雪地の
事として各聚落共、造作は大きく且つ頑丈
にして冬の入口と夏の入口を有するもの
多し。
【タマノ】玉野 山形縣羽前國北村山郡の東部。
西は尾花澤町に接し、東は宮城縣加美郡
小野田村に界す。面積約五六方軒。東境
には奥羽山脈の半嶽山(七〇九米)あるも
その西面は傾斜緩き山地をなして、西部
の玉野原平地に降る。最上川の支流丹生
川南隣常盤村より來り、山地の裾を北流
し、北隣宮澤村との境をなして西流す。
西北部の平地には水田拓けて米を産し、蕎
麥行はれ、山地には木炭を出す。陸羽・

羽州兩街道を繋ぐ中野前街道北部を東西
に横ぎり、交通不便ならず。村名は附近
一帯の原野の古稱玉野原に出づといふ。
續日本紀の謂ゆる玉野原とは、本村の六
澤・原田・柳渡戸・二藤袋・畑野等の地
方を言ふ。天平年中に表裏日本の連絡を
便にし、蝦夷討討の目的より大野朝臣東
入先導となりて、陸奥國加美郡色麻より
出羽國最上郡玉野に至る道程百六十里に
達する新道を開墾せり。この舊記に見ゆ
る新道は輕井澤越(一名銀山越)なるべし
天平賣字三年この地に玉野驛を置きし
のち最上川の便を認めて、驛を最上川岸
に移せしなり。これ野尻驛にして今の大
石田町なり。銀山は丹生川上流の銀山新
畑にありて、康正二年加賀金澤の往人、
儀賀市郎左衛門と稱する者諸國巡視の途
次此地に宿泊し、靈夢に感じ發見せし
所と傳ふ。のち銀の産出水筋に多く、天
正四年頃には銀山に集り來り、家を建つ
る者夥しく實に一萬八千餘戸ありし傳
ふ。後一時衰へしが慶長・元和年代より
再び盛となり寛永五年の調査によれば戸
數九萬餘戸、毎月五六十駄宛の鑛石を
江戸表へ送りしあり。然るに慶安三
四年頃より山崩れ・水の湧出等あり次第
に衰退に赴き、延享年間に至りて全く廢
山に歸せり。もと此の地に發見せられし
銀山鑛泉は鑛山の衰微するにつれて當客
次第に多くなり、現に溫泉場として著名
なり。溫度六一度に達する食鹽含有砒化

本温泉なり。旅館數十二、都屋數二百を
超え、年六萬の浴客あり。上の如は往古
の宿場にして、母袋は玉野街道より分岐
して宮城縣に至る母袋街道の起點なり。
【玉野村】福島縣磐城國相馬郡の西北部
阿武隈山脈の東斜面に屬し、西北境に副
黨山(七八三米)、西南境に黨山あり東方
に傾斜す。宇多川は此處に發源して東流
し、沿岸に耕地拓く。粟・米・麥を産す。
道路は東部を略東西に中村街道通じ、西
方福島市東方中村町に至る。本村は今山
上村と組合町村をなし、役場を山上村に
置く。(黨山)本村と伊達郡黨山村・石
戸村との境に峙つ。山麓は片麻岩より成
り、玄武岩質の集塊岩これを掩ひ甚だし
く風化を受く。標高八〇五米。貞觀年中
慈覺大師山上に黨山寺を建つ。建武中興
の時北畠顯家陸奥守に任ぜられ、義良親
王を奉じて多賀國府に來りて奥羽を鎮撫
せしが、偶々足利草土の叛くに及び内徒
蜂起し、爲に多賀國府に駐まること能は
ず。延元二年伊達行朝及黨山寺の僧徒を
頼みて此の山に移り興復を謀る。山上に
黨山寺・日枝神社・黨山城の遺址存し、
今史蹟並に名勝に指定せらる。
【玉野】愛知縣中島郡にありし村。明治
三十九年本村ほか四箇村を廢し朝日村を
置く。
【玉野】岡山縣兒島郡にありし村。明治
三十九年廢して宇野村及び日比町に編入
せしむ。

【玉井村】福島縣岩代國安達郡の西部。
本宮町の西北に隣る。西北には安達太郎
山の南に續く和尙山(一六〇二米)ありて
東南に傾斜し、西南には守屋山(七九五
米)南には大名倉山(五七六米)聳え、東
南部は平坦なるも他は概ね山地にして、
安達太郎川は西北の山地に出で東南に流
れ、本宮町に入りて阿武隈川に合す。沿
岸に沃野拓けて米を産す。本宮町は米産の
中心地をなす。道路は略中央部を東西に
通じ、東南方本宮町へはバスの便あり。
本村に玉井城址あり、天正十三年、太田
主膳、同采女なるもの立籠り、田村清順
と戦ひしと。
【玉井】甲斐國(山梨縣)の古地名。和名
抄に山梨郡玉井郷あり、多萬乃井と訓す。
その地は今詳かならざるも東山梨郡加納
岩町・茂屋敷村・日川村・等々力村・休
息村・柳塚村の邊に當るか。
【タマノイ】玉ノ井 山梨縣
【玉ノ井】東京市向島區等島町七丁目
舊稱(もと南島郡等島町大字玉井)。社
線東武鐵道伊勢崎線の玉ノ井驛(大正十
三年設置)あり。俗稱ノイ。現在、元玉
井・北玉井に分れ、夜の街として全国的
に著名し、私塾三千に及ぶ。
【玉ノ井】愛知縣栗原郡にありし村。明
治三十九年本村ほか一町一村を廢し黒田
町を置き、黒田町は同四十三年木曾川町
と改稱す。

【玉浦】景行天皇の朝日
本武尊御東征の要地。此の浦を浦を浦り蝦
夷の境に到り給ふ。その位置いま確實に
定むること困難なるも、阿武隈川河口の
左岸邊ならんといはる。今そこに玉浦村
(宮城縣名取郡)あり。同じ河口の對岸の
荒濱は今は一漁港に過ぎざるも、江戸時
代東北地方の物資を江戸に運漕せし重要
港たりしを思へば、往昔の玉浦は恐らく
この邊にありしものと思はる。
【タマノウラ】玉之浦町 長崎縣肥
前國南松浦郡の西南部。五島列島西南端
の福江島西南部を占む。全村山地起伏し
て低地乏しく中央に幾久山・岩谷ヶ嶽
屬す。西部海岸は複雑なる岩石岸をなし
北に觀音崎あり、中央に山浦崎・佛崎・菱
砂崎等あり、西南部には大瀬崎半島西北
方へ細長く突出し其北海上に浮島山島
との間に玉之浦の大灣あり。好漁地を抱
き倉小島・辨天島等散在し西北部にヨロ
ミ小島・小島等浮島。大瀬崎の南岸に大賣
時・力尾崎あり、西南隅大瀬崎には燈臺
及び無線電信局あり。海岸は水産盛にて
西南部玉之浦聚落は遠洋漁業の一中心地
なり。其他甘藷・粟・蕎麥を出す。縣道中
部を東に走り福江島東岸福江町に通じ海
上汽船の便あり。昭和八年町制を布く。
日本武尊を祀る縣社白鳥神社あり。古來
當地の産土神にて八月十五日に例祭を行
ふ。村内にはヘゴ自生し、ヘゴ自生北限
地帯としていま指定天然記念物たり。ま

六百島神社の社叢は五島に於ける代表的自然林として稀に見る林相を成し、境内にシモノキ・タブノキ・クス・ナギ・ユズ・モチノキ・クロマツ・アカマツ等約八十種の樹木を有す。蘇鐵は境内北側に多く自生し、總數四十七株あり。

タマノオヤ 玉祖

【玉祖】河内國(大阪府)の古地名。和名抄に高安郡玉祖郷あり、多麻乃於也と訓す。地は今の河内郡高安村に當る。

タマハタ 玉幡村

山梨縣甲斐國中五郎郡の中部。釜無川の東岸。甲府市の西南方約七軒。面積四・四九方軒。甲府盆地の中部を占め、土地平坦にて灌漑の便よく水田開け米・蕎麦の産多し。社線山梨電氣鐵道略中央を東西に貫通し玉幡驛を設く。縣道又縱横に通じ、省線中央本線龍王驛へは約四軒の道程なり。本村は明治八年、玉川村・西八幡村を合併して置けるものにして、村内に在郷軍人航空研究会の置ける山梨飛行場あり。(八幡大神)大字北宮地に鎮座。神社。祭神、足仲津彦命・譽田別命。弘仁二年の創建と傳へ、一に日本武尊の御子武田王ここに葬りしにより武田八幡とも稱す。御家源氏、武田氏、徳川氏等の崇信厚く社運隆盛なりしと云ふ。例祭、八月十四日・十五日。

タマホコ 玉戈

加賀國(石川縣)の古地名。和名抄に加賀郡玉戈郷ありて、多麻保古と訓す。その地は今の石川郡戸板村より金澤市の西偏に亘るものゝ如し。

タマミズ 玉水

【玉水】京都府綴喜郡井手町の大字。省線奈良線の玉水驛(明治二十九年設置)を設く。

タママイ 玉米村

熊本縣肥後國玉名郡の南部。熊本市の西北方約十軒。東境に百米前後の丘陵性臺地あり、他に一帶に低平なる沃野開く。唐入川は東境を劃しつづつ南流し西境に於て左折し西境を劃しつづつ南流す。この川による灌漑は頗る良好にして

タマモロ 玉諸村

山梨縣甲斐國西八代郡の南部。笛吹川の北岸。甲府市の東南に接し、東南は笛吹川を隔て東八代郡石和町・富士見村に界す。面積四・七八方軒。甲府盆地の一部にて土地平坦肥沃水田多し。米産を主とし、次いで蕎麦・粟・麥の産あり。河沿に縣道通じ、省線中央本線石和驛へ約二軒。甲府市へ四・五軒、二條の道路通じ。【玉諸神社】縣社。祭神、大國玉大神。古來當國三ノ宮として聞え、武田信玄の時最も崇敬せらる。往時は酒折の御室山に鎮座せしといふ。いま御室山には小祠を置き當社の庶所とす。例祭、四月十五日・十月十五日。

タマヤマ 玉山村

岩手縣陸中國岩手郡の東南部。南は盛岡市に接し、西は北上川を境とし厨川村・瀧澤村に界す。面積約七五方軒。東北部に花崗岩より成る磐梯山(一一二〇米)聳え、南境には明神山(七四六米)・高嶺山(五三九米)の諸峯西に延ぶ。土地東邊に高く小流西南に西北に下りて北上川に合し、その谷と北上川の左岸に小沖積地ありて、主要農産地帯をなす。農産には米・蕎麦・大小豆・蕎麦・粟・稗(以上二品は村民の常食物)の外百合・牛蒡の特産あり。木炭・馬・藁の産も少からず。舊國道は盛岡市より北上川の東を北上して瀧澤村に出で、縣道また盛岡市より川又郡落に入り瀧澤村に至りて舊國道に合し交通不便ならず。この地は坂上田村圓の東征後に開拓されしもの如く、尙ほ安倍館・蝦夷穴などあり、また石鏡土器の出土少からず。古くは川村と稱せしが、南部藩の封土となりて後、藩士玉山登の知行所となる。明治に入りて日戸・川又・釘之平・上田の舊四ヶ村と合併し、同十七年玉山村と改稱す。石川啄木の生地なり。(日戸城)初

タマミヤ 玉宮村

山梨縣甲斐國東山梨郡の中部。鹽山町の北方約四軒。東山脈の一支脈の末端を占め、山脈を以て圍繞され中央を重川の一支流南流す。粟落は谷沿に散在し桑園耕地を見る。養蠶を主とし、蕎麦の産最も多く次で米・桑・麥を産す。また本村は主要なる水品の産地にて、鹽山町より採石用車軌道を通ず。谷沿の山道は此城の坂ノ脇峠を越え秩父往還に通じ、東方に分れ青柳街道にも通す。此地は和名抄、山梨郡於曾郷の内なりしものなるべく、中世は萩原郷に屬す。村内の鈴鹿山は金鑛を出す。(玉諸神社)郷社。祭神、天明玉命。式内社。舊稱、玉室大明神。例祭、九月十四日。(福徳寺)大字竹森にあり。眞宗本願寺派。大窪山と號し順了法師(應永五年没)の開創に係る。七世惠雲法師に及び、武田信重歸依し六男を當山の弟子とす。惠光寺開法法師是なり。のち天正の兵火に炎上、慶長中再建成る。

タマムラ 玉村町

群馬縣上野國佐波郡の西部。利根川・烏川の間に挟まる。全町平地にて水田多し南部に桑畑あり。米・蕎麦・麥を産す。縣道は新町及び四方高崎市(約一〇軒)、北方前橋市(約一〇軒)に通じ、バスの便あり。新町に省線高崎新町驛を設く。粟落は町の中央に發達す。往古は獨名氏部波氏の領なり。江戸時代ありては代官伊奈氏の所領となる。寛永年間より延享三年迄は前橋の城主酒井河内守の所領なり。正保年間日光御幣使街道開かれて俄に街區をなすに至る。延享四年酒井氏封を廢路に移さるるや、或は幕府の料所となり、或は旗本采地の内に加へられ其所属を異にす。明治廿二年町村制施行の際、下新田・福島・南玉・上飯島・上之手・角田・與六分・齊田・上飯島の九村を以て玉村町を設く。當所より埼玉縣児玉郡寶美村に亘る地域

タマモロ 玉諸村

山梨縣甲斐國西八代郡の南部。笛吹川の北岸。甲府市の東南に接し、東南は笛吹川を隔て東八代郡石和町・富士見村に界す。面積四・七八方軒。甲府盆地の一部にて土地平坦肥沃水田多し。米産を主とし、次いで蕎麦・粟・麥の産あり。河沿に縣道通じ、省線中央本線石和驛へ約二軒。甲府市へ四・五軒、二條の道路通じ。【玉諸神社】縣社。祭神、大國玉大神。古來當國三ノ宮として聞え、武田信玄の時最も崇敬せらる。往時は酒折の御室山に鎮座せしといふ。いま御室山には小祠を置き當社の庶所とす。例祭、四月十五日・十月十五日。

タマヤマ 玉山村

岩手縣陸中國岩手郡の東南部。南は盛岡市に接し、西は北上川を境とし厨川村・瀧澤村に界す。面積約七五方軒。東北部に花崗岩より成る磐梯山(一一二〇米)聳え、南境には明神山(七四六米)・高嶺山(五三九米)の諸峯西に延ぶ。土地東邊に高く小流西南に西北に下りて北上川に合し、その谷と北上川の左岸に小沖積地ありて、主要農産地帯をなす。農産には米・蕎麦・大小豆・蕎麦・粟・稗(以上二品は村民の常食物)の外百合・牛蒡の特産あり。木炭・馬・藁の産も少からず。舊國道は盛岡市より北上川の東を北上して瀧澤村に出で、縣道また盛岡市より川又郡落に入り瀧澤村に至りて舊國道に合し交通不便ならず。この地は坂上田村圓の東征後に開拓されしもの如く、尙ほ安倍館・蝦夷穴などあり、また石鏡土器の出土少からず。古くは川村と稱せしが、南部藩の封土となりて後、藩士玉山登の知行所となる。明治に入りて日戸・川又・釘之平・上田の舊四ヶ村と合併し、同十七年玉山村と改稱す。石川啄木の生地なり。(日戸城)初

タマミヤ 玉宮村

山梨縣甲斐國東山梨郡の中部。鹽山町の北方約四軒。東山脈の一支脈の末端を占め、山脈を以て圍繞され中央を重川の一支流南流す。粟落は谷沿に散在し桑園耕地を見る。養蠶を主とし、蕎麦の産最も多く次で米・桑・麥を産す。また本村は主要なる水品の産地にて、鹽山町より採石用車軌道を通ず。谷沿の山道は此城の坂ノ脇峠を越え秩父往還に通じ、東方に分れ青柳街道にも通す。此地は和名抄、山梨郡於曾郷の内なりしものなるべく、中世は萩原郷に屬す。村内の鈴鹿山は金鑛を出す。(玉諸神社)郷社。祭神、天明玉命。式内社。舊稱、玉室大明神。例祭、九月十四日。(福徳寺)大字竹森にあり。眞宗本願寺派。大窪山と號し順了法師(應永五年没)の開創に係る。七世惠雲法師に及び、武田信重歸依し六男を當山の弟子とす。惠光寺開法法師是なり。のち天正の兵火に炎上、慶長中再建成る。

の東岸にあり。面積五・六六平方軒の小村。全村平地にて中部に水田あるも他は畑地多し。米・蕎麦を産す。縣道は湯里町に通じ同町にて中山道に合す。同町に省線高崎線湯里驛ありバスを通ず。この地は近世、忍領其田郷其田庄に屬し、江戸時代は知行所・幕領入り交りし地なり。大字大間に城山なる所あり、要害の地にして古壘と覺しき跡あり。里傳によれば扇谷の長臣其田氏の城跡なりとも、また武藏守經基の壘跡なりといふも詳かならず。

タマムラ 玉村町

群馬縣上野國佐波郡の西部。利根川・烏川の間に挟まる。全町平地にて水田多し南部に桑畑あり。米・蕎麦・麥を産す。縣道は新町及び四方高崎市(約一〇軒)、北方前橋市(約一〇軒)に通じ、バスの便あり。新町に省線高崎新町驛を設く。粟落は町の中央に發達す。往古は獨名氏部波氏の領なり。江戸時代ありては代官伊奈氏の所領となる。寛永年間より延享三年迄は前橋の城主酒井河内守の所領なり。正保年間日光御幣使街道開かれて俄に街區をなすに至る。延享四年酒井氏封を廢路に移さるるや、或は幕府の料所となり、或は旗本采地の内に加へられ其所属を異にす。明治廿二年町村制施行の際、下新田・福島・南玉・上飯島・上之手・角田・與六分・齊田・上飯島の九村を以て玉村町を設く。當所より埼玉縣児玉郡寶美村に亘る地域

タマミヤ 玉宮村

山梨縣甲斐國東山梨郡の中部。鹽山町の北方約四軒。東山脈の一支脈の末端を占め、山脈を以て圍繞され中央を重川の一支流南流す。粟落は谷沿に散在し桑園耕地を見る。養蠶を主とし、蕎麦の産最も多く次で米・桑・麥を産す。また本村は主要なる水品の産地にて、鹽山町より採石用車軌道を通ず。谷沿の山道は此城の坂ノ脇峠を越え秩父往還に通じ、東方に分れ青柳街道にも通す。此地は和名抄、山梨郡於曾郷の内なりしものなるべく、中世は萩原郷に屬す。村内の鈴鹿山は金鑛を出す。(玉諸神社)郷社。祭神、天明玉命。式内社。舊稱、玉室大明神。例祭、九月十四日。(福徳寺)大字竹森にあり。眞宗本願寺派。大窪山と號し順了法師(應永五年没)の開創に係る。七世惠雲法師に及び、武田信重歸依し六男を當山の弟子とす。惠光寺開法法師是なり。のち天正の兵火に炎上、慶長中再建成る。

タマムラ 玉村町

群馬縣上野國佐波郡の西部。利根川・烏川の間に挟まる。全町平地にて水田多し南部に桑畑あり。米・蕎麦・麥を産す。縣道は新町及び四方高崎市(約一〇軒)、北方前橋市(約一〇軒)に通じ、バスの便あり。新町に省線高崎新町驛を設く。粟落は町の中央に發達す。往古は獨名氏部波氏の領なり。江戸時代ありては代官伊奈氏の所領となる。寛永年間より延享三年迄は前橋の城主酒井河内守の所領なり。正保年間日光御幣使街道開かれて俄に街區をなすに至る。延享四年酒井氏封を廢路に移さるるや、或は幕府の料所となり、或は旗本采地の内に加へられ其所属を異にす。明治廿二年町村制施行の際、下新田・福島・南玉・上飯島・上之手・角田・與六分・齊田・上飯島の九村を以て玉村町を設く。當所より埼玉縣児玉郡寶美村に亘る地域

タマミヤ 玉宮村

山梨縣甲斐國東山梨郡の中部。鹽山町の北方約四軒。東山脈の一支脈の末端を占め、山脈を以て圍繞され中央を重川の一支流南流す。粟落は谷沿に散在し桑園耕地を見る。養蠶を主とし、蕎麦の産最も多く次で米・桑・麥を産す。また本村は主要なる水品の産地にて、鹽山町より採石用車軌道を通ず。谷沿の山道は此城の坂ノ脇峠を越え秩父往還に通じ、東方に分れ青柳街道にも通す。此地は和名抄、山梨郡於曾郷の内なりしものなるべく、中世は萩原郷に屬す。村内の鈴鹿山は金鑛を出す。(玉諸神社)郷社。祭神、天明玉命。式内社。舊稱、玉室大明神。例祭、九月十四日。(福徳寺)大字竹森にあり。眞宗本願寺派。大窪山と號し順了法師(應永五年没)の開創に係る。七世惠雲法師に及び、武田信重歸依し六男を當山の弟子とす。惠光寺開法法師是なり。のち天正の兵火に炎上、慶長中再建成る。

タマムラ 玉村町

群馬縣上野國佐波郡の西部。利根川・烏川の間に挟まる。全町平地にて水田多し南部に桑畑あり。米・蕎麦・麥を産す。縣道は新町及び四方高崎市(約一〇軒)、北方前橋市(約一〇軒)に通じ、バスの便あり。新町に省線高崎新町驛を設く。粟落は町の中央に發達す。往古は獨名氏部波氏の領なり。江戸時代ありては代官伊奈氏の所領となる。寛永年間より延享三年迄は前橋の城主酒井河内守の所領なり。正保年間日光御幣使街道開かれて俄に街區をなすに至る。延享四年酒井氏封を廢路に移さるるや、或は幕府の料所となり、或は旗本采地の内に加へられ其所属を異にす。明治廿二年町村制施行の際、下新田・福島・南玉・上飯島・上之手・角田・與六分・齊田・上飯島の九村を以て玉村町を設く。當所より埼玉縣児玉郡寶美村に亘る地域

タマモロ 玉諸村

山梨縣甲斐國西八代郡の南部。笛吹川の北岸。甲府市の東南に接し、東南は笛吹川を隔て東八代郡石和町・富士見村に界す。面積四・七八方軒。甲府盆地の一部にて土地平坦肥沃水田多し。米産を主とし、次いで蕎麦・粟・麥の産あり。河沿に縣道通じ、省線中央本線石和驛へ約二軒。甲府市へ四・五軒、二條の道路通じ。【玉諸神社】縣社。祭神、大國玉大神。古來當國三ノ宮として聞え、武田信玄の時最も崇敬せらる。往時は酒折の御室山に鎮座せしといふ。いま御室山には小祠を置き當社の庶所とす。例祭、四月十五日・十月十五日。

タマヤマ 玉山村

岩手縣陸中國岩手郡の東南部。南は盛岡市に接し、西は北上川を境とし厨川村・瀧澤村に界す。面積約七五方軒。東北部に花崗岩より成る磐梯山(一一二〇米)聳え、南境には明神山(七四六米)・高嶺山(五三九米)の諸峯西に延ぶ。土地東邊に高く小流西南に西北に下りて北上川に合し、その谷と北上川の左岸に小沖積地ありて、主要農産地帯をなす。農産には米・蕎麦・大小豆・蕎麦・粟・稗(以上二品は村民の常食物)の外百合・牛蒡の特産あり。木炭・馬・藁の産も少からず。舊國道は盛岡市より北上川の東を北上して瀧澤村に出で、縣道また盛岡市より川又郡落に入り瀧澤村に至りて舊國道に合し交通不便ならず。この地は坂上田村圓の東征後に開拓されしもの如く、尙ほ安倍館・蝦夷穴などあり、また石鏡土器の出土少からず。古くは川村と稱せしが、南部藩の封土となりて後、藩士玉山登の知行所となる。明治に入りて日戸・川又・釘之平・上田の舊四ヶ村と合併し、同十七年玉山村と改稱す。石川啄木の生地なり。(日戸城)初

タマミヤ 玉宮村

山梨縣甲斐國東山梨郡の中部。鹽山町の北方約四軒。東山脈の一支脈の末端を占め、山脈を以て圍繞され中央を重川の一支流南流す。粟落は谷沿に散在し桑園耕地を見る。養蠶を主とし、蕎麦の産最も多く次で米・桑・麥を産す。また本村は主要なる水品の産地にて、鹽山町より採石用車軌道を通ず。谷沿の山道は此城の坂ノ脇峠を越え秩父往還に通じ、東方に分れ青柳街道にも通す。此地は和名抄、山梨郡於曾郷の内なりしものなるべく、中世は萩原郷に屬す。村内の鈴鹿山は金鑛を出す。(玉諸神社)郷社。祭神、天明玉命。式内社。舊稱、玉室大明神。例祭、九月十四日。(福徳寺)大字竹森にあり。眞宗本願寺派。大窪山と號し順了法師(應永五年没)の開創に係る。七世惠雲法師に及び、武田信重歸依し六男を當山の弟子とす。惠光寺開法法師是なり。のち天正の兵火に炎上、慶長中再建成る。

タマムラ 玉村町

群馬縣上野國佐波郡の西部。利根川・烏川の間に挟まる。全町平地にて水田多し南部に桑畑あり。米・蕎麦・麥を産す。縣道は新町及び四方高崎市(約一〇軒)、北方前橋市(約一〇軒)に通じ、バスの便あり。新町に省線高崎新町驛を設く。粟落は町の中央に發達す。往古は獨名氏部波氏の領なり。江戸時代ありては代官伊奈氏の所領となる。寛永年間より延享三年迄は前橋の城主酒井河内守の所領なり。正保年間日光御幣使街道開かれて俄に街區をなすに至る。延享四年酒井氏封を廢路に移さるるや、或は幕府の料所となり、或は旗本采地の内に加へられ其所属を異にす。明治廿二年町村制施行の際、下新田・福島・南玉・上飯島・上之手・角田・與六分・齊田・上飯島の九村を以て玉村町を設く。當所より埼玉縣児玉郡寶美村に亘る地域

タマモロ 玉諸村

山梨縣甲斐國西八代郡の南部。笛吹川の北岸。甲府市の東南に接し、東南は笛吹川を隔て東八代郡石和町・富士見村に界す。面積四・七八方軒。甲府盆地の一部にて土地平坦肥沃水田多し。米産を主とし、次いで蕎麦・粟・麥の産あり。河沿に縣道通じ、省線中央本線石和驛へ約二軒。甲府市へ四・五軒、二條の道路通じ。【玉諸神社】縣社。祭神、大國玉大神。古來當國三ノ宮として聞え、武田信玄の時最も崇敬せらる。往時は酒折の御室山に鎮座せしといふ。いま御室山には小祠を置き當社の庶所とす。例祭、四月十五日・十月十五日。

タマヤマ 玉山村

岩手縣陸中國岩手郡の東南部。南は盛岡市に接し、西は北上川を境とし厨川村・瀧澤村に界す。面積約七五方軒。東北部に花崗岩より成る磐梯山(一一二〇米)聳え、南境には明神山(七四六米)・高嶺山(五三九米)の諸峯西に延ぶ。土地東邊に高く小流西南に西北に下りて北上川に合し、その谷と北上川の左岸に小沖積地ありて、主要農産地帯をなす。農産には米・蕎麦・大小豆・蕎麦・粟・稗(以上二品は村民の常食物)の外百合・牛蒡の特産あり。木炭・馬・藁の産も少からず。舊國道は盛岡市より北上川の東を北上して瀧澤村に出で、縣道また盛岡市より川又郡落に入り瀧澤村に至りて舊國道に合し交通不便ならず。この地は坂上田村圓の東征後に開拓されしもの如く、尙ほ安倍館・蝦夷穴などあり、また石鏡土器の出土少からず。古くは川村と稱せしが、南部藩の封土となりて後、藩士玉山登の知行所となる。明治に入りて日戸・川又・釘之平・上田の舊四ヶ村と合併し、同十七年玉山村と改稱す。石川啄木の生地なり。(日戸城)初

タマミヤ 玉宮村

山梨縣甲斐國東山梨郡の中部。鹽山町の北方約四軒。東山脈の一支脈の末端を占め、山脈を以て圍繞され中央を重川の一支流南流す。粟落は谷沿に散在し桑園耕地を見る。養蠶を主とし、蕎麦の産最も多く次で米・桑・麥を産す。また本村は主要なる水品の産地にて、鹽山町より採石用車軌道を通ず。谷沿の山道は此城の坂ノ脇峠を越え秩父往還に通じ、東方に分れ青柳街道にも通す。此地は和名抄、山梨郡於曾郷の内なりしものなるべく、中世は萩原郷に屬す。村内の鈴鹿山は金鑛を出す。(玉諸神社)郷社。祭神、天明玉命。式内社。舊稱、玉室大明神。例祭、九月十四日。(福徳寺)大字竹森にあり。眞宗本願寺派。大窪山と號し順了法師(應永五年没)の開創に係る。七世惠雲法師に及び、武田信重歸依し六男を當山の弟子とす。惠光寺開法法師是なり。のち天正の兵火に炎上、慶長中再建成る。

タマムラ 玉村町

群馬縣上野國佐波郡の西部。利根川・烏川の間に挟まる。全町平地にて水田多し南部に桑畑あり。米・蕎麦・麥を産す。縣道は新町及び四方高崎市(約一〇軒)、北方前橋市(約一〇軒)に通じ、バスの便あり。新町に省線高崎新町驛を設く。粟落は町の中央に發達す。往古は獨名氏部波氏の領なり。江戸時代ありては代官伊奈氏の所領となる。寛永年間より延享三年迄は前橋の城主酒井河内守の所領なり。正保年間日光御幣使街道開かれて俄に街區をなすに至る。延享四年酒井氏封を廢路に移さるるや、或は幕府の料所となり、或は旗本采地の内に加へられ其所属を異にす。明治廿二年町村制施行の際、下新田・福島・南玉・上飯島・上之手・角田・與六分・齊田・上飯島の九村を以て玉村町を設く。當所より埼玉縣児玉郡寶美村に亘る地域

タマラ—タミオ

芒硝性苦味泉。當温泉の由来古く、遠く出雲風土記に記載せらる。住時は安道湖の水この地にまで及びしもの如し。三面緩かなる丘陵を繞らし、玉造川堤防に...

タマライ

入郡の東南部。竹田町の西南部に接す。面積八・五〇方軒。阿蘇山東麓に位置を占め西南部に高く東北部に低し。南部には大野川支流久住川西南より東北に流れ...

タマリ

せしが文祿の初め中川修理太夫秀成封を移すのち、玉来の民戸五十餘區を竹田に移す。明治三十九年町制を布く。此地は熊本街道と高森新町方面即ち阿蘇南郷谷よりの街道の出會ふ地點に當り、交通上の要點をなせしが、鐵道開通後は宿場町的生命を失ひ、位置的關係上竹田が盆地の中心經濟地として發達し來れるを以て近距離の玉來は一層發展力をそがれ...

タマリ

田丸町 三重縣伊勢國度會郡の北部。伊勢平野南部を占め宇治山田市西境より約四軒四方。面積五、二一方軒。西北部に小丘陵あり外は伊勢平野平坦地の南部を占めて地形低平、西北丘陵上に湖沼あり。農業を主とし米の産多く、繭・麥・動物も出し、工業類多く、内オブライト製造所の存在は當村の誇りにて業廢陸たり。宇治山田市へ通ずる和歌山別街道東南部を通過し主邑に街村状をなし...

タマリ

田丸町 遠江國(靜岡縣)の古地名。和名抄に周智郡田丸郷あり。一に田丸は輪田の誤にして今周智郡田丸村に大字田丸あり。或は此地名か。

タマリ

田宮 河内國(大阪府)の古地名。和名抄に交野郡田宮郷あり。いま北河内郡川越村の大字に田宮の名を存す。

タミオ

民雄庄 臺灣臺南州嘉義郡の北部。嘉義市の北に隣る。管内は概して平坦なる沃野にして東部に若干の丘陵を見るのみ。即ち地勢は東部稍高く西部低し。主なる河川は嘉義市との境なる朴子溪にて、其他地形上變化乏し。庄下諸種産業中最も盛なるは農業にして、主産たるものは米・甘蔗・鳳梨・落花生などにして、蕉麻・木瓜・鳳梨・龍眼・柿・芭蕉・柑類等の園藝作物の生産を擧ぐれば、年約百萬圓に達す。畜産は農家に於て副業的に營はるる處にして、水

タミオ

田宮村 埼玉縣武蔵國北葛飾郡の北部。移戸町の東隣。全村平地にて庄内古川は東境を南流し水田多し。米を主産し、他に麥・蕎麥を産す。縣道移戸町に通じ同町にて陸羽街道に合す。バスの便あり。この地は近世、葛飾郡幸手領田宮庄に屬し江戸時代は葛領・知行所の入り交りし地。移戸町に東武鐵道線移戸驛(南隣百間村所在)あり。

タミネ

段嶺村 愛知縣三河國北設樂郡の西南部。岡崎市の東北約四十軒。木曾山地の南へ延びし北岡山地の中に位置し、割合平坦性を有す。北部に浮岩岳(一〇五九米)、東には家狭山(九四五米)、西部に出来山(一〇五二米)、南境に龍頭山(七五二米)等あり。家狭川は北部に發源し東境をなす。大部分が段戸御料林をなし、耕地は河岸に僅かに認めらるるのみ。林産物多し。交通は山間なれば不便にして、鐵道は東田町町の清崎驛に出づるを便とす。段嶺は又田時に作り、戦國頃の頃段嶺郷と云へるは此地一帯を指したるもの如く、甲陽軍鑑に「三州のククア、タミネ、長橋は三人は出家三方と云ふ」とあり、三河物語には「東三河に奥平道文と菅沼伊豆守と、同新三郎是等がながしの、ついで、だみね、山が三方を待ちたるが、進みて信玄に附」と見ゆ。

タミネ

田宮 河内國(大阪府)の古地名。和名抄に交野郡田宮郷あり。いま北河内郡川越村の大字に田宮の名を存す。

タミヤ

田宮 河内國(大阪府)の古地名。和名抄に交野郡田宮郷あり。いま北河内郡川越村の大字に田宮の名を存す。

タムカエ

田迎村 熊本縣肥後國鹿野郡の東南部。熊本市の西南部に接す。面積三・九〇方軒。北方を西流する白川と南方を西に流る藤川の流路の中間に位し全村地勢低平なり。農業を主産

タミネ—タムカ

牛・黄牛・豚・家禽を飼育し、殊に豚は年屠殺數六千頭に達す。東部丘陵地帯の山林よりは又若干の新炭材を出す。工業には煉瓦・金銀細工・製粉及び精米・竹紙等の製造あるも何れも規模大ならず。庄下の交通は甚だ便利にして臺灣鐵道線は、庄を南北に通過し、民雄驛を設け、又鐵道道路と略並行して走り、其外大小道路、鐵道道路より派生す。交通機關は主として自動車を用ふ。大字民雄は原と打嶺街にして、古くより開け、清の雍正十二年此地を中心として行政區劃打嶺南堡建てられたり。もと平埔蕃族ロツア部族のタミアウ社存せし地にして、打嶺は之に宛てたる近音譯字なり。然して打嶺街の名は既に、康熙、雍正年間の契字に現はると云ふ。附近の一部は鄭氏開屯招佃の地に屬すと稱せらる。臺北道里記に「打嶺は大村市なり」と記すを以てしても、打嶺が往時重要な一肆街を形成し居りしを知るべし。現在に於ても、此地は、其の中心地をなす。本庄東南部一帯は、同じく東堡に屬せしが、光緒十四年、頂、下の二堡に分ち、其下堡に屬する事となれり。大字北勢子は、諸羅十七莊の一なる北新莊置かれしことあり、康熙末年には漳州人蔡廷なる者大字檳榔の地を、葉某なる者董子寮地方を、吳某なる者大丘園・山子門等を開拓せり。上記各堡は、我が領臺後も引續き行政區劃として用ひられしが、大正九年十月、根

タムキ——タメ

粟とし米・黍を産し又粟行はれ特産物には組成栽培としてトマト・胡瓜・茄子をつくり遠く滿洲方面まで運出す。熊本市より東南方へ延びる社線熊延鐵道ありて田邊驛(大正四年設置)を置く。此地古くは和名抄、託麻郡酒井郷の内に屬しものか。村内に木部といふ地あり。蓋し舊邑とす。詫磨系圖に大友家祖産原能直は木部鳥栖の下司なりと見ゆ。想ふに、鳥栖は木部の近地ならんもいふ詳かならず。

タムギノ

田麥野村 山形縣羽前國北村山郷の東南隅。天童町の東方約八軒。山口村の東南、東郷村の南に接し、南は東村山郷山寺村に隣り、面積僅に七・六方軒、戸數一〇〇餘戸、縣下の最小村なり。奥羽山脈の南白山(二六四米)の西北面にて、押切川の谷に位し耕地少く、出寄留者多し。産物に米・藁・木炭あるもその額もとり多からず。醸酒村として聞ゆ。

タムギヤマ

田麥山村 新潟縣越後國北魚沼郡の西南隅。小千谷町の南方約十軒。西北は川井村に、東北は川口村に、東南は田川入村に、西は中魚沼郡下條・岩澤兩村に界す。面積一八・三一方軒。村内は丘陵起伏し、ほぼ中央を北流する小河は東北方にて信濃川に入る。村落は東北部山郷に集まり、雲霞感なり。米・藁を主産物とす。村内二條の山道通し、省線十日町線の内々登降に近し。

タムケ

手向 下鴨國(茨城縣)の古地名。和名抄に豊田郡手向郷あり。その地は今の結城郡總上村・豊加美村・豊岡村・宗道村等の地に當る。【手向野】 江戸淺草の地名。今の淺草區高原町東陽寺院内とも金龍寺境内ともいふ。寛文の頃戸田茂隆此處に草庵を結び一子伊右衛門を擧りて傍に碑を立て手向野と彫り和歌を記す。昔時より此名ありしも、これより更に名高くなりしものかといはる。

タムケ

淡氣 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に惠那郡淡氣郷あり、今の惠那郡遠山村・鶴岡村・陶村・阿木村等に當り後世手向に作る。遠山村の大字上手向・鶴岡村の下手向は郷の遺稱なり。【タムタ 談多】 下野國(栃木縣)の古地名。和名抄に安蘇郡談多郷あり、諸本或多に作るも、いま高山寺本により談多となす。その地今の安蘇郡葛生町常盤村の邊に當る。

タムラ

田村 福島縣のほぼ東部。東は雙葉郡、南は石城郡・石川郡、北は安達郡、西は阿武隈川を隔て、安積郡・郡山市に接す。面積八四・五二五方軒。内に四町二十七ヶ村を含む。東北境に近く旭嶽(一〇五八米)、東南境に矢大臣山(九六五米)聳え、この兩山を結び龍子山(九二二米)・鎌倉山(九六七米)・楡山(九九三米)大瀧根(一一九三米)等の山頂が北より南に續きて分水嶺をなし、龍子山・楡山の東方には郡路盆地あり。盆地の各斜面より發する河川は盆地に於て合し、高瀬川となりて東流し、諸戸川となりて太平洋に注ぐ。山脈の西部は概ね高原状をなし西部に傾き、阿武隈川の支流小泉川・大瀧根川・谷田川等の諸川はその間を開析しつゝ西流す。阿武隈川は西南境郡山盆地附近に於ては蛇行し西北境に於ては臺地の間を先行しつゝ北流す。三春町を中心として郡下一般に馬を産し、福島縣下に於ける主要馬産地をなす。又葉煙草の栽培に適し、三春町を中心としてその産多し。道路は西北通し、三春町・小野新町を中心として四通し、三春町・小野新町を繋ぎ東南方平市に至る勢城街道、三春町より東方郡路盆地に至り西方郡山市に至る郡路街道等は其主要なるものなり。省線勢城東線は北西部より南部に通じ、舞木・三春・船引・勢城常葉・大越・神保・小野新町・夏井等の諸驛あり。また省線本郡線は郡の西南の一部に通じ、勢城守山・谷田川の諸驛あり。中世は安積郡に屬し、田村莊と云ひ坂上田村磨の齋と傳ふ田村氏の有たり。郡號を建てしは鎌倉時代ならんと云ふも定かならず。江戸時代の初めに至り、諸書に田村郡の名見ゆ。

タモヤチ

田茂谷地岳 八甲田山山麓(青森縣)の一嶺。【タモリ 田森村】 廣島縣備後國比婆郡の東部。東城町の北に隣り、東は岡山縣に接す。村内は殆んど六七百米の山岳起伏して山地をなし、北部に發源せる東城川の支流東城を南流し、その沿岸に狭長なる低地ありて部落及び耕地はこゝに發達す。米・麥・藁等の農産の外に山地より木材・薪炭等を出す。村道四方に通ずるのみにて交通未だ便ならず。村名は栗田・竹森の部落を合併して田森村と名付く。

タヤ

多屋 愛知縣知多郡にありし村。明治三十九年本村ほか二村を廢し鬼崎村を置く。【タヤマ 田山村】 岩手縣陸奥國二戸郡の西部。西は秋田縣鹿角郡榮平村・宮川村と界す。面積二五二方軒餘の大村。全村奥羽山脈の北部に噴出せる火山岩によりて蔽はれ、南境上には高倉山(一〇五二米)、北境には中岳(一〇二四米)等の山地あり、米代川の上流切通川・根石川等は北部の山地に出でて南下し、見川川・相澤川は南部の山地に發して北に下り中部の谷に於て相會し、西部の高畑山・兄畑山の間より西隣宮川村に出づ。至る處山林なるも以上諸川の沿岸には幅狭き低地ありて耕地をなし、米・粟・稗・大豆等の農産と、薪炭・木材等の林産を出す。津輕街道は古く中部を東西に横さり、近

三五五

大瀧根(一一九三米)等の山頂が北より南に續きて分水嶺をなし、龍子山・楡山の東方には郡路盆地あり。盆地の各斜面より發する河川は盆地に於て合し、高瀬川となりて東流し、諸戸川となりて太平洋に注ぐ。山脈の西部は概ね高原状をなし西部に傾き、阿武隈川の支流小泉川・大瀧根川・谷田川等の諸川はその間を開析しつゝ西流す。阿武隈川は西南境郡山盆地附近に於ては蛇行し西北境に於ては臺地の間を先行しつゝ北流す。三春町を中心として郡下一般に馬を産し、福島縣下に於ける主要馬産地をなす。又葉煙草の栽培に適し、三春町を中心としてその産多し。道路は西北通し、三春町・小野新町を中心として四通し、三春町・小野新町を繋ぎ東南方平市に至る勢城街道、三春町より東方郡路盆地に至り西方郡山市に至る郡路街道等は其主要なるものなり。省線勢城東線は北西部より南部に通じ、舞木・三春・船引・勢城常葉・大越・神保・小野新町・夏井等の諸驛あり。また省線本郡線は郡の西南の一部に通じ、勢城守山・谷田川の諸驛あり。中世は安積郡に屬し、田村莊と云ひ坂上田村磨の齋と傳ふ田村氏の有たり。郡號を建てしは鎌倉時代ならんと云ふも定かならず。江戸時代の初めに至り、諸書に田村郡の名見ゆ。

タムラ

田村 福島縣のほぼ東部。東は雙葉郡、南は石城郡・石川郡、北は安達郡、西は阿武隈川を隔て、安積郡・郡山市に接す。面積八四・五二五方軒。内に四町二十七ヶ村を含む。東北境に近く旭嶽(一〇五八米)、東南境に矢大臣山(九六五米)聳え、この兩山を結び龍子山(九二二米)・鎌倉山(九六七米)・楡山(九九三米)大瀧根(一一九三米)等の山頂が北より南に續きて分水嶺をなし、龍子山・楡山の東方には郡路盆地あり。盆地の各斜面より發する河川は盆地に於て合し、高瀬川となりて東流し、諸戸川となりて太平洋に注ぐ。山脈の西部は概ね高原状をなし西部に傾き、阿武隈川の支流小泉川・大瀧根川・谷田川等の諸川はその間を開析しつゝ西流す。阿武隈川は西南境郡山盆地附近に於ては蛇行し西北境に於ては臺地の間を先行しつゝ北流す。三春町を中心として郡下一般に馬を産し、福島縣下に於ける主要馬産地をなす。又葉煙草の栽培に適し、三春町を中心としてその産多し。道路は西北通し、三春町・小野新町を中心として四通し、三春町・小野新町を繋ぎ東南方平市に至る勢城街道、三春町より東方郡路盆地に至り西方郡山市に至る郡路街道等は其主要なるものなり。省線勢城東線は北西部より南部に通じ、舞木・三春・船引・勢城常葉・大越・神保・小野新町・夏井等の諸驛あり。また省線本郡線は郡の西南の一部に通じ、勢城守山・谷田川の諸驛あり。中世は安積郡に屬し、田村莊と云ひ坂上田村磨の齋と傳ふ田村氏の有たり。郡號を建てしは鎌倉時代ならんと云ふも定かならず。江戸時代の初めに至り、諸書に田村郡の名見ゆ。

タメ

多米 三河國(愛知縣)の古地名。和名抄に八名郡多本郷あり、高山寺本は多米に作るにより、いまこれによる。明治二十五年、八名郡美米村の一部を割き

北限本線の田村驛(昭和六年設置)を置く。

【田村】 丹後國(京都府)の古地名。和名抄に、熊野郡田村郷あり。中世は田村莊と云ひ、建久二年の文書に見えて、後白河院長壽堂領なり。正應中、田百二十三町一段餘と注せり。地は今の田村・神野村の地に當る。【田村】 土佐國(高知縣)の古地名。和名抄に香美郡田村郷ありて多無良と調す。その地は今の香美郡田村・立田村・前濱村の地に當る。中世は田村莊ともいひしこと諸書に見ゆ。

タムラ

田邑 上野國(群馬縣)の古地名。和名抄に勢多郡田邑郷ありて多無良と調す。いま何れの地に當るか詳かならざるも、或は勢多郡柏川村の邊にや。【田邑】 山城國(京都市)の古地名。和名抄、葛野郡田邑郷あり、多無良と調す。三代實錄に仁和元年、田邑郡神應寺、預定額と見ゆ。いま右京區花園・太秦の地に當る。

タメ

多米 三河國(愛知縣)の古地名。和名抄に八名郡多本郷あり、高山寺本は多米に作るにより、いまこれによる。明治二十五年、八名郡美米村の一部を割き

土地の隆起に因り現今の如くなる。明治十三年田村・戸石の二村聯合せしむ。明治二十二年町村制實施と共に戸石を分離し獨立して田結村と稱す。

タヨロ

多寄村 北海道天鹽國上川郡の西北部。上川支廳管内に屬す。天鹽川の上流名寄盆地に存し、北は名寄町、南は士別町に隣り、西は石狩國に界す。面積二八五・九平方軒。東部は北見山脈、西部は天鹽山脈兩山地の傾く中部に天鹽川の灌溉する南北に長き盆地の中央部に存すフレイベツ・タロロマ川等の支流天鹽川に合し灌溉の便をなす。東部山地にはチヌレツプ・風速別野地等の官有地大部を占め、西部山地には農場存す。省線宗谷本線中央を南北に貫き、多寄・風速の二驛(共に明治三十六年設置)を置く。農業最も旺んにて工業これに次ぐ。北海道内馬鈴薯の主産地なり。澱粉・バター・大豆・蕎麥等また産す。

タラ

太良 鹿兒島縣伊佐郡にありし村。明治二十四年東太良・西太良の二村に分たれ、東太良村は大正十四年本城村と改稱さる。

タラ

多良 岐阜縣美濃國養老郡の西端。大垣市の西南二十軒。西は滋賀縣に接す。村の中央を南北に牧田川北流し第三紀層を以て埋め、その東には養老地壘が、西側には鈴鹿地壘が並行して走り、何れも古生層山地なり。即ち牧田川の谷も概造

タメイ——タラ

郷名に因みて多米村を置きしが、同三十九年多米村及び玉川・嵩山・西郷・三輪の四箇村を廢し石巻村を置く。

タメイケ

溜池 江戸城の赤坂見附外より山王臺の下を廻りて虎門に至る間にありし大池。鮑町と赤坂の境をなせり。後これを干拓し東部に偏し小溝を穿ちて水を通ぜしが、今はこれを地下に埋没しその上を街路とす。溜池の名は僅かに赤坂區の町名に残る。

タメイシ

爲石村 長崎縣肥前國西彼杵郡の南部。野母中島の東岸にありて天草灘に臨み長崎市の約一〇軒南方にあり。面積二・六八方軒の小村。村内低地に乏しく海岸は山地海に迫りてメカシ崎年崎突出して小河を抱きその灣頭に小低地開けて主邑爲石聚落あり。甘藷を出し山地は薪炭を出し水産盛なり。爲石より川原村・茂木村・蚊焼村に村道通じ長崎市へバスの便あり。附近町村と共に要塞地帯の一部なり。明治四年廢藩置縣と共に長崎縣に屬し、のち二十二年町村制施行す。

タモ

田母澤 ↓日光町(栃木縣)

タモキ 田面木沼 ↓六ヶ所村(青森縣)

タモト 田本 武藏國(東京府)の古地名。和名抄に花原郡田本郷あり、多毛止と調す。今その地詳かならざるも浦田區矢口町・六郷町の邊に當るか。

谷たる事が分ります。牧田川の流域には水田開墾盛んなにして、生柿の産地多し。山地には木炭を産し多良炭と稱せられ、良質にして、又履皮を産し製紙家に歓迎せられ養老履皮と云はる。交通路は牧田川の谷に勢州街道通じ美濃と伊勢を繋ぐ。富村は和名抄、石津郡大庭郷の地にして、中世は多羅郷と稱せらる。神風抄に美濃國止岐多良御厨と記し、東鑑にも土岐多良庄時多良山と見ゆ。文治六年四月十八日支那仲經地頭職に補せられ、延文中土岐村と共に内宮御厨の庄となる。天文二年三輪三人兼尾張國愛知郡より入郷し、三輪筑後ば小山瀬に、三輪佐渡は原原に、三輪豊前ば名及に住し、村民を愛撫せし爲良領主として詔はる。天正六年三氏共織田信長に屬し、天正十年關一政の知行となり、天正十七年より大坂支配に移る。慶長六年九月高木三家入郷し、宮の地に居住し、美濃衆と稱せられたり。幕府旗下異数の家柄なり。多羅郷は初め關長門守が住し、後高木黨の居城たり。〔大神神社〕宇宮に鎮座。郷社。祭神、大物主神兼命。持統天皇六年天皇伊勢國に行幸ありし際、我が住むべき社を美濃國多羅山の川上に建つべしと詔す。依りて右大臣三輪朝臣高木藏呂此地を撰びて本社を創建す。延喜の制式内社に列す。例祭、九月二十五日。

【多良村】佐賀縣肥前國唐津郡の東南部。有明海に臨む。西南境に經ヶ岳(一〇七六米)、多良嶽(九八三米)、帆柱岳等並んで東北方へ廣く裾野を擡げ東部海岸に僅かに低地あり。低地は田畑よく拓けて米の産多く兼産し又養蠶行はる。東海岸に沿ひ縣道走り乗落多く之に沿ふ。省線長崎線同じく東岸近くを走り多良驛(昭和九年設置)あり。この地は肥前國風土記に見ゆる託羅郷の地にして村名は海産物の豊富なるより起るといふ。風土記、藤津郡、同天皇(景行)行幸之時、於此郷、御覽海物豊多、鮎日、地勢豊少、食物豊足、可謂豊足村、今謂託羅郷、託羅之也。〔寛徳神社〕大字赤坂に鎮座。郷社。祭神、素戔鳴尊。例祭、十月三十一日。

【多良房】阿蘇火山に屬する消火山。佐賀縣藤津郡と長崎縣東彼杵郡及び北高來郡に亘り、本郷と寄生火山とより成り、基底は第三紀中新統及び火山岩類にして本郷は覆層石安山岩(塊岩及び熔岩)等より成り、頂上部に經ヶ岳・多良房・五家原房・大花山を周壁とする楕圓形の爆發カルデラ(東西徑約四軒)を有す。最高峯は經ヶ岳(一〇七六米)とす。寄生火山はカルデラの北西壁外側の郡岳・遠見山及び南西壁外側の島山(熔岩塔)等にして、いづれも含硫黄石角閃石安山岩より成る。この山は火山活動を休止後長年月を経過せし爲火山の原形は缺損せる部分多し。傾斜度は西側大村側方面に

向ひては比較的急傾斜をなし、東側有明海方面へは緩傾斜をなし、長く美しき裾野を曳く。輻射谷極めて多く、それ等は深き養谷をなす。郡川はカルデラの西壁を破りて流出す。山頂附近には原始林多し。頂上より雄大な展望を恣にし、山を取巻く大村湖・有明湖の眺望極めて美しく、有明海を距てて雲仙の金山容を眺め、東方は大牟田市方面の市街地を俯視し、遠く阿蘇山の噴煙を窺む。登山は大村嶺竹松驛よりするもの、北麓野温泉よりするもの、及び長崎縣藤津郡よりするものあり。湯江驛より山頂迄約十二軒、境川谷に沿ひて進行し、藪道を經て、鳥帽子岳の西山腹を登る。この附近には海・野菜多し。それより更に登れば杉・檜の森林を通りて金泉寺に至る。此寺は神佛混淆の社寺にして、堂宇・講堂ありて宿泊可能なり。山頂まで寺より約半軒、檜の原生林を過ぎて建す。大村嶺竹松よりば雲霧川に沿ひて黒木に至る。途中久良原附近には杉の標榜林を見る。黒木より五家原房・經ヶ岳を経て建す。

【多羅】書紀に見ゆる朝鮮の古地名。神功皇后の御時、新羅不遜にして百濟の貢物を奪ひ、我に禮なし。よりに荒田別・鹿我別の二將を遣して新羅を襲ひ比自軍以下の七國を平定す。多羅も其の一國なり。多羅はまた大良といひ、いと慶尙南道陝川郡の地がそれならんといふ。

【多羅尾村】佐賀縣近江國甲賀郡の西南端。信樂町の南に隣り信樂谷の奥に位す。東・南・西の三面山を繞り約六〇〇—七〇〇米の高さを呈し中央は稍低し。山村なれど農を主産業とし米を産し特産には木炭・煎茶・仔牛及び夏季の養蠶等あり、中央の低地より四圍町村へ村道を通ずれば交通不便なり。

後原命、笠置邑より皇太神宮を奉じて伊勢へ赴くの途、一時本村の地に奉祀せらる。その跡いまは高宮神社といひ無格社たり。徳川家康本館寺の變に遭ひ倉皇として歸國の際、當地の多羅尾氏これを保護せしを以て、多羅尾氏に知行千五百石を給し代官職を世襲せしむといふ。〔淨願寺〕淨土宗。元和八年領主多羅尾左京進光太、其室退傳のためこれを創建す。寺寶中、木造聖觀音立像一軀は鎌倉期の作にして國寶たり。

【タラカ】田樂 愛知縣東春日井郡にありし村。明治三十九年本村ほか一村を廢して豊栄村を置く。

【タラキ】多良木町 熊本縣肥後國球磨郡の東部。人吉盆地の東部に位し球磨川に跨る。東北方に聳立する三方山(二二六六米)より延びる連嶺、北境を東北より西南に横き南方へ傾斜し、南部は入吉盆地の東部を占むる爲平坦な低地開け球磨川西流す。農業を主産業とし其他畜産・工業・林産あり。南部に西方人智町方面より東南方宮崎縣佐土原町方面へ通ずる縣道走り、之に沿ひて多良木町乗落街村状をなし、省線湯前線東西に通じ多良木驛(大正十三年設置)あり。古くは和名抄、球磨郡久米郷の内に屬し、中世多良木庄と稱せらる。藤原南家相良氏の一族この地に居して多良木氏を稱す。大正十五年町制を布く。

【タラカ】多良間村 神樂縣宮古郡の

有明海に臨む。西南境に經ヶ岳(一〇七六米)、多良嶽(九八三米)、帆柱岳等並んで東北方へ廣く裾野を擡げ東部海岸に僅かに低地あり。低地は田畑よく拓けて米の産多く兼産し又養蠶行はる。東海岸に沿ひ縣道走り乗落多く之に沿ふ。省線長崎線同じく東岸近くを走り多良驛(昭和九年設置)あり。この地は肥前國風土記に見ゆる託羅郷の地にして村名は海産物の豊富なるより起るといふ。風土記、藤津郡、同天皇(景行)行幸之時、於此郷、御覽海物豊多、鮎日、地勢豊少、食物豊足、可謂豊足村、今謂託羅郷、託羅之也。〔寛徳神社〕大字赤坂に鎮座。郷社。祭神、素戔鳴尊。例祭、十月三十一日。

【タラカ】多良間村 神樂縣宮古郡の

え、寛元四年入道大納言家隆の孫にも垂井宿見え、これ以後江戸時代は中山道の宿場となり、青國府たりし府中は衰へこの地が地方的中心をなしたるもの如し。宿の南方御所野と稱する地に聖武天皇御宮址あり。更に町の中南宮の鳥居のあたりは後光厳天皇御宮の舊地たり。南宮の鳥居の西の邊の少し高き地をいま里人長屋屋敷と呼ぶは長屋氏の城址にして長屋氏は鎌倉権五郎景政の子孫にして、秀景なるもの美濃に來り今須に住し、景頼はここに居住す。その西には足利太兵衛實持氏の二子春王及び安王の塚あり。二王は金蓮寺の遺場にて首を打たる。宇御所野は關ヶ原の役の時東軍の部將池田輝政の陣所となる。本町はもと不破郡郡役所の所在地たり。明治十一年明治大帝北陸東海御巡幸の御、十月二十日この地にて御小休遊ばさる。今その址は指定史蹟たり。〔垂井御宮〕後光厳天皇の行宮。正平八年六月山名時氏、京都を襲ふや足利義隆防戦及び、帝を奉じて美濃小島に走り、次いでこの行宮に御移帳、幾もなく京都の敗報來り、天皇九月御宮を出でて京都に還幸す。〔垂井一里塚〕指定史蹟。町の西方約九百米にあり中山道に沿へる一里塚の一。今はその南塚を残し、塚の徑約二一米、高さ約四米半。〔垂井泉〕垂井驛より西方四三〇米、南宮明神の石鳥居を稍南に入りたる所にあり。昔聖武天皇行幸し給ひし曳常の泉

は是れなるべきか。これに隣りて櫻原主佐の明和年間にて建つ櫻原水地あり。昔見したる井の水ばかりはれとつれる影そ年をへにける。〔藤原陸運〕泉南郡の中部西海岸。佐野町の南約四軒。面積一・九一の小村。大阪平野沖積低地の南部を占めて地低平。海岸には白砂青松ありて夏季海水浴に適す。農産多く、米・玉葱・葉煙草・鶏卵等を産し水産額も多く又工業發達して綿織物産額最も多し清酒・醬油も多し。各種産業かく發達するため人口多く密度一方軒二五八人の稠密なり。縣道西北海岸近くを走りて大阪市と和歌山市方面とを連絡。社線南海線海岸近くを走りて樽井驛(明治十七年設置)あり。海運は大阪市・神戸市に開け交通至便なり。古くは山井の里といふ。往昔聖武天皇御東征の途末、河内國孔舍新坂に於て皇兄五瀬命流矢にて負傷し給ひし時、この地に御上陸あらせられ山井の里と名付し。のち樽井と改められしと云ふも詳ならず。タルキシ 樽岸村 北海道、後志國壽都郡の北部。後志支庁管内。東内浦驛に背面する日本海沿岸部西岸に位し。壽都町の東南に隣接す。西は月越山脈を界して鳥牧郡に、東は朱太川を以て歌葉郡に對し南に黒松内村接す。面積七二・六平方軒。人口二二二九。東境朱太川流域及び河口、壽都海岸に平地存し、西部

南部には丘陵性山地起伏す。朱太川口左岸、壽都驛に臨みて大字樽岸存す。朱太川下流に湯別温泉の湧出あり。社線壽都鐵道川沿ひに通じ壽都驛岸に到る。樽岸湯別・中ノ川の三驛(共に大正九年設置)を設く。米・馬鈴薯を産し、鱒・鮭・鱈の漁獲あり。タルタマ 垂玉 ↓長陽村(鹿本縣)タルマ 達磨山 富士山脈に屬する消火山。伊豆半島西部に峙つ山。静岡縣田方郡戸田村と修善寺町の境上にあり標高九八二米。山體輝石安山岩より形成せらる。この山の絶頂は香大郎といはれ天狗の棲所と稱せられたり。西部に大爆裂火口あり、東面は裾野を長く曳く。昔よりこの山を登らずして伊豆を語るべからずと稱せられしごとく、山頂より駿河灣を下瞰し、富士山を仰望する大觀は他に比類なし。東麓に修善寺温泉、南西に土肥温泉湧く。近時ハイキングに來る者多からず。タルマエ 樽前岳 北海道、後志火山帯中の一峯。支庁管内の大沼段ガレテラ生成後、その南東麓邊部に噴出せる活火山にして、樽振支廳と石狩支廳との境上に峙つ。この山外觀は二重式火山の如くなれど實は三重式火山にして、外輪山の最高點は東部にありて一〇二三・八米を算す。現在噴煙を上げつゝあるは明治四十二年春大爆裂に依りて新に生ぜし標式的圓頂にして、火口原を狭くこと

一五〇米に及び、三角點は前記外輪山の最高點に置かるるも、樽前山の最高點はこのP14頂點とす。P14の頂上は狼藉たる岩より成り、隨所に水蒸氣と硫氣を吐き、中央に明治四十二年夏再度の爆發によりて生ぜる裂隙あり。この山は我國にて最も多く浮石を噴出せる活火山の一とせらる。山腹六〇〇米附近森林帯、それ以上は槍岩の廣大なる斜面をなし、その間に數十條の潤澤走る。槍岩帯には高山植物の群落を見る。山頂より明鏡の如き支筋湖と之を抱く南岸風不死岳(一〇三米)、北岸惠庭岳等を初め、室蘭港の展望佳なり。登山路は室蘭線多摩郡より西方約二軒にして登山口に至り、それより登山用に着いて潤澤を越れば外輪山の最高點に至る。全行程約一六軒、五六時間を要す。尙ほ冬季にもこの路に沿ひスキー行はるれども、積雪や少し。又北麓支庁湖東岸及び西岸よりの登山路もあり。タルミ 垂水 相模國(神奈川県)の古地名。和名抄に足下郡垂水郷あり、一本に垂水にも作る。その地今詳かならざるも足利下郡土肥村の邊に當るか。天平七年本國封戸租帳に皇府宮食封、足下郡垂水郷五十戸とあるは此地なり。〔垂水町〕兵庫縣播磨國明石郡の東南隅。六甲山塊西南端を占め神戸市と明石市とに挟まれ明石海峡に臨む。六甲山塊西南

端は斷崖をもつて明石海峡に臨み神戸市より東に續く大阪平野と明石市より西に擴がる播磨平野とを分つ。北部の約二〇〇米の山地が南方へ放射狀に谷をつくりて數列の山塊を延ばし其は西南方へ及びて明石市との境を限り高嶺山・高倉山・飯沼山等を起して神戸市を隔つ。中央にも一山脚ありて南方海に迫り其東の河谷に福田川南流す。山麓の斷崖線は福田川東部に始まり東北へ及びて六甲山麓を切る。海岸を獅子濱と言ひ背後山地が花崗岩より成る爲に侵蝕下されたる花崗岩砂海濱を鏤め松林多く所謂白砂青松の景を呈し遠くは淡路島の北端を望み風光明媚にして氣候良好なると相俟ち阪神人士の休養地をなす。低地は耕地よく拓けて米・麥を産し山地は薪炭の供給をなす。山陽街道及び省線山陽本線斷崖下を海岸に沿ひて走り、颯風・垂水・獅子の三驛(前後者は明治二十九年、中者は同二十一年の設置)あり。この地は須磨浦に積り氣候溫和、近畿地方の保養地の一として著はる。町内に海神社・五色塚古墳・獅子ノルフ場・轉法輪寺・多聞寺等見るべきもの多し。古くは垂見郷に作り、和名抄に明石郡垂見郷と見え、多留美と訓す。延喜式左馬寮に播磨國垂見郡と云ふも此地なるべし。〔獅子濱〕大字西垂水より山田に至る一帯の海濱約一軒間をいふ。東は須磨浦に連り、西は明石市に接

し、北に歌敷山の丘陵を負ひ、南は明石海峡を隔て淡路島に對し、遠くは紀伊の山脈を雲烟の間に望み、風光頗る明媚、いまこの地縣營の獅子公園となる。町内白砂の間に枚原の屈曲せる老松生茂り優雅なる遊園地をなす。海は海峽なるため潮流急にし海水浴場として好適地ならざるも、尙ほ夏期海水浴盛んに行はる。山陽本線の鐵道は町内を通り、こゝに獅子驛を設く。〔五色塚(千重)古墳〕指定史蹟。五色山の北に接す。海岸に臨み南面せる前方後圓墳にして、長軸約二三四米、前方部の端は軌道に切らる。古墳墳上三列に埴輪物並列し恰も壘を築み並べたる如き狀を呈せしため、昔より千重の名稱を以て知らる。今墳輪は土に覆はる。なほ西側に接して存する古墳は小壘古墳と呼び、同じく指定史蹟たり。〔海神社〕大字西垂水に鎮座。官幣中社。祭神底津綿津見神・中津綿津見神・表津綿津見神。三柱の綿津見神は航海漁業等の事を守護され海洋を主宰し給ひ、上古神功皇后征韓御凱旋の際親しく海神三坐を鎮祭せられたるに起ると傳ふ。爾後歴代の御崇敬篤し延喜の制三座並に名神大社に列る。中世以降漸次衰頹せしむ。豊臣秀吉及び明石藩主等若干の祭祀料を寄するに至り、社運漸く復興す。例祭、十月十一日。(多聞寺)大字多聞にあり。天台宗。古群山と號し、貞觀五年慈覺大師圓仁の創製と傳へ、往昔七堂伽藍社殿として寺領數百

町に及び、寺中十四坊を有し、寺運極めて盛大なりといふ。境内藥師堂に安置せる木造藥師如來坐像一軀。同日光月光菩薩立像二軀(藤原時代の作)はともに國寶たり。〔轉法輪寺〕大字名谷にあり。古義眞言宗。龍潭山と號し高野末たり。大同元年平城天皇の勅願にて開創、西尊を岡山とす。本尊木造阿彌陀如來坐像一軀は藤原時代の佳作に屬し現に國寶たり。〔垂水〕美作國(岡山縣)の古地名。和名抄に眞島郡垂水郷あり、その地今の眞庭郡落合町の邊に當る。〔垂水村〕香川縣讃岐國仲多度郡の東北部。東は饒歌郡に隣す。面積三・七八方軒。丸龜平野の南部を占めて平坦肥沃な耕地をなし東境を土器川北流し又處處に湖池あり。何れも灌漑を助く。農業非常に盛にして米・麥を産し清酒の醸造等もあり純農地をなす。北方坂出町より南下する社線琴平急行電氣鐵道は西部を縱貫し南方琴平町に至る。此地古くは和名抄那珂郡垂水郷の内に屬す。また嘉元御領目録に垂水郷如來寺院料とあるも同地とす。村名は蓋し其遺稱とす。(安樂寺)大字馬場にあり。眞言宗高野派。大同年間の創建にして、現堂宇は明治五年の建立に係る。〔垂水〕福岡縣山門郡にありし村。明治四十年本村外三村を廢し三福村を設く。タルミ 樽水 愛知縣知多郡にありし

村。明治三十九年本村外三村を廢し和豆志村を置き、和豆志村は同四十四年西浦町と改稱す。タルミズ 垂水町 鹿兒島縣大隅國肝屬郡の西北部。鹿兒島灣に面し西北隅にて僅かに櫻島半島の東南隅に接續す。高隈山脈西斜面に位す。面積八・五八方軒。全村山岳重嶺し東境に高隈山脈連りて七橋・大龜嶺(一一三三七米)等を起し南境には横岳(一一〇二一・一)・白山等連り東境に源流する本城川南部を西流し下流沿岸に沖積低地開く。山地南岸に迫りて平地乏しく、風雨少く海岸線をなす。西北隅は櫻島嶺流によりて牛島に接續す。農産額最も多く米・麥を産し藪も出ず。工業之に次ぎ山地は温泉多量なる氣候の爲に森林よく茂り林産額多く東部は熊原官林をなす。畜産も多く西岸は水産業行はる。縣道西岸に沿ひて走り之に沿ひて牛農半島の部落點在し中央にて之より分れる一道路に走りて東境山地を越えて高隈村に至る。其他村道よく開く。本城川下流平野にては聚落散村型をなす。和名抄に大隅郡大隅郷とあるは當町邊を稱せしものにして、中世此邊を下大隅と稱せるは郷名の遺稱なるべし。また建久國田帳に下大隅郡九十五町九段、鳥津庄寄郡とあるもこの地なり。大正十三年町制を施す。(垂水城)大字市木にその址あり。保安四年上總介齊清下大隅に下向して當城に主たり。同年蒲生吉田

の領主となりて諸生城に移る。其後伊地知氏の所領となる。文祿四年川田義明垂水の地頭に任ぜられ富城に在り。慶長四年島津右馬以久種子島より轉じて垂水に移され富城を治所とす。又四郎久成まで三代在城せしが、慶長十六年大字田上の本城に移る。(本城)その地は大字田上にあり。古くは下之城といひ伊地知氏の城址なり。應永十九年伊地知建隆季豊、島津久豊に垂水を興へられ富城を治所とす。周防重興に五里瀬重長と共に伊地知氏に奮して島津氏に反す。元龜三年島津義久弟盛久に命じて下大隅を討たしむ。歳久盛んに攻むるも重興よく防ぎて獲く能はず。翌天正元年正月義久、終に重興重長を誘て歸順せしむ。同二年肝付兼亮重興と謀り我軍に利なきに重興重長の敵に降れるが故なりとして、重興と共に備後を侵す。重長は島津の援兵喜入津津季久等と共に奮撃してこれを破る。兼亮・重興は逃れて富城に歸る。こゝに於て重興終に力盡きて島津氏に降る。義久は重興本領の内下之城一々所田録三千八百石を興ふ。重興の孫佐渡重頼、朝鮮の役に従ひ罪ありて領地を没せらる。(手賀神社)大字本城に鎮座。郷社。祭神、玉依姫命、外三神。社記に文明十年平朝臣虎太郎丸重頼社殿造営の棟札を存する由を記す。例祭、十一月二日。

【多和】 讃岐國(香川縣)の古地名。和名抄刊本に香川郡多和郷とあり。いま高山寺本によりて訂す。その地は今の太刀郡志度町の地とす。

【タワタリ 田波】 下瀬初村(天城縣) 【田原村】 岩手縣陸中郡江刺郡の南部。地東南より西北に延び、西北は岩谷堂町に接す。面積五九方軒餘。北上山地南部の西端にて東南端上の蓬萊山(七八八米)の山嶺西端と北東端上とに延び、地は概ね西方に傾き、伊手川は北部を小田代川は中部を、大田代川は南部を西に流れ、川筋にそれぞれ幅狭き低地あるも、伊手川沿岸のもの最も大なり。農村にて米・麥・豆等を主産し、大田代川附近の山地には木炭を、小田代川谷には柿を出し、また馬の産あり。岩谷堂より遠澤に至る道路村の中部を南北に通ずるも交通なほ便ならず。此地は延暦年間、坂上田村麿の東征後、謂ゆる大井信濃郷と稱せられ前九年の役後、豊田城主、清原氏の治下に入り、土谷・石山・原體・小田代・大田代の五郷あり。爾來幾變遷、明治八年大田代・小田代は合して田代村となり、原體・石山・土谷は石原村となりしが、明治二十三年町村制施行の際この二村を合して田原村となる。小田代城址は島西氏の區、小田代氏の居りし所なりと。

【田原村】 栃木縣下野國河内郡の中部。宇都宮市の北方約七軒。西端には約三三

の領主となりて諸生城に移る。其後伊地知氏の所領となる。文祿四年川田義明垂水の地頭に任ぜられ富城に在り。慶長四年島津右馬以久種子島より轉じて垂水に移され富城を治所とす。又四郎久成まで三代在城せしが、慶長十六年大字田上の本城に移る。(本城)その地は大字田上にあり。古くは下之城といひ伊地知氏の城址なり。應永十九年伊地知建隆季豊、島津久豊に垂水を興へられ富城を治所とす。周防重興に五里瀬重長と共に伊地知氏に奮して島津氏に反す。元龜三年島津義久弟盛久に命じて下大隅を討たしむ。歳久盛んに攻むるも重興よく防ぎて獲く能はず。翌天正元年正月義久、終に重興重長を誘て歸順せしむ。同二年肝付兼亮重興と謀り我軍に利なきに重興重長の敵に降れるが故なりとして、重興と共に備後を侵す。重長は島津の援兵喜入津津季久等と共に奮撃してこれを破る。兼亮・重興は逃れて富城に歸る。こゝに於て重興終に力盡きて島津氏に降る。義久は重興本領の内下之城一々所田録三千八百石を興ふ。重興の孫佐渡重頼、朝鮮の役に従ひ罪ありて領地を没せらる。(手賀神社)大字本城に鎮座。郷社。祭神、玉依姫命、外三神。社記に文明十年平朝臣虎太郎丸重頼社殿造営の棟札を存する由を記す。例祭、十一月二日。

【多和】 讃岐國(香川縣)の古地名。和名抄刊本に香川郡多和郷とあり。いま高山寺本によりて訂す。その地は今の太刀郡志度町の地とす。

【多和】 讃岐國(香川縣)の古地名。和名抄刊本に香川郡多和郷とあり。いま高山寺本によりて訂す。その地は今の太刀郡志度町の地とす。

【田原村】 千葉縣安房郡安房郡の東北部。鴨川町の西北隅。北端は清澄山より西に續く山地にて約二五〇米あり。南端も亦約三〇〇米にて何れも村内に傾斜し、樹合を加茂川東流して平地を開き水田多し。米を主産し、麥・蕎麥も産出する。養鴨も行はる。川沿ひに縣道ありて鴨川町に通じバス便あり。鴨川町に省線房総線安房鴨川驛を設く。この地は和名抄、長狭郡田原郷の地なるべし。大字大田原には中世中條氏の居りし金山城址あり、中條氏はのち里見氏の爲に滅ぼさるるといふ。

【田原村】 岐阜縣美濃郡加茂郡の西端。岐阜市の東北方五軒。北は津保川を距てて武儀郡關町に對し、南は稻葉郡に、西は武儀郡に夫々接す。略々四角形をなし地形は二つに區分され、南西部は古生層の名勝地塊の北斜面を占め、南部には追間山(三〇七米)ありて高度は高からず。東北部は洪積層の加茂野原の草地をなし分離丘陵たり。北端には津保川西流し、東部より野原川合流す。加茂野原には松林も相當残り、桑畑に開墾され、其他の

の南一八軒。洋中に孤立す。周囲約一〇軒、最高三五二米。夏季内地人漁夫來往し漁業に従事す。

【田原町】 愛知縣三河國渥美郡の中部。豊橋市の西南約十八軒。北は渥美灣に臨む。渥美半島中部北海岸に面し、大體二つの地形區に分れ、西部大部分は赤石山系に古生層の砂岩・輝綠岩・石灰岩・砂岩・粘板岩等の堅岩なり。北部蔵王山(二五三米)は古生層山地にて、砂川は半島の低丘陵に發し東北へと流れ渥美灣に注ぐ。東部渥美海岸は建設作用盛にして大洲崎の如き砂嘴あり、低地は大概洪積

佐守忠次に賜ふ。忠次の孫、山城守忠昌、肥後天草宮岡城へ寛文四年に移封され、三宅土佐守康勝之に代り、一萬二千石を食めり。代々相繼ぎ明治に至る。尙此地より渡邊華山を出せり。明治四年渡邊置縣の時田原縣となりしが、間もなく之を廢して但馬縣に入れ、次いで愛知縣に包含さる。明治二十五年町制を布き、同三十九年相川村・田原町・立川浦・大久保村を廢し本町を設けず。〔巴江神社〕大字田原に鎮座。縣社。祭神兒島高徳・三宅康真。文化十二年祭神の後裔三宅康和の勧請する所に係る。もと田原城内の丸にあり、二の丸社と稱せしが、明治十八年再興の際、舊城跡へ移して巴江神社と改稱す。例祭十月二十三日。〔神明社〕大字田原に鎮座。縣社。祭神天照皇大神。古來當村の産土神にして、一に神明宮といへり。例祭九月十六日。

【田原】愛知縣南設樂郡にありし村。明治三十九年本村ほか八箇村を廢し新に作手村を設く。【田原村】京都府山城國額原郡の東部。宇治川の南岸に位し久世郡宇治町の東南隅。東・南・西の三面に山を負ひ、東北端に大峰山(五〇六米)、東南端に御林山(四〇二米)、其南に笠峰山(六八五米)あり、中央には西北方へ長く細長き谷を造り北端に沿ひて宇治川西南流し中央にて西北の方角へ轉ず。低地には米を産し其他茶・果樹を栽培す。宇治町より渡邊縣

甲賀郡信樂町へ通ずる街道が北部を通じ之に沿ひて郷之口の葉落村状をなす。こゝより一遺西方へ向ひ青谷村にて奈良街道に連絡す。主邑を郷ノ口といふ。天正十年六月本能寺の變の時泉州堺に居りし徳川家康は倉皇國へ歸らんとして相樂郡へ出て郷ノ口に入り信樂の多羅尾氏に走りしといふ。村内に宇治川水力電氣第三發電所あり。〔御東橋神社〕大字南に鎮座。縣社。祭神天津彦根神。宣化天皇三年の創建と云ふ和通部美彦奉祀すと傳ふ。近衛天皇勅一等正一位に進めらる。例祭九月二十六日。

【田原村】大阪府河内國北河内郡の東南部。生駒山脈西部を占め奈良縣生駒郡生駒町の北に隣る。面積七・九一方科。全村山地をなし西方に高く約三〇〇米の高さを示す。耕地は麥の産多く、また畜産、林産並に工業あり。北部及び南に西方大阪市へ走る街道通省線片町線四條驛驛(西方約四軒の四條村にあり)にバス通ず。村の東境に天の川あり、北に流れて淀川に入る。傳説に、昔仙女あり、この川に浴せしがその羽衣を少年に匿さる、依りて留りて少年と夫婦になりながら天に歸る、故に天の川と號すと。【田原村】兵庫縣播磨國神戶郡の南部。市川中流の左岸に位し川を隔てて福崎町の東に隣り、加西郡北條町の西北約六軒。姫路市東北約一里に北方約九軒。北部には三〇〇米一四〇〇米程度の丘陵性の山

地あり。南半は南隣の小臺地を除く外は平坦なる廣く沖積地開け四境に沿ひて市川南流す。米・麥の産多く牧羊も行はれ薪炭も出す。西方約二軒に省線播但線の福崎驛あり。大字東田原に神積寺あり、俗に田原の文殊といふ、本尊藥師坐像は應永末の作にして國寶なり。大字西田原に徳社熊野神社あり、伊弉諾美命外二神を祀り十一月十七日に例祭を行ふ。

【田原村】奈良縣大和國添上郡の中部。笠置山脈の西斜面に位する山村にして奈良市の東南部に接す。全村山地重疊し東南部は五五〇餘米の高さを呈し南端には六六〇餘米の山地あり。山地を多き爲め耕地に乏しきも米・麥・甘藷を産し山地は薪炭を供す。奈良市より東南方へ走る名張街道南端を貫き北部には奈良市より東隣東山村に通ずる道路あり、其他数條の村道附近町村を結ぶ交通便ならず。村内の平原より石器時代の遺物を多く發掘せしことあり、先史時代已に人類の居住せしを知るに足る。光仁天皇・春日宮天皇(光仁天皇の御父君)の兩御陵あり、延喜諸陵式に田原東西陵の名あり依りても村名の古きを知るべし。中世は田原郷と稱し江戸時代には伊勢の藤堂氏の領地たり。大字新掛は近世世掛の宿と稱せられし地。三世相・四・駒を早めて香掛の宿通行はば、(田原東陵)大字日笠にあり。光仁天皇の陵。御陵形圓丘。天應元年十二月二十三日天皇崩御。聖徳長元年

タワラ

廣四山陵に葬り奉りしを、同五年現陵に御改葬。延喜式に近陵に葬す。中世陵所不明に歸せしが、元祿の諸陵探求の時現所と定む。幕府修陵の際、領主伊勢津藩主藤堂高敏より山陵奉行に申請し田原西陵と共に修補を加へ奉る。(田原西陵)大字東田原にあり。春日宮天皇の山陵。御陵形圓丘。天皇は天智天皇の皇子にして御名を施基王と申上げ、靈龜二年崩御。光孝天皇の御世近陵より遠陵に移されたるを承けて遠陵に葬す。中世陵所不明に歸せしが陵墓一隅砂に築めて現在の所在を掘し、幕末修陵の際領主伊勢津藩主藤堂高敏山陵奉行の允許を得て、田原東陵と共に大いに修補を加へ奉る。

【田原村】愛媛縣伊豫國東宇和郡の西部。宇和町の南に隣し、南は豊後水道に面す。四國山脈の西端海に臨む所にあり村内は高麗二一三〇〇米の山地よりなり南の海に臨む所に狭く少しの砂濱あり。海岸は沈降性の海岸にして出入型しく主邑脇附近は深き河川をなし池港をひらく。宇和町に至る街道は宇和の東部より屈曲しつゝ、東端を経て北上す。又海岸を通りて玉津・鈴江二村に縣道を通す。【タワラモト】田原本町。奈良縣大和國磯城郡の西部。奈良盆地の中央

に位し、山邊郡丹波市町の西南約五軒。西は都村・平野村に接し、南は多村に、東は川東村に界し西北は三宅村に隣る。面積〇・五五方科。周圍平坦地にして中央に寺川北流す。田畑よく折げ又大和西風の本地なり。近年高工業は頗る發達に向ふ。特産物には實業あり。附近農産物の集散地として交通を便にして北方奈良市より通ずる中街道中央を通りて南方八木町・誠徳町方面へ向ひ折村状の聚落發達し、之と交叉する一遺は東南方三輪町・櫻井町方面より西方生駒山脈の南の谷を通りて大阪平野へ出づ。社線大和鐵道及び大阪電氣鐵道通過し前者に田原本驛、後者に田原本停留場あり。其他自動車の往來頻繁なり。此地は江戸時代に旗本交代寄合平野氏の陣屋を置きし處。明治元年七月一萬石を領し田原本藩として諸侯の列に入る。(田原本藩)明治元年七月初めて本藩を置き、次いで明治四年の廢藩置縣の際田原本縣を置きしが間もなくこれを廢して奈良縣に入る。

タワラ タンコ

【タワラヤマ】山日縣長門國大津郡の西南隅。東北は深川町を隔て、日本海に對し、北に日鏡村、西南に豊浦郡殿居村、東南に同じく西市町と界す。面積五〇・九平方科。人口密度六一、郡内に於ける最小なり。即ち周邊山脈を繞らし交通不便なる山村にて、東境の大寧寺峠、南境木屋川流域を以て同境を越え縣道を通じ深川町・西市町と連絡

す。南部山地は木屋川の發源地にして耕地存し、附近に湯町あり。海拔三〇〇米の温泉場あり。縣道にはバスの便あり。米・蕎麥を産す。此地古くは和名抄、大津郡二處郷に屬す。村名は山名より起る。古來温泉地として有名。(依山温泉)一位ヶ嶽の東北麓(海拔三〇〇米)、正川の清流に臨みて湧出す。泉質、單純泉。他に川の湯・正の湯等あり。【タン】炭島。朝鮮平安北道(朝鮮平安北道)の東隅。郡邑鐵山の北方約一〇軒。東は宜川郡、北は義州郡に隣接す。西北境に望日山(六一四米)、東境に望峰(五一二米)對峙し各山間南北に並走し中央部は南北に狭長なる地溝帯を形成し南部は開けて所謂鐵山平野の一部を成す。地味肥沃にして灌溉の利に當り郡中の代表的農業地帯にして住民の大部分は農業に従事し面邑車業館には商業に従事する者稍多し。産物は米・大豆・粟・麻等あり、また家内工業として絹布・麻布・明絨・蘆蓆等の産あり。鐵道京義本線南の南部を東西に横斷し車庫館驛(明治四十一年設置)ありて京義一等街道に連絡し、此地を軸に諸道更に放射狀に四方に通じ鐵山邑へはバスの便あり。車庫館に往昔、支那使節の往復宿泊せる處なりしを以て其名出で、いま面政の中心にして郵便局・警察官駐在所等の外、二七の日に開かるる市場ありて穀類・生牛・蘆蓆等の集散地と

タンケツ

【タンケツ】丹月面。朝鮮京畿道楊平郡の東北部。郡邑楊平の東北約一五軒。西境に大白山脈に屬する龍門山(一一五七米)聳え、山脈一は北走して鳳尾山を起し、一は東南に低走しその中央より支脈東北に走りて東部山地に續き以て分水嶺を成す。河川は分水嶺の北に洪川江小支發し東北の江原道界を劃する川と合して北流し、南斜面には漢江一支なる黒川發して南流す。耕地は黒川流域の平地と鳳尾山東麓の盆地上に發達し、主として粟・豆・雜穀を主とし、梅田嶺山より金・銀を出す。南部を楊平、洪川(江原道)間の三等道路横截するも交通

かゝるに及びまたその所管なり。足利尊氏氏の叛するや部下の一色範光を以て富國の守護とす。正平年中に五里山名時代吉野朝廷に歸順し、山陰地方を平定せし時は本國をも鎮定し、のち叛きて足利義隆に降り、爾後、子師茂、孫滿幸相次いでこれを領す。既にして滿幸は叔父の氏清と共に明徳の亂に謀せられ、足利義隆は即ち一色範光の孫滿範を此國の守護とし田邊に治せしむ。應仁の亂起るや滿範の孫義直は山名持豊に當せしを以て細川勝元の高武田信賢一色氏討伐に向ひしも克つこと能はず。天正六年に至り織田信長は細川勝元をこの國に封じ一色義直を討たしむ。一色氏敵せずして敗死し、子義俊は與謝郡の弓木城に據り、與謝郡以北の三部を保つ。天正九年に至り藤孝の子忠興に至り丹後全國を平定す。藤孝初め田邊に居りしが、のち田邊を子忠興に與へて宮津に移る。長慶五年關ヶ原役の起らんとするや、忠興は徳川家康に従つて關東に下り藤孝は田邊に移りてこれを守る。會々石田三成の部下小野木健助等が來り攻め、城將に陥らんとす。然るに藤孝は文學に秀で古今傳授を得て居り、若し藤孝職殺せばその傳授の永久に失はるる虞あるにより後陽成天皇痛くこれを惜しませ給ひ、勅命を以て兵を解かしめられしエピソードを有す。これ關ヶ原役の決戦數日前のことなり。關ヶ原役後、徳川家康は忠興の功を賞して豊前小倉に轉せしめ京極高知を信州飯田より移して田邊に封じ丹後一國を領せしむ。元和八年高知歿し地を三子に分與す。即ち嫡子高直を宮津に、次子高三を田邊に、養子高直を柴山に封す。既にして宮津の京極氏は所領を没せられ、のち數主を代へ實屏中、松平資昌(本姓氏七萬石)これを受けて世襲し、田邊の京極氏は支孫高直の時、但馬豊岡に移り、寛文八年、牧野親成(三萬五千石)これに代り、柴山の京極氏(一萬石)と共に三藩を以て明治維新に及ぶ。明治の初め田邊を改めて舞鶴とす。明治四年に至りてこれ等の三藩はいづれも縣となる。而して熊野郡の久美濱には幕府の代官所あり、明治元年早くも縣となり久美濱縣と稱し、明治四年十一月には前記丹後の四縣を廢して但馬にある豊岡縣の管轄に歸す。その後、明治九年八月に至り丹後一國京都府の管轄に移つて以て今日に至る。

【丹後神野】 省線宮津線の驛(昭和七年設置)。京都府熊野郡神野村にあり。【丹後木津】 省線宮津線の驛(昭和六年設置)。京都府竹野郡木津村にあり。【丹後高士】 由良岳(京都府)の別稱。【丹後山田】 省線宮津線の驛(大正十四年設置)にして加悦鐵道の接續點。京都府與謝郡山田村にあり。【丹後山由良】 省線宮津線の驛(大正十三年設置)。京都府加佐郡山由良村にあり。

【丹後山由良】 關東山地の南端に當り一單元を形成する山塊。その大部分は神奈川縣に屬し西北は山梨縣に跨る。北邊は東西に流る桂川の斷崖谷により關東山地と地す。地形上は關東山地の連續にて從つて廣義の關東山地の中に包含せらるるも地質學上この兩者は著しく差異を示す。南縁は東西に近き方向の酒匂川の斷崖谷により地す。西縁の北半は西南—東北に走る桂川の上流の斷崖谷により地す。南縁は富士火山の噴出物のため被ばれ地は不明となる。更に内部は道志川の構造谷により道志山地と丹澤山地に分れる。山塊の大部分は御坂層にて構成され、中心にはそれを貫き噴出せる石英閃綠岩の岩株が露出する。岩層は主として

【丹澤山塊】 關東山地の南端に當り一單元を形成する山塊。その大部分は神奈川縣に屬し西北は山梨縣に跨る。北邊は東西に流る桂川の斷崖谷により關東山地と地す。地形上は關東山地の連續にて從つて廣義の關東山地の中に包含せらるるも地質學上この兩者は著しく差異を示す。南縁は東西に近き方向の酒匂川の斷崖谷により地す。西縁の北半は西南—東北に走る桂川の上流の斷崖谷により地す。南縁は富士火山の噴出物のため被ばれ地は不明となる。更に内部は道志川の構造谷により道志山地と丹澤山地に分れる。山塊の大部分は御坂層にて構成され、中心にはそれを貫き噴出せる石英閃綠岩の岩株が露出する。岩層は主として

タンザキ

伊達崎村 福島縣岩代國伊達郡の北部。西は桑折町、北は半田村、森江野村、東は栗野村、南は保原町、伏黒村に各隣接す。面積七・九四平方軒。阿武隈川は南境を東流し次いで東境を北流す。全村概ね平坦にして田畑・桑園よく拓く。米・蕎麥等を産す。道路は村の中央を東西に通じ西方桑折町へはバスの便あり。東方は梁川に至る。又東部を南北に通ずる道路ありて北方蘆田町、南方保原町に至る。東北本線桑折驛へは約三軒。伊達朝宗の六男、實綱はじめて此處に住し伊達時氏を稱す。その子孫宮城縣黒川郡宮床村を領す。

三石

して凝灰岩質にて所々に化石を埋藏する砂岩・石灰岩など夾在することより、第三紀中葉の海底火山堆積物と推定さる。御坂層の堆積以後著しく地盤運動が繰返され構造は極めて複雑となり、地盤の昇降も行はれ、それ等の運動に對比さるる若き水成岩の堆積層或は過去の侵蝕面等あり。道志山地は丹澤山地の北部に位し、西部・北部・東部は桂川に圍繞せらるる地域にて、大體北方に傾く日向山脈と秋山山脈の傾斜地塊より成り、最高點は西部の御正山に標高一六八二米を數ふ。丹澤山地は道志川以南の地域にて山中湖を西方の頂點とする。ほぼ二等邊三角形の地塊なり。内部の標高は約千米を示し、三邊は新舊の斷崖層に地す。一種の複雑なる構造を示す地塊山地なるべく、大小の河川は構造線に沿うて深き峡谷を穿ちて山地内部を走らし壯年山地を形成す。關東大震に際しては山塊全體としては一般に沈降運動を行ひしも其量は各所著しく不同を示す。山塊東部に位置する邊野山附近は一般の沈降的傾向を破りて約三米に及ぶ大なる隆起を示す。丹澤山地の東邊は略々西北—東南の方向に走る階段狀斷崖によりて東方に次第に低下し、これ等の構造線に沿うては別所・七澤・鶴巻等の清泉湧出する。また南方桑野盆地は丹澤山地に屬する地塊の沈降によるものと解せられ、盆地に向ふ約千米の急斜面は複雑なる斷崖層に關し

れ、山塊の東南隅に相模大山(一一二五三米)あり。丹澤山地の内部には一五〇〇米内外の所に平表面の存在することが知られ、南麓山北・松田後背の山地には五—六百米の位置に緩き波状を示す侵蝕面の發達を見る。主なる峻峯は大山の外、塔ヶ嶽(一四二九米)・丹澤山(一五六七米)・蛇ヶ岳(一六七三米)・蛇ヶ丸(一二九三米)等が數へらる。山地内部には殆ど葉落なく、ただ西部河内川の谷中の中神奈川縣足柄上郡三保村に屬する畑・三保嶺・支倉等の小葉落の發達を見る。内部の大部分はいはゆる丹澤世傳御料地なるも良林なし。登山道は大震によりて破壊されしが、東部には中津川の谷各方面に沿うて山塊内部に達するが、南部泰野方面より山頂を傳ひて各地に至る小徑あり。

【丹澤山】 ↓丹澤山塊
【丹澤山】 朝鮮慶尙北道榮州郡の北部。榮州面の北に隣り南北二〇軒に及ぶ狭長なる地域を占む。北部に小白山脈走りて、忠清北道との境に小白山(國寶峰、一四二二米)・兄弟峰等聳え東南に向つて低劣し一支は西境を限り、他の一支は東境を劃して靈臺峰(八五九米)を起し南端の大馬山(二七三米)に連る。中央を小白山に起る清東江上支西川の支谷南に走りその中流以下にやや廣き平地あり。耕地はこの平地と、山間傾斜地とに發達し、農産に米・蕎麥・大豆・棉・蕎麥

等あり。中央を郡邑榮州より來る自動車道路東西に走るも交通未だ便ならず。【タンシ】 潭子庄 臺灣臺中州豊原郡の南端。豊原街と臺中市の間に在り。面積比較的狭小なるも、東端大字聚興の一部分が低き丘陵をなす外は、土地總て平坦にして臺中平野の一部に屬し、農耕適地多く、地味肥沃、氣候適順、水利至便等の好條件を具備する爲め農業を主産業とし、面積の割合に各種農産物の收量多し。價格七十五萬四千餘圓と合して、甘藷の三十五萬四千餘圓と合して農産總額の大部分を占め、蔬菜四萬餘圓は多く臺中及び豊原の市街に供給せられ、煙草三萬餘圓、甘藷二萬八千餘圓、キャッサバ一萬三千餘圓、果物類一萬五千餘圓にして農業に依る年生産額百二十四萬三千餘圓に上る。畜産の内、畜牛は殆んど水牛にして五百四十餘頭あり、黄牛は僅かに十餘頭に過ぎず、専ら農耕等に使役せられ、豚三千七百餘頭、鶏一萬一千餘羽、鰻四千餘羽、鶯三千餘羽は主に農家に於て副業的に普く飼育せられ改良堆肥豚舎の普及に伴ひ、一面採肥上の利益と相俟つて農家經濟の有力なる一支柱をなす。工業は製糖業の外見るべきものなく、潭子に帝國製糖の工場あり、年に七百五十萬圓の砂糖を生産す。交通至便にして臺中線及び縱貫道路は中央部を南北に相貫行して貫通し、前者は大宇潭子に同名の驛を置き、後者は扇谷バ

スの便を有し、南は臺中、北は豊原に連絡す。此等の外各部落間には産業道路四通八達す。大字潭子は制度改正前潭子郷と稱し、庄の中央に位し、潭子驛附近に一の小市街を形成し、管内はもと總て極東上條に屬し、北隣豊原街(もとの湖邊)を中心として、平埔善農(裏)へ部族なるウホドブ(即ち岸裡(裏)社)の所屬に係り、雍正元年彰化地方の擧げたる粵人張萬振等が善人より獲得して開墾せし地なり。

亦これに沿ひ村内中央に丹莊驛(昭和六年設置)を置く。この地は和名抄、賀美郡中村郡の内なるべく、いま横竹・元阿保・八日市・關口・肥土・貫井・小濱(以上は丹ノ庄安保郡安保領に屬す)・四軒在・家・原新田(共に長輪郷丹ノ庄に屬す)・熊野堂(桂川庄に屬す)の舊十箇村を合し丹莊村をなす。江戸時代は幕領・知行所入り交りし地にして、大字元安保は安保郷の名の起りし所なれば元安保と稱するものなるべく、古は阿保・阿部・栗保にも作り、武蔵七黨の丹黨、安保氏の居りし所、東鑑に安保郡部安保光・安保五郎・阿保六郎等の名見え、また盛衰記・太平記にも安保次郎實國・同信濃守その他安保氏の名多く見ゆ。往時阿保原合戦のありし此地なるべく、阿保親王の住み給ひし地なりといふは根據なし。大字肥土は往古上野國群野郡に屬せしが、元祿十四年當國に屬せりといふ。

タンサ タンシ

タンシ

檀紙村

丹城面

道路通ずる外、主邑丹城を中心として道路四通し、山地を除いては交通比較的便なり。

タンス

丹城は南江右岸の丘陵上に位し、大正三年まで丹城郡の置かれし地にして、穀物・麻布等の取引は、西事務所・金庫組合等あり。同亭洞には階俗等址あり寺地に新羅時代の建立と傳ふる石塔ありて世に著る。

丹城は南江右岸の丘陵上に位し、大正三年まで丹城郡の置かれし地にして、穀物・麻布等の取引は、西事務所・金庫組合等あり。同亭洞には階俗等址あり寺地に新羅時代の建立と傳ふる石塔ありて世に著る。

上る。交通としては樺太街道が村の中央を東西より西北へと貫き、之と平行して名古屋鐵道樺太線が走り政田驛を置く。本村はもと大野郡に属し、和名抄の大野郡郡家郷の内にして政田は鎌倉頃は彈正庄と稱せられ其後室町時代は皆川時庄の中に属す。彈正とは大化新政以後に彈正を置かれし事ありてこの名を得たり。大字福島は舊名を兵東村と云ひ昔國郡の兵器を納置せし蔵のありし地なり。續日本後紀に「承和四年三月癸未美濃國言二月二十五日兵東自鳴至三月二十五日亦鳴如前」と見ゆ。

タンス

丹城は南江右岸の丘陵上に位し、大正三年まで丹城郡の置かれし地にして、穀物・麻布等の取引は、西事務所・金庫組合等あり。同亭洞には階俗等址あり寺地に新羅時代の建立と傳ふる石塔ありて世に著る。

丹城は南江右岸の丘陵上に位し、大正三年まで丹城郡の置かれし地にして、穀物・麻布等の取引は、西事務所・金庫組合等あり。同亭洞には階俗等址あり寺地に新羅時代の建立と傳ふる石塔ありて世に著る。

丹城は南江右岸の丘陵上に位し、大正三年まで丹城郡の置かれし地にして、穀物・麻布等の取引は、西事務所・金庫組合等あり。同亭洞には階俗等址あり寺地に新羅時代の建立と傳ふる石塔ありて世に著る。

タンス

丹城は南江右岸の丘陵上に位し、大正三年まで丹城郡の置かれし地にして、穀物・麻布等の取引は、西事務所・金庫組合等あり。同亭洞には階俗等址あり寺地に新羅時代の建立と傳ふる石塔ありて世に著る。

丹城は南江右岸の丘陵上に位し、大正三年まで丹城郡の置かれし地にして、穀物・麻布等の取引は、西事務所・金庫組合等あり。同亭洞には階俗等址あり寺地に新羅時代の建立と傳ふる石塔ありて世に著る。

丹城は南江右岸の丘陵上に位し、大正三年まで丹城郡の置かれし地にして、穀物・麻布等の取引は、西事務所・金庫組合等あり。同亭洞には階俗等址あり寺地に新羅時代の建立と傳ふる石塔ありて世に著る。

タンス

丹城は南江右岸の丘陵上に位し、大正三年まで丹城郡の置かれし地にして、穀物・麻布等の取引は、西事務所・金庫組合等あり。同亭洞には階俗等址あり寺地に新羅時代の建立と傳ふる石塔ありて世に著る。

丹城は南江右岸の丘陵上に位し、大正三年まで丹城郡の置かれし地にして、穀物・麻布等の取引は、西事務所・金庫組合等あり。同亭洞には階俗等址あり寺地に新羅時代の建立と傳ふる石塔ありて世に著る。

丹城は南江右岸の丘陵上に位し、大正三年まで丹城郡の置かれし地にして、穀物・麻布等の取引は、西事務所・金庫組合等あり。同亭洞には階俗等址あり寺地に新羅時代の建立と傳ふる石塔ありて世に著る。

丹城は南江右岸の丘陵上に位し、大正三年まで丹城郡の置かれし地にして、穀物・麻布等の取引は、西事務所・金庫組合等あり。同亭洞には階俗等址あり寺地に新羅時代の建立と傳ふる石塔ありて世に著る。

丹城は南江右岸の丘陵上に位し、大正三年まで丹城郡の置かれし地にして、穀物・麻布等の取引は、西事務所・金庫組合等あり。同亭洞には階俗等址あり寺地に新羅時代の建立と傳ふる石塔ありて世に著る。

丹城は南江右岸の丘陵上に位し、大正三年まで丹城郡の置かれし地にして、穀物・麻布等の取引は、西事務所・金庫組合等あり。同亭洞には階俗等址あり寺地に新羅時代の建立と傳ふる石塔ありて世に著る。

る。〔西陵古墳〕指定史蹟。前方後圓形、西北に面し左側に耳あり。環状現存して水を湛ふ。前後の直径約百二間、全墳松林にして礎石あり。後園上部の西南隅に石棺の蓋露出、南方中段に圓筒埴輪並列す。〔五十瓊敷入彦命宇度御墓〕東のニサンザイと稱し、村の中央に位す。命は垂仁天皇の皇子。御墓は蓮池と俗稱する。周濠を廻らせし前後約一六五米の前方後園墳にして、後園部附近に階級六基存す。〔阿豆良神社〕大字吾賀に鎮座。郷社。祭神天荒津彥命。垂仁天皇の御宇の創建と傳ふ。式内社。例祭八月十五日。〔船守神社〕村社。祭神紀船守・紀小弓宿禰・五十瓊敷入彦命。延喜十一年勅命を奉じ創立すと云ふ。本殿は三間社流造、屋根檜皮葺、千鳥破風及び軒唐破風を有し、繪棟彫刻富麗、慶長十四年豊臣秀頼の再建と傳へ同實。例祭十月十五日。〔淡輪遺蹟〕南海鐵道の經營に係り、和泉山脈を負ひ、紀淡の海を望み、各種の設備整ひ來遊者多し。面積一七アール。園内にて釣魚遊感に行はる。

タンハ 丹波

【丹波國】山陰道八箇國の一にして海無し國の一。この國の地はいゆる丹波高原の地にして一部の水は瀬戸内海に入るも大部分は北流して日本海に入る。いゝ、園内を南桑田・北桑田・船井・例祭・天田・多紀・水上の七郡に分ち、行政上多紀・水上の二郡は兵庫縣の管轄に入り他園内にて釣魚遊感に行はる。

方に傾斜する傾動地塊にて、この背面を安成川・船野川・能勢川・猪名川・羽東川・武庫川等が見事に南流し、その分水界は著しく北に偏し、山頂を越えて北より南に流る。西山地塊の南部もまたほぼ東西に走る斷層によつて切斷せられ、鳥取山(一二二米)の分離丘陵を形成し、この斷層線上に寶塚・有馬等の温泉湧出す。六甲山塊は東北―西南に走る數條の斷層によつて切斷され、東南に前面を有する傾動地塊にて、最高點の六甲山(九三二米)より西北に低下す。丹波高原は一般に古生層の粘板岩・頁岩・石灰岩等より成り、準平原化以來久しく風化作用を受け、豊富な土壌を生じ、高度も比較的大ならず、雨量は二〇〇〇トに及び樹木の成長に適し、保津川・由良川上流地帯には杉林多く、また湖沼樹林本は薪炭用として伐り出され、木炭を製す。龜岡・園部附近には古來有名なる丹波栗の産出があり、そのほか竹・松茸・蕨等の林産物多し。開けたる谷岸、緩傾斜の谷壁及び前記諸盆地は栗落の發達地となり、稻作の外に桑園としてよく利用され、農家は養蠶を行ひ鞍部・福知山を中心に製絲業盛んに行はる。これ等の生絲は、京都及び若狭海岸に於ける絹織物工業の材料となる。六甲山・谷川附近等の高原性山地にては、その平坦面を利用し冬季寒天及び凍豆腐が製造さる。

タンハ タンハ

の五郡は京都府の管轄に屬す。この國は古へ且波または四道將軍の丹波道主命の名によつて國名著はる。和銅六年北部の五郡を割いて丹波國を設く。園部はもと桑田郡に置きしが、その位置は今の船井郡富本村大字屋賀に當る。中世は九條家の所領たりしが、鎌倉時代の初め守護制度を布かざるや、土肥實平の守護となる。建武中興の時、源忠國園部となり、藤井守景守護たり。足利尊氏の叛するや仁本義尹この國の守護となる。正平年中、山名時代吉野朝廷に歸順し山陰地方を平定して本州をも鎮めしが、既にして假いて足利氏に降る。子氏清の時、明德の亂によりて誅せられ、足利義滿は部下の細川頼元を以て本州の守護とし、子孫相傳す。五世の孫政元に至り、嗣なく高國・澄元・澄之を養ひしが、彼等は互に争ひ内訌絶えず。然して最後に高國を討つてこの國を領す。次いで大永年中に至り波多野顯通は高國の命を奉ぜず八上(多紀郡)において自立し、漸次に附近を經略す。天正年間、織田信長はその臣明智光秀を遣はして八上を伐たしめ遂に波多野秀治を殺す。信長乃ち光秀を丹波に封じ龜山に居らしむ。天正十年光秀叛いて信長を殺し、己もまた間もなく殺され、その地は豊臣秀吉の養子秀勝の領となれり。秀勝は天田郡の福知山に居り、八上の地はこれを前田玄以に與ふ。文祿

年中秀勝没して嗣なきを以つて小野木公朝に與ふ。關ヶ原役後、徳川氏にこれを收めて福知山を有馬豊氏に、八上を松平康重に與ふ。康重は即ち八上を出でて福山に移る。爾後これ等の諸藩は領主の變動を承れしが、幕末には龜山(松平氏、五萬石)・園部(小出氏、二萬六千七百餘石)・山家(谷氏、一萬餘石)・船井(九鬼氏、一萬九千五百石)・福知山(朽木氏、三萬二千石)・熊山(青山氏、六萬石)・柏原(織田氏、二萬石)の七藩あり。明治の初め、龜山は伊勢に同名の藩あるためこれを兼けて龜岡と改む。明治四年七月これ等の藩は何れも縣となりしが、十一月には徳山・柏原・福知山三縣を廢し、丹後及び但馬の諸縣と共に豊岡縣の管下に入り、その他の四縣もまた廢されて京都府の管下に入る。ついで明治九年八月に至り豊岡縣の管下の天田郡を京都府の所管に歸し以て今日に至る。而して桑田郡は明治十三年五月分けて南桑田・北桑田二郡とし、昭和十二年福知山市天田郡より獨立し丹波國は一市七郡となる。

【丹波高地】中國山脈の東端にある開新高原にて、平均海拔六〇〇米の高原を有する京都及び兵庫縣・大阪市の北方にある高原地帯をいふ。丹波國を中心とするより此名あり。西は瀬戸内海に流れ入る加古川と若狭河に入る由良川、或は更に西方の市川と朝來川の結ぶ線により標高高地と地し、東南部は淀川地溝帯に限り

タンバイチ 丹波市町

【丹波竹田】福知山線の一驛(明治三十二年設置)。兵庫縣水上郡竹田村にあり。和國山邊郡の西部。笠置山脈の西麓と奈良盆地との漸移地帯を占め奈良市南境より約六軒隔つ。東部は笠置山脈西麓を占めて山地起伏し東南境には龍玉山(五八六米)あり。西部は奈良盆地平坦地の東部を占め、數條の大和川に注ぐ河川西流す。肥沃なる田畑多く米・麥を産しまた繭を出し特産には青栗あり。省檢櫻井線西部に通じ丹波市(明治三十一年設置)あり、社聯大阪電氣これに接続す。古くは石上と云ひ、和名抄に山邊郡石上郷と見ゆる地なり。安閑天皇の石上穴穂宮、仁賢天皇の石上廣宮のありし處。また有名なる石上神宮鎮座の地なり。石上浦・石上池など古史に見ゆるもの跡ながらず、萬葉・古今にも著はれ歌枕としても知らる。また西山古墳あり。中世は奈良より三里、初瀬より三里の合の宿といはれ、宿場町として賑ひ、今の標式的な街村聚落を形成す。近世山邊村と云ひしが明治二十六年町制施行の際現名に改む。丹波市の名はその昔この地に丹波國より甄子神社を勧請し、それと同時に市場を開き之を丹波市と呼びしに因むものにして、今もこの古市場跡に魚市場が開かる。而して現時の丹波市の發展は天理教總の所在地たるによる。大正十三年に人口約一萬なりしを昭和十年には二・四倍とな

れ、南北は瀬戸内海と日本海に臨む。岩石は主に古生層より成り、諸處に花崗岩・閃綠岩・石英粗面岩等の火成岩が分布す。地勢上凡そ省級山脈本線に沿ひ龜岡より舞鶴に至る地帯より以東には九〇〇米を超ゆる山が聳立するも、以西には全くこれを缺き、六甲山に例外を認むるにすぎず、八〇〇米を超ゆるものも僅に大江山あるのみ。東端を限る比良地帯は北・東の斷層により、琵琶湖面より約一〇〇〇米突出し、西側は安曇川と高野川とに沿ふ斷層により丹波高原内部と地す。丹波高原内部は東方にて海拔八〇〇米、西方にて海拔六〇〇米あり。即ち西方に背面を有する一大傾動地塊なり。この内を東西に走る數條の斷層があり、これに沿うて河川が發せし、東西の方向に流るべく盆地を生ず。例へば、由良川とその上流大野川が東西性流路を示し、船井・福知山盆地を生じ、加古川の流れる徳山川・山川が徳山盆地を生ずる如き、その主なるものなり。中國隆起準平原の邊縁と考へらるる保津川流域の山頂は著しく平坦性を現はし、準平原形成時代より成生せるその流路は著しく不規則となり、その分水界も不明瞭のもの多く、淺融谷も開けて盆地となるもの多し。例へば保津川と由良川の分水界中、中山峠・觀音峠・湖麻原等は高度二〇〇米内外に過ぎず。この兩側に須知・園部・龜岡等の盆地あり。西山地塊は北に前面を見せ、南

タンハ タンミ

指定史蹟。袖之内にあり。町の東方に當りて南北に連なせる丘陵の西側に築かれし古墳群の一にして、里俗御陵と呼ぶ。濠を環らせし前方後圓の大古墳にて全長約二〇〇米、高さ南方約一〇米、東西約二〇米に近く花崗岩の礫石を積層し、

タンハラ

丹原町 愛媛縣伊豫國周桑郡の北部。小松町の西方約四山。面積五・〇六方軒。高瀬半島頸部の山麓下に發達せる中山川その他の河川の沖積平野の一部を占め西隅に高取約五〇一〇〇米の山地あるのみにて全村平坦肥沃、耕地よく折れ農業頗る盛なり。西北には灌漑用の湖沼ありて耕作に便なり。米・蕎麥・蕎麥等の産物多し。市街は東南部にひらけ北方壬生川町に至る国道は二條ありバスを通じ、交通頗る便なり。町の人口三千六百餘、密度頗る稠密にして一方軒七二二人の多きに達す。もと新居郷今井氏の居住地たり。もと福岡村と稱せしが大正三年丹原町と改稱す。(福岡八幡神社) 大字今井に鎮座。郷社。祭神、玉依姫神・氣長足姫尊・豊田天皇。外に

タンビ

丹比村 鳥取縣因幡國八頭郡の東部。南は若狹・智頭二町に隣る。北隅には扇ノ山(二一〇米)聳え、その山脚南北に延び高さ七〇〇一八〇〇米の連峯をなし兩山地の間に峡谷を造り西南に於て急に低下す。南部にも高さ七〇〇米近き山岳聳え、その北麓を東南より西に流るる八東川の河岸に低下す。河岸流域は稍廣し沖積平地あり耕地を拓く。農業よく行はれ米作を第一とし蕎麥及びその他の農作物あり。山地はよく林産物を出だし又牧畜行はれ牛馬を飼育す。

タンヨ

丹陽 大分縣 丹陽郡の南端。一宮市の南端。地は濠尻平野の東部、木曾川が伊勢灣を埋めし沖積地に位す。五條川は東南を流れ、北部より青木川南流し、南端にて兩川は合流す。新設若用水は青木川に並行し之により田は灌漑せられ普く分布し、北部には畑・桑園多くなり宮市及び古原市への農産供給地をなす多角的に農業栽培行はる。大江用水は西端を北流し一宮方面に至る。村の西部は僅に岐阜街道南北に通じ、鐵道は東海道本線福津驛又は社線名古屋電氣驛根驛に近し。この地は和名抄、丹陽郡吾妻郷の地にして、大字吾妻はその遺蹟なり。本村は明治三十九年、九日市場村、二川村及び多加森村の大字嶺海道・多加木・森本・吾妻との區域を以て成れるもの。【丹陽郡】 朝鮮忠清北道の東北端。道管内十郡の一。西は堤川郡に、北は江原道に、東と南とは慶尙北道に隣す。東南の道界に花崗岩又は片麻岩より成る中山性の小白山脈連亘し大華山(二〇二七米)・固窟峰(一四三二米)・兜車峰(一三三四米)等を起し餘脈域内に重疊して平地に

タンヨ タンラ

タンビ

丹比村 大阪府河内國南河内郡の北部。藤井寺町の西南方約二軒。面積僅に三・七〇方軒。東南部に約一〇〇米程度の臺地狀の丘陵あるほかは地形平坦にして、所々に湖沼あり。農産物最も多く蕎麥を出し外に工業發達す。北部には東方古市町より西方堺市へ通ずる縣道走り古市町へバスの便あり。此地古くは和名抄、丹比郡丹生郷の内。中世多治比といふ。【丹比村】 廣島縣備後國高田郡の北部。吉田町・甲立町の西にあり。西は安藝國山縣郡壬生町に隣す。村の中央を西より東に可愛川支流流れてその流域に肥沃な平地を開く外は總て山地よりなり、坂城は高取五〇〇六〇〇米の山地聳立す。平地は耕作よく行はれ米・蕎麥を産す。川に沿うて村道東西に通じ吉田町に至る。また省線備後線吉田口驛(小田村)へは約一〇軒、バスの便あり。古くは丹比郷に作り、和名抄に高宮郡丹比郷あり、多無比と訓す。建武三年、本國寺造營の文書に、安藝國多治保と見え、毛利元就記に田志比三千貫の地と曰へり。大字組合は毛利氏の族相合氏の居りし處。

タンフ

炭釜面 朝鮮忠清北道報恩郡の東南部。報恩面の東南に隣る。北麓に俗離山の餘脈のびて二一三米を凌ぐ丘陵横ばり餘勢中央に及んで最高三六三米の丘陵峰より、南端には三升山の東肢連亘するも、中央丘陵の周邊に一四〇米程度のやや廣き平坦地横ばる。報恩川北より入り西端を割りて次で南部を東に流れ、俗離山に發する支谷を東南端に於て穿れ南流す。産物に米・蕎麥・棉等あり。道路は何れも等外路線にして交通便ならず。【タンフンコ】 淡文湖 臺灣總督府鐵道敷貫線の一驛(大正十一年設置)。新竹州竹南郡造橋庄淡文湖にあり。【タンホク】 丹北面 朝鮮慶尙北道義城郡の西部。西北には尙州郡に界す。地は東南より西北に長く面積二三方軒餘を占む。高さ五〇一八〇軒の丘阜數條東北より西南に並走するも其他は西北流して洛東江に入る渭川の造れる平地にして、水田・畑地よく折れ、米・蕎麥・大豆・烟草等を産し、特に棉作業を棉布の製産あり。義城・軍威間の桃李院より分岐し大邱・尙州間の洛東に連る三等道路南部を東西に貫きてバスを通じ交通不便ならず。【タンミツ】 丹密面 朝鮮慶尙北道義城郡西部の南端。西は洛東江によりて尙州郡と界し、南は善山郡に隣る。面積五三方餘軒。南部に萬景山(五二五米)、南嶺東部には莊子山(四二二米)あり、面内多くは丘陵性山地なるも東北には面境を西北に流るる洛東江の支流渭川流域の

タンヨ

乏し。漢江の上流は江原道より来り郡の中央を貫き竹嶺川・丹陽川等の支流を容れ、その沿岸に狭長なる平野あり地味肥沃、水利の便ありて米・蕎麥・大豆・粟・棉を始め大麻・烟草・蕎麥・莞草の産物多し。二等道路は忠州より来りて丹陽を過ぎ、竹嶺を越えて慶尙北道に通じ、丹陽より漢江に沿うて寧越(江原道)・堤川に何れも三等道路走り、忠州・堤川へはバスの往來あり、漢江の舟楫の便と相俟ちて交通不便ならず。行政上、七面に分ち、郡廳を丹陽面下坊里に置く。本郡はもと丹陽・永春の二郡より成り永春は永く江原道原州府に屬せしが李朝に五里兩郡とも忠州府管に歸し、大正三年郡廢合に際し永春郡の全部を合併して丹陽郡となる。丹陽は古く赤城縣・丹山府等と稱せし地にして、李朝憲親王に至り丹陽と稱せし。兵馬節度使を兼置す。其名は録丹陽陽の作態に因る。壬辰の役には僻陬の地たるを以て干戈を免れ、明治四十年日韓保護條約締結せらるるや義軍と稱する徒衆隨所に横行せり。【丹陽郡】 朝鮮忠清北道丹陽郡の西南部。全城小白山脈中に位し、中央に沙峰(八七九米)屹立し、東境には道樂山の岩峰あり北に延びて琴吟山(六七七米)を起す。山脚にして極めて平地に乏しく、漢江東北より来り、琴吟山・沙峰の裾を流うて西方堤川郡に入る。耕地は琴吟山斜面その他に僅かに拓ぐるのみにして農産に

タンヨ

乏し。忠州・發徳間二等道路北部に通じ、途中丹陽より三等道路東北漢江上流を廻り、一路は南して南接する慶尙北道開豊郡に入り、前者にはバスの便あり。又漢江に舟楫を通じて交通・運輸に資す。邑内附近の平地より米・大豆等を出し、又製紙業行はれ、北部の丹陽嶺山より水銀・雲母・マンゲステン等、西南部山中の香昌嶺山より銅・亜鉛・マンゲステンを出す。丹陽邑は漢江左岸に位し、郡廳・警察署・郵便所・金融組合・小學校等あり。奥地に於ける物産の一大集散地たり。【潭陽郡】 朝鮮全羅南道最北部の郡。道管内二府一島二十一郡の一。東は谷城郡、南は和順・光山の兩郡、西は長城郡に、北は全羅北道淳昌郡に各隣接す。面積四五二平方軒。北部には慶嶺山脈の支脈連亘して屏風山(八二二米)等あり、東南部には智異山脈の餘脈走りて無等山(一一八七米)等を起し一般に高峻なるも、西部には崇山江の一支原乘川ありて流域に潤ゆる潭陽平野を開き、地味肥沃、各種の農産に好適なり。耕地面積約一三〇〇〇ヘクタール、畜産も卓越し、米・蕎麥・大豆・棉等を産し何れも品質優良にして市場評價高し。副業には養蠶・吹製造産に、工業には胡布・麻布及び襪・竹編・笠類・扇子等の手工品最も著はれ、其他植物性脂肪油・綿絲・凍豆腐・穀粉等あり。光州・南原間二等道路を幹線とし、丹陽

チーチイ

チ

チ 智島 小野田(朝鮮全羅南道)

智島 智島(朝鮮全羅南道) 小野田(朝鮮全羅南道) 長野縣(信濃國)三市十六郡の一。北は上高井・

チアキ 千秋

千秋村 愛知縣尾張國丹羽郡の西部。一宮市の東方約四軒。濃尾平野の南東部に

チイ 知井村

知井村 京都府丹波國北添郡東北部の山村。北は福井縣越前郡知

チイ 智異山

智異山 朝鮮四名山の一。小白山脈中の最高峰にして慶尙南道の西部、

チウン 池雲面

池雲面 朝鮮平安南道龍岡郡の東部。龍岡面の東南に隣る。地形南

チエタ 千江田村

千江田村 群馬縣上野國邑樂郡の南部。曾根町の南方約四・五軒。

チカ 植賀村

植賀村 佐賀縣肥前國東松浦郡の西海岸。東松浦半島の西北岸を占め

五九四

流南江と雄津江の分水嶺をなす。高度に於ては白頭・漢拿の二火山に及ばざるも

チエフ 知恵文

知恵文 北海道天鹽國中川郡の南部。上川支廳管下。天鹽

チカ 植賀村

植賀村 佐賀縣肥前國東松浦郡の西海岸。東松浦半島の西北岸を占め

チイ チカ

山嶺の西南端にて河東・求禮・南原三郡の界上に峙つ。西南老姑壇への途中には高山

チイ 雄怡

雄怡 豊前國(福岡縣)の古地名。和名抄に田河郡雄怡郷あり、その地は今

チイミヤ 知井宮村

知井宮村 島根縣出雲國出雲郡の中部。神戶川の左岸。面積

チカ

チカ 値嘉

【値嘉】一に加賀島・値嘉島・知賀島・血...

チカガワ

浦部の平戸島にして、下近は即ち南松浦...

チカサキ

【チカサキ】茅ヶ崎町 神奈川県相模...

チカノ

須賀川町の南端。相模川に臨み相模川(馬...

チカミ

【チカミ】近見 愛媛縣越智郡にありし...

チカライシ

【チカライシ】力石村 長野縣信濃國...

チカフミ

【チカフミ】近文 北海道旭川市の町...

チキ

【チキ】地歸島 北海道室蘭市の...

チク

【チク】竹 朝鮮忠清北道丹陽郡と慶尙北道...

チクイ

【チクイ】竹園 臺灣總督府鐵道淡...

チクオ

【チクオ】竹旺面 朝鮮江原道...

チクゴ

【チクゴ】筑後 西海道十一箇國の一。九州島...

チカツ

チクコ

中世。祭神、味耜高彥根命。當祭神は大...

大字野中には比曾原王子城、龜橋王子城...

先、連綿二五・五河。光、連綿二五・五河...

那波水街にあり。チクオ 竹旺面 朝鮮江原道...

チクコ

となり國府は今の三井郡御井町の邊に置かれたり。筑紫國造登井も又附近に居りしものにして、此地は又筑紫國造の治所たり。鎌倉時代に草野永平守護となり、今の三井郡草野町の邊に居す。建武中興の時少貳頼朝國守となり守護を兼りしも足利尊氏の殺するに及びこれに屬す。正平年間に至り肥後の菊池武光勤王の軍を起し、征西將軍煥良親王を奉じて高良山に陣し、遂に國內を平定し成大いに振ふ。建徳年間足利義滿今川了俊を九州探題として派遣せし頃は征西府の威勢大いに衰へし際なりしため國內の諸族皆その麾下に屬せり。のち濠川藩鎮探題となるに及びその威漸く衰へ、國內の諸族もまた分立して統一するところなかりき。永祿七年に至り豊後の大友宗瑞大舉して侵入し全國を平定す。天正年間大友氏、島津義久と日向に戦ひて敗るゝに及び國人離叛し、一時は肥前の龍造寺氏に屬せしものち島津氏に征服せらるゝに至る。豊臣秀吉の九州を征服するや、この國北部の生業・竹野・御原の三郡を筑前の小早川隆景に與へ、立花宗茂を柳河に封じて山門・三池・下妻三郡を、毛利秀包を久留米に封じて三浦・山本・御井三郡を、筑紫廣門を福島に封じて上妻郡をそれぞれ與ふ。關ヶ原役後、これ等の諸將は皆封を奪はれ、田中吉政柳河に封を受けて全國を治めしも、元和六年その子忠政没して嗣なかりしを以て國除され、有馬豊氏を久留米に

封じ、立花宗茂に再び柳河を賜ふ。三池には立花家の支封があり、徳川時代の間以上の三藩領ありしも、三池は文化二年一且、陸奥(岩代國)の下手渡に移り、明治元年九月に至り、再び三池に復歸す。前記の三藩は明治四年に編となりしも、同年十一月にはこれを廢して三浦縣を久留米に置き、三浦縣を管す。明治九年八月に至り、三浦縣を廢してこれを福岡縣に併せ以て今日に至る。當國は古來十郡に分れたりしも、明治二十二年四月に久留米市が三浦郡より分立し、同二十九年四月には御井・御原・山本三郡を合して三井郡とし、上妻・下妻二郡を生業郡の一部を合して八女郡を置き、生業郡の大部分と竹野郡を合して浮羽郡となし、六郡となり、大正六年には大牟田市が三池郡より獨立し、二市六郡となつて今日に至る。

して有明海に入る。流程約一四一軒、舟楫の便のあるところは約九〇軒に及ぶ。筑紫盆地は筑球川の上流、河谷の彎曲部に沿ひて気狀に發達せる盆地なり。盆地底は海抜三百餘米の平坦地にして筑球川はこの中を曲流し、河流は次第に侵蝕力を回復して盆地底を一部段丘に化せしめつゝあり。盆地の南側は急傾斜をなし、傾斜地を登り詰めしところに熔岩のメサあり。北側は南側に比して傾斜緩漫にして求心狀に盆地を集る支谷多し。盆地を出でし筑球川は峡谷を作りて日田に向ふ。日田盆地は圓く安山岩熔岩地にて閉まれし陥窪地にして、盆地底の直徑は四キロ内外なり。盆地底は海抜一〇〇米、筑後川の上流三隈川と支流花月川との氾濫原たる平坦なる沖積平原廣く發達し、三隈川は多くの分流入り、網狀に融合して平野を造る。盆地の周囲には盆地底より高さ五〇一六〇米の段丘發達し、往時は湖なりしもの如し。盆地の開口部は漏斗狀をなし、その奥の狭場より下流三十一四キロの間は安山岩山地の間に深き峡谷を作る。筑後川上流地方は古來林業盛にして、盆地中の日田は製材業の中心地なり。これ等の製材は筑後川の水利により盛に下流地方に運搬さる。福岡縣浮羽郡山春村に入れば安山岩地帯を全く離れ沖積平野たる筑後平野に入り、全く下流部の相を呈して、汪洋たる曲流をなす。殊に三井郡大橋村・久留米市間及び久留米

市・三浦郡城島町間に於ては蛇行最も著し。河道彎曲の甚だしければ、その彎曲の頸部に於て侵蝕次第に著しくなり、終に彎曲部を放棄して河流は捷路を切り開くに至る。久留米市より下流部に於てはこの種の舊河道の示されたる部分多し、その多くは人工の加へられしものなり。筑後川附近は古來人工による運河・護岸工事の施されたるもの多く、中には慶長年間の開鑿にかゝるといふ三浦郡大川町若津港附近より佐賀市に至る佐賀江運河は延長一五軒に互り、現時土砂の埋没により、その大部分は淺くなりしも、尙ほ一部分はかなり大なる帆船の通行自在なり。河道の彎曲せるは上潮を永く停滞せしめんが爲めなりといふ。筑後川は最近十餘年計畫をもつて改修土木工事施されつゝあり、曲流部あるものはその頸部を切り開き新しき河道を作り堤防を完備して水害を未然に防ぎ努力が擧げられつゝあり。(筑後川の戦)吉野朝時代、正平十四年九州筑後平野に於て行はれたる官軍兩軍の大合戦。初め後醍醐天皇の皇子煥良親王、勤命に依りて征西大將軍として九州に下御、菊池武光の他の勤王豪族の力を併せて兩流・豐肥諸地の賊徒を鎮定し、官軍の勢威九州の全土を風靡す。然るに畠山直顯日向轉佐城によりて獨り官軍に抗せしめて、正平十三年十一月親王菊池武光をして之を征せしむ。これより先、大友氏時一旦官軍に歸順せし

三九四

が、武光の日向出征の慮に乗じ、遂に宇都宮安知・肥田正員等を誘ひ豊後高崎城に據りて叛旗を翻す。こゝに於て親王自ら兵を率ゐて高崎城を攻め、十四年武光の日向より凱旋するや、また命じて武時を討たしむ。この時に當り、京都にては尊氏既に殺し義詮の後を繼ぎしが、九州武家方の沈衰を憤し、密命を少貳・大友・島津の諸氏に致して勢力の恢復を圖らしむ。武時が高崎城に於て叛せしはこゝの爲にして、阿蘇惟村またこの機に乗じて叛起し、肥後小國に九箇所の城砦を設けて親王に武光の退路を斷ち、少貳頼朝は手兵六萬を率ゐて太宰府の居城を襲し、遂に武時と呼應して官軍を攻撃せんと企つ。こゝに於て親王は武時討滅の舉を一時中止し、軍容を整へ頼朝の大軍を遣軍せんため筑後川の平野に陣を布きて對峙すること旬餘。八月六日夜半に至りて敵の不意を襲ひ猛烈にこれを衝く。これ所謂筑後川の戦にして、合戦激烈勇壯を極め、親王自ら陣頭に立ちて奮戦し、武光等また突撃勇戦す、頼朝遂に支へ能はずして退走、太宰府に退きて寶満山を據守するの已むなきに至る。この日の戦に賊兵の死するもの三千二百人、官軍また一千八百人を失ふ。如何にその大激戦なりしかを知るべし。親王よりて敵を追撃せず、武光と共に兵を救めて肥後に歸城せらる。

【筑後大川】福岡縣浮羽郡大石村にあり。設置。福岡縣三浦郡大川町にあり。【筑後草野】福岡縣三井郡草野町にあり。【筑後千足】福岡縣久大本郡一(昭和六年設置)。福岡縣浮羽郡御井村にあり。【筑後柳河】福岡縣浮羽郡一(昭和六年設置)。福岡縣浮羽郡吉井町にあり。【筑後吉井】福岡縣久大本郡一(昭和三年設置)。福岡縣浮羽郡吉井町にあり。【竹谷面】朝鮮全羅南道谷城郡の略中央。郡邑谷城の南約一〇軒。東は順天郡に接し、北東は鎭津江を隔てて求禮郡に對す。東境に鳳頭山(七五三米)、南境に飛來山(六九一米)の聳立する外は著しき山峯なきも城内にして高く、僅かに鎭津江の支流寶城江の沿岸に河成段丘の平地を見るに過ぎず。産物に米・大麥・大豆・棉花・生牛・馬鈴薯・麻・紙等あり。光陽より來る二等道路は面の北東部を鎭津江に沿ひて北走し谷城邑に達す。其他は何れも等外路線にして未だ改修行はれず單なる地方的道路に過ぎず。

【千種川】兵庫縣播磨國宍粟郡の西北部。千種川上流を占むる山村。面積一〇五・五方軒の大村。四周山地を繞らし東北境に三室山(一三五八米)ありて山嶺北境を西方へ連り、約一二〇〇米前後の山地をなし、西北隅に江嶺峠(一〇九八米)あり。之より南方へ山嶺延びて西境を劃し、西南境には日名倉山(一〇四七米)あり。また東北隅の三室山より東境を南に延びる山脚は約一三〇〇米内外の高度を保つ。西北境に源流する千種川は中央を南方へ貫流し、沿岸河谷に小低地を開く。低地には田畑拓けて米・粟・蕎麥を産し、其他蔬菜及び花卉・食用農産物・果實・高麗芋等を産し、又鶏卵・製菓・豆物・菓製品を出す。中央河谷に村道通じ之と交又して東西に走る村道數多あれど交通なほ不便なり。

【千種川】兵庫縣西部に於て南流し瀬戸内海に注ぐ河。山崎・山陽の分水界をなす中國山脈の三室山(一三五八米)南西谷に發源し、斑岩・花崗岩等よりなる河内、池田盆地の水を集め、千草盆地に到れば河岸に水田多し。倉谷より下流久崎間は侵入曲流をなし、交互に河岸平野發達し、この間約二軒東をこれに平行して南流する志文川を坂田に於て合し、更に久崎に於て佐用川を併す。久崎より鞍馬川を合する上郡間に海抜四〇〇一五〇〇米の高原あり。上記の沿岸各所の平坦面に於ける草地は牧牛に利用せられ、中國地方牧牛地城の一部を構成す。上郡より年間は省線山陽本線の通過を定め、川口は赤穂町の東南部に開き、運搬せる土砂を堆積して赤穂三角洲を形成す。この三角洲は鹽田として利用せられ古來良質の赤穂鹽の生産地たり。流程約九〇軒。

チクコ

チクサ

千種

千草

千種村

チクサ チクセ

天宮命東國に麻袋を積み給ひしよりその名ありと。村名は此海濱が千瀬の濱とて歌の名所なるより起りしなるべし。君津郡大貫村小久保の邊も千瀬浦とよばるといふ。夫木・二五・さきまにほふ千くさの浦の潮風に吹はいろいろの浪もよせ来る定例。

チクサン 竹山

【竹山里】二竹面(朝鮮京畿道) 【竹山面】朝鮮全羅北道金堤郡の西南郡。郡邑金堤を距る西四軒、西は東津江の入江に臨む。金堤平野の一部を成し土地極めて低平にして中央に僅に五、一、米の孤立丘陵を見るに過ぎず。東津江の支流院坪川南面を貫流し、又東津水利組合の蒙利地域に属するを以て灌漑の利に富み農産多し。産物には米を第一とし棉花・大麥・粟等あり、また西瓜・白菜等の野菜を産し、近年養蠶も漸次隆盛に向ひつゝあり。鐵道湖南本線は東方五軒を通じ、金堤驛(金堤邑)ありて之より三等道路を通じ、兼合自動車の便あり。竹山里よりは更に北方萬頃邑に三等路線を岐つ。兼落は多く散村型にて集村様式のものに京新里・竹山里あるに過ぎず。

チクサン 竹斬溪

臺灣新竹州下を流る一河川。五指山方面の中部山地に發源し、西流して海に注ぐ。上流は二つに岐れ南なるを竹仔溪とし、北なるを油羅溪とす。此二流は合して竹斬溪となり更に分れて又合し、下流に於て一は舊港

チクシ 筑紫

北海道の石狩國兩龍郡秩父別村の大字。省線留本線の筑紫驛(明治四十三年設置あり)。

チクジョー 築上郡

九郡の一。豊前國の一部なるも、縣の東北端部に在り、英彦火山群の東北斜面を占む。西は京都府に接し、南と東は大分縣下毛郡、東北は同津市と界し、北は周防國に面す。面積二九八・六一方軒。南境には英彦山群に屬する犬ヶ岳(一一三一米)・經嶺岳(九九二米)・小尾ヶ嶽・鹿野山(八〇七米)・瓦岳(六二五米)・大平山(六六二米)等の山峯西より東方に連りて、この山地より北方へ連なる連嶺は次第に高さを減じて、その間に幾多の谷をつくる。中にも犬ヶ岳の北嶺は求菩提山(七八二米)・國見山(六三八米)等々起す。河川は皆南境の山地に發し北面の谷を流れて西南より東北方へ流れ周防灘に注ぐ。西部に城井川、東部に佐井川等あり。東境には山國川あり。山國川は南隣下毛郡の山地に發し謂ゆる耶馬溪谷を東北に流れ、郡の南境をなす英彦山群を切り北流し、郡の南境との間を流れて海に入る。海岸には沖積平野開け西北には行橋平野の東南部をなし東中津平野の西部を占む。行橋平野の洪積臺地の松の平地林に開墾されて梨・桃・栗の園藝農業地帯をなし、中津平野の洪積臺地は栽培地にて養蠶行はる。沿岸の肥沃なる沖

チクケン 筑前

【筑前國】西海道十一箇國の一。九州島の北部に在り。北より西へかけて支海嶽に臨み、地勢上左の三部に分つ。一は支海嶽に面する沿海の福岡市及び宗像・糟屋・筑紫・早良・糸島の五郡を含み、一は遺賈川の流域にて筑紫田の郡をなし、八幡・若松・戸畑・直方・飯塚の五市及び直方・鞍手・嘉穂の三郡を含み、一は有明海斜面の朝倉郡の三地方とす。國內を六市九郡に分ち福岡縣の管轄に屬す。この國は南隣の筑後國と共に往昔は筑紫または筑志國と稱し、支那・朝鮮諸國との交通の衝に當るを以て、古くより史上に現はれ、既に成務天皇の朝、筑志の國には大倭命五世の孫田道命を國造に任命す。またこの國の一部の國(また那國、奴國ともいふ)の如きは風に支那と交通して、後漢の光武帝より封冊を受けしことあり。仲哀天皇の熊襲を征し給ひし時には、この國の郡日宮に在し給ひ、繼體天皇の御代には國造磐井が韓土に通じて報し、物部血風火のために討平さる。

積低地は福下第一の瀬戸内型谷頭湖漕漕の地方にて、豊前・小倉・鹿野を多産す。北岸周防灘海岸に近く日向街道走り之より數多の村道分れ多くは西南方の谷地に走る。省線日豊本線また日向街道に平行し、筑城・椎田・松江・宇島の諸驛を設く。本郡は明治二十九年筑城郡と上毛郡とを合併して建てしもの。

チクシ 筑紫

北海道の石狩國兩龍郡秩父別村の大字。省線留本線の筑紫驛(明治四十三年設置あり)。

チクジョー 築上郡

九郡の一。豊前國の一部なるも、縣の東北端部に在り、英彦火山群の東北斜面を占む。西は京都府に接し、南と東は大分縣下毛郡、東北は同津市と界し、北は周防國に面す。面積二九八・六一方軒。南境には英彦山群に屬する犬ヶ岳(一一三一米)・經嶺岳(九九二米)・小尾ヶ嶽・鹿野山(八〇七米)・瓦岳(六二五米)・大平山(六六二米)等の山峯西より東方に連りて、この山地より北方へ連なる連嶺は次第に高さを減じて、その間に幾多の谷をつくる。中にも犬ヶ岳の北嶺は求菩提山(七八二米)・國見山(六三八米)等々起す。河川は皆南境の山地に發し北面の谷を流れて西南より東北方へ流れ周防灘に注ぐ。西部に城井川、東部に佐井川等あり。東境には山國川あり。山國川は南隣下毛郡の山地に發し謂ゆる耶馬溪谷を東北に流れ、郡の南境をなす英彦山群を切り北流し、郡の南境との間を流れて海に入る。海岸には沖積平野開け西北には行橋平野の東南部をなし東中津平野の西部を占む。行橋平野の洪積臺地の松の平地林に開墾されて梨・桃・栗の園藝農業地帯をなし、中津平野の洪積臺地は栽培地にて養蠶行はる。沿岸の肥沃なる沖

省線と連帶運輸をなす。 【筑前植木】省線筑本線の一驛(明治二十六年設置。福岡縣鞍手郡植木町にあり。 【筑前内野】省線筑本線の一驛(昭和三年設置。福岡縣嘉穂郡内野村にあり。 【筑前新宮】省線鹿兒島本線の一驛(大正九年設置。福岡縣粕谷郡和白村にあり。 【筑前中山】省線筑本線の貨物驛(大正八年設置。福岡縣鞍手郡新宮村にあり。 【筑前宮田】省線筑本線の支、宮田線の一驛。もと樹野線の樹野驛(明治三十五年設置)と稱せしが、昭和十二年八月樹野線は宮田線と改稱、同時に樹野驛も筑前宮田驛と改稱さる。 【筑前山家】省線筑本線の一驛(昭和四年設置。福岡縣筑紫郡山家村にあり。 【筑前山野】省線生線の一驛(明治三十五年設置)。福岡縣嘉穂郡新宮村にあり。 【筑前山家】省線筑本線の一驛(昭和四年設置。福岡縣筑紫郡山家村にあり。 【筑前山野】省線生線の一驛(明治三十五年設置)。福岡縣嘉穂郡新宮村にあり。

チクチョー 竹長面

朝鮮慶尙北道日耶の西北端。最近舊竹北面と竹南面とを合して竹長と改稱す。其の疆域郡中第一の廣大なる地積を占め、北境に大白山脈に屬する九岩山(八〇七米)、東境に香嶺(九三〇米)を聳て互に相對峙し城内山地相連なり低地に乏し。従つて耕地は多くは丘陵面及び山地の緩斜面を利用開墾せるものなり。河川は何れも淡流にして灌漑の利乏しく水田極めて少なし。産物は大豆を第一とし大麥・陸稻・煙草・紙・木炭等あり、また牛馬金雞・甘谷金山ありて金・銀を出す。兼落は多く散村形態を成す。立岩里は面政の中心にして警察官駐在所あり、陰曆三・八の日に開く市場あれども邊境なるを以て取引額極めて少なし。東北部に玉溪の景勝あり、慶州金剛と稱せらる。

チクトー 竹東

【竹東郡】臺灣新竹州一市八郡中の一。州の中央部に在り、新竹市の東方に西北より東南に延びたる不正矩形をなす。地勢高燥、行政區域内の大部分は丘陵性山地をなし、善地は謂ゆる次高山地の北方に當る爲め、高峰峻嶺重疊として連り、東北境にナセ山・李連山・マッコラン山・シッキョウ山、東南境に桃山、西南境に大頭尖山・鹿場大山・碧公尖山・鳥嘴山、大窩山、郡下行政地域の境に五指山・尖筆山・外横屏山・夢樹仁山、善界の内郡に向天湖山・油屋山・マイバライ山、シヤカロ大山・キノコイ山等あり。河川は以上の諸山中に源を發し、油屋溪・上坪溪は相合して頭前溪となり、西北流して西北方平野を貫流し、新竹郡舊港庄に於て海に注ぐ。月眉溪は行政區域の南方山手北埔・峨眉兩庄を西南流して西南隣竹南郡に入り中海溪に注ぐ。尙寮湖風指の大河たる淡水河は郡の東南隅大頭尖山北麓より出で、北流して大溪郡に入る。以上諸河川の内、頭前溪・月眉溪は郡下には水於ける主要なるものにして、平時量豊富ならず、沿岸に於ける灌漑にも動

チクセ チクト

建久七年武藏義親代つて大宰少貳に任じてより子孫世襲して御笠郡の内山城に居り少貳氏と號す。文永・弘安の役、蒙古の來寇を禦りしは主としてこの國にして、資頼の子資能は子資義・資表と共に諸軍を督してこれに討つて功あり。伏見天皇の永仁年間には備西探題を置き、府を博多に置き、北條氏代々これに任ず。建武中興の時、少貳資表の子資能は肥後の菊池武時と共に探題北條時を滅す。足利尊氏の假きて九州へ下るや直隸の子頼尙はこれに應じ、この國の守護となる。正平年間に至り、菊池武光は征西將軍宮嶺良親王を奉じてこの國に來り、頼尙を破りて大宰府に入り博多に領して成大いに振へり。建徳二年足利義滿の時今川貞世(了俊)を探題に任じ菊池氏を討たしむ。文中年間に至り大宰府を陥れしを以て武光は親王を奉じて肥後へ逃く。貞世はのち罷められて濠洲滿願寺に代り肥前の餘部城に居し、大内義弘大宰大貳となる。大内氏は守護代としてその臣岡氏を博多に派し以て少貳氏に對立せしむ。ここに於て大内氏は濠洲氏と結び、少貳氏は大友氏と結びて相争ひしも、大内義興の時一時この國を征服す。大内氏の亡びし後、毛利氏が大内氏に代り大友氏と角逐す。この時筑紫・原田・秋月及び宗像宮の宮司等國內の諸族各一方に割據して相争ひしも、大友氏遂に全國を併せ、立花城に立花宗茂を置く。天正十四年薩摩

もすれば不足を來す状態なるも、一朝豪雨に際會せんか、亂流せる數條の小流は一時に水勢を増し、人命財產を脅威すること少からず。總督府に於ては、前年治水工事を計劃し、八箇年繼續事業として昭和十一年末より着手し、多年の懸案解決を見て地方民始めて生業に安んずるを得るに至れり。産業は従來地勢に阻害せられ、遅々として進歩せざりしも最近交通の發達及び河川治水工事の進歩其他各種施設の整備に伴ひ、農林業のみならず、地下資源の開發と共に工業の進展日覺ましく、之に附隨して商工業亦甚だ活況を呈するに至れり。管内は丘陵傾斜地に富み、農耕地は地勢上如多く、水田は諸川の流域に展開するに過ぎず。然れども地勢上甚だ變化に富むを以て、却つて特産物の生産を促し、米・甘藷等の普通作物の外、茶・柑類等の果物類及び竹類の特産物を出すを以て知らるゝに至れり。農業に依る年生産額四百三十二萬圓を超え、米・甘藷・茶・甘蔗・黄麻・苧麻・落花生に、柑類・バナナ・蔬菜等を列す。果物類は他に龍眼・柿・番石榴・鳳梨・李等あり。就中茶及び柑類は地勢・氣候等の天恵的要素に恵まれ、栽培旺盛を極め、何れも地名の竹東を冠して内外に聲價を博し、前者は栽培方法に階段茶園を實施し、製造の機械化によりて品質の向上を圖り、烏龍茶最も多く紅茶之に次ぎ、包種茶は極めて多し。蠶業は豊富な野桑、茶作農家の餘

剩力、茶室の利用等の好條件を具備し、且つ氣候上養蠶好適地として注目せられ内地の蠶業者は蠶繭製造の有望性に着目し、早春期蠶繭増殖を管内に實施して好成績を挙げたる爲め、州の蠶業獎勵區域に編入せられ、やがて本格的の農家副業たらんとす。畜産として水牛・黄牛は専ら農耕及び運搬に使役せられ、豚・鶏其他の家畜は農家の副業として普く飼育せられ、管内の需要を充たすのみならず、近年臺北・新竹方面の市場に搬出せらるゝもの多く年生産額七十八萬圓に上り、畜に次ぐ地位を占め、所謂立體的農業經營の重要要素をなす。林業に於ては、管内總面積の約八割を占むる廣大なる林野面積を擁し、林産額年々十三萬餘圓の多額に上り、楠・檫、其他の有用材及び相思樹等の薪炭材、竹材を産出、而かも未開發に係る地場大山等の樹材其他は殆ど無遺蘊にして、千古なほ斧鋸を入れざる密林をなす。工業は絹糸・製茶の外、煉瓦及び瓦製造・製紙・製木・製糖・製油・製糖、其他の小工場點をなすも規模概れ小きく、精米及び製茶は農家の發達に伴ひ、大規模の工場施設せらるゝに至れり。蠶業は尙開發の途上あり。従つて現在生産として見るべきもの動きも、石油・天然瓦斯・石灰・珪砂等の重要資源を極めて豊富に包蔵し、總て臺灣鐵業株式會社竹東油業所によりて經營せられ、將來郡下に於ける最も重要な産業として發展すべく期待せらる。交通の發達は従來地勢上の障害によりて甚だ不振の狀態なりしが、最近山地の開發・産業の進展と交通運輸機關の發達に伴ひ、既成道路の擴張改修或は新設道路の開闢延長を著しく促進し今後數年を出でずして整備せられんとするに至れり。路線の主要なるものは竹東・新竹間の指定道路、北隣新竹郡湖西庄より郡下横山庄・竹東街・北埔庄・峨眉庄を経て竹東郡に入る所謂山手鐵道道路及び井上温泉(善地)に連する井上道路等にして、他に産業道路網の完成の域に向ひ、州廳所在地新竹市は勿論、近接各部を連絡す。乗合自動車は未だ普及を見ざるも將來大に發達する趨勢あり。軌道(手押臺車)は重要な交通機關として重きをなし、殊に自動車の運行不能なる地方即ち北埔街・竹東方面にありて運輸に多大の貢獻をなす。

【竹東街】臺灣新竹州竹東郡の中央部。頭前溪左岸に沿ひて東北より西南に延びたる狭長帯をなす。地勢高燥にして海拔六〇米を超え、到處丘陵起伏して相連り、水田は河川流域に開け、畑は傾斜地に拓かる。産業は農業を第一とし、竹東の市街地を除けば隨所に農村部落が點在す。年生産五十七萬七千餘圓の米を農産の大宗とし、柑類は特産物として知らる。畜産は水牛・黄牛・豚・鶏を主要なるものとす。山林は廣葉杉・竹其他の混生造林行はれ成績見るべきものあり。蠶業と

しては具藤子の石油礦即ち所謂竹東油田注目せられ、臺灣鐵業の竹東油業所によりて經營せらる。天然瓦斯の噴出豊富なり。工業中最も主要なるものは製茶にして機械設備の大小工場施設せられ、甚だ盛況を呈す。道路は市街を中心として近接諸庄との間に開け、乗合自動車の發達は未だ遅々たるも、主要道路には軌道(手押臺車)の便を有す。管内はもと總て竹東一帯に包含せられ、往時は一帯の山林茂生し、山藪の鹿場により鹿、猪の乾肉三十年代以來漢族により鹿々閉塞を企てられしも、善害其他の事情によつて悉く失敗に歸し、道光二十年代に及びて漸く開墾に成功せり。道光の末年頃上公館・下公館・員線子附近は製蠶業を以て開かれ、同治元年に至り雄獅溝を初め附近の諸部落建設せられ、遂に運れて光緒十一年尖筆山麓の上坪開かれたり。然れども當時の中心地は西北の巧林庄巧林(もと九巧林と稱す)にして、竹東市街の前身たる樹杞林は僅に農業の要風たりしに過ぎず、附近一帯の樹林は樹杞なる樹種に富めるより地名出で、又樹杞なる一樹種に富めるを以て樹杞聚る地名を併存せり。同治元年に至り、九巧林が水害によりて衰頹に傾くや代りて發達し、現市街の基礎となれり。明治二十八年帝國領臺以來數次行政上の變遷を経て大正九年に至り、地方制度の根本的大改正と共に清領時代より存續し來りし條は廢せられ、本庄は

十四大字(もと樹杞林の外、竹東庄と稱す)を一括し、新竹の東方に位置するに因みて樹杞林を竹東と改稱し、竹東庄となりて新竹州竹東郡に編入せられしが昭和八年十二月二十日街に昇格せり。(五福山)竹東街の南方一〇軒、大字上坪をなし、海拔一〇六〇米餘、特異なる形貌をなす、五時に分れて霧を、恰かも五指の如き形狀をなすによりて山名出づ。頂上は峻峻なるも、山腹は緩かにして、觀音禪寺あり。風に文人墨客の間に知られ、古人は田單渡海と稱し、之を全漢八景の一に數へたり。昭和三年、山腹に吉野櫻を移植し、幽邃清潤なる上坪溪の流れを控へ、眺望絶佳なる仙境にして、臺灣十二勝の一たり。

【竹南郡】臺灣新竹州一市八郡中の一。州の西南部に在り、西に臺灣海峡に面す。東境に雙公山・鳥嘴山・大高山・鹿場大山、南境に加裡山等の何れも千五百米以上の高山、北境に橫山・獅頭山等爲めに東部一帯は山岳重疊、起伏連互し漸次西方に緩傾斜して丘陵地となり、西部海岸帯に平野を展開し、此の一帯には水田相連り、鹿場大山に源を發する中港溪は中部を、南隣大湖郡及び苗栗郡山地より發する後龍溪・大湖溪は西南部を貫流す。海岸線は中港・後龍兩河口の他屈曲に乏しく、且つ沿海低地連綿にして、兩河口に往時天々同名の池を有し相當繁昌せしことありしも、現時は土砂の堆積により殆んど港灣たるの形質を失ひ、後龍港即ち今の公司寮に僅に小型或克船の出入を見るに過ぎず。氣候溫和に

して風土病殆どなく、氣温は一年を通じて、最高七月下旬一八月下旬、最低一月中旬一二月下旬にして二・三の兩月には雨期、六・七・八・九の四箇月は驟雨期、七月下旬一九月下旬の間に暴風雨の襲來多し。又十月より翌年三月までの間は、北東季節風期に屬し、海岸地方は飛砂散塵を極む。産業は農業を根幹とし、其他之に附随すれども地勢高燥なる臺地、傾斜地に富み、廣闊なる平原に乏しきのみならず、屬土層の發達せる酸性の瘠薄地多く、加ふるに、冬期の季節風は海岸地帯に於ける農作の障害となること少からざる短所あり。農業に依る年生産額四百五十萬圓を超え、その内米三百二十六萬餘圓、甘藷五十四萬餘圓、甘蔗四十四萬餘圓、蔬菜類二十五萬餘圓、粗製茶十五萬餘圓、果物類六萬餘圓、落花生四萬餘圓、其他七萬餘圓なり。尙果物類は柑類類及び西瓜を主要なるものとし、就中西瓜は新興の意氣物多く、主に後龍・竹南二庄海岸の砂地に於て栽培せられ、質量共に斷然他地方産を抑へ、毎年六・七・八の三箇月間全島市場を調歩し、殊に臺北中央卸賣市場に於ける西瓜は竹南西瓜を以て獨占する盛況なり。尙特筆すべき鹿麻の栽培にして農業蠶繭の一端として全農家之が栽培をなさざるなし。畜産の主なるものは牛(黄牛・水牛)・豚・家畜類(鶏・鴨)にして山羊之に次ぎ、一般農家に於て普く飼育せられ、總生産額三百萬圓を突破

せんとす。水産業は漁業を主とするも、專業者甚だ少く、且つ智識及び資力の程度極めて低き爲め餘り振はず、年生産額十萬圓程度なり。林業に於ては廣大なる林野面積を擁し、南庄管内の一部及び善地の固有林野に對しては昭和四年より農業實施せられ、固有林の合理的經營に着手し、民有林に對しては民行造林の指導獎勵に依り逐年薪炭材の産額増加するのみならず、建築其他諸用材に適する廣葉杉の造林面積亦逐年擴大し、又種範林の設置せらるゝ等林業の進歩發達見るべきものあり。林産物は行政地域内に於ては相思樹其他の雜木及び竹材、善地に於ては扁柏・紅檜・楠・赤皮・楠・烏心石・竹類を主とし、薪炭・建築用材其他諸用材として利用せられ、外に蘆草・龍眼實・月桃・棕桐皮等の副産物を産出し、年生産額は用材十四萬餘圓、木炭六萬圓、薪八萬圓、竹材一萬圓なり。海岸地方に於ては防湖・防砂・漁附造林並に耕地防風林の造成實行せられ好成績を挙げ、養蠶業は原蠶種増殖事業によりて異常なる發達をなし、今や各種主要産業と共に特殊産業として其の重要性を加ふるに至り、竹南庄に臺灣總督府蠶業所出張所を設ける。蠶産は石油及び石炭の二種にして、石油蠶産は造橋庄錦水にあり、日本石油株式會社の經營に属し、廣大なる面積を擁し、甚だ有望視せられ、目下大規模に試掘中にして未だ原油の噴出を見ざるも

【竹塘庄】臺灣臺中州北平郡の西南部。濁水溪下流の北岸。北は二林庄に、東は溪州庄に、西は大城庄に各隣接し、南は濁水溪を距て、臺南州虎尾郡に相對す。濁水溪による沖積地に於て土地低平なるも雨季には濁水溪の大氾濫ありてその害を被ること多く、その沿岸には近年防水堤完成し田圃を水害より確保す。土壤は砂質の地多く埤圳による用水もあるも、未だ灌漑の便よろしからず。農耕地の畑地は田地に比し遙に多し。産業は農業を根幹とし他業はこれに附伴するの觀を呈す。農産物は水稲・甘蔗・落花生・甘藷等を栽培し、養蠶・養蠶等も亦頗る盛にして、農家副業の主要部を爲

【竹南郡】臺灣新竹州一市八郡中の一。州の西南部に在り、西に臺灣海峡に面す。東境に雙公山・鳥嘴山・大高山・鹿場大山、南境に加裡山等の何れも千五百米以上の高山、北境に橫山・獅頭山等爲めに東部一帯は山岳重疊、起伏連互し漸次西方に緩傾斜して丘陵地となり、西部海岸帯に平野を展開し、此の一帯には水田相連り、鹿場大山に源を發する中港溪は中部を、南隣大湖郡及び苗栗郡山地より發する後龍溪・大湖溪は西南部を貫流す。海岸線は中港・後龍兩河口の他屈曲に乏しく、且つ沿海低地連綿にして、兩河口に往時天々同名の池を有し相當繁昌せしことありしも、現時は土砂の堆積により殆んど港灣たるの形質を失ひ、後龍港即ち今の公司寮に僅に小型或克船の出入を見るに過ぎず。氣候溫和に

【竹東街】臺灣新竹州竹東郡の中央部。頭前溪左岸に沿ひて東北より西南に延びたる狭長帯をなす。地勢高燥にして海拔六〇米を超え、到處丘陵起伏して相連り、水田は河川流域に開け、畑は傾斜地に拓かる。産業は農業を第一とし、竹東の市街地を除けば隨所に農村部落が點在す。年生産五十七萬七千餘圓の米を農産の大宗とし、柑類は特産物として知らる。畜産は水牛・黄牛・豚・鶏を主要なるものとす。山林は廣葉杉・竹其他の混生造林行はれ成績見るべきものあり。蠶業と

しては具藤子の石油礦即ち所謂竹東油田注目せられ、臺灣鐵業の竹東油業所によりて經營せらる。天然瓦斯の噴出豊富なり。工業中最も主要なるものは製茶にして機械設備の大小工場施設せられ、甚だ盛況を呈す。道路は市街を中心として近接諸庄との間に開け、乗合自動車の發達は未だ遅々たるも、主要道路には軌道(手押臺車)の便を有す。管内はもと總て竹東一帯に包含せられ、往時は一帯の山林茂生し、山藪の鹿場により鹿、猪の乾肉三十年代以來漢族により鹿々閉塞を企てられしも、善害其他の事情によつて悉く失敗に歸し、道光二十年代に及びて漸く開墾に成功せり。道光の末年頃上公館・下公館・員線子附近は製蠶業を以て開かれ、同治元年に至り雄獅溝を初め附近の諸部落建設せられ、遂に運れて光緒十一年尖筆山麓の上坪開かれたり。然れども當時の中心地は西北の巧林庄巧林(もと九巧林と稱す)にして、竹東市街の前身たる樹杞林は僅に農業の要風たりしに過ぎず、附近一帯の樹林は樹杞なる樹種に富めるより地名出で、又樹杞なる一樹種に富めるを以て樹杞聚る地名を併存せり。同治元年に至り、九巧林が水害によりて衰頹に傾くや代りて發達し、現市街の基礎となれり。明治二十八年帝國領臺以來數次行政上の變遷を経て大正九年に至り、地方制度の根本的大改正と共に清領時代より存續し來りし條は廢せられ、本庄は

チクナ——チクフ

多量の天然瓦斯を噴出し、之よりガソリン及びカーボンアークを採取す。石炭は東部山地南庄及び三河庄方面の領域より採掘せられ、産業道路の完成と共に著しく活況を呈し來り。工業の主要なるものは製糖・製粉・製茶・製紙・製糖・精米・竹細工製造等にして製糖は帝國製糖の竹南工場に於て行はれ、製粉は世界的重要な商品として國內のみならず、外國市場にも輸出せられ、製糖の擴張、品質の改善に努力しつゝあるも未だ生産高僅少にして年産十一萬五千餘圓程度に過ぎず、竹細工製造と共に家内工業たるの域を脱するに至らず。其他は概ね規模小にして見るべきもの少く、製紙は二萬五千餘圓を生産するのみ。

【竹南庄】臺灣新竹州竹南郡の西北端。中港溪河口地方北流城にあり、西は臺灣海峡に面す。中央部及び南部は平坦にして竹南平原を形成し、北東部は高原をなして其の東端より一派の小丘陵起伏し西に走りて海に没す。其の丘陵中の最高部を尖筆山と稱し海拔一〇六米。河津は南端の中港溪の外に数條の小流あり、平野を灌漑す。海岸線は中港溪口を除けば出入に乏しく、沿海亦遠淺にして、中港(海口港)あるも戎克船及び漁船を容るゝに足る程度にして良港ならず、その他港灣として見るべきものなく、崎頂及び竹南の二海水浴場を有す。農業者歴例的多數にして、農業に依る年生産額百三十萬圓

に達し、主要農産物は米・甘藷・甘藷・落花生・西瓜・蔬菜等なり。畜産の内、畜牛は黄牛及び水牛を主とし、前者は五百頭、後者は百五十頭を算し、専ら運搬及び農耕に使役せらるゝも、近來畜産組合に於て肉牛の生産を企圖し、畜産界に一新生面を開かん。山羊百餘頭、豚五千餘頭、鶏一萬六千羽、鴨三千五百羽、鵞二千餘羽にして一般農家に於て普く飼育せらる。尙近時産業及び國防上より産馬熱高まり崎頂には之が牧場設置せられ馬産中心地たらんとす。林業として舉ぐべきは地勢及び氣象の關係上地方に即したる防風・防砂・養魚を目的とする造林及び耕地防風林の造成にして、殆ど完成の域に達し、海岸全線に亘り木麻黄・相思樹其他の美林連りて實に産業・衛生上に裨益する所大なるのみならず、風致上に於ても極めて注目し得ず。海岸線は延長十餘里に達し、古來より漁業行はれ、鰯・鰯・小鰻等の漁獲物あり、年生産二萬圓程度にして庄に漁業組合設立せられ、新築發展の爲め積極的活動をなす。金融機關として竹南に臺灣商工銀行支店及び建築信用購買利用組合、中港に信用購買買取利用組合を有し、此等は産業經濟開發に貢献する所頗る多し。工業は製糖第一とし、帝國製糖の竹南製糖所あり、其他竹木製品・燻硝・煉瓦・石灰・製氷・精米・落花生油・麵粉等の小工場あるも規模概ね大ならず。以上の外、帽子編業普く行はれ、婦女子

の家庭副業として甚だ重きをなす。鐵道建設は中央部を縱貫し崎頂・竹南の二驛(前者は昭和三年、後者は明治三十五年設置)を設け、竹南驛より臺中線を分岐す。鐵道道路は大埔・公館子二大字の東端部を通過するに過ぎざるも、管内に産業道路・保甲道路網完成し、交通運輸のみならず、産業開發上裨益する所多し。當地方の開発は主として、より上陸せる移民の力に依れるものにして、清の雍正九年本島貿易港として開きし、湖沙干滿の差大にて良港ならず、僅に小型戎克船の來りて貿易せしに止まり、爾後中港溪の堆砂作用により、港底漸次埋没せられ、海灣としての價値殆ど失はる。崎頂は海水浴場として知られ、又牧場及び州立農業講習所あり。管内はもと總て竹南一區に包含せられ、其の開拓は中港の南方海岸より始まり、即ち清の乾隆元年張微揚なる者彰化地方(臺中州)より來り、平地著より地を購得し、海口・公館子等を開く。夫いで同五年閩人翁・張・林の三姓は支那泉州府の惠安・晉江・安溪・南安・同安等の民を招き、土蕃と雜居して開墾に從ひ、同二十年には既に一大部落をなし、同三十年代の頃には鹽館前及べり。此の頃中港市街附近も亦北隣香山地方より南進せる閩の漳州府漳浦人許山河等十餘戸三十人によりて開かれ、乾隆の末年には閩人洪盛・林主・吳郭蘇・朱英水等の合衆によりて口公館成り、之と前後して閩

三元宮

人羣繁盛なるもの尖筆山西なる崎頂の一部を開き、夫いで嘉慶・道光に亘り、林・王・陳・施・吳等の各姓によりて海岸一帯開墾せられしも、屢風浪のため地形を變じ、殊に咸豐年間俄に一派の大砂丘を現出し、ために既成の人家・田圃の過半は埋没せりといふ。明治二十八年帝國領臺以來、徵次行政上の變遷を経、大正九年十月に至り、地方制度の根本的大改正と共に清領時代より存続し來りし堡は廢せられ、本庄は九大字(もと中港を街、他は何れも庄と稱す)を一括し、新竹の南方に位するに因み、三角店を竹南と改稱し、竹南庄となりて新竹州竹南郡に編入せられたり。【北白川宮尖筆山司命所】大埔字中大埔にあり。明治二十八年八月九日能久親王此の地點に御到建、茲に丘陵地帯掃蕩の目的を完成せらる。【中港御舍營所】中港に現存す。明治二十八年八月九日、能久親王此の地に御着、陳汝厚の宅を以て御舍營所と定め、十二日まで四日間御清淨遊ばさる。

チクフ 竹生村 臺灣新竹州東港

井郡の西部、東は虎嶺村、北は連水村、朝日村に界し、西は琵琶湖に面し、又湖上六軒の西に在る竹生島をも村域に入る。全村湖岸平野上に在り、東部に於ける海拔九七米を最高とし、漸次湖岸に向ひ低下し八六米に及ぶ。西岸の中央に砂嘴半島狀に突出し其尖端より湖岸に平行して砂堤點々と連り、半島の南北に不完全なる内

湖を抱く。産業は農を主とし水産を副とし米・藪・生絲の産多し。上古の條里制は北端六條より南端十條まで、東端十五里より西端二十里まで整然と區劃され其遺影は明かに道路溝渠等に認めらる。平安朝の益田郷の地にて之は砂質の低地を意味する砂田に起源を發し、いま大字に益田の地名を存す。中世には八木莊・宮田莊に屬し山門領なりしならん。のち六角氏・後井氏の所領を経て江戸時代には彦根藩・膳所藩・郡山藩・桐倉藩・旗本領等に分割されしが、世々當地竹生島との關係深く、島への渡航起點たる早崎は最近湖上航路の開かるゝまで、竹生島の門前町として榮えたり。明治五年區制施行の際には第十三區に入り、十二年に至り富田村十ヶ村の戸長役場が富田に設けられ、二十二年町村制實施と共に竹生村となる。(觀音堂)大字の制に在り。口碑によれば崇徳太子が弓削大連の居地に伽藍を建立し蒲願寺と名づけ自ら聖觀世音の像を彫刻し給ふと云ふ。建長中火災に罹り一山島有に歸し聖觀世音を護すのみならず、元和三年代官日下部善介舊地に堂宇を建立せしもの今の觀音堂なり。本尊聖觀世音は後世修理を加へしも古き形式を存し國寶たり。(竹生島)本村早崎より六軒、伊香郡葛尾崎より三軒に在り。花園岩より成り最高點一九八米(水面より一二米)、周囲約二軒、面積〇・一四方軒、海岸は斷崖層をなし

チクヘ——チクホ

琵琶湖陥没の際の殘跡たるを想はしむ、老松古杉鬱蒼たる間に寶嚴寺と縣社都久夫須麻神社あり。寶嚴寺は日本三辨財天の一竹生島辨財天及觀音の別當寺にて觀音堂は西國第三十番の札所たり。縣社都久夫麻神社は後井氏命を祀り俗に竹生島明神と稱す。兩者共室町時代以後荒廢せしを慶長七年豊臣秀頼、片桐且元を奉行に任じ伏見城の遺構を移し改修せしめ、桃山時代の建築の粹を集め皆國寶たり。寶物前に所藏する經卷三卷像相本一幅、普賢十羅刹女圖一幅等十點も國寶に指定さる。太湖汽船大津長濱線・湖東汽船彦根竹生島航路にて本島に到るを得。【竹邊灣】朝鮮江原道の東南岸にある灣。龍淵岬を東角とする一小灣にして、水深三尋前後の良地なり。灣首の砂濱に近く竹邊里あり。龍淵岬は内地山脈より海方に漸次傾斜して成れる臺形地の東端にして、此處に竹邊灣燈臺(明治四十三年設置)あり、燈質は四白光、毎二〇秒に一閃光を發し、光達一九哩。

チクホー 筑豊

【筑豊炭田】福岡縣下に於ける我國最大の炭田。筑前・筑後兩郡に跨り、遠賀川本支流洪滿地を最重要地とし、遠賀・綾手・嘉穂・田川の四郡に達す。南北延長約五五軒、東西幅約一五軒乃至二五軒、廣さ凡そ七九〇平方軒に達す。(地質)地質層は第三紀古層に屬し、砂岩・頁岩・凝灰砂石・礫岩等より成り、上・中下三統に大別せられ、上部は蘆屋層、中部は大辻層、下部は直方層と呼ぶ。直方層は三池及び高崎の赤崎層と同じく晚新期と考へられ、大辻層及び蘆屋層は始新期乃至漸新期に屬すと思はる。即ち蘆屋層の上層と推定し得る佐世保炭田の日子累層中、嘗て下部漸新期所屬の陸原化石發見さる。直方層は夾炭層の主要部を占め、鞍手・嘉穂・田川の三郡にわたりにて廣く發達し、蘆屋と大辻との兩層は炭田の北部遠賀川下流に分布著し。以上の第三紀層地には安山岩・玄武岩が貫入し、炭層のこれに接する部分に熱作用を興へ、石灰を偏石化せし部分あり。基盤は花崗岩や閃綠岩等の古期火成岩及び中古生層水成岩なり。(炭層)上部夾炭層、下部夾炭層に分れ、下部層所屬のものは、質優良にして厚きも、一部理化し謂はゆる「松岩」を夾むこと多し。下部夾炭層は炭田の主要部に、上石群・竹谷群・本層群・大畑群の四に分たる。上石群の主層炭層は田川地方の伊國八尺層や嘉穂地方にては、三井山野の小船層、尺ナシ、鴨生五尺炭層等なり。この層群は炭田の中央部にあり、上より山脈・七ヶ、スイタ・カンカン、三尺、吳石、三枚、尺ナツ・上黒、下黒、五尺、下石、鬼石の十三層あり。これ等の炭層中にて、最も良質主要なるものは三尺、四尺、五尺を主體とす。(炭質)暗褐色乃至黒色を帯びたる低炭源青炭にして、ガス分に富み、發

三元宮

熱量七千カロリー、粘結性を有し煉炭製造に適し、汽機及びガス發生の燃料に適當す。また田川の熱作用によりて偏石化せしものは田川・嘉穂兩地方によく、石灰煉用とし或は散炭の代用にす。(炭坑)本炭田中檢行炭山約一一〇、そのうち昭和十一年度五〇萬噸以上を産せるもの次の如し。大之浦(一五〇萬噸)・三井田川(一三七萬噸)・二瀬(一〇七萬噸)・船田(七七萬噸)・三井山野(七二萬噸)・中鶴(七四萬噸)・飯塚(五九萬噸)・豊國(五一萬噸)。大之浦は三池に亞ぎて本邦第二位、田川は更に夕張に亞ぎて第四位を占む。この外忠限・方城・新入・赤池・大辻・日尾等も著名の炭坑なり。(運輸)本炭田を運輸し、多數の支線を各炭坑に分つ社線小倉鐵道は炭田東部と小倉市を結ぶ。筑豊線が産炭の大部分を若松・戸畑兩港に運び、外に一部は八幡・門司、小倉等に送られて、北九州の工業地帯の最も主なる動力を成す。(聚落)炭田地帯は直方・飯塚兩市を始め、多數の町村帯に分布し、人口の密度一方軒當り四〇〇乃至五〇〇人に達し、人口及び聚落の分布最も緻密なる部分に屬す。【筑豊本線】省線筑豊線の幹線。福岡縣筑豊炭田を縱貫す。若松市の若松驛より直方市・飯塚市を経て筑紫郡筑紫村の若原驛島本線原田驛に至る六六・一軒を主線とし、遠賀郡中間町の中間驛より同町中鶴驛に至る〇・九軒、同中間驛より

チクホー チクヤ

榎手郡小竹町の筑前中山線に至る五・九軒、榎手郡小竹町の小竹線より同町新多野線に至る三・一軒、同小竹線より同町豊頭線に至る二・三軒、飯塚市の豊田線より同市の豊田炭坑線に至る〇・七軒、同市の飯塚線より飯塚郡穂波村の忠限線に至る〇・五軒、高穂郡桂川村の長尾線より同村豆田線に至る〇・四軒の各貨物線を分岐す。

【筑豊線】省線の一。九州北部の筑豊炭田地方に通過。筑豊本線・津生線・香月線・伊田線・宮田線・宇袋線・上山田線の總稱。

【筑豊炭業線】社線。福岡県の北部、筑豊炭田地方にあり。遠賀郡香月町の省線香月線の香月線より南方の榎手郡本屋瀬町の野面線に至る三・八軒。大正四年開通。軌間一・〇六七米、省線と連帯運輸。

チクマ

佐久平の南部に發して北流し、佐久平の水を集め西北に向ひ上田盆地に入りてその水を加へ更に善光寺平に入りて軍川を合流してなほ千曲川の名を維持し、信越國境を過ぎて信濃川となる。千曲川と軍川との合流點は謂はゆる川中島にて甲越二軍の激戦場として著る。千曲川の上流・中流は謂はゆる千曲川斷層線に沿うて流路をとる。佐久平・上田盆地・善光寺平を貫流してこれ等の盆地床及びそれと連絡する隘谷には耕地・交通線・都邑よく發達し、北信地方と稱する地理區を形成す。

成す。舟運は善光寺平にて江戸時代に行はれしが、鐵道開通後は殆ど廢せらる。チクマ 竹麻村 福岡縣伊豆國賀茂郡の南部。手石川の下流を占め南は太平洋に臨む。手石川西より來り村の南半を北より南に貫流して海に入る。其沿岸には廣き平地あり。而して東北及び西の一部には高さ一〇〇—二〇〇米の山嶺連なり南及び西の殘部は平地開く。村民の大部は農業に従事し、一部は漁業に従事す。米・蕎麥・石花菜・石決明・繭・蜜蝋・かぢめ・たかべ等を産す。東方下田町へ約四軒バスの便あり。古くは和名抄、賀茂郡月間郷の内とす。また月間明神永正六年上梁文に賀茂郡諸谷郷、手石濱村と見ゆ。手石・濱とも今大字名に現れば、中世は諸谷郷の内に入りしもの。村名は村内領座式内竹麻郷社に因むといふ。大字邊は延寶六年檢地帳に添村とあり。傳ふるところには津は大字手石・青市と共に手石村と稱せしが、萬治二年三村に分れて添村と稱すと。蓋しも地名の大港とて此地方に於ける良港なりしに依る。大字青市は萬治二年名寄御番谷村に作る。神風抄に諸谷郷、東鑑に諸谷御所とあるは皆この地とす。蓋し古は伊勢外宮の神領たり青市とは諸谷郷の小地名にして現に村社三島神社應永七年の上梁文に諸谷郷青市村とあり。然るに今は却て諸谷が青市の小地名となる。青市の名は陸奥神社の祭神大市比賣命の名に依ると。(手石の編

多を産し、養蠶も行はる。秋刀魚の漁獲多く、町は漁港としても知らる。縣道は海岸沿ひに南走するもの、及びこれと分れて西岸岸山北條町(約一〇軒)に至るものありてバスの便あり。省線房総西線は後者に沿ひ町の北端を掠め、北隣健田村の千倉驛(大正十年設置)に近し。この地は江戸時代は、長尾藩本多氏の領有たり。明治二十二年町制施行の際に嶺村と稱し、同三十六年町制を布き、縣内にアサヒと稱する町村多く置、錯誤を生ずるにより、大正五年千倉町と改稱せり。縣下有数の漁業地なり。附近は海水浴場として知らる。(千倉温泉)食鹽性鹽類泉、加熱浴用、神經痛・胃腸病に効果ありと。

チコク 池谷面 朝鮮慶尙南道咸陽郡の略中央部。郡邑咸陽面に北隣す。西中部は小白山脈の掛冠山(二二五米)東嶺の山地にして西境上にて一一一〇米を示し、一脈は西北境上に延びてその先端は武夷山(四六九米)となり、他の一脈は西境上を南に連りて南端に白岩山(六二二米)を起す。これらの山地は東側に比較的急傾斜をなし、東境を南流する南江との間に馬鞍山(五〇八米)及びその南部にある丘陵との間に狭き低地を挟み、これと南江と岸の低地に畜田よく拓け、米・麥・豆・棉・大麻等の農産あり、養蠶もたはる。咸陽・居昌を繋ぐ二等道路は東南部を横ぎりてバスを通過す。

三五五

陀の岩屋)指定天然記念物。大字手石字彌陀山にあり。集塊岩中の斷層に沿うて生ぜし波蝕洞窟にて古く世に知られ、構南端の東端部にも見ゆ。洞は屈曲して暗黒なるも内部に入れば前面の岩壁に突然三個の佛像の如き影現はれ、金色輝然たり、入洞者はこれを彌陀三尊の出現として禮拜す。蓋しこの影現は正面岩壁の左方に斷層に沿うて生じたる洞穴と稱する別の洞穴ありて、夫より入りたる光線が横手より斜に、凸凹ある正面の岩壁を射るため、その光線の當りし部分と影の部分との交錯状態により佛像類似の幻影を現はすものなり。

チクマ 乳熊 伊勢國(三重縣)の古地名。和名抄に飯野郡乳熊郷あり。地は凡そ今の飯野郡和村に當る。チクマチ 筑摩地村 長野縣信濃國東筑摩郡の南部。豊尻町の南に接し、北は上伊那郡小野村に、東は岡谷市及び諏訪郡川岸村に界す。西部に霧山(一三〇五米)、東部に高尾山(一〇〇八米)聳立し東部はなだらかに、西部は稍急にいづれも村内に傾斜し幅狭き谷を作る。粟作は此の谷合の南部稍廣き部分に密集し、養蠶農業をなす。省線中央本線及び三州街道谷沿ひに南北に貫通し、隣村小野村に小野驛を置く。慶尻町へは善知鳥峠を越えバスの便あり。縣社小野神社あり健御名方を祀り、松本城主の崇敬社たり。俗に大社大明神といふ。九月一日例祭を執行す。

チクミ 千酌村 島根縣出雲國八束郡の北海岸。島根半島の東部を占め、北は日本海に面す。村内は概ね高さ二〇〇—三〇〇米の丘陵をなし北に傾斜して海に迫る。西南隅に稍廣き砂濱地及び平地ひらけ、外は急崖をなし海岸は出入に當む。漁業・養蠶業を主業とし柔魚・鮎・鰻等の鮮魚並に繭を主産物とす。また水炭・竹及び天草等の海産を出産す。古くは千酌郷に作り、和名抄に島根郡千酌郷と見ゆ。郷城は今の野波村をも含みしものならん。出雲風土記に千酌驛あり、延喜式には千酌驛馬五疋とあり。古く陸奥に渡る要津たり。(爾佐神社)大字千酌に須磨。郷社。祭神、都久津美尊・伊弉諾尊・伊弉冉命外相殿二神。式内社。

チクヤ 竹矢村 島根縣出雲國八束郡の東部。中流に面し北は馬淵川を隔て、朝泊村に、西は松江市に對す。面積六・二八方軒。西南部に高さ一七一米の茶臼山小丘陵ある外は全村平坦肥沃なる耕地をなし、東部に馬淵川流る。物産は米・麥・蔬菜の農作物を第一とし中海に出漁して水産業盛に、ことに白魚の産多し。東南より西北にかけて山陰街道通馬淵川(竹矢瀬戸)大橋川に平行して松江市に至る。省線山陰本線は海岸をまわりて西走し馬淵(明治四十二年設置)・馬淵池(昭和五年設置)の二驛を置く。大橋川を

チサト 千里

【千里村】福島縣岩代國耶麻郡の東南部。猪苗代湖の北岸に沿ひ、面積七・七一平方軒。磐梯山の南麓に當り、東境を長瀬川南流し猪苗代湖に注ぎ、全村概ねその沖積平野にして多く米を産す。省線磐越西線は猪苗代驛(明治三十二年設置)あり。驛より北方猪苗代町へは約一・五軒なり。村内にある猪苗代湖みすけ郡落は指定天然記念物たり。※猪苗代湖【千里村】富山縣越中郡婦負郡の中部。北は富川村、東は井田川を境に宮川村、北は保内村、西は音川村に接す。面積四・九六方軒。西部に高度二百米足らずの丘陵ある外土地平坦にして水利の便よく田地多し。農業を主産業とし、米を多産す。縣道及び省線高山本線は南北に貫通し、後者に千里驛(昭和二年設置)あり。大字大坪森田に古義賢音宗常樂寺あり。寺寶中、木造十一面觀音立像一軀及び同型觀音立像一軀はいづれも弘仁期の作に係り國寶。

【千里村】大阪府攝津國三島郡の西南部。吹田町の北に隣接す。面積六・七六平方軒。大部分は臺地狀の丘陵をなし南部に大阪平野北部の沖積低地開く。田畑よく拓け米・麥を産するも農業者は全人口の三分の一にして三分二は俸給生活者にて大阪近郊村落の特色を呈す。地に千里山あり、一に稜山といひ亂形の丘陵なり、古歌に「つれて行く稜山も知らず白鳥のさきの世もうき身のちきりかな」とあり、今は文化住宅地となり、また關西大渠(大正十一年建設)及び千里山放牧所あり。大字佐井寺に式内伊弉奈大神社御座。字名その神宮寺なりといふ佐井寺の名に因む。(千里山放牧所)大字片山にあり。大阪中央放牧場の放牧所、鐵筋コンクリート平家建てに總面積約一〇五八方米、外に木造平家建て四棟總面積三七八方米の舍宅を有し、空中電力一〇キロワット、使用電流長四〇〇米。

チサト 千郷村 愛知縣三河國南設樂郡の南端。新城町の西に隣り、豊川の右岸に沿ふ。西北境に本宮山(七三九米)ありてその山麓北境に沿ひて走り、その山裾は東南に延びて村の大部は傾斜地をなすも、豊川沿岸に低平なる沖積平野ありて耕地よく拓く。丘陵面には桑園よく拓けて繭の産出も多く、米麥の産これに次ぐ。また副業的に行はるる養蠶業相當見るべきものあり。社線豊川鐵道豊川に沿ひて東北走し、村内に野田城(昭和七年設置)を置く。城址あり、野田城、或は根古屋城ともいふ。永正年中菅沼貞則の築造。定應の時天正元年武田信玄來り攻む。定應急を徳川家康に告げその援軍の將松平忠正とこれを守りしが敵に水道を絶たれて遂に降る。

チサト 智里村 長野縣信濃國下伊那郡の西部。三河街道に沿ひ、阿知川の

チクラ チサト

千倉町 千葉縣安房國安房郡の南部。東は太平洋に面す。町の大部分は丘陵地にて森林あり。東部海岸附近にのみ平地ありて田地・畑地をなす。米・

チサン——チシマ

一支流を源流す。北は清内路村、南は浪合村に、東は會地、西は和南村に隣り、西は木曾山脈により西北は西筑摩郡に、西南は岐阜縣惠那郡に界す。面積七九・二八平方...

宗。俗に月見堂の名を以て著聞す。大同年間、傳教大師東巡の跡、神坂峠(伊那と惠那との境)の險に於て諸人通行の難儀を救はん爲め峠の兩麓に廣孫・廣濟の兩院を建立、當寺はその廣濟院の遺跡なりと。地は觀月に適し古來文人墨客の訪る者多し。

水村に、下知識は米ノ津町(もと中出水村)に入る。知識氏當代の居住地なり。チシキノ 父木野村 廣島縣備後國石郡の西南端。中央部に高さ六六五米の山岳聳立し、又南端には約六〇〇米に近き山岳ありて一般に土地高く低地少し。山腹を階段状に開拓して農耕を営み、米・麥・蕎麥の産あり。山地よりは林産物を出す外、牧牛も行はる。農表・花菱・麥得眞田等の工産もあり。北方油木町、南方新市町へバスを通ず。高蓋・木津和・光末・光信の四村と組合村をなし父木野に役場を置く。

チシマ 千島 我國領土の東北端部に位置する火山列島。東經一四五度四分一五〇度五分、北緯四三度三分一五〇度五分間に列り、北海道本島の東北端より東北の方向に雁行排列をなして進み、カムチャツカ半島の南端に達する飛石狀の列島なり。これを大別して南千島・北千島に分け擇捉島と得撫島との間に介する擇捉海峡とその境界線とす。更に近來、主として交通・産業上より、擇捉島と得撫島との間にある擇捉海峡、温羅古丹島と得撫島を分つ温羅古丹海峡により南千島・中千島・北千島の三區にも分つ。主なる島は色丹・國後・擇捉(以上南千島)、得撫・知里保以・武骨嶺・新知・計吐・夷・宇志和・羅處和・松輪・壘城・雷古計・拾子古丹・越清留磨・温羅古丹・磨勘留(以上

チサン 智山面 朝鮮全羅南道珍島郡の主島珍島の西端。東南は地峽によつて臨海面に接し、他の三面は海を繞らす。西方海上に長島ほか數島の屬島を有す。智力山(三二五米)峰々中央に屹立し、西部には石積墓山(二二四米)・登時山など峨々たる山骨を露ぼし特色ある景観を呈す。産物は棉を特産とし、粟・大豆・大麥等を産し、殊に棉花は南部の觀馬里・松木里・松浦里に多産し、品質亦優良なり。海産物には食鹽・石首魚・鯛・鰯・海藻等あり。地帯道に位置するを以て道路の改修未だ充分ならず。海上は東北端の素浦里は比較的良港にして貨物吞吐の關門を成す。

チシマ 千島 我國領土の東北端部に位置する火山列島。東經一四五度四分一五〇度五分、北緯四三度三分一五〇度五分間に列り、北海道本島の東北端より東北の方向に雁行排列をなして進み、カムチャツカ半島の南端に達する飛石狀の列島なり。これを大別して南千島・北千島に分け擇捉島と得撫島との間に介する擇捉海峡とその境界線とす。更に近來、主として交通・産業上より、擇捉島と得撫島との間にある擇捉海峡、温羅古丹島と得撫島を分つ温羅古丹海峡により南千島・中千島・北千島の三區にも分つ。主なる島は色丹・國後・擇捉(以上南千島)、得撫・知里保以・武骨嶺・新知・計吐・夷・宇志和・羅處和・松輪・壘城・雷古計・拾子古丹・越清留磨・温羅古丹・磨勘留(以上

チシマ 千島 我國領土の東北端部に位置する火山列島。東經一四五度四分一五〇度五分、北緯四三度三分一五〇度五分間に列り、北海道本島の東北端より東北の方向に雁行排列をなして進み、カムチャツカ半島の南端に達する飛石狀の列島なり。これを大別して南千島・北千島に分け擇捉島と得撫島との間に介する擇捉海峡とその境界線とす。更に近來、主として交通・産業上より、擇捉島と得撫島との間にある擇捉海峡、温羅古丹島と得撫島を分つ温羅古丹海峡により南千島・中千島・北千島の三區にも分つ。主なる島は色丹・國後・擇捉(以上南千島)、得撫・知里保以・武骨嶺・新知・計吐・夷・宇志和・羅處和・松輪・壘城・雷古計・拾子古丹・越清留磨・温羅古丹・磨勘留(以上

部、軍寇河、北に樞邊島の村上海、柏原灣あるのみ、ただ新古丹灣のみは天然の良港にして千島第一の港と云はる。湖沼は既記のカムチャツカ湖の外、國後島の東佛湖・二木城湖、擇捉島の年瀬湖、得撫島の床丹湖、樞邊島の未別湖、要田湖、占守島の別所湖等を主なるものとす。國後島の如く樞邊・蝦夷松の産あるは例外にして、中千島・北千島にては高山植物が海岸まで降下し、灌木、若しくは雜草の生育するに過ぎず。従つて薪炭材にすら困難する状態なり。好況時代に硫黄の採掘行はれし以外に硫黄もなく、牧馬は南千島に行はるゝも農耕は望みなし。列島の東側には親潮南下し、西側には暖流北上し、濃霧の襲來と瀬戸の急潮の障礙あるに拘はらず、漁業は唯一の産業となり、南千島にては昆布・帆立貝・鮫・大群・鰺、一般には鮭・鱒・ヤマメ等の漁獲あり、中千島・北千島にては、蠶・鹿・鹿・鹿・鹿・鹿・鹿等は現時禁猟区に入るも、農林省の養蠶事業を經營する島あり。定住者は少數にて殆ど南千島に限らるゝも、五一九月の漁期には多數の入漁者の見らるゝことと、北千島の樞邊島には二等無線電信局が大正八年に設置され、占守島には明治二十六年郡司大尉等十三名が北洋領土警戒と土地開發の目的を以て來島せしこと等は注目し、行政上は根室支廳の管轄に屬し、北海道廳命令航路には擇捉島蕨取を終點とする國後色丹線及び擇捉島

チシマ——チシマ

チシマ 千島 我國領土の東北端部に位置する火山列島。東經一四五度四分一五〇度五分、北緯四三度三分一五〇度五分間に列り、北海道本島の東北端より東北の方向に雁行排列をなして進み、カムチャツカ半島の南端に達する飛石狀の列島なり。これを大別して南千島・北千島に分け擇捉島と得撫島との間に介する擇捉海峡とその境界線とす。更に近來、主として交通・産業上より、擇捉島と得撫島との間にある擇捉海峡、温羅古丹島と得撫島を分つ温羅古丹海峡により南千島・中千島・北千島の三區にも分つ。主なる島は色丹・國後・擇捉(以上南千島)、得撫・知里保以・武骨嶺・新知・計吐・夷・宇志和・羅處和・松輪・壘城・雷古計・拾子古丹・越清留磨・温羅古丹・磨勘留(以上

チシマ 千島 我國領土の東北端部に位置する火山列島。東經一四五度四分一五〇度五分、北緯四三度三分一五〇度五分間に列り、北海道本島の東北端より東北の方向に雁行排列をなして進み、カムチャツカ半島の南端に達する飛石狀の列島なり。これを大別して南千島・北千島に分け擇捉島と得撫島との間に介する擇捉海峡とその境界線とす。更に近來、主として交通・産業上より、擇捉島と得撫島との間にある擇捉海峡、温羅古丹島と得撫島を分つ温羅古丹海峡により南千島・中千島・北千島の三區にも分つ。主なる島は色丹・國後・擇捉(以上南千島)、得撫・知里保以・武骨嶺・新知・計吐・夷・宇志和・羅處和・松輪・壘城・雷古計・拾子古丹・越清留磨・温羅古丹・磨勘留(以上

チシマ 千島 我國領土の東北端部に位置する火山列島。東經一四五度四分一五〇度五分、北緯四三度三分一五〇度五分間に列り、北海道本島の東北端より東北の方向に雁行排列をなして進み、カムチャツカ半島の南端に達する飛石狀の列島なり。これを大別して南千島・北千島に分け擇捉島と得撫島との間に介する擇捉海峡とその境界線とす。更に近來、主として交通・産業上より、擇捉島と得撫島との間にある擇捉海峡、温羅古丹島と得撫島を分つ温羅古丹海峡により南千島・中千島・北千島の三區にも分つ。主なる島は色丹・國後・擇捉(以上南千島)、得撫・知里保以・武骨嶺・新知・計吐・夷・宇志和・羅處和・松輪・壘城・雷古計・拾子古丹・越清留磨・温羅古丹・磨勘留(以上

山帯は一方カムチャツカ半島内部に達し、他方北海道本島に上陸して多くの火山群を形作る。延長約一四〇〇軒。火山は極めて新鮮なるコニエテにて、多くの活火山を見る。千島火山帯に属する主なる火山群は千島列島にては阿頼度・温羅古丹・新知・得撫・擇捉・國後・火山群とす。阿頼度火山群は阿頼度・古守・得撫・志林規の四島がこれに属し、阿頼度火山は二三三九米のコニエテ活火山、古守は約一〇〇米の熔岩地、得撫島の白根山は一三四五米のコニエテ活火山にてこの外に覚川山(一〇五二米)・千倉山(一八一五米)の活火山、及び後藤岳(一七七二米)あり。温羅古丹火山群は摩訶留島・温羅古丹島等これに属す。摩訶留島は一六九米の開折火山、温羅古丹島は阿頼湖のカムテラと黒石山(一三三二米)のトロイテ火山及び根茂山(一〇二二〇米)の活火山あり。春古丹島には一二一三米のコニエテ火山・越湯湯岳(一一七一米)のコニエテ火山あり。知林古丹島には七四二米のコニエテ、槍子古丹島には二つのコニエテ開折火山あり。新知火山群は雷公計より新知島に至る火山群にて、雷公計は五五二米のコニエテ活火山、松島には芙蓉山(一四八五米)・天蓋山(一一七米)のコニエテあり、温羅和島には櫻茶登(九五六米)のコニエテ火山、宇志知島には葛田湖の沈水カムテラあり、計吐島には一一七二米のコニエテ

活火山及び日標山コニエテあり。なほ新知島にはムロトン湖の沈水カムテラと三日月山(六七八米)・新知富士(一三六〇米)のコニエテ、末廣嶽(六四四米)の小トロイテ、緑湖のカムテラ、新知嶽(一五二八米)の活火山及び焼山(八九九米)等あり。得撫火山群は得撫島・知理保島(南島・北島)・武島嶺島これに属す。武島嶺島は八〇〇米のコニエテ、知理保島北島に破火山(六二四米)・大崩山等があり、南島は七五二米のアスピトロイテあり。得撫島は白旗(一三三〇米)・岩尾(一四三〇米)・得撫活土(一三二九米)・大平山等のコニエテ、トロイテより成る。擇捉火山群は擇捉島には神威岳(一三〇九米)・蕨寄山の活火山、チヌシロ(一五七九米)・クワリツアの活火山、草冠山(一六二二米)・阿登嶽・佐登嶽・ベリキベリ活火山及び新清洲のカムテラ等發達す。國後火山群は、國後島の茶々登(一八七二米)・レイ岳・羅日(八二二米)・泊山の四つのコニエテ火山よりなり、羅日山は活火山なり。これより西南は北海道の知床半島より上陸し、知床阿寒火山群・然別火山群・十勝火山群等を形づく。

【千島海峡】 千島列島最北端と露領カムチャツカとの間の海峡。北緯五〇度五七分、東經一五六度三分の位置にあり。【チシロ 千塚村】 千葉縣下總國千葉郡の南部。千葉市の東隣。全村丘陵地に承けて明治維新に至る。明治四年藩は一且斷となりしも間もなく廢せられて小倉縣に入る。【チヌカ 千塚村】 山梨縣甲斐國西山梨郡の西南部。甲府市の西北に隣接す。面積二・四一方キロ。甲府盆地の北端に當り、土地平坦にして水田多し。米を主産し、次いで蕎麥・粟の産額も多し。甲府市へは縣道を通じバスの便あり、省線中央本線の甲府駅を去ること約六軒あり。本村の大字區は武田氏の一族、鹽部氏の出で地にして、大字千塚には加本郡あり。(加本郡)一に金塚に作る。湯村地蔵山の山腹よりその附近にかけて多くの古墳あり、これはそのうちに最も規模の大なるものなり。圓型墳にして二段に築かれ、高さ八米直徑六〇米、頂を繞らせる跡あり。今表面は開墾されて桑畑となり、基石は多く桑畑周囲の石垣として使用さる。石室は南面して開口し奥行一六米、古く發掘されしものにて、いまは墳輪の破片を存するに過ぎず。知前古墳は加本郡の東南約七〇〇米にあり、全墳叢林に包まれ南方に石室を開口す。

【チセ】 地正面 朝鮮江原道原州郡の西北部。原州邑の西約四軒。中央を蛇曲南流する漢江の一支鏡江によりて地形上東西の兩部に分たる。西半は大白山脈支脈に属する山地にて最高四七九米を示し、平地に乏しき、東半は二二三米で森林多く、中央を京川西流しその流域のみ細き低地ありて沼田をなす。米を主産し他に蕎麥・蕎麥を産し養蠶も行はる。東金街道は千葉市より來りて、川沿ひに中央を東走し、千葉市へはバスを通ず。この地は和名抄、千葉郡精華郷の内。大字長峰に城址の址あるも、その沿革詳ならず。また大字阪月には歌枕名寄に「東路にさしてこんとは思はれと蓋の井に影をうつして」とある歌の地なりといふ。【チシロ 千々石】 【千々石町】 長崎縣南國高來郡の西北部。千々石海岸に臨む。東方に雲仙岳をえて東境にその九千部山(一〇六二米)あり。山地は北境を西方へ起伏しつづ次第に傾斜す。即ち東の島甲山(八二二米)より西方へ吾妻山(八六八米)・鉢巻山(六三八米)に連り西方へ次第に高さを減じ西北境にては約一〇〇米に下る。西南部には約四〇〇米の山地あり、其西岸は断層をなして海に臨む。其北境は稍廣き海岸平野開けて、南境に發する小川西北流して海に注ぐ。沿岸地には田畑よく拓け又水産も盛なり。西部に島原半島の周圍を繞る縣道西北より東南に走り西岸に沿ひて社線鐵道通じ千々石驛(大正十二年設置)・上千々石驛(昭和二年設置)あり。東西要略に應安六年、探題今川勢(滿範)、千々石の濱に合戦の事か録し、原城記事には永祿十二年、有馬氏千々石津路守をして、千々石に城を築

かしめ龍造寺の來侵に備ふる由見ゆ。また千々石はセイト教の古書に Christian と録せり。昭和三年町制を布く。日露戦役のとき遼陽の戦に名譽の戦死を遂げし橋中佐は此地の人なり。いま村の南方の高臺にその銅像が設立され、また前方の千々石洞もこれに因みて橋洞と稱す。村の一部は雲仙國立公園の地域に屬し、また遺跡に續く根上りの松原は著名なり。【千々石洞】 九州島西北部の豊原。島原半島と西彼半島との間に侵入し、一に橋洞ともいふ。南方は天草津に續き、北方の山地は断層によりて切られ、急傾斜をなして海に臨む。沿岸には小嶺・千々石・茂木等の港あり。

方鳥取市より南下する智頭街道は川に沿うて本町に來たり二分して一は東南方志戸坂峠を経て播磨方面に、一は南方黒尾坂を経て西南方津山市に至る。省線因備線は津山市より來り智頭驛(大正十二年設置)を設けて北走す。古くは和名抄、知頭郡三田郷に屬せるものなるべし。古名を下市場と云ひ、のち智頭驛と呼ばれる。大正三年町となり、昭和十年更に智頭町・山形村・那岐村・土師村を廢し、その區域を以て新に智頭町を設く。昭和十一年また宮津村を編入す。

【チスイ 智水面】 朝鮮慶尙南道晋州郡の東北隅。晋州邑の東北東一四軒。東部咸安郡との界に丘陵連互し最高四五六米を算し、城内にも處々に丘陵起伏するも、西部は南江の曲流部に臨み、此處を中心に農耕盛に行はる。産物は米・蕎麥・綿等を主とし、養蠶行はれて絹布の産あり。また南江に結の特産あり。面色勝内里を中心に道路四通し、總督府鐵道慶全南部線の班城(一班城面)・耳川(晋城面)兩驛に近く、南江には舟楫の便あり。

【チヌカ 千束村】 福岡縣豐前國築上郡の東部。中津平野の西部に位し北は八屋町に接して周防灘に近し。地勢平坦にして田畑よく拓け、米・蕎麥を産す。この地は小倉藩の支封小笠原氏一萬石の陣屋のありしところ。(千束藩)寛文十一年小笠原眞方千束新田一萬石を得て小倉本藩より分れて一家をなし、爾後子孫相

承けて明治維新に至る。明治四年藩は一且斷となりしも間もなく廢せられて小倉縣に入る。【チヌカ 千塚村】 山梨縣甲斐國西山梨郡の西南部。甲府市の西北に隣接す。面積二・四一方キロ。甲府盆地の北端に當り、土地平坦にして水田多し。米を主産し、次いで蕎麥・粟の産額も多し。甲府市へは縣道を通じバスの便あり、省線中央本線の甲府駅を去ること約六軒あり。本村の大字區は武田氏の一族、鹽部氏の出で地にして、大字千塚には加本郡あり。(加本郡)一に金塚に作る。湯村地蔵山の山腹よりその附近にかけて多くの古墳あり、これはそのうちに最も規模の大なるものなり。圓型墳にして二段に築かれ、高さ八米直徑六〇米、頂を繞らせる跡あり。今表面は開墾されて桑畑となり、基石は多く桑畑周囲の石垣として使用さる。石室は南面して開口し奥行一六米、古く發掘されしものにて、いまは墳輪の破片を存するに過ぎず。知前古墳は加本郡の東南約七〇〇米にあり、全墳叢林に包まれ南方に石室を開口す。

【チセ】 地正面 朝鮮江原道原州郡の西北部。原州邑の西約四軒。中央を蛇曲南流する漢江の一支鏡江によりて地形上東西の兩部に分たる。西半は大白山脈支脈に属する山地にて最高四七九米を示し、平地に乏しき、東半は二二三米で森林多く、中央を京川西流しその流域のみ細き低地ありて沼田をなす。米を主産し他に蕎麥・蕎麥を産し養蠶も行はる。東金街道は千葉市より來りて、川沿ひに中央を東走し、千葉市へはバスを通ず。この地は和名抄、千葉郡精華郷の内。大字長峰に城址の址あるも、その沿革詳ならず。また大字阪月には歌枕名寄に「東路にさしてこんとは思はれと蓋の井に影をうつして」とある歌の地なりといふ。【チシロ 千々石】 【千々石町】 長崎縣南國高來郡の西北部。千々石海岸に臨む。東方に雲仙岳をえて東境にその九千部山(一〇六二米)あり。山地は北境を西方へ起伏しつづ次第に傾斜す。即ち東の島甲山(八二二米)より西方へ吾妻山(八六八米)・鉢巻山(六三八米)に連り西方へ次第に高さを減じ西北境にては約一〇〇米に下る。西南部には約四〇〇米の山地あり、其西岸は断層をなして海に臨む。其北境は稍廣き海岸平野開けて、南境に發する小川西北流して海に注ぐ。沿岸地には田畑よく拓け又水産も盛なり。西部に島原半島の周圍を繞る縣道西北より東南に走り西岸に沿ひて社線鐵道通じ千々石驛(大正十二年設置)・上千々石驛(昭和二年設置)あり。東西要略に應安六年、探題今川勢(滿範)、千々石の濱に合戦の事か録し、原城記事には永祿十二年、有馬氏千々石津路守をして、千々石に城を築

武豊線の終點武豊港は開港場にして、も... 大開港場へと躍進し、主として米國より...

も盛にして、中田・武豊・師崎・常滑の諸港... あり。本都は尾張九郡の一にして、古昔...

餘。面積一三・九六方軒。西部は高さ三百... 米前後の丘陵起伏し、東部には信濃川沖...

最も大きく、兄島・弟島これに次ぐ。行... 政士、東京府小笠原支廳の管轄に属し、...

チヂマオ

いま行政上東京府小笠原支廳の管下に属... し、大村・扇村・袋澤村の三村に分かる。

チヂマオキ

現在邦人も数戸居住せりも、棕櫚・芭... 蕉が叢生し、防風林の列も美し、その...

チヂマフクロサワ

父島袋澤村... 父島は島嶼の南端... 東京府小笠原支廳父島の南端...

チヂマ

父島... 小笠原諸島の一部。主島な... る父島の周囲に散布する兄島・弟島・西...

チチフ

め給ひし知夫(國造本紀)の役なるべし。大化改新の際に郡となり武蔵國に入...

【秩父盆地】埼玉縣秩父郡にある階層盆地。即ち關東山地の東北部にてほぼ方形...

チチフ

合流し、巖山・寶登山の間をいゆる秩父長瀬の峽谷をつくりて流出し、その沿岸には同様に上下二段の河岸段丘を形成...

野の北端に位し、深川町の西北に隣接す。面積四五・九平方軒。東方は高さ二〇〇...

チチフ

【秩父町】埼玉縣秩父郡の中央より稍東。秩父盆地の中心地にて荒川の東...

【千手村】青森縣陸奥國中津輕郡の東南部。弘前市の南方白神山塊の津輕平野の...

チチフ

十八年北條氏亡び、徳川氏關東入國後は幕領となりしが、寛文三年幕府主阿部忠...

【千手村】青森縣陸奥國中津輕郡の東南部。弘前市の南方白神山塊の津輕平野の...

チチフ

【秩父盆地】埼玉縣秩父郡にある階層盆地。即ち關東山地の東北部にてほぼ方形...

チチフ

野の北端に位し、深川町の西北に隣接す。面積四五・九平方軒。東方は高さ二〇〇...

チチフ

【秩父町】埼玉縣秩父郡の中央より稍東。秩父盆地の中心地にて荒川の東...

十八年北條氏亡び、徳川氏關東入國後は幕領となりしが、寛文三年幕府主阿部忠...

五れり。「小栗山神社」小栗山部落にあり。郷社。伊弉諾命外十二神を祭る。創立年月不詳なれど津輕侯の尊信厚く、靈驗著なりとて、八月十七日の祭典には遠近の老弱男女多集し鐘香を極む。

【千年村】 廣島縣備後國沼隈郡の南部。東は鞆町に界し、南は瀬戸内海に面し東南端の阿伏見ノ瀬戸、中央の口無瀬戸を隔て、田島に對す、地形東西に長く、村境には高取二〇〇米餘の山岳連立して何れも海岸に向つて各山脚を伸しその先端は斷崖をうけて海に沈む。南岸には崖々に侵入ありて小低地ひらけ耕作行はる。農産盛にして米・麥・副草を産し蠶糸・花菱を産す。また鯛・鮎の漁獲多し。阿伏見神社に近き常石港より田島に渡船の便あり。村名は大宇常石の千年藤より起る。この藤は源通親の御幸記に「千年へむ君かかしの藤波は松の枝にかまゝなりけり」と見ゆる古跡なり。〔野塚寺〕臨濟宗妙心寺派。俗稱阿伏見觀音。天正年中、毛利輝元の創建。寺域、内海の佳景を一時に收むる勝地あり。

【千年村】 福岡縣筑後國浮羽郡の北部。筑後川中流の南岸に位し吉井町の東北に接す。面積六・一七方軒。筑紫平野東北隅の平坦地を占め土地低平にして北境に沿ひ筑後川風曲しつゝ西流す。其他数條の用水路西方へ流る。灌漑の便よく米・麥・菜種を産し副業に養蚕行はる。南部には吉井方面よりの藤道東走し又吉井より

東南方へ走るものもあり又吉井町より北方朝倉村に通ずるものは西北部を通じ交通便なり。古くは和名抄、生靈郡小家郷に屬せしものゝ如し。村内に若宮八幡宮あり。故にもと若宮村と稱したり。大字櫻井字長野に長野公園あり。筑後川を堰ける長野水門の前に建つ水神社を中心とする河岸の地なり。櫻・桃多く夏は螢の名所たり。長野郷はその上流の大河堰と共に附近の五庄屋の首唱により寛文四年落成せる二大堰にして浮羽・朝倉・三井の三郡に亘り、約二千三百ヘクタールの田圃を灌漑す。〔日岡古墳〕 指定史蹟。大字若宮の八幡神社境内にあり。四面せる前方後圓墳にして長軸八五米、前方部の高さ三米餘、後圓部の高さ四米あり。後圓部の石室は西南方に羨道を通ずるも入口は閉鎖し、天井石は玄室底部に墜落せる。石室は封土の頂部より室内に降る事を得。石室は長さ約四米、幅二米半、羨道の方狭まりて平面楕圓形に近く周壁は一枚石にして小形の割石を用ひる周壁を補ひ、且つせり持ちの架橋を示せる天井石の一部残存す。左右壁は割石を用ひ、表面を削平して奥壁に楕圓形を呈し、表面線を作り、石室全境巧妙な彫刻を施せしを今尙ほ窺ふ事を得。室内の壁面の殆どすべてに描かれたる彩畫様式は考古學・美術史上の資料として甚だ珍重すべきものにして、夙くより學界に有名なものなり。〔八幡神社〕 大字若宮に鎮

座。郷社。祭神、應神天皇・仲哀天皇、外三神。例祭九月二十九日。

チトセ 千歳

【千歳村】 樺太大泊支廳大泊郡の中部。豊原市の南に隣り、東は大泊町、西は留多加町に界し、南は亞庭湖の支湖千歳湖に臨む。大部分は結晶片岩類よりなる鈴谷山脈の西斜面に當り、高さ百米内外の山地起伏しその西麓を鈴谷川南流す。鈴谷川沿岸の沖積地は所謂中央低地にして粘土・砂礫よりなり泥炭層は甚だ薄し。樺太にては氣候最も好く各河川の沖積地には各種の農産行はれ、米の試作も行はる。なほ狐の養殖も行はれ、牛乳・木炭も出ず。樺太鐵道東海岸線は海岸及び鈴谷川に沿うて南北に通じ一ノ澤驛・三ノ澤驛・具塚驛・中里驛（以上明治四十年設置）・新場驛（大正十五年設置）・二ノ澤驛（昭和七年設置）・南具塚驛（昭和十一年設置）を置き、新場驛にては社線南樺鐵道に連絡す。なほ大泊町より豊原市に至る鐵道これに沿うて走る。此地は露領時代ツロワロイヨフカと稱せし地、安政中の鈴木茶淡日記にチマと記せる地なり。

【千歳町】 樺太島南海岸、亞庭湖の北澳。灣入九河、日幅一三哩、最深部の水深約三〇米、北岸は樺太中央低地帯の南縁にて鈴谷川及び留多加川これに注入し、垣々たる砂礫にして漁獲盛に行はる。灣の西北隅に留多加町あり、東岸は濠地海に

道るも、その南端對馬嶺近くに本島南方の咽喉をなす大泊町あり。一月中旬に至りて一面氷結し三月下旬融解す。この間は積泊連絡船の碎氷装置の活動期なるも堅氷に堪へずして水上荷役を餘儀なくすること珍らからず。灣名は明治三十七年日露の國交破るゝや翌年獨立第十三師團樺太遠征の途に上り、北道艦隊千歳艦等と相策應して先づ一部隊をコルサコフ（大泊）方面に上陸せしめしことに因りて命ぜらる。

【千歳郡】 北海道膽振國の中北部。石狩支廳管内五郡の一。惠庭村・千歳村より成る。西部支笏湖畔より東方平野の西南部に亘る東西に細長き地域を占む。北は札幌郡、南は勇搏・白老兩郡に接し西は有珠郡に界す。面積八八五・三平方軒。漁嶺山脈西境を南北に走り漁嶺（一三二八米）・空沼嶺（一二五二米）等の諸峯を屹立せしめ、東方に傾く。大部は此の斜面に屬し深山地帯なり。支笏湖（周囲三三・三一軒）畔は北方の惠庭嶺（一三二〇米）外火山多く、丸駒温泉の湧出あり。東北方石狩平野に接する邊りに平地存すれども長沼沼・長都原野等の沼澤地多し。千歳川は支笏湖より、漁川は西北山中より發して共に東北流し北境にて相合して千歳川となり石狩平野に出づ。千歳川・漁川の平地に出る所に扇狀地開け千歳村・漁村存す。耕地は平地に拓げ長都・島松・下山口の諸字あり。千歳川上流に王子製

紙會社百小牧工場の發電所及び北海道廳水産講習所千歳鮭鱈孵化場設けらる。【千歳村】 北海道膽振國千歳郡東南部。石狩支廳管内。西は支笏湖畔より東方石狩平野南部に及ぶ。南は吉小牧町、北は惠庭村に隣接す。面積五八九・四平方軒。西部の支笏湖は周囲三八軒餘の火山湖にして、湖畔には惠庭嶺（一三二〇米）風不死岳（一一〇三米）等の火山聳立し、また温泉の湧出あり、東北に傾斜す。千歳川はこの湖水より發して村を東北に貫流しその石狩平野に出づる所に扇狀地をつくる。大部分は森林地にして林産最も榮え流域に米・麥・菜豆の栽培行はる。上流山地に千歳鮭鱈孵化場あり。社線北海道鐵道の千歳・美々の二驛（共に大正十五年設置）あり、この地はもと松前藩士の分領せし地。原名シヨツ、大谷或は廣き地面の義。文化二年、山田利兵衛なるもの、その昔は「死骨」に似たりと箱館奉行に申立て千歳と改稱せりと傳ふ。（キウス磐址）大字千歳字キウスの原野中にあり。環狀の土壘を繞らせる圓形の磐址五箇集合して存す。その内三箇は連続し、他の二箇また連続し、明治二十四年間墾せし山仁道路はその一部を貫通す。磐址の直径は三〇米乃至五七米、土壘の高さ約二米、内部の深さ四米に及ぶ箇所あり。往昔この地方のアイヌ二派に別れ、その一派はこの磐に據りて戦ひしと傳へ、この種痘狀土壘は頗る奇しく珍とせらる。附近に堅穴

址存し土壘出土す。〔千歳發電所〕 支笏湖より出づる千歳川沿岸に大小四箇所あり。その中最も大規模なるは第一發電所にして落差一二七米、出力一萬五千キロワットに達し北海道無比たり。〔千歳鮭鱈孵化場〕 島標嶺にあり。北海道廳經營。明治二十一年以來凝灰岩の裂罅中より噴出する攝氏八度の清潤、豊富なる常温水を利用して、アトキンス式人工孵化器を用ひ、鮭の人工孵化に成功せる世界有数の孵化場たり。現在年五千萬粒の孵化は容易なり。〔丸駒温泉〕 支笏湖畔に湧出す。泉質は硫酸泉。背後に惠庭岳を負ひ湖を隔て、樺前山・フツブツメツの雄姿を望む景勝の地にして原始的氣分に充つ。〔千歳神社〕 郷社。祭神、豊受姫神。弘化三年千歳村支配人山田文右衛門の創建に係る。爾來千歳村の氏神として篤く崇奉す。〔明治天皇千歳行在所址〕 村内マチにあり。マチ川畔新保旅館の右側の空地に記念碑「駐蹕之址」建つ。明治十四年九月二日御一泊し給ひし所。

【千歳村】 山形縣利根國東村山郡の南部。馬見ヶ崎川を境として山形市の北に接す。全村低平にして到るところ耕地拓け、馬見ヶ崎川沿岸の若干の砂地及び桑畑を除けば他は總て水田なり。また山形市近郊の主要野菜栽培地の一にして出題期には村内の羽前千歳驛前に朝市立ち、相當量の人蔘・牛蒡・長芋を關西方面へも出荷す。羽州街道村内を南北に貫通し

部落はこれに沿ひ街村型の聚落をなす。省線奥羽本線略これと並行し羽前千歳驛（昭和八年設置）を置き、省線仙山線はこゝより分岐す。大字長町は古く山形城北防衛の地にして、處長の頃長柄組の槍隊の住みし所なり。當時の土族住宅の地割今に至るも残存す。沖の原には落合館址あり。天正年中落合伯耆二石を領して在城せし處なりと。

七軒。面積八・四三方軒。筑後川沖積地の一部を占めて全村土地平坦にして筑後川は南端に沿ひて西南流しその中央に川に跨りて北へのびる南隣青木村の一部を挟む。地味肥沃にして良質の米を生じ、麥の産もあり。村道東西・南北に通じて附近町村を結ぶ。古くは和名抄、神埼郡蒲田郷の内に属せしもの、如し。戦國頃は土家大塚氏の邑なり。

チナ 知名村

鹿兒島縣大隅國大島郡の村。神水良部島の西半を占む。中央に大山ありてその山脚北西南の三方に傾斜し大部分山地をなす。沿岸には低地ありて耕地拓くも河水灌漑の便に乏し。農産物に米・麥・蕎麥あり、林産物頗る多く製糖業また盛なり。南部の小米港よりは和泊・名瀬・神瀬・興論島等に海上交通の便あり。

チヌ 茅渚

一に千沼・血沼・珍・珍勢・智勢等にも作る。大阪海軍の東の沿岸地方の稱。崇神天皇の朝に設かれし茅渚縣の地。もとは河内國に隸し天平寶字六年に國となりし和泉國の基をなす。茅渚海は和泉國の海にして、土佐日記に見ゆる和泉澤もこれと同じく、今大阪府の一部をいふ。古事記には血沼海に作り、神武天皇御東征の時、皇兄五瀨命、賊の矢に疵つき給ひ、南航の際御手の血を洗ひ給へるよりかく稱すといへり。また歌枕として著る。萬葉・一・一、ちのの海の小松れもこゝにこひわたりむ人

チネヒラ 知根平

樺太嶺道西海岸線の一驛(大正九年設置)。本斗郡本斗町にあり。

チネン 知念村

沖縄村琉球國尻郡の東部。北東南の三方海に臨み、村はほぼ均形をなす。西部村境邊は丘陵性産地をなし知名崎・知念岬となりて東方に斗出ず。西し沿岸は一般に低平にして耕地よく拓く。主産物は農に甘藷の産最も多く、甘藷・米の産これに次ぐ。また製糖業行はる。村内に知念城址あり。球陽尙敬王十七年(皇紀二三八九)の位に於れば、嶋昔の時より知念城内に一般を修造し供々重修して行禮の所となす。今年風のために壞たれしにより其殿を葺すとあり。築城の新しいきより考ふれば中央集権以後に築らしめしもの如し。口碑によれば四百餘年前内閣大親の築きしものと傳ふ。貞王代元祿に改めし香所(八村役場)に充てたり。大字久手郷の北方に畜場あり。奇岩怪石屹立し以前は樹木鬱蒼として幽邃を極め、自から神境の感ありしも風伐の結果いまは満目蒼翠として見ふ影なし。此處は昔より男子禁制の靈地とせられ、男子入場の時左杖をなし婦女に製ひたりといふ。今も鋪石を築め石垣を築き小祠及び拜所ありて、昔の名残を存し久高島を遊拜するに過す。開得大君御初詣(御新下り)の時假屋を設け、精進齋數日籠居して神を祀るといふ。

チノヤ 千野谷嶺山

大山村(富山縣)。

チハ 千葉

【千葉縣】關東地方の東南部に位置す。東西に狭く南北に長く、外海に突出する半島狀の地にして東及び南は太平洋に面し、西の一部は東京灣に臨み、他は江戸川を隔て、東京府及び埼玉縣に接し、北は利根川を隔て茨城縣と界す。千葉・鉾子・市川・船橋の四市及び安房・夷隅・君津・長生・山武・市原・千葉・東葛飾・印旛・香取・海上・匝瑿の十二郡を管し、面積五〇六二方軒餘、人口一、五四六、三九二二人(昭和十年國勢調査)にして、一方軒の密度は三〇・五・五人に當り府縣中第十位に當る。【地勢】一般に平坦地多く特に北半は關東平野の一部をなし洪積臺地と沖積平野とよりなり。洪積臺地は常陸臺地の一部にして廣く横ばり、沖積

成栽培盛にす。また東京へ供給さる。果樹の栽培は比較的少く房州の枇杷、東葛飾の梨・桃等々、見るべきものあり。養蠶業は關東地方諸縣に比して盛ならずも、九十九里濱海岸平野及び印旛・香取兩郡の臺地にては、盛大に行はれ、關東地方由養蠶地帯の諸地たるの觀あり。牧畜は警て謂はゆる小金・佐倉・嶺岡の三牧場ありて、前二者は北部の臺地を利用し、後者は房州の山地の緩傾斜面を利用せし、現今は佐倉牧場の一部、歐米式の三里採飼料場と變形して洋風の牛・馬及び綿羊を繁殖し、嶺岡には綿種畜場設けられ、そのため房州には乳牛の飼育盛んなり。豚の飼育數の府縣中第四位を占むるは東京近郊の一特色の現はれと見るべく、養鶏もまた盛にして西の愛知縣と相對立し府縣中第二位を占む。水産業は其だ盛にして沿岸漁獲高に於ては府縣中第十位内外、遠洋漁獲高に於ては第四位、水産養殖高に於ては第五位、水産製造高に於ては第三位を占む。主なる漁獲物は鰯・鰯・鰯・鰯・鰯及び秋刀魚等なり。その他貝類には鏡子及び赤貝、房州の若石海岸に鮑・蛸、九十九里濱の砂濱海岸に赤貝及び蛤、東京灣内の養殖にかゝる蛸・蛤の産ありて地域的相違を現し、海藻類としては鏡子半島及び夷隅郡・房州の若石海岸に石花菜・和布・鴉布を産するに對し、東京灣内にては淺草海苔の原料となる紫菜の養殖盛

Table with 2 columns: 農産, 畜産, 林産, 水産, 工業. Values include 九四、六〇〇, 六九六, 九、二九八, 一五四, etc.

し。漁港としては鏡子・勝浦・平館及び船形等最も有力にして、これ等は遠洋漁業の根據地となり、水揚高の多くは地元漁船によるものにあらず、多くは他地方の漁船によるものなり、殊に鏡子及び勝浦には太平洋沿岸の各府縣の漁船盛に出入す。房州の沿岸は特に小漁港多く、漁獲密集地帯の感あり。

網の發達は著しく、最近又省營の自動車線たる北倉線が關東地方の驛として房州南端に開通す。貨物自動車も著しく、北半の貨物は汽車よりもトラック便により東京へ運ばる。海上交通は東京、館山及び東京・勝浦の二航路あるも乗客は汽車に奪はれて極めて少し。併し貨物特に鮮魚類の輸送は汽車を完全に壓倒して東京と力強く結ぶ。別に東京灣口を横ぎる大貫・横須賀航路あり、また利根川及び江戸川には川蒸気の便あり。上古に於ては總の國一國なりしが、のち上總・下總の二國に分割され、元明天皇の時、上總四郡を割きて安房國を置き三國となる。降つて江戸時代に入りて多くの譜代大名の小藩と、旗本領と天領との交錯地となり、幕府所在地の近國たる型式をとり、然も大小名の領封は甚しき變轉を重ねたり。明治維新當時の諸藩を見るに安房には館山(稻山氏、一萬石)・勝山(酒井氏、一萬二千石)の二藩、上總には久留里(黒田氏、三萬石)・犬多喜(松平氏、二萬石)・佐貫(阿部氏、一萬六千石)・飯野(保科氏、二萬石)・一ノ宮(加納氏、一萬三千石)・鶴牧(水野氏、一萬五千石)・勝山(林氏、一萬石)の七藩、下總には、古河(土井氏、八萬石)・開宿(久世氏、五萬八千石)・佐倉(堀田氏、十一萬石)・生實(森川氏、一萬石)・高岡(井上氏、一萬石)・結城(水野氏、一萬八千石)・小見川(内田氏、一萬石)・多古(松平氏、

一萬二千石の八藩あり、明治初年に諸藩の移封せられしものは安房に花房・長尾の二藩、上總に小久保・菊岡・櫻井・鶴舞・大網・松尾の六藩、下總に曾我野藩あり、新舊合して二十六藩あり、明治二年版籍奉還の事ありしが舊藩領は上總に宮谷縣を、下總に葛飾縣を置き、之を管せしめ、四年版籍置換となり、同年十一月前記二十八縣を廢し改めて上總及び安房を本更津縣とし、下總に印旛縣を置き、同六月更に二縣を廢して新たに千葉縣を置き、八月五月常陸の新治縣の所管に屬せし香取・鹿沼・海上三郡を千葉縣に轉屬せしめ、利根川を縣境とし、以北を茨城縣となす。のち更に茨城・埼玉二縣との間に一部の境界を變更し、今日の縣としての行政区劃確定するに至り。

【千葉市】千葉縣四市の一。西南は東京府に臨み、西北は千葉縣葛飾町・横濱村に、東北は印旛郡千代田村・旭村に、東は千葉郡千代田村・譽田村に、東南は生濱村に各隣接す。市内は洪積層地連なり、東南部に最も高く、約四〇米を示し、北部は下志津原に連り、その末端は海岸に迫り、稲毛海岸にても二四米の高度あり。臺地面は一般に平坦にして開析比較的よく、谷地には水田、臺地には畑地よく拓く。農産物は米・麥を始め食用・園藝農産物に甘藷・大根・西瓜・茶葉・蔬菜等を出し、豚・乳牛等の畜産も盛なり。米産はさほど盛ならざるも、まいわし・えび・あ

かがひ・かれい・ひらめ等の沿岸漁獲物、網・蛤・あまのり等の養殖も行はれ、水産製造物はこれ等に比しやも盛大なり。工業は食料品工業を第一とし、印刷及び製紙業・機械器具工業・製材及び木製品業等もある。近代的大工業はその實現に至らず。主なる工業物に水筒・ケルコース・漆粉・澱粉・綿織物等あり。本市の特色は寧ろ軍事都市にあり、主都東京に近く且つ臺地上の平坦面に演習地に適するを以て鐵道部隊・氣球隊・歩兵學校・戰車學校・下志津飛行學校等あり、なほ北に接する下志津原には多くの兵營演習地ありて發達を來す消費都市たり。省線總武本線は海岸に沿うて通じ、千葉驛(明治二十七年設置)・稲毛驛(明治三十二年設置)を置き、千葉驛よりは省線房總線東線を分ち、千葉驛・蘇我驛(明治二十九年設置)を置き、更に蘇我驛より省線房總線西線を分岐す。社線京成電車また海岸に沿うて通じ、バスは市内及び郊外町村に通ず。なほ海岸一帯の砂濱は好海水浴場となり、特に稲毛海岸は有名なり。縣廳・醫科大學等の諸官衙・學校等多し。この地は和名抄、千葉郡稻毛郷・千葉郷・池田郷・三枝郷の地なるべく、大治元年六月、千葉氏の祖常重、下總權介に任せられ上總の大権より來りて、此の地に居を構へたるに始まれり。古記録によれば、當時表八千軒裏八千軒、合せて一萬六千軒を有し關東第一の大都會なりしと、千葉

氏中世の宗、平氏の時代に居城を佐倉に移し、以後其の衰微し、千葉村と稱する荒廢せる一漁村となれり。爾後三百年、遂に復興の機會に恵まれず、史上よりは全くその姿を没し、幕末時代には佐倉領に屬し、明治維新の際に印旛縣の管轄となり、戸數七六〇、人口二九〇〇に過ぎざりしと、明治六年印旛・木更津の二縣を廢し千葉縣を此地に置きしを以て舊來の千葉宿を改めて千葉町となし、大治の昔に復活する機運に再會せり。爾來民家頗に加はり商賈軒を列れて市況著しく其の西影を一變し、明治廿二年町村制施行に際し、千葉町・安房村・登戸村・黒砂村・千葉寺村の一町四箇村を合併し新に千葉町となし、年を遷うて人口益々増加し市況また著しく隆昌を呈するに至りたるを以て、大正十年市制を施行し、以て今日の繁榮を見るに至り、昭和五年九月都市計畫法指定地となり、更に昭和十二年隣接町村たる見川町・都賀村・都村・蘇我町の四箇町村を合併し、將來の躍進を企圖しつゝあり。西南海岸の蘇川港は古より名あり。【千葉城】本市の中央、猪ノ鼻臺にあり。長年中、平忠常下總介となししが、兵を擧げて同四年誅せられ、子常將宥されてまた下總介に任せられ、千葉城に居り、子孫世々千葉介と號し關東の豪族となる。源頼朝の兵を擧ぐるに及び、常將の支孫常胤これに應じ、功ありて當國の守護となる。足利

宗川浦といふ。浦は遠淺、波靜かにして鏡の如きも湖の干満急にして漲餘に及び天然の好海水浴場なり。【羽衣松】縣廳公園羽衣池畔にあり。千葉氏全盛の時、天女此地に降りて舞ふこと久しうして、その福ふところの羽衣を袖上に掲げ忽然白雲に駕し去れりとの傳説あり。古來本市の一名樹なり。【加曾利貝塚】市内加曾利の低き丘陵上の叢林をなせる處にあり。面積の廣大なるを以て著明なる遺蹟にして、土器・石器・人骨・土偶・骨角器等を發見す。【鶴の森】大廣寺境内にあり。古來鶴・鶯の大群棲息する處、實に偉觀にして鶴の森の名あるに當らず。境内老松蒼蒼として盛夏も猶ほ涼風訪れ風光絶佳の地。現に指定の自然公園なり。【千葉神社】院内町に鎮座。祭神、天之御中主命・經津主命・日本武甕命と上野國群馬郡花園村の息災寺内にありしが、平良文の武藏國を領するや當社に新願の事ありて同國野田に遷し、其孫忠常は更に上總國下野郡、下總國大友・大雅を経て現社地に移し、別當妙見寺を設け祭祀を掌らしむ。一條天皇の御勅願所に定められ、朝廷を初め一般の崇拜を蒙む。徳川家康も亦深く崇敬し、朱印地二百石を寄進す。例祭、八月十六日・二十二日。【蘇我比咩神社】大字曾我野に鎮座。祭神蘇我比咩神。式内社。徳川家康朱印地十石を寄進す。中世春日明神と稱せり。例祭十月九日。【稲毛淺間

神社】村社。平城天皇御宇大同三年富士淺間神社の分靈を勧請創祀せしもの。千葉家累代の崇敬厚く、文治三年社殿を再建す。のち地頭大野氏・淺倉氏等の崇信を受け社領を寄せらる。【大廣寺】大字曾我野にあり。淨土宗。關東十八檀林の一にして附近屈指の名刹。もと玄忠院と稱せし小寺なりしを、天文二十二年江戸増上寺第九世道譽貞把中興して、白旗流の念佛道場となす。天正十九年徳川氏寺田百石を寄す。爾後幕府の尊崇厚し。後水尾天皇大嚴寺の勅額を賜ひ、明治二年勅願所の繪巻を拜受す。境内後方山林中に不動池あり、往時全國の僧侶傳法修學の爲め此寺に參集せる時、池中夥多の蛙聲聳々として學業を妨ぐ。道譽上人池傍に至り其鳴喚を戒む。爾來蛙聲を絶つと傳ふ。【千葉寺】大字千葉寺にあり。新義眞言宗豊山派。海上山觀音院と號し坂東三十三所第二十九番札所なり。和銅二年前行基、聖武天皇に奏して本寺を創建し、自刻の阿彌陀・十一面觀音の二像を安置す。建久三年千葉介平常胤、頼朝の命に依り再興し、寺領千石を寄す。慶長十九年徳川家康亦百石の朱印を附す。千葉家代々の祈願所なり。境内樓の名所として知らる。詠歌「法のため三界六道に華咲きて若き門に匂ふ千葉寺」「千葉寺へ參る我が身も頼もしや岸うづ波に船ぞ浮ぶる」(大日寺)院内町にあり。新義眞言宗豊山派。阿毘留山と號し、天平賣

字元年勅を奉じて仁生法師開基すといふ。千葉氏累代の香所にして、境内に千葉氏十六代の墳墓あり。【米迎寺】道場町にあり。淨土宗。如東山と號す。建治年中、時宗一上人の開創に係り、相州藤澤清淨光寺に屬したりしが、天正十九年萬里小路中納言秀房の男、滿譽上人、徳川家康の命に依り現宗に改む。同年家康五十石の朱印を賜ふ。境内に千葉氏胤以下七代の墓あり。【千葉郡】千葉縣(下總國)四市十二郡の一。北より東に印旛郡に接し、南は上總國山武郡及び市原郡に接し、西南は千葉市を圍みて東京府に臨み、西は富國東葛飾郡に隣る。郡内平衡なる洪積層の臺地より成り、所々に原野あり。曾我野原の如きはその一なり。海岸には砂丘發達し、こゝに甘藷多く産す。縣廳所在の千葉市に隣接し、且つ東京市に近きを以て交通極めて便利なり。省線總武本線は北部を横ぎりて印旛郡に入り、房總線は千葉より分岐して上總國に入り、京成電車は東京より來り本郡を通過して成田に向ひ、津田沼驛より分れて千葉市に至る。往昔千葉・葛飾二郡の地は一國をなして千葉國と稱せしものならん。日本後紀延暦二十四年の條に千葉國造とあり、國造本紀は國名を逸せるものなるべし(日本地理志料)。和名抄は知波と註し、五を置くと、中世は千葉莊と稱し承平年中平良兼下總介を以て國事を見、後子孫世襲し千

葉氏を稱す。【知波田村】靜岡縣遠江國濱名郡の西北部。濱名湖の西岸。高さ二、三百米の丘陵連なり、何れも湖岸に向ひて傾斜す。湖岸は北部最も突出し深く村内に入込みて更に出入村の突出により之を抱く。湖岸に多少の平地開け水田をなす。農業を主とし、米を主産とする外に蕎麥の産もあり、傾斜地には牧畜も行はれ濱名湖にては鱈魚盛なり。又近時染織工業も進出しつゝあり。濱名湖に舟楫の便ある外、湖岸及び之より山麓に愛知縣に入る道路あり。省線二俣西線通じて知波田驛(昭和十一年設置)を設く。古くは和名抄、濱名郡要郷の内とす。中世は笠子庄とも稱せらる。村内に古墳あり。明治二十六年之を開闢せしに埴輪土偶(須惠器質のものあり)及び其破片、圓筒の破片數十箇を獲たり。埴輪は東京帝室博物館に獻納せり。【千濱村】靜岡縣遠江國小笠郡の南部。菊川下流に沿ひ南は遠州灘に臨む。東南部には低き丘陵地あり、海岸は直線狀をなし一帯に砂丘よく發達す。中部以北は土地低平なり。主産業は農にて米・蕎麥・茶等を出し、藪の一部は室内工業により生糸となして移出せらる。社線中遠鐵道の終點三俣驛に近く交通不便ならず。古くは和名抄城阿都新野郷の内と稱す。いま千濱・國安・久兵衛新田・高右衛門新田・國包・坂原の六大字より

チハヤ チフ

成り千領に役場を置く。チハヤ 千早村 大阪府河内國南河内郡の東南部。葛城山脈と金剛山脈の接点の西北斜面に位し大和川に注ぐ石川の支流の上流地なり。北は赤阪村、西北は東條村、西は川上村に接し、東は奈良縣宇智郡牧野村・北宇智村・南葛城郡葛城村と界す。面積一八・〇六方町。東南端には金剛山脈の主峰金剛山(一一一二米)聳立し、その山脚北麓をなして下り、南端の葛城山脈の山嶺また西北方に連りて南境をなし次第に高度を減す。石川の支流は東南境に源流してこの兩山脈の間を西北に流るゝも谷深く低地に乏し。用材・薪炭を主とし米・麥の産もあり。西北方富田林町方面より葛城山脈を越えて五條町に至る街道は川の谷に沿ひて西北より東南に通ずるも交通は概して便ならず。金剛山の西麓に千早城址(金剛山城址)あり、楠木正成の北條百萬の勢を撃退し回天の位勳を樹てし所。城は四面溪谷を以て圍まれ、極めて天險の要害にて、赤阪城の東南約八町に位す。元弘二年冬、楠木正成の築く所にして南河内十七城の根城たり。赤阪城陥るに及び正成この城に據る。翌三年二月、北條氏の兵吉野を攻めて之を抜き、尋いで全力を擧げて此城に薄り殊力を盡して攻む。この時、鎌倉勢は八十萬、之に赤阪の勢吉野の勢雖せ加はりて總勢百萬と號し城の四方二三里の間は寸尺の地をも餘さず

十重二十重に閉じ、葛城千早の勢は小勢僅に千人に過ぎざりきと。然るに正成の奇策神謀、防禦巧みにして遂に抜く能はず。時に諸國に官軍蜂起し、五月遂に六波羅攻めせらるゝに及び、賊將河野佐介高直等圍を解きて奈良に退く。天下の大軍をこの彈丸墨子の孤城に支へて、狂瀾と戦ひし楠氏當年の靈氣想ふべし。この城にして陥らんか、義貞、尊氏も起つ能はず、伯耆の運命もなる能はず、従つて長年も亦起つを得んや。毅然として一孤城に天下の運命をつなぎし楠氏の功や偉なりといふべし。正平二年、足利尊氏、諸將に命じて此に楠木正行を攻めしめて克たす。爾來相傳へて正行・正儀を経て正勝の時に及び、元中七年富山基國の兵の攻むる所となり、正勝防禦利あらず、遂に城を棄てて吉野に奔る。いま大手口址に寶劍塔あり、享保年間建てし戦死者の供養塔、本丸址の中央に千早城舊址の銅標あり、東南に千早神社、東には楠木正儀の墓等昔を偲ぶもの多し。チハラ 千原嶺山 本郷重要嶺山の一。愛媛縣周布郡本郷大字千原に根柢を置き、嶺區は櫻木村と温泉郷三内村とに跨り、五十九丸七千餘坪、嶺は銅礦・化鐵。嶺區内地質は大體片岩にて主として紅藍片岩・綠泥片岩とす。鐵床は、上盤として紅藍片岩、下盤として綠泥片岩ありて其間に介在す。昭和十年には銅礦四〇・六五、銅硫化鐵礦一四四二・八

を蔽ひ、灌木は點綴し四季その色彩を變ずるも、晩秋は斷崖の黄色色彩との調和最も美なるものあり。チフネ 千船 大阪府西成郡にありし町。大正十四年大阪市西淀川區に編入せらる。チフリ 知夫里島 下知夫村島根縣知夫郡の一。知夫里島。西島二大島及び之に屬する十數個の小島を含み、黒木・浦郷・知夫の三村より成る。面積七〇・五六平方町。隱岐島群の西南部に位し西島は北に、知夫里島は赤瀬瀬戸を隔て、南に存す。西南は海岸線の出入に富み中央の船越地帯を以て東西の二部に分る。全島山地に蔽はれ東部に高崎山・燈火山あり、西部に茶釜山聳ゆ。黒木村は東部に存し、東海岸には別府港の外港多し。浦郷村は西部にあり、茶釜山南麓の海岸に浦郷港ありて別府港と共に近海定期航路を有す。知夫里島は知夫村の所在地なり。北岸は出入乏しく南岸に中島島嶼多し、村邑發達す。郡港は近海航路の寄港地なり。黒木村字賀より浦郷港へ里道通す。木村・米・柔魚の産あり。郡名は延喜式郡省式に知布利と訓じ、和名抄は宇良・山良・三田の三郷を數く。中世以降チフとも訓む。チヘサン 池邊讚湖 長濱村(標大)

區、この總價額三萬三千餘圓を産出す。現在中江産業合資會社の經營下にあり、昭和十年六月末現在に於て従業員三七人とす。日碑の傳ふる所によれば、當嶺山の創始は既に明治維新以前にあり、松山藩主によりて行はれたりとす。チハラ 茅原 遠江國(靜岡縣)の古地名。和名抄に長上郡茅原郷ありて加波良と訓じ、高山寺本は知波良と訓す。その地に今詳ならざるも或は今の濱名郡中ノ町村の邊ならん。チバリ 千針 石川縣能美郡にありし村。明治四十年本村外二村を合し白江村を置く。チビキ 千曳 若狹東北本線の驛(明治四十三年設置)青森縣上北郡甲地村大平にあり。チヒロエ 茅廣江村 三重縣伊勢國飯沼郡の東部。藤田川北岸に沿ひ松阪市の西南約九町。全村山地起伏し北境には約四〇〇米の山地結居す。南部藤田川沿岸に小低地開く。西南方より来る同河は西南境に沿ひて南流し東境に出でて屈曲しつゝ、北流し東北境にて東折す。米・麥、薪炭を出す。社社松坂電鐵中央を横斷し大前口驛(大正元年開業)を置く。古くは和名抄、飯高郡立野郷の内か。茅原・廣瀬・上出江・下出江の部落を合併して村制施行の際茅廣江村と名付く。チヒン 知品面 朝鮮慶尙北道豊德郡の西部。豊德面の西北に連る。地形は

カハヤ山北西部に聳ゆ。北岸は出入乏しく、僅に古海・東岸の小池村あるのみなるも、南岸は出入に富みて鳥嶺牛島多し。その郡港よりば坂港・美保園及び鳥嶺の西郷港へ日々定期汽船發着す。米・茶・魚其他海産物多く、木材の産あり。和名抄知夫里島由良郷の地なり。(隱岐知夫赤坂)指定名勝天然記念物。南は立ヶ崎より北は帯ヶ崎に至る知夫里島の西海岸にして延長一軒餘に及ぶ。北隣の西國國賀海岸と同じく粗面安山岩質玄武岩の斷層層に於て斷崖の高さは前者に一帶を越すも、黒き玄武岩の層層は風化によりて紅赤褐黄等種々の色彩を呈する凝灰岩層と相重なり、加ふるに白色乃至灰色を呈せる粗面岩若し粗面安山岩の岩脈と黒色乃至褐色を呈せる玄武岩の岩脈とは縱横無盡に貫き、其形状大小千差萬別到底筆紙の盡す所にあらず。岩石色彩の配合宜しきと岩脈の形状の奇を稱むるとは此海岸の特色にて國賀海岸の比にあらざるなり。岩壁に現るゝ岩脈の最も著しきを昇龍岩・臥龍岩と云ひ、前者は上に廣く下に狭く中央に陥れたる部分ありて其の狀龍の尻するに似たり。全海岸を通じて崖下には土地の隆起によりて生じたる二段の波蝕海壇あり。海壇上には波蝕洞穴の美なるものあり。又數多の波蝕洞窟の外男池及び女池と呼ぶ波蝕溝あり。背景の赤平山は隠岐特有の牧畑に供用せられ牧草地

チフネ チマチ

を蔽ひ、灌木は點綴し四季その色彩を變ずるも、晩秋は斷崖の黄色色彩との調和最も美なるものあり。チフネ 千船 大阪府西成郡にありし町。大正十四年大阪市西淀川區に編入せらる。チフリ 知夫里島 下知夫村島根縣知夫郡の一。知夫里島。西島二大島及び之に屬する十數個の小島を含み、黒木・浦郷・知夫の三村より成る。面積七〇・五六平方町。隱岐島群の西南部に位し西島は北に、知夫里島は赤瀬瀬戸を隔て、南に存す。西南は海岸線の出入に富み中央の船越地帯を以て東西の二部に分る。全島山地に蔽はれ東部に高崎山・燈火山あり、西部に茶釜山聳ゆ。黒木村は東部に存し、東海岸には別府港の外港多し。浦郷村は西部にあり、茶釜山南麓の海岸に浦郷港ありて別府港と共に近海定期航路を有す。知夫里島は知夫村の所在地なり。北岸は出入乏しく南岸に中島島嶼多し、村邑發達す。郡港は近海航路の寄港地なり。黒木村字賀より浦郷港へ里道通す。木村・米・柔魚の産あり。郡名は延喜式郡省式に知布利と訓じ、和名抄は宇良・山良・三田の三郷を數く。中世以降チフとも訓む。チヘサン 池邊讚湖 長濱村(標大)

チホ 知保 〔知保〕 肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄に阿蘇郡知保郷あり。その地は今の阿蘇郡馬見原町・草部村・菅尾村・柏村及び宮崎縣西臼杵郡三ヶ所村・鞍岡村等の地に當る。〔知保面〕 朝鮮慶尙北道醴泉郡の南部。郡邑醴泉の南約八町。東方より鎮舞山の山腹のびれり城內に到る處に丘陵を起伏せしむれども、南境に洛東江、西北境にその支流乃城川流れ、その流域には稍廣き平地拓く。耕地はこの平地と丘陵地の處處に發達し、米・麥、綿・繭等農産を出す。郡邑醴泉及び社稷慶北線の龍宮驛(龍宮面)に通ずる道路あるも交通便ならず。チホ 智保 日向國(宮崎縣)の古地名。和名抄臼杵郡智保郷あり。その地は今の西臼杵郡高千穂町・上野村・岩戸村の邊に當る。チホン 溪 臺灣臺東廳臺東郡の溪流。知本主山に發し、東流して臺東街の南方にて海に注ぐ溪流なり。河口は廣大なる荒廢せる河原をなす。河口近くに知本温泉あり。チボンシュ 知本主山 臺灣南部の山。片麻岩よりなる臺灣脊梁山脈の一峯にして、南方の舞頭山、北方のラガラカ山等と共に臺東州と高雄州との分水界を形成し、隘寮溪・知本溪の水源をなす。標高二三六九米。高温多雨の氣候に恵まれて大森林よく發達し、東麓には知本温

庄地形にして北西―東南二軒、東西一五軒。北境に高約八百米餘の大白山脈に屬する二峯あり東南に向つて並行せる山脈を出し、西部青松郡との界には最高九百米の同山脈支脈連し、東方に低夷するも平地殆どなく、城内を貫流する五十川流域に狭長の低地ひらく。耕地はその低地と山間傾斜地とに發達し主として農業行はる。産物は麥・大豆・朝鮮紙の外、五十川河岸に文明金山・新陽金山ありて金・銀を出す。豊徳に起る二等道路五十川に沿うて城内を東西に横斷し西隣青松郡に入りこれにパスを通ずるも其他の道路は途中峻坂ありて交通便ならず。(文明金山) 面の東部、五十川河岸にあり、金・銀を出す。嶺區一帯の地質は礫岩・砂岩・頁岩・粉岩及び粉岩質凝灰岩より成り、粉岩質及び石英脈の貫入あり、鐵床は該層中に存する含金銀石英脈にして、鐵石は一般に石英に乏しく菱錳鐵・磁鐵・黄鐵鐵・方鉛鐵・閃亜鉛鐵より成りて錳狀を呈し、含金銀品位比較的高し。直營により、手制及び機械制にて採掘し、鐵石の上盤は興南製鐵所に發賣しつゝあり。昭和十年中産額、金銀鐵六〇七七(約九萬圓)、坑夫數二百餘。チフ 知夫村 島根縣隱岐國知夫郡の郡港。知夫里島を占む。南は日本海の碧波を隔て、遙か五〇軒に鳥嶺牛島を望み、北は赤瀬瀬戸を以て西島に對す。四周海水に圍まれ村内は概ね山地なり。マ

チミ 千ヤト

を置く。

チミ 知三村 福井縣若狭國越前郡の南部。北境は小濱町の南方約八軒。面積七九・七五方軒。四周山地を繞らし東南境に三國嶺(七七六米)あり、西方へ山嶺連りて南境をなし、西南境に八ヶ峰(八〇〇米)聳え南境山脈より西北方へ數條の山脈延びて中央に繞り三國嶺より續く連嶺は東境より北境を圍み、南境に發する數條の河川は相集りて西北隅より中名田村に出で東北に流れて小濱町の東方にて海に注ぐ。米・麥を産し麥藪行はる。西北部の河谷に沿ひ中名田村方面と奥名田村方面とを結ぶ縣道あり、西部には南境の知井坂を過ぎて京都府に出づる村道及び東部には山地を越えて滋賀縣に至る村道あり、京都に通ずる山路に當る。もと南名田村と稱せしが、明治二十四年知三村と改稱す。

チミケツブ 湖 ↓津別村(北海)

チモト 千本 滋賀縣大上郡にありし村。昭和十二年彦根市に編入さる。

チモリ 乳守 和泉國堺市の南郊、北に連する街の名。遊里として名高し。三國志「傾城奉公に身を賣つて、即ちちもりの色里に小磯と申し候由」守貞漫稿「津守今俗乳守と云、何れか是なる。住吉の社務は津守姓也。又地名に津守浦と云もありしかと覺ゆ。然らば津守を是とするべし」

チヤ 千屋

【千屋】 越後國(新潟縣)の古地名。和名抄に、魚沼郡千屋郷ありて知也と訓す。その地は今の北魚沼郡小千谷町の邊を稱せしものゝ如し。

【千屋村】 岡山縣備中國阿智郡の西北部。西部及び北部は鳥取縣日野郡に接す。中國山脈の主峯東西に連互する一部を占め南境に御森山、北西に花見山等聳立して村内高約一千米に近き高峯狀の山地をなして平地少し。西南境に沿うて高梁川の上流南下し、流域の谷間に僅少の耕地あり。農業に米・麥・蕎麥・生柿等を出し又酒類を造る。山地は好牧場をなし千屋牛の名世に著はれ又林産物を出す。川に沿うて縣道通じ南方新見町へバスを通ず。

チヤウス 茶臼

【茶臼山】 石巻市の北方約一八軒、宮城縣本吉郡横山村と純生郡中津山村との境上にある丘阜。標高一五九米。山體中生層より成る。古の桃生の橋はこの山の邊にありしものと推察せらる。

【茶臼山】 福井縣南越前郡にありし村。明治二十三年神山村と改稱す。【茶臼岳】 日本三ノアルプス赤石山脈の一峯。主峯赤石嶺(三二〇〇米)の南方一〇軒餘、靜岡縣安倍郡井川村と長野縣下伊那郡木澤村との境上に聳つ。標高二六〇〇米。山體古生新層より成る。【茶臼山】 伊賀山塊の一峯。三重縣名賀郡生村と奈良縣山邊郡東里・豊原兩村

チヤタン

北谷村 沖繩縣琉球國中頭郡の中央西部。那覇市の東北方約一二軒。西は海に臨む。東部は一帶に丘陵性山地をなすも、沿岸は低平にして耕地拓く。比連川北境を西流す。海岸線は出入に乏しく沿岸近く珊瑚礁發達す。甘蔗・甘藷の栽培多く、製糖業盛に行はる。また僅少の水田ありて米を産す。沖繩縣管鐵道村内を走りて北谷・桑江・平安山・野國・嘉手納の五驛(共に大正十一年設置)を通ず。初めて甘蔗を琉球に傳へ琉球幾十萬の人を養ふ基礎を固めし大恩人野國總督はこの地の人なり。

チヤチャヌブリ 爺々岳

千島列島國後島の東北部に聳居する休火山。二重式圓錐形にして、山委富士形の山の上に小富士を載せたるが如し。山頂附近の傾斜三〇度内外。山頂附近に湖水ありと傳へらるゝも、實は小富士の絶頂に周圍七六四米、深さ四五米の噴火口残るのみ。寛永十年近藤重藏の山に久奈戸の神を祀り。

チヤドー 茶道面

朝鮮全羅南道羅州郡の東南部。城内丘陵起伏し平地は極めて乏し。産物には米・大豆・大豆を主とし棉花・烟草等の産あり、また諸種の竹類を産す。總督府鐵道湖南本線羅州驛及び梁山浦驛へ各約二〇軒、城内道路網極めて疎にして交通便ならず。面邑号院里は面の西部にあり。聚落は散村式

チヤナイ 茶内

省線根室本線の一驛(大正八年設置)。北海道釧路國厚岸郡濱村にあり。

チヤヤ 茶屋

【茶屋】 愛知縣海部郡にありし村。明治二十九年本村ほか二村を廢して南陽村を置く。

【茶屋町】 岡山縣備前國都賀郡の南部。倉敷市の東方にあり。面積四・五方軒、兒島灣の西岸に開けし平坦肥沃なる地を占む。もと、海底たりしものに注ぐ旭川・笹ヶ瀬川・高梁川等の沖積作用にて次第に陸化され、干拓事業と相俟ちて遂に岡山平野の一部を形成するに至りしものなり。従つて全町農業頗る盛に米・麥・蕎麥の産物に多く、また柿その他の果實をも産す。又花菱・墨表を産すると共に縣下有数の機織地にして綿糸紡績及び綿布製造甚だ盛なり。省線宇野線は西部を南北に通じ茶屋町驛(明治四十三年設置)を設け、これより社線下津井輕便鐵道分岐し西南方に走る。市街はこの交通の要地にあり町域の西南部を占む。北方早島町、西方倉敷市に縣道通じ倉敷市へは約六軒餘、バスの便あり。もと江島村と云ひしが明治二十九年町制施行の際現名に改む。

チヤヤガワ 茶屋川

省線瀬川線の一驛(昭和四年設置)。北海道釧路國川越郡長萬部村にあり。

チヤナ チュー

チュー 中

【中郡】 ↓西那珂(郡) 朝鮮京畿道漣川郡の東北部。郡邑漣川の西北約四軒。北境の高阜三四六米の一峰を最高とし城内到る處に丘陵起伏す。西南部は漣川の曲流部に臨み、この沿岸と、東南部を灌溉する同江の支流流域に肥沃なる平地あり。耕地は其他丘陵地帯にも散在し、米・麥・大豆・蕎麥の産あり。ほぼ中央を平壤・議政府間二等道路走りてバスを通じ、途中の三車里より北接する江原道鐵原郡方面その他へ道路を敷き、交通便ならず。三車里は臨津江左岸に位し、西事務所・市場あり貨物の集散行はる。

【中甸】 朝鮮京畿道開豊郡の東南部。開城府を距る東南約一〇軒、東南は臨津江と漢江との合流點に臨む。天摩山の山麓に延びて城内到る處に丘陵起伏するも、軍藏山(一八三米)や、著はるものみにして地勢峻峻ならず。東部津南面との境に砂川蛇曲南流して臨津江に入り、西北境にも漢江の小支ありて、其等の流域にはや、廣き平地あり田拓く。耕地は其他丘陵地帯に散在し、農業に米・麥・蕎麥等あり。自動車道路の通ずるな交通や、不便なり。面邑大龍里は砂川右岸に位し、市場あり。

【中甸】 朝鮮京畿道高陽郡の西北部。京城府の北西約一四軒、西南は漢江を距て金浦郡と相對す。北境に高峰山(二〇

の境上)あり。標高五三五米。山體片麻岩より成る。

チヤザワ 千谷澤村

新潟縣越後國刈羽郡の東端。小千谷町の西北方約八軒。東北は三島郡に、東は北魚沼郡に界す。面積一三・二六平方軒。東部・西部に丘陵南北に連互し、中部は村を南北に貫流する澁海川の流域にて澁海平地開け水田多く葉落穀(こ)にあり、農業を主生業とす。米・蕎麥の産あり。縣道南北・東西に通じ、前者は省線信越本線塚山驛(北隣塚山村)へ約四軒、後者は省線上越線小千谷驛へ約八軒にて連し、何れもバスの便あり。中世以降附近諸村と共に小國谷と稱せらる。村名より見れば和名抄魚沼郡千屋郷の分野たりしものゝ如し。

チヤシコツ 茶志骨平野 北海道根室國標津郡の東南部。南は野付郡界を東流するトホロ川、北は標津原野を劃する標津川によりて挟まる。地域にて、茶志骨川中央を東北流す。面積二、一三二ヘクタール。根室海峽に東面す。開墾農林多き水利便なるにより現今移民漸く多く、開墾の機運開け始む。附近には植民軌道標津港より敷設され、他に開墾用の軌道も漸次敷設せらるゝに到れり。米・馬鈴薯・大豆等を産す。

チヤシナイ 茶志内

北海道石狩國空知郡美瑛町の大字。省線南本線の茶志内驛(大正五年設置)あり。

チユーエツ 中越線

省線北陸本線の高岡驛を経て東武波部南山田村の城端驛に至る三七・二軒。【チユーエン 中遠鐵道】 社線靜岡縣磐田郡袋井町の新袋井驛より遠州灘岸の小笠郡三俣村の新三俣驛に至る一七・四軒。軌道〇・七六二米、動力は蒸氣・ガソリンを用ひ、省線と運送運輸。

チユーオー 中央

【中央低地】 樺太島の中央南北にあり。西部の西樺太山脈と東部の東北山脈・鈴谷山脈との間にある低温なる地帯。低地の中間、即ち幌内口附近より愛濱附近まで斷絶して南北二區に分る。北部は幌内川の縱走する低温地に續く。南部は鈴谷川・内淵川支流大谷川の貫流する沖積地

チヤナ チュー

にして、豊原市及び落合・愛濱を含む最も重要な南北狭長平原とす。北部の低地は所謂ツンドラと稱する低温地にて、厚層の泥炭上に厚き藓苔類密生し僅小なる落葉松が疎生するのみにて沼澤多き階段的平地なり。然れども幌内河川の兩側及びその支流の兩岸には柳・樺・椴・蝦夷松・落葉松叢生し、或は階段的平地の乾燥なる地域には往々、白樺の純林を見る。かく幌内川の兩側にあるツンドラは寂漠荒蕪たる湿地なるも、此地方に住するオロチオン及びギキヤク人の馴鹿の好放牧地をなす。南部の低地は河岸の低湿地を除けば泥炭の厚層なく、撒して土地肥えて農牧に適し良好なる地は既に開墾され幾多の農村發達す。

チヤナ チュー

【中央線】 省線の一。東京市の東京驛を起點とし東京・山梨・長野・岐阜の諸府縣に亘る。中央本線・八高線・小海線・篠ノ井線・大糸線・明知線・太田線及び貨物支線を含む。(中央本線) 省線中央線の幹線。東京市麹町區丸ノ内の東京驛より市の中央部を貫き、武蔵野平野を走り八王子市より山崎に入り、山梨・長野の兩縣をすぎ木曾路より濃美平野に出で愛知縣に入り名古屋市の名古屋驛に至る四一・二・九軒。東京府北多摩郡國分寺村の國分寺驛より府中町の東京競馬場前停車場間の五・六軒と同郡立川町の立川驛より昭和村の多摩川原驛間の三・七軒の貨物線を含む。東京驛より新岩を經て

浅川まで五三、一軒は電車運轉をなし、沿線と都心の時間的距離を短縮し、飯田町(東京市)より甲府市間は電氣機關車運轉をなし、なほ山梨縣北都留郡笹子村の笹子驛と東山梨郡御野驛間にある笹子トンネルは長さ四六五六米にて清水・丹那・両白山に次ぎ我國第四位のトンネルなり。

【中央山脈】 臺灣島の脊梁をなす山脈。臺灣山脈ともいふ。紡錘形を呈する臺灣島の島軸を略北北東より南南西の方向に走る大分水嶺をなす山地の總稱。北端は鼻頭角・三貂角等の突出部を形成し、島の中央より南東に偏して脊梁を形成し、南端は恒春附近の望龍鼻・貓鼻角を突出せしむ。山列は南北の兩端において南東に彎曲し、かすかに弧を描く。山列の方向・構造等より大體三つに別つを得。即ち北部より次いで中央山脈(新高山脈)・阿里山脈なり。これらの山地を構成する岩石は片麻岩・結晶片岩・粘板岩・砂岩等に於て、最近の研究によれば恐らく第三紀時代に屬す。地質分布を見るに大體山脈の方向と一致して綫狀の排列を示し、東部には下部を構成する變質岩露出し、西に赴くに從つて粘板岩・砂岩等露出し、主なる構造線また山脈の方向に一致し、東部の山地界は北北東—南南西の大斷層によりて切斷せられ、その東方の臺東山脈を分つ。その兩邊を形成する地形的境界もまた略同一方向の

走向斷層なり。山地内部にも並行する多くの構造線を有することはいずれの山列の排列、地形、温泉列等によりて推測するに難からず。山脈内部は極めて高峻にして、未だ地形圖の完成されざる部分少からざるも、全體的に種々の高度臺地狀の部分有し、過去の侵蝕面の殘存するを認む。又褶曲せる山地の侵蝕は、岩石の硬軟によりていはゆるホックバク Hackback の地形をよく發達せしむ。山頂には上述の如く所々に侵蝕平坦面の殘存せるも、この山地より流出する河水は深き峽谷を穿ちて數百尺の絶壁を形成す。尙ほ山脈には所々に丘陵地形を存し、最近の時代の著しき隆起現象を物語る。この山地の中央には、埔里附近に見るが如き扇狀地形を存し、日月潭の湖水を湛へたる部分あり。臺灣山脈に屬する高峯のうち、北部の大霸尖山附近の如き降水量多き地域には、洪積世末期のカーカ地形の殘存せること最近に至りて報せらる。未開の極地に於ては今なほ天然の美林を遺す。臺灣は小島なるに拘らず我國にて最も高き山地をなす、三千米を超える高峯數十座の多きに達す。主要なる高峯を列挙すれば南湖火山(三七九七米)・中央尖山(三七一五米)・北合歡山(三六〇六米)・合歡山(三六〇六米)・翠峰山(三三七九米)・奇萊主山北峯(三四三三米)・丹大山(三三七〇米)・マカラス山(三八〇六米)・秀姑巒山(三八三三米)・大水窟山(三八二

一米)・觀山(三六六六米)・卑南主山(三三〇四米)・大武山(三三二一米)・桃山(三三六九米)・大霸尖山(三五七二米)・次高山(三九九〇米)・白姑大山(三三六一米)・精大山(三〇七五米)・都大山(三二九二米)・新高山(三九五〇米)・南玉山(三三九一米)・富嚨山(二九九二米)・金甘樹山(二二三四米)・五又崙山(二一九七米)・烏松坑山(二二八三米)・大塔山(二九七九米)・對高山(二四五四米)・觀山(二五〇三米)・萬歲山(二四七五米)・兒玉山(二六二二米)・霞山(二四〇九米)等なり。【中央尖山】 臺灣花蓮港と臺中州に跨る。中央山脈中の一高峯にして花蓮港と臺中州の境界にあり、標高三・七二五米。北は南湖大山、南は翠峰山と相連る。【チヌー】 山崎縣美作國眞庭郡の東北端。東南は吾田郡、東北は鳥取縣と界す。東南端には津黒山・山彦山・入道山等の何れも千米前後の諸山連なり。また北境に佛ヶ山(七四四米)ありて、その山腹西境に沿ひて走り、それ等の山脚は何れも中央に向ひ、その都合を東北境に發源せる旭川の支流西南流す。その沿岸には僅少の低地ありて部落及び耕地發達するも概ね山地をなす。米・藁等を出し、また山地よりは木炭を出す。(大山根魚棲息地) 指定天然記念物。本村を始め湯原・八東・

- チヌーカ 中和 (山崎縣美作國眞庭郡の東北端。東南は吾田郡、東北は鳥取縣と界す。東南端には津黒山・山彦山・入道山等の何れも千米前後の諸山連なり。また北境に佛ヶ山(七四四米)ありて、その山腹西境に沿ひて走り、それ等の山脚は何れも中央に向ひ、その都合を東北境に發源せる旭川の支流西南流す。その沿岸には僅少の低地ありて部落及び耕地發達するも概ね山地をなす。米・藁等を出し、また山地よりは木炭を出す。(大山根魚棲息地) 指定天然記念物。本村を始め湯原・八東・
- チヌーカ 中和 (山崎縣美作國眞庭郡の東北端。東南は吾田郡、東北は鳥取縣と界す。東南端には津黒山・山彦山・入道山等の何れも千米前後の諸山連なり。また北境に佛ヶ山(七四四米)ありて、その山腹西境に沿ひて走り、それ等の山脚は何れも中央に向ひ、その都合を東北境に發源せる旭川の支流西南流す。その沿岸には僅少の低地ありて部落及び耕地發達するも概ね山地をなす。米・藁等を出し、また山地よりは木炭を出す。(大山根魚棲息地) 指定天然記念物。本村を始め湯原・八東・

場として比較的廣潤なる河成段丘の此地が選ばれしに始まり、今日の盛況を見るに至れり。

【チヌー】 山崎縣美作國眞庭郡の東北端。東南は吾田郡、東北は鳥取縣と界す。東南端には津黒山・山彦山・入道山等の何れも千米前後の諸山連なり。また北境に佛ヶ山(七四四米)ありて、その山腹西境に沿ひて走り、それ等の山脚は何れも中央に向ひ、その都合を東北境に發源せる旭川の支流西南流す。その沿岸には僅少の低地ありて部落及び耕地發達するも概ね山地をなす。米・藁等を出し、また山地よりは木炭を出す。(大山根魚棲息地) 指定天然記念物。本村を始め湯原・八東・

を以て占めらる。灌溉は東田川及び堀金堀・高山堀に負ふもの多く、一部は白川より揚水せる長堀堀りも引水す。本村は置賜盆地中にも各部落の最も散在せる所なるは、水盛く土地また微起伏を呈せるに拘らず、用水次第に普及するに及び小區分せらる。耕地増加し、これに伴ひて家屋も亦散布せし故なり。高層或は小屋名を有する部落は村内に鹿小屋の外四つありて、何れも在家の多き扇頭に少く、扇央以下に比較的多きは、庄内平野の農屋と同じく慶長以前に領主より百姓がコウヤの取扱ひを許可せられて開墾せしに由る。時田にある多層・下他屋等のキヤ名を有する部落は侍の開墾耕作せる耕地に設けられし田莊に起因するもの多し。慶長年間以後に用水の普及せる地に多し。(熊野神社) 大字堀金に鎮座。神社・祭神、伊弉冉尊・速玉之男神・事解之男神。元明天皇和銅年中の創建と傳ふ。例祭日、九月一日。

【チヌー】 山崎縣美作國眞庭郡の東北端。東南は吾田郡、東北は鳥取縣と界す。東南端には津黒山・山彦山・入道山等の何れも千米前後の諸山連なり。また北境に佛ヶ山(七四四米)ありて、その山腹西境に沿ひて走り、それ等の山脚は何れも中央に向ひ、その都合を東北境に發源せる旭川の支流西南流す。その沿岸には僅少の低地ありて部落及び耕地發達するも概ね山地をなす。米・藁等を出し、また山地よりは木炭を出す。(大山根魚棲息地) 指定天然記念物。本村を始め湯原・八東・

平地に乏し。南境には双頭山(二二八四米)等あり、漸次北方鴨綠江界に向ひ低夷するも、なほ北部に中支峰(一〇五一米)・鳥首嶺山・鳥嶺山(八九二米)等あり、後二者は江岸に臨んで屹立し、特に鳥首嶺山は高約八百米の玄武岩のメサを形成して東西に横はる。北は鴨綠江の曲流部に當りて滿洲國の朝見山と相對し、南境に發する中江川は城内中央を北流し中上湖附近にて江に合流す。城内の大部分は樹海をなし人煙稀薄なれど、鴨綠江沿岸と中江川下流域にはや、廣き平地ありて農耕行はる。産物は木材を主とし、農産に玉蜀黍・大豆等、その他生牛・蜂蜜・山人蔘等を出す。義州より二等道路江岸に沿うて來り中江鎮より南し中江川を測りて東方惠山鎮に通じ、これと乾下湖より南走する道路とにパスを通じ、又江上には總督府命令にはよるプロペラー船その他の航行あり。中江鎮は島首山西北麓に位する面邑にして、國境管轄上の要地として、守備隊駐屯し、憲兵分隊あり。また營林廠支署・測候所等を置き、伐木・製材・組筏の中心をなす。舊中江鎮は現在の地より四新の上流、鴨綠江の轉向部の山脚上に位置し、開延城と稱し、對岸の朝見山と相對し中江の堡鎮として支那側に対抗せしが、清朝の壓迫により没世滅亡せり。城址今猶存す。本邑は明治三十七八年戰役後、鴨綠江森林の伐伐事業が我が手に歸し、其の地位

【チヌー】 山崎縣美作國眞庭郡の東北端。東南は吾田郡、東北は鳥取縣と界す。東南端には津黒山・山彦山・入道山等の何れも千米前後の諸山連なり。また北境に佛ヶ山(七四四米)ありて、その山腹西境に沿ひて走り、それ等の山脚は何れも中央に向ひ、その都合を東北境に發源せる旭川の支流西南流す。その沿岸には僅少の低地ありて部落及び耕地發達するも概ね山地をなす。米・藁等を出し、また山地よりは木炭を出す。(大山根魚棲息地) 指定天然記念物。本村を始め湯原・八東・

れしも、その成敗の範圍は播磨・丹波等、東部地方にまでも及びしものと思はれず。然るに太閤記に、五畿内中國二十一箇國の語あるは、畿内五國に山陰山陽十六國を加へたるものなり。近世普通に中國筋として指稱せらるる地方は、漢然備前邊より長門までの山陽地方に限られたるもの、如し。近時は中國山陽等の地理學上の用語も出來、漢然山陰・山陽兩道地方を中國と呼びしも、一方には便宜上行政區劃の定むるところに従ひ、京都府及び兵庫縣に屬する丹波・丹後・但馬・播磨を近畿地方に加へ、鳥取・島根・岡山・廣島・山口の五縣管下の地方をのみ中國地方と稱する例となる。 ※山陽道・山陰道

【中國山脈】 中國地方をほぼ東西に連貫し山陰・山陽の兩地方に分つ山脈。東端は丹波高軍に連り、その境界は不明瞭なるも一般に加古川・由良川より西を中國山脈と稱す。此地方を構成する地質は古生層最も廣く發達し、中生層これに次いで分布し第三紀層は局部的に發達す。古生層・中生層を貫きて進入せし火成岩の發達は著しく、殊に中生代の水成岩の侵入せし花崗岩類の大岩株はその後の侵蝕作用のために中國一帯に亘りて露出し、進入のために生じし變成岩特に注入片麻岩も西部瀬戸内地方に廣く露出す。なほ其後にも火山岩・即ち斑岩・石英粗面岩・安山岩・玄武岩等の噴出著しく廣

チユー——チユー

き、なほ邑事務所・警察署・地方法院支... 農林署・専賣局出張所・農業学校等あり...

チユー——中條

小曾根・今井・上中條・大塚を合し本村... 津橋町の南隣。東部に傾斜加賀河北部の中部...

チユー——中西

南北に走る龍谷を作り南方に開く。これ... 等の低地には耕地拓けて米・藁を出し...

チユー——中勢

三重縣津市にある岩田橋驛に起り一志郡... 川口村の省線名松伊勢川口驛に至る...

チユー——チユー

九〇、人口密度は一方軒一二九人にて、... 全軒平均に比し稍高く、十三道中第七位...

タカールにて畑とその割合は相等し。... 農産物の主なるものは米六六・二萬石に...

Table with 2 columns: 忠清北道生産額 (昭和十年) and values for various agricultural products like 農産物, 畜産物, 林産物, 工業物.

明鏡山は黒鉛鉱山として何れも著はれ、... 特に黒鉛(土狀黒鉛)の産は全鮮産額の三...

チユー——チユー

米・粟・麦・大豆等を生産し、山中には...

め、耕地面積は二四・六萬ヘクタール、...

忠清南道生産額 (昭和十年)
農産物 八六、〇四一、二〇九
畜産物 二、八一八、〇一五
林産物 四、八八九、五七九
水産物 二、四〇三、八八一
工業産物 一六、〇五七、〇九三

韓は道の東部を橋渡しし、湖南は大田より...

チユーゼンジ 中禪寺

【中禪寺湖】 中宮洞湖・朝ノ湖ともいひ...

なるも、冬には水位が低下するため、大...

チユータイ 中岱面

道廣州の北部西端。京城府の東南六軒...

チユーナン 中南

【中南面】 朝鮮平安南道价川郡の南部...

チユー——チユー

によりて以北の水は清川江に注ぎ、以南の水は大阿江に入り、その各支谷には田畑よく折く。産物は米・麥・大豆・棉・...

【中南部】朝鮮成鏡南道長津郡の東南部。東は新興郡に隣接す。東西約二五軒、南北もほぼこれに匹敵す。蓋馬高原中に位す。中央に門山(二〇六二米)聳立し、...

粉等を産するに過ぎず。社線新興鐵道は南方黄草嶺(二二〇〇米)を除いて長津湖の清水湖(昭和九年設置)に達し、これに並走し來れる二等道路は、湖畔を縫うて北走しバスを通するを以て、東部山地を除きては交通比較的便なり。...

【西昌嶺山】 鐵道は金・銀。白某の所有に屬し、昭和十年度産額、金銀鐵三五一萬六・五萬圓。...

【中部】 我國本州島の中央部に在り。日本列島のほぼ中央に在り。西は近畿地方、東は關東地方、東北は奥羽地方に接し、南は太平洋、北は日本海に臨む。...

【地形】 此地方は本州島中幅最も廣く、地形・氣候・人文上すべて我國の中央に於ける結合地帯にて、相異なる東北日本と西南日本との漸移地帯なり。...

だ開折されざる完全なる圓錐形の火山にて房總の組合に在る河口湖・西ノ湖・精進湖等は、風光明媚なり。西部山地は、南勢山系の東縁の隆起地塊にて、飛騨山脈・木曾山脈・赤石山脈の三山脈が略々南北に雁行し、いづれも高峻にて三〇〇〇米内外に達し、高山性の地帯をよく現はし、日本アルプスと總稱せられ、幾分ヨーロッパアルプスの景観を思はしむるに足る。...

間の千曲川の谷に善光寺平・上田盆地・佐久平の三盆地が南北に並び、善光寺平にて千曲川・犀川の二川合流す。中央部西部兩山地間には大層層線によりて生じたる日本海岸より太平洋岸に貫きし谷があり、その間に松本平・諏訪盆地・甲府盆地の三盆地が含まる。...

尾端の好出入を造る。若狭海岸は近畿地方の北部高地が陥没後更に沈降せしアス式海岸にて、小半島と小灣入に富みその各灣頭に小平地を點在す。佐渡島は二山地一平野の三並行地帯より成る。東海地方は、駿遠海岸地方にては東海道式の荒川が北の山地より急に流下して海岸平野を造り、富士川・安倍川・大井川・天龍川等はいづれも雨季には氾濫するも平時は水涸れ、大部分河原となる。...

本海方面より蓄さるる水蒸氣のため降雪季となり、分水山地を隔てて風下に當る表日本にては乾季となり晴となる。表・裏の海岸沿は海洋性氣候なるが、中央高地の諸盆地は海より遠きため寒暑の差やや甚しく、大陸性氣候の傾向を有す。降水量が海岸地方よりも少なきは高地の邊緣山地に水蒸氣を奪はるるがためなり。...

となり、海に遠き中央高地の諸盆地には變態業行はる。名古屋は最新式の工業地帯にて、濱松もまた工業市として勃興せり。在來の國産たる陶磁器は陶土の豊かなる地域に擴がり、漆器は静岡・輪島に産す。...

チユー——チユー

は新たにこの間に勢力圏を確立し、所によつて大阪よりもむしろ名古屋と東京との對立をなす。貿易はシベリヤと取引する他は少額にて、大勢は輸出入とも、

にも亦見るべきものあり。山間各所には彌陀ヶ原・大日平・五色ヶ原・雪ノ平等の廣大なる熔岩臺地展開し、其の間には高山湖・瀧原・池等無數に点在し、山頂一帯は岩峯の連立と雪渓・御花畑を蔵き山腹は原始林に蔽はるる等、山岳国立公園として誇るに足る堂々たる景観を呈す。

に發するもの、一は直に北流して北隣東部面に於て、他は東南流して慶安川に合し曲流の後東隣農村面に於て、何れも漢江に注ぐ。耕地はこれらの流域と山の傾斜面とによく發達し、特に西部平地は地味肥沃にして農産に富む。米・麥・豆・

チユーフアン 中文面 朝鮮全編 南道濟州島の西南部に位置す。東北境に本島の首嶺漢陽山(一九五〇米)聳立し、本面はその西南斜面に當り比較的急傾斜を以て海岸に下り其間玄武岩の岩層及び火山岩角礫層として横はる。本島中に寄生火山の最も少なき地域に屬するも尙ほ中腹に法井岳・折岳・鹿下岳・龍羅伊岳・山麓には牛歩岳・弓山・東廻岳等噴起して單調を破る。斜面を土地利用の上より森林地帯(七〇〇米以上)・山間地帯(凡三〇〇米—七〇〇米)・中間地帯(凡一五〇米—三〇〇米)・海岸地帯(海岸より凡一五〇米の四地帯に分つ。森林地帯は古来の弊風たる盜伐濫採の悪習の厄を免れし地區にして松・樺・楡の美林相を有し、現今国有林として保存されつつあるが一部撈下によりて椎茸の栽培・製炭等行はれ、山間地帯は牛馬の放牧行はれ、中間地帯は開墾せられて風に耕地を成せども、地味瘦薄と施肥の不足により休閑耕作地及び主牧場地を成す。而して海岸地帯は殆んど耕地にして、火山灰砂土に加ふるに灌溉の利に乏しく、主に畑作農業行はるれども、上段里・中文里・江江里附近には湧泉及び河水の灌溉により精廣き水田ありて島内十二箇中、水田卓越地域を成す。農産物には大麥最も著はれ粟之に亞ぎ甘藷・青刈大豆・米・大豆・豌豆・蕎麥等あり。其他牛馬・鶏卵等あり。水産物には和布・鮑・鱒等ありて海

【中部山岳国立公園】 地域は新潟・長野・富山・岐阜の四縣に跨り、面積約一六九七〇〇(ヘクタール)(一七一、〇〇〇町歩)を占め、十二国立公園中第三位に位する一大山岳国立公園なり。本国立公園の區域は所謂日本北アルプスの全域に亘る廣大なる區域にして白馬・槍・穂高・乗鞍・立山等標高三千米級の高峯峻嶺並びに雄偉壯麗なる山岳風景を呈し、本邦第一の登山地たり。之等の高山に源を發する溪谷は豪壯雄麗なき黒川に優美なる双六谷、靜寂明麗なる上高地溪谷(梓川)を始め高瀬川・黒瀬川・稱名川等優れたるもの多く、之に認めらるる瀑布

野を展開す。農業を主産業とし、米の年生産四千萬圓は農産の大宗にして廿世、廿世、パナナ、檳榔實を主要農産物とす。畜産として水牛・黄牛は専ら農耕及び運搬に使役せられ、豚・鶏・鴨・鵞は一般農家に於て副業的に善く飼育せらる。工業は農産物の加工を主とし製糖及び製塩・精米の外見るべきものなし。礦業としては南嶺大字凍子脚に石油産區一七三萬餘坪を擁し、銅鑛中北隣嘉義市及び東南隣大埔庄間の道路は庄の中央部を貫通し、嘉義より凍子脚まで軌道(手押機車)の便を有し、これより東北隣番路庄の觸口に至る線を分岐す。西北部の平地帯には産業道路建設に開設せられたるも、東南部山地方は交通概して困難なり。管内はもと總て嘉義東堡に包含せられ、清の雍正年間まで、社口以東は阿里山蕃(ツォー族)居住す。當時この方面に於ては官設の通事を置き、専ら撫蕃の事に従はしめたり。由來阿里山蕃は割拠にして殺を好み、乾隆三十四年に至り、通事吳鳳の殉職以後漸く誠善の惡風を絶ちたり。これより先き漢人の手に依りて拓殖の緒に就き、乾隆初年林日壽なる者は西北部八獎・益水の兩溪合流の間にある頂六・下六の一帯を、次いで鄰國模範なる者南部の竹頭崎を開き、近接各地の開墾の進捗に伴ひ、移住者漸増し、中埔は地方の中心として發達せり。明治二十八年帝國領臺以來數次行政上の變遷を経て大

正九年十月に至り、地方制度の根本的大改正と共に、清領時代より存続し來りし堡は廢せられ、本庄は十九大字(もと各庄と稱す)を一括して中埔庄となり、臺南州嘉義郡に編入せられ、以て現在に至る。(吳鳳傳) 大字社口にあり、嘉義の東南約十二軒。清領時代阿里山蕃の通事たりし吳鳳を祀る。吳鳳二十四歲通事の職に就くや、仁徳を以て蕃人に接し、玉誠を以て之を導き、慈父の徳を重れたるに於て、然るに阿里山蕃の俗、祭式を率ぐるや必ず人首を供ふ。之が爲め支那より移住せる人民の蕃界に往來する者往々誠首の厄に遇ふ。吳鳳はこの惡習を匡正せんとして、常に蕃人に諭して四十七年の久しきに亘り其の害を絶ちたり。然れども四隣蕃社の通事は蕃人に迎合し、遊民を驅りて入山せしめ、蕃人の誠善に任せ、彼等の歡心を得るを事とせり。されば阿里山蕃のみ獨り詳究の間に超然たる能はず遂に乾隆三十四年八月一日、蕃人等社口の支解に大舉して來り首級を得んことを迫る。百方諭すも肯かず、茲に於て九日吳鳳は蕃人を引見し諭して曰く「人を殺すは天に悖り玉法具に存す、然れども強ひて求むるに於ては當に一人を與ふべし、明日此の支解の附近を遊遊する朱衣紅巾の入即ち是なり」と。蕃人感々として去る。翌八月十日、數十の蕃人弓矢劍矛を携へて支解を圍むに解令諭として人なく、西方遙かに朱衣紅巾の人間道を通

遊するを見る。即ち跳躍して之を撃ち、首を割れて逃視すれば彼等の師父と崇むる吳鳳なり。蕃人驚倒し終に屍を棄て、逸去す。吳鳳は事前家人に遺言して曰く「吾平生蕃人の誠善を誠むるも肯かず、遂に首級を與へんことを決す。然し乍ら天譴蕃社に降りて亦遺すなからん」と。偶々霖雨永く蕃山を閉ざし、疫癘大に起るや風の靈蕃社に現れ、白馬を驅りて雷を往き、之を見る者悉く死して餘さず、茲に於て蕃人怖れ職責の靈に謝し、埋石して爾後再び誠首せざるべきを誓ふ。是より蕃情一變し誠善の弊風は全く止り。後世その仁義を尊び廟を建て、之を祀る。明治四十五年表を慕りて更に廟を改築す。大正二年三月、佐久間總督親しく参拜して「殺身成仁の一扁額を供へ、以來成仁廟の別名を稱したり。昭和六年更に資を集めて第四回の廟舎を建て太田總督親臨して十二月二十三日盛大なる落成式を行ふ。之れ現存の廟舎にして爾後郡に於て之が經營に當り、参拜者踵を接して絶えず、史蹟として全国的に有名な存在たるに至れり。

チユーフアン

注文津 注文津 注文津

チユーヘーシヨ

仲坪場 仲坪場 仲坪場

チユーヘツ

忠別川 忠別川 忠別川

チユーホク

中埔庄 中埔庄 中埔庄

女の特産漁業は有名なり。道路は島内一週道路海岸地帯を横斷せる他は何れも山地と海岸との連絡道路にして未改修に屬し僅かに人馬を通ずるに過ぎず。粟落の九〇%以上は海岸地帯に分布し何れも集村型態を成し、格・嶺峯等の防風林を有する特色ある粟落景觀を呈す。

野を展開す。農業を主産業とし、米の年生産四千萬圓は農産の大宗にして廿世、廿世、パナナ、檳榔實を主要農産物とす。畜産として水牛・黄牛は専ら農耕及び運搬に使役せられ、豚・鶏・鴨・鵞は一般農家に於て副業的に善く飼育せらる。工業は農産物の加工を主とし製糖及び製塩・精米の外見るべきものなし。礦業としては南嶺大字凍子脚に石油産區一七三萬餘坪を擁し、銅鑛中北隣嘉義市及び東南隣大埔庄間の道路は庄の中央部を貫通し、嘉義より凍子脚まで軌道(手押機車)の便を有し、これより東北隣番路庄の觸口に至る線を分岐す。西北部の平地帯には産業道路建設に開設せられたるも、東南部山地方は交通概して困難なり。管内はもと總て嘉義東堡に包含せられ、清の雍正年間まで、社口以東は阿里山蕃(ツォー族)居住す。當時この方面に於ては官設の通事を置き、専ら撫蕃の事に従はしめたり。由來阿里山蕃は割拠にして殺を好み、乾隆三十四年に至り、通事吳鳳の殉職以後漸く誠善の惡風を絶ちたり。これより先き漢人の手に依りて拓殖の緒に就き、乾隆初年林日壽なる者は西北部八獎・益水の兩溪合流の間にある頂六・下六の一帯を、次いで鄰國模範なる者南部の竹頭崎を開き、近接各地の開墾の進捗に伴ひ、移住者漸増し、中埔は地方の中心として發達せり。明治二十八年帝國領臺以來數次行政上の變遷を経て大

正九年十月に至り、地方制度の根本的大改正と共に、清領時代より存続し來りし堡は廢せられ、本庄は十九大字(もと各庄と稱す)を一括して中埔庄となり、臺南州嘉義郡に編入せられ、以て現在に至る。(吳鳳傳) 大字社口にあり、嘉義の東南約十二軒。清領時代阿里山蕃の通事たりし吳鳳を祀る。吳鳳二十四歲通事の職に就くや、仁徳を以て蕃人に接し、玉誠を以て之を導き、慈父の徳を重れたるに於て、然るに阿里山蕃の俗、祭式を率ぐるや必ず人首を供ふ。之が爲め支那より移住せる人民の蕃界に往來する者往々誠首の厄に遇ふ。吳鳳はこの惡習を匡正せんとして、常に蕃人に諭して四十七年の久しきに亘り其の害を絶ちたり。然れども四隣蕃社の通事は蕃人に迎合し、遊民を驅りて入山せしめ、蕃人の誠善に任せ、彼等の歡心を得るを事とせり。されば阿里山蕃のみ獨り詳究の間に超然たる能はず遂に乾隆三十四年八月一日、蕃人等社口の支解に大舉して來り首級を得んことを迫る。百方諭すも肯かず、茲に於て九日吳鳳は蕃人を引見し諭して曰く「人を殺すは天に悖り玉法具に存す、然れども強ひて求むるに於ては當に一人を與ふべし、明日此の支解の附近を遊遊する朱衣紅巾の入即ち是なり」と。蕃人感々として去る。翌八月十日、數十の蕃人弓矢劍矛を携へて支解を圍むに解令諭として人なく、西方遙かに朱衣紅巾の人間道を通

遊するを見る。即ち跳躍して之を撃ち、首を割れて逃視すれば彼等の師父と崇むる吳鳳なり。蕃人驚倒し終に屍を棄て、逸去す。吳鳳は事前家人に遺言して曰く「吾平生蕃人の誠善を誠むるも肯かず、遂に首級を與へんことを決す。然し乍ら天譴蕃社に降りて亦遺すなからん」と。偶々霖雨永く蕃山を閉ざし、疫癘大に起るや風の靈蕃社に現れ、白馬を驅りて雷を往き、之を見る者悉く死して餘さず、茲に於て蕃人怖れ職責の靈に謝し、埋石して爾後再び誠首せざるべきを誓ふ。是より蕃情一變し誠善の弊風は全く止り。後世その仁義を尊び廟を建て、之を祀る。明治四十五年表を慕りて更に廟を改築す。大正二年三月、佐久間總督親しく参拜して「殺身成仁の一扁額を供へ、以來成仁廟の別名を稱したり。昭和六年更に資を集めて第四回の廟舎を建て太田總督親臨して十二月二十三日盛大なる落成式を行ふ。之れ現存の廟舎にして爾後郡に於て之が經營に當り、参拜者踵を接して絶えず、史蹟として全国的に有名な存在たるに至れり。

チユー——チユー

六五米)北斜面に發源して北流し、龍水江・松木江・古田川・加藤川・忠田川等の支流を合せ、楚山郡南部を、次で楚山郡・楚山郡の地を蛇曲流し、阿耳嶺(楚山郡城西)の北に於て鴨綠江に注ぐ。本流の流路延長一三八軒。江口より約五〇軒まで舟楫の便あり。流域は極めて平地に乏しと雖も、上流に至るまで落着き流し、下流附近には金の産多し。

チユーリ 中里

遼東全南郡の縣(大正十二年設置)。遼南道昌原郡内西面にあり。

チユーリヨ 中寮庄

遼東全南郡の東南部。地勢高燥にして東境北部に中心山、南部に集々大山(一四二七米)聳え、東部は山岳重疊として起伏し、漸次西方に傾斜して丘陵地となる。東部山地中心山・集々大山の各西麓より發源する平林溪及び漳平溪は共に丘陵間を蜿蜒屈曲して西流し、西隣南投街に入り、合して鴨綠溪となり、西北流して遠く島溪(大肚溪)に注ぐ。地勢上東部の山岳地帯を除く外は、總て丘陵性山地をなし、概ね傾斜をなす爲め農耕地として拓かれ、水田は溪流の沿岸に僅かに展開するに過ぎず。住民の大部分は農業を以て生業となし、地形上管内の農業は自ら地方的特色を發揮し、芭蕉を主作物となす。されば金山哈んと稱して芭蕉を以て蘇ぼる所跡からず。その生産高は州下各街庄の首位を占む。品質もまた優良にして、

内地及び朝鮮・滿洲等に移出せられ、産額を博す。外に水稲・陸稻・甘蔗・甘藷・蔬菜・落花生・柑橘・鳳梨等の農作物あり。畜産の主要なるは豚・牛・鶏等にして、豚は飼育頭數四千二百餘を算し、漸次増加する傾向にあり。水牛・黄牛は農耕及び運搬の役牛にて、鶏は在來種多く一般農家に着く飼育せらる。林業に於ては住民の愛林思想乏しく山林の經營方法また幼稚にて目前の利を得るに急なる傾向あり。従つて林産物として見るべきものなかりしが、近來國土保安等の見地より混農林及び民行造林を奨励し好成績を擧ぐ。工業としては農産物の加工即ち製糖・精米等の小工場各地に點在するも總て規模小にして見るべきものなし。然れども竹を原料とする芭蕉籠の製造は家内工業に過ぎざるも、副業として隆盛を極め、年生産は七萬餘圓に上る。交通の便は地勢に阻害せられ、道路の整備困難なるも、橋梁の架設容易ならざるに因り、交通路尙不完全の状態にあり。到る處鞍板路ありて交通機關少く、軌道(手押車)を主要なるものとす。南投集間の集々嶺は南部を、南投龍眼林間の龍眼林嶺は北部を各々東西に走り主要部落を結ぶ。集々嶺より暗坑・大坑・番子肥に至る三嶺を分嶺す。乘合自動車は未だ普及せず、南投・鄉親寮間に運轉せらるのみ。なほ明治製糖社線は最近管内まで延長せられ、交通運輸其他産業開發に

チユーリイ 忠頌

【忠頌】 廣尾嶺の一驛(昭和五年設置)。北海邊十勝國廣尾郡大樹村にあり。

チユーレキ 中塚

【中塚】 遼東全南郡一市八郡の一。新竹州の東北部を占め、西は遼東海峽に面す。地勢は東南部界に丘陵起伏すれども大部分は平坦にして、東北より西南に緩

傾斜し、土質は殆ど礫性粘土にして管内に河川乏しく、僅かに社子溪・老街溪・新街溪の小流を有するに過ぎず。何れも東南方丘陵地帯に源を發す。社子溪は楊梅・新街の兩庄を西北に向つて貫流し老街溪及新街溪は平嶺庄中塚街を東北に向ひ桃園郡に入り海に注ぐ。また桃園大嶺の大幹嶺貫流し、數條の支流を中塚・新街・觀音の三街庄に分流し廣大なる面積を灌漑す。本郡下は全島中塚街の健康地と稱せられ氣候は概ね中和にして寒暖の差比較的少く、夏季の最高氣温華氏九十三度強、最低氣温四十六度強なり、毎年一月下旬より四月上旬までを雨期とす。産業中最盛なるは農業にして、年産額七百萬圓に達す。其主要なるものは、米・茶・甘蔗・柑橘・果實類・落花生・蔬菜・西瓜・甘藷等なり。畜産は是を専業とする者少きも、各農戸に於ては、殆ど豚・黄牛・水牛・山羊・家禽を副業的に飼育し、其年産百八十萬圓に上る。然れども水牛・黄牛等は本島古來の習慣によりは食用とせず、専ら農耕に使役するのみ。工業には、製糖・精米・製糖・再製糖・煉瓦・織工・植物性油・木製品・下駄・草履・竹織工・麵類・菓子類・皮革製品・肝臟煉製・糞・傘等の工場ありて、その種類甚だ多岐に亘れども、製茶を除けば他は何れも規模小にして見るべきものなし。工業は年約五百萬圓。觀音・新街兩庄は遼東海峽に面するを以て、水産物を

其源を楊梅庄及び大嶺龍潭庄の丘陵地帯に發し漸次北進して細流を合し、街の中央部を相並行して東北に貫流し、桃園郡下に出で、海に注ぐ。此兩溪は共に常時水量甚しく少く、常に溪心を露出し居るも、迂曲傾斜の度宜しく降雨期を利用溜水する地池の利と相俟つて兩岸の田圃を灌漑するに足る。本街附近は土地高燥にして全島中塚街の健康地とせられ寒暖の差少し。毎年一月下旬より四月上旬までを雨期とす。本街は街衢たる大字與南の一部を除く他は純然たる農村にして、耕地面積六千五百甲歩に達し、うち水田面積は八割を占む。主要作物は米・茶・甘蔗・果實・蔬菜等なり。畜産は各農家に於て副業的に營まれるものにして豚・家禽を主として飼養す。當街は中塚郡の門戸をなし北は楚山、南は新竹・龍潭、西は觀音・新街に通じ、交通は四通八達、従つて物資集散の中心に位置し、商業上絶好なる地點にして人口は逐年増加し、市街は著しく膨脹を來しつゝあり。故に市街に於ける農産物の取引盛況を極め、同時に一般消費物資も頗る増加の趨勢にあり。工業に於ては、精刈糖・洋傘・砂糖・米粉製造工業あるのみにて其の産額も云ふに足らず。當街は峻險なる山崗なく概して平坦なる廣野なれば交通施設上遺憾とすべき處なし。鐵道は縱貫本街を通過し、街内に塚子脚・中塚の二驛を設く。道路には發賣道路のほか、州指定

出す、されど附近に良港なく漁船の碇泊すべき處なきを以て、其の漁業は小規模の沿岸漁業にして、少數の小型漁船を有するのみ。主なる水産物は鱈・鮑・蟹等にして五萬圓程度なり。本郡下の交通は甚だ便利にして、中塚・觀音道、中塚・龍潭道、平嶺・關西道、楊梅・峽頭道、老街道、大嶺道、觀音・大嶺道等の指定道路を有する他、近年各地に大小産業道路開設せられ、自動車の運行繁し。鐵道は本郡下を遼東發賣線の通過するあり、郡下に、塚子脚・中塚・平嶺・楊梅の四驛を設く。また桃園・中塚・楊梅の三軌道會社の手押軌道は縱横に發達し、郡下の交通を助くる事大なり。本郡の地は清領當時建てられたる桃園堡・竹北二堡に屬する地にして、其開拓は清の雍正初年にあり。主として廣東人の占有する地なり。上記二堡は我領發達に到るも、其行政區劃として用ひられしが、大正九年十月地方制度改正に際し、上記二堡中の一部分を分轄集令して一郡を建て、中塚郡と稱し、其下に一街四庄を置き、新竹州の管下に屬せしめたり。

チユー——チユー

【中塚街】 遼東全南郡中塚郡の東北部。本街の地勢は概ね平坦にして、海拔は四百尺乃至二百尺の間であり、東南より西北に向ひて緩傾斜す。地質は第三紀層にして概ね礫性粘土なり。管内一帯は起伏少く河川と稱するものはただ老街溪・石頭溪の二小流あるのみ。此の二流は共に

【中塚】 縱貫線の一驛(明治二十九年設置)。遼東全南郡中塚郡石頭庄にあり。

敏ず。例祭、陰曆九月五日。

【中和庄】臺灣臺北州海山郡の略東部。東及び北は淡水河の上流なる新店溪を隔て、臺北市に面す。管内の北半は平地にして、南半は概ね山地をなし、所謂臺北盆地の南縁をなす、産業中最も盛なるは農業にして農産物年約一二〇萬圓に達す、その主要なるものは米・粗製茶・甘蔗・蔬菜・落花生・黄蘗・香花等に於て、その外、柑橘・芭蕉・龍眼等の果實生産あり。畜産は農家に於いて副業的に行はるるを主とし、豚・水牛・黄牛・家禽等飼育せられ、牛類は専ら農務役に用ひられ、庄の南部山地よりは若干の林産物を出す、即ち木炭・薪・竹材・生竹等約一萬圓の生産額あり。水産は専ら新店溪より捕獲せらるる鮎・鯉・鱈等の淡水魚なり。就中鮎は臺北市に搬出せらるる物多し。農産物は石炭・コークス・石灰等にして年額二〇萬圓を出す。工業に於いてはその種類、製糖・精米・木製品・織工・製糖・煉瓦類・瓦類・竹細工・石灰・陶磁器・金銀機及び製香あり甚だ多岐にわたれども何れもその規模小にて摘記すべきものなし。庄下の交通は甚だ便利にして大字潭和を中心とし道路網四通八達し、又昭和十二年に於いては中和橋の完成を見、臺北市との連絡一層緊密となり、庄下物産の搬出入に大なる利便を與へつゝあり。本庄の地は、清領當時建てられたる墾墾に屬し、其開拓の日

遠く、續修臺灣府志の記すところによれば、當時本庄山地方は藪野なる森林にして、僅に拙小屋の散在せしを知る。即ち大字潭和に土名坊寮の存するは拙小屋の意なり。然して附近に村莊を形成せしは、嘉慶以後の事に屬す。據接とは、往時此地に住せし平埔蕃族パイタイ社のありしに出で、是に宛てたる近音譯字なり。明治二十八年我領臺後本庄は行政區劃として用ひられしが、大正九年十月根本的行政制度改正に際し、本庄中より十庄(現大字)を割きて一區劃を形成しこれを中和庄とし臺北州海山郡の管轄下に入れたり。【開通寺】大字外員山に在り。本島舊慣による尼寺にして、規模大、大なる佛像等を以て名高く、又高臺に位置して景色雄大なれば、四時訪客多し。

【中和郡】朝鮮平安南道の南部。道管内二府十四郡の一。北は大同郡・江東郡に接し、西は大同江を隔てて江西・龍岡の二郡と相對し、東は黃海道遼寧郡、南は同黃州郡と接す。面積九〇五方軒。地形は東西の長徑約六〇軒の狭長をなし中央の最狭部は僅に六軒にして、これを鐵道京義線南北に貫通す。この地は東西兩部の地形上の交界點に當り、以東は山岳丘陵起伏し特に東南端の龍岫山(八七九米)・五峰山(七八二米)・北嶺の高嶺山(五四三米)・帝雲山及び龍雲山は顯著なり。以西は概して平坦、昆陽江流域は頗

る肥沃なり。河川は其他東部に鮮原江・文淵川・茂辰川等發し何れも北流して南江又は大同江に合し、東南部に黃州川の支派發し、此等の流域にもやや廣き平地ありて耕地拓く。耕地面積六萬ヘクタール餘の内、水田半ばより稍多く、畑作も田(畑)作改良耕作組合四一個を算して、一般に農事經營は進歩せり。主要農産物には米(五・四萬石)・麥(約五萬石)・小豆・稗・大豆の順(一・一萬石)・小豆・大豆・棉(七三萬斤)・胡葵及び各種の蔬菜等に於て、ヘアリベットの栽培も行はる。その他苹果(四八萬貫)を産し、副業には養蠶・牧畜・養鶏・製紙製造等何れも盛にして、産物六萬圓に達し牛は特に多く郡内四箇所の牛市に於ける生牛取引は一萬八千頭、一六六萬圓を示し、牧羊また行はる。山林は多く幼齡林なるも玉露峰には四五ヘクタール餘の遺蹟あり、各所にブナ・ササギ等の速成造林行はれ、林産には栗(四萬圓)・薪材等を多く出す。鐵産には水銀・鐵・銅・金・銀・高嶺土等あり。工業は未だ工場工業興らざるも、綿織物・醬油・小麥粉・朝鮮紙及び大同江産の白魚の加工品等やや著はる。交通、前記鐵道に並行して一等道路京義線を通す外、東外部を平壤・議政府間二等道路貫きてハスの便あり、其他三等道路三線を通じ、大同江には舟楫を通じ、交通便なり。行政上十一箇面に分ち、郡廳を中和面に置く。

郡邑は郡邑中和のほか、東部の鮮原、西部の石陽(楊丹)・瑞浦(海陽)等がそれぞれ地方的産業・交通の中心をなす。中和邑の東北、東面龍岫山に高句麗始祖の陵なる東明王陵、中和面龍岫山に日清戦役の戦蹟なる朱泉亭あり。また龍岫山には佳味宮の大鐘乳洞、瑞浦附近には海陽富士(三三三米)の景勝あり。沿革、高句麗の火加押、新羅の唐居麻の地に於て、高麗朝に入りて西京(平壤)に屬し、次で中和郡と改む。李朝に入り府に降せしが、明治二十八年郡に改め、大正三年三月鮮原郡を併せ、昭和四年四月行政區域十五箇面を十一箇面に廢合して今日に至る。

鐵道京義本線と京義一等道路、中央を南北に並走し、前者に中和驛(明治四十一年設置)あり、邑内を中心と道路網の發達を見、交通便なり。中和邑は面の正中に位し、華民里・草龍里を含む地域の汎稱にして、人口二千五百餘(うち内地人約一六〇)、郡廳・警察署・方法法院出張所・穀物検査所・苹果検査所等の官署を始め、小学校・金融組合等あり、商取引は極めて盛にして毎月三・八の日に開く邑市場は年取引高三〇萬圓に近く、同日に開く家畜市場の賣買高は八〇萬圓を超す。京義線の沿線にて黃海道との界に近き龍岫山に朱泉亭あり、明治二十七八年戦役に町口中尉以下六名戦死せし地に於て、忠魂碑及び堂宇を建つ。西部の眞栗里には藥水湧出し、夏季遠近より來浴する者多し。

庄に屬す。村内に千代の松・唐澤の龍等の名所あり、唐澤の瀧は高さ二〇米、幅一米あり。【法全寺】大字法全寺にあり。臨濟宗妙心寺派。瑞行山と號し、應永四年の創建。開基は當郡神の峰城主知久藤正少朝臣岳にして開山を自明休和尚とす。【野池社】大字千代村に鎮座。神、伊豆早雄命。創立年代詳ならずれど口碑に外安賀多命鎮座の地と稱し、境内に一地の古墳を存し、南山總領守と稱す。例祭、九月二十七日。

軍と此處に會し忠州に入りしといふ。いま李朝肅宗王三十四年に築きし第一關門及び城壁の址あり。一等道路京義線はこの險を超え、忠州より慶北山村方面に定期自動車を通す。

豐なり。住民の大部分は農業に努むる傍ら漁業及養蠶に従事し、専業者比較的少なし。農産物の主なるものは米・大豆・蔬菜等に於て生牛・家禽の生産亦尠ならず。水産物には鱈・石首魚・太刀魚・貝類等あり。道路網は比較的密なるも等外路にして改修未だ充分ならず地方的のものたるに過ぎず。

【千代村】長野縣信濃國下伊那郡の中部。天龍川の左岸、飯田市の東南約一二軒。東南端に金泰山・龍懸山及び北端に印月山など何れも千米以上の高山連立し、それ等の山脚何れも西方に延び天龍川に迫る。隨つて村内概ね山地をなし北部に發源せる小流西流して西南端に於て天龍川に合す。主産業は養蠶業にして丘陵面に桑園ひらけ、また沿岸に水田ありて米を出す。社線三信鐵道通じて千代・金野の二驛(共に昭和七年設置)を置き、また飯田市へはバス通ず。この地は近世、南山

【千代】福岡縣筑紫郡にありし村。大正元年町制を布きし昭和三年千代町を廢しその地域を福岡市に編入す。

【鳥島】朝鮮の南部、小白山脈にある岬。一に梨花嶺、忠清北道機山郡と慶尙北道開豊郡との境に位し、北は文徳山に、南は白華山に連る。西方に漢江支流達川、東方に洛東江の支流瀛江を發源せしむる分水嶺にして、最高點五四八米。古來、東北方の竹嶺と共に忠清・慶尙兩道を繋ぐ重要交通路にして、忠清北道側の延豊面内、約五軒に關所あり。文祿の役に小西行長、韓將を運うて加藤清正の

【長安郡】朝鮮京畿道水原郡の西南部。長雨半島の東中部を占む。建山及び種風山の餘勢域内に及び、城内丘陵起伏すれども丘陵よく開墾され耕地發達し農産

【鳥嶺】朝鮮の南部、小白山脈にある岬。一に梨花嶺、忠清北道機山郡と慶尙北道開豊郡との境に位し、北は文徳山に、南は白華山に連る。西方に漢江支流達川、東方に洛東江の支流瀛江を發源せしむる分水嶺にして、最高點五四八米。古來、東北方の竹嶺と共に忠清・慶尙兩道を繋ぐ重要交通路にして、忠清北道側の延豊面内、約五軒に關所あり。文祿の役に小西行長、韓將を運うて加藤清正の

【長安郡】朝鮮京畿道水原郡の西南部。長雨半島の東中部を占む。建山及び種風山の餘勢域内に及び、城内丘陵起伏すれども丘陵よく開墾され耕地發達し農産

【長安郡】朝鮮京畿道水原郡の西南部。長雨半島の東中部を占む。建山及び種風山の餘勢域内に及び、城内丘陵起伏すれども丘陵よく開墾され耕地發達し農産

【長安郡】朝鮮京畿道水原郡の西南部。長雨半島の東中部を占む。建山及び種風山の餘勢域内に及び、城内丘陵起伏すれども丘陵よく開墾され耕地發達し農産

重して農作物を産す事甚し。農業は庄下諸種産業中最重要なものにして、其産額最も多し、其主産とするものは、米・甘蔗・甘藷・豆類等にして、就中米は、將來陸軍治水工事の完成の賜には、多額の増収を見るべく、國産作物としては、芭蕉・鳳梨等を出し、特殊農作物として、黄麻・苧麻・鹿麻・綿・煙草等栽培せらるるも産額多からず。畜産は農業に次ぎ重要な産業にして、農家に於ては是を副業とする者多く、主として、豚・水牛・黄牛・家禽の飼育をなし、相當数の肉豚管外に輸出せらる。牛は主として農耕用として使役せられ、本島人は古來の習慣上よりして是を食する事なし。工業に於ては殆ど見るべきものなく、交通は便しく、道路も完備し、自動車運行せらる。本庄の地、其沿革詳ならずれどももと平埔蕃族マカッサオ部族の領域せし地にして、漢民族の此地方に侵入し來れるは、康熙の中葉にあり。其後漢民族は平埔蕃族と雜居して耕作、交易に従事せしが、清領に入りて漢人移入の多き者増加せし結果次第に山地方面に壓迫退却を餘なくせられたり。清領當時一里を建て、港西里とす、其後を上中下の三里に分ちしが本庄は、其中里に屬す。港西里は、明治二十八年我領後後も引續き行政區劃の一として用ひられしが、大正九年九月十月、地方制度の根本的改正に際し、本里中より四庄(現大字)の地を

分轄して一庄とし、長興庄とし、高峯川界東部の管轄をせしめたり。【長興面】朝鮮全羅道南道蔚安郡の西北に北接す。西境には北大嶽山脈の支脈として五百六百米の高度を示すも東方に傾斜して百一二十米の高度を示すも東方に傾斜して東流する龍興江は、東嶽山脈に於て東部丘陵地を灌溉する支谷を穿れ、この附近一帯には特に肥沃なる田畑拓く。産物は米・小豆・大豆・栗等の農産を主とし、長興嶺山より土狀黒鉛(昭和十年の産額五、一六萬圓、一〇・五萬圓)を出す。元山會館間一等道路東部を南北に走りてバスの便あるも、里道は路面住良なるもの少く、交通や不便なり。南東部龍興江を隔てて水興邑と相對する院下里に面事務所を置く。【長興面】朝鮮京畿道楊州郡の西部。郡邑議政府の西三軒、京城府を距る北約一〇軒にあり。南方北嶽山の山脈、一は南部高嶺郡神道との境を劃して上將峰(五一八米)・老姑山等を連れ、一は北に延びて道峯山(七七一米)に接し、北部、西部にも丘陵起伏して平地に乏しきも、南西の一部に拓け、漢江支流西陵川中央を灌溉して西南流し、この流域と山脈地とに耕地發達す。産物は米・薯・棉・繭。道路四通して東議政府、西高陽(岩蹄面)、南は北嶽山脈を経て京城府に通ずるも交通未だ便ならず。

【長興面】朝鮮全羅道南道蔚安郡の西南に北接す。東嶽山脈の支脈にして五百六百米の高度を示すも東方に傾斜して百一二十米の高度を示すも東方に傾斜して東流する龍興江は、東嶽山脈に於て東部丘陵地を灌溉する支谷を穿れ、この附近一帯には特に肥沃なる田畑拓く。産物は米・小豆・大豆・栗等の農産を主とし、長興嶺山より土狀黒鉛(昭和十年の産額五、一六萬圓、一〇・五萬圓)を出す。元山會館間一等道路東部を南北に走りてバスの便あるも、里道は路面住良なるもの少く、交通や不便なり。南東部龍興江を隔てて水興邑と相對する院下里に面事務所を置く。【長興面】朝鮮京畿道楊州郡の西部。郡邑議政府の西三軒、京城府を距る北約一〇軒にあり。南方北嶽山の山脈、一は南部高嶺郡神道との境を劃して上將峰(五一八米)・老姑山等を連れ、一は北に延びて道峯山(七七一米)に接し、北部、西部にも丘陵起伏して平地に乏しきも、南西の一部に拓け、漢江支流西陵川中央を灌溉して西南流し、この流域と山脈地とに耕地發達す。産物は米・薯・棉・繭。道路四通して東議政府、西高陽(岩蹄面)、南は北嶽山脈を経て京城府に通ずるも交通未だ便ならず。

交通、順天、平海、南浦二郡一帯の東に、南浦海に位置す。東南一帯は海に臨み、地南北に長し。地勢、東、北、西、南、四面を以て繞らし、東に帝(七八八米)、北に國師峯(六一三米)、南には天冠山(七二二米)等あり、餘嶺域内に於て丘陵地帯に起伏す。臨して東は急峻にして西方に低夷す。河川の著名なるものを龍津江とし、西北境龍智山に發して南流し、月出山(八〇九米)より流るる錦江と長興邑南方に會し、西流して龍津海に注ぐ。また東嶽山脈内に發源する亭子川ありて東北部を灌溉し、東折して寶城郡に匯り、錦津江に合す。二川の兩岸は廣闊なる平野を擁し、殊に長興平野は地城大きく、地味肥沃、灌溉また便利にして、極めて農耕の業に適す。海岸は頗る屈曲に富み、長財島・長串島・東嶽島・老力島等の島嶼を合する時は一二軒に達し、漁獲の利に富むも、淺海にして、良油として擧ぐべきは水門門ありのみ。産業、住民の大多數は農業に従事し、米産最も多く、薯・棉・大豆等これに次ぎ、副業として養蠶及び吹製等盛に行はる。水産は鱈・鱒・鮑・鰈及び海苔・布苔・若布・てんぐさ等の産多く、殊に海苔の養殖は盛なり。工業は前記製製品及び乾海苔は最も重要なものにして、其他布・綿布・金屬製品、並に乾製等の水産製造多し。

チヨイコク 長谷面

朝鮮忠清南道洪城郡の東南部。郡邑洪城の南約九軒。西南端には烏嶺山(七九一米)屹立し、山脈東走して保寧・青陽二郡との境を劃し、餘嶺は更にのびて東北部に丘陵地を形成す。河川は東部青陽郡との境に無原川。西部に金馬川あり何れも北流し殊に後者の流域にやや廣き平地あり。耕地はこの平地の外、丘陵地帯に於て發達し、米・薯・棉・大麻・莞草等の産あり、養蠶行はれ、また新米・花時・五峰の各嶺山ありて金・銀を出す。三等道路中央を東西に貫き、東は青陽邑に、西は京南道洪城の廣川(廣川面)に出づるに便なり、烏嶺山は奇岩峭立し、登攀の地として名あり、東部の山城里の丘上に山城址あり。

チヨイサ 帖佐村

朝鮮全羅道南道蔚安郡の西南に北接す。東嶽山脈の支脈にして五百六百米の高度を示すも東方に傾斜して百一二十米の高度を示すも東方に傾斜して東流する龍興江は、東嶽山脈に於て東部丘陵地を灌溉する支谷を穿れ、この附近一帯には特に肥沃なる田畑拓く。産物は米・小豆・大豆・栗等の農産を主とし、長興嶺山より土狀黒鉛(昭和十年の産額五、一六萬圓、一〇・五萬圓)を出す。元山會館間一等道路東部を南北に走りてバスの便あるも、里道は路面住良なるもの少く、交通や不便なり。南東部龍興江を隔てて水興邑と相對する院下里に面事務所を置く。【長興面】朝鮮京畿道楊州郡の西部。郡邑議政府の西三軒、京城府を距る北約一〇軒にあり。南方北嶽山の山脈、一は南部高嶺郡神道との境を劃して上將峰(五一八米)・老姑山等を連れ、一は北に延びて道峯山(七七一米)に接し、北部、西部にも丘陵起伏して平地に乏しきも、南西の一部に拓け、漢江支流西陵川中央を灌溉して西南流し、この流域と山脈地とに耕地發達す。産物は米・薯・棉・繭。道路四通して東議政府、西高陽(岩蹄面)、南は北嶽山脈を経て京城府に通ずるも交通未だ便ならず。

チヨイサン 長山

朝鮮全羅道南道蔚安郡の西南に北接す。東嶽山脈の支脈にして五百六百米の高度を示すも東方に傾斜して百一二十米の高度を示すも東方に傾斜して東流する龍興江は、東嶽山脈に於て東部丘陵地を灌溉する支谷を穿れ、この附近一帯には特に肥沃なる田畑拓く。産物は米・小豆・大豆・栗等の農産を主とし、長興嶺山より土狀黒鉛(昭和十年の産額五、一六萬圓、一〇・五萬圓)を出す。元山會館間一等道路東部を南北に走りてバスの便あるも、里道は路面住良なるもの少く、交通や不便なり。南東部龍興江を隔てて水興邑と相對する院下里に面事務所を置く。【長興面】朝鮮京畿道楊州郡の西部。郡邑議政府の西三軒、京城府を距る北約一〇軒にあり。南方北嶽山の山脈、一は南部高嶺郡神道との境を劃して上將峰(五一八米)・老姑山等を連れ、一は北に延びて道峯山(七七一米)に接し、北部、西部にも丘陵起伏して平地に乏しきも、南西の一部に拓け、漢江支流西陵川中央を灌溉して西南流し、この流域と山脈地とに耕地發達す。産物は米・薯・棉・繭。道路四通して東議政府、西高陽(岩蹄面)、南は北嶽山脈を経て京城府に通ずるも交通未だ便ならず。

チヨイサンカン 長山串

朝鮮全羅道南道蔚安郡の西南に北接す。東嶽山脈の支脈にして五百六百米の高度を示すも東方に傾斜して百一二十米の高度を示すも東方に傾斜して東流する龍興江は、東嶽山脈に於て東部丘陵地を灌溉する支谷を穿れ、この附近一帯には特に肥沃なる田畑拓く。産物は米・小豆・大豆・栗等の農産を主とし、長興嶺山より土狀黒鉛(昭和十年の産額五、一六萬圓、一〇・五萬圓)を出す。元山會館間一等道路東部を南北に走りてバスの便あるも、里道は路面住良なるもの少く、交通や不便なり。南東部龍興江を隔てて水興邑と相對する院下里に面事務所を置く。【長興面】朝鮮京畿道楊州郡の西部。郡邑議政府の西三軒、京城府を距る北約一〇軒にあり。南方北嶽山の山脈、一は南部高嶺郡神道との境を劃して上將峰(五一八米)・老姑山等を連れ、一は北に延びて道峯山(七七一米)に接し、北部、西部にも丘陵起伏して平地に乏しきも、南西の一部に拓け、漢江支流西陵川中央を灌溉して西南流し、この流域と山脈地とに耕地發達す。産物は米・薯・棉・繭。道路四通して東議政府、西高陽(岩蹄面)、南は北嶽山脈を経て京城府に通ずるも交通未だ便ならず。

チヨイサンジ 長山寺會

朝鮮全羅道南道蔚安郡の西南に北接す。東嶽山脈の支脈にして五百六百米の高度を示すも東方に傾斜して百一二十米の高度を示すも東方に傾斜して東流する龍興江は、東嶽山脈に於て東部丘陵地を灌溉する支谷を穿れ、この附近一帯には特に肥沃なる田畑拓く。産物は米・小豆・大豆・栗等の農産を主とし、長興嶺山より土狀黒鉛(昭和十年の産額五、一六萬圓、一〇・五萬圓)を出す。元山會館間一等道路東部を南北に走りてバスの便あるも、里道は路面住良なるもの少く、交通や不便なり。南東部龍興江を隔てて水興邑と相對する院下里に面事務所を置く。【長興面】朝鮮京畿道楊州郡の西部。郡邑議政府の西三軒、京城府を距る北約一〇軒にあり。南方北嶽山の山脈、一は南部高嶺郡神道との境を劃して上將峰(五一八米)・老姑山等を連れ、一は北に延びて道峯山(七七一米)に接し、北部、西部にも丘陵起伏して平地に乏しきも、南西の一部に拓け、漢江支流西陵川中央を灌溉して西南流し、この流域と山脈地とに耕地發達す。産物は米・薯・棉・繭。道路四通して東議政府、西高陽(岩蹄面)、南は北嶽山脈を経て京城府に通ずるも交通未だ便ならず。

奥足井・桑木場・獨岩等あり。

【長海郡】朝鮮黄海道義州郡の南部西側。郡邑義州の西約九軒。東境に長海山脈あり、東南部は地勢峻峻、西部に相峯峰(四六二米)を最高とする丘陵地連なるも、北部と中央部に平地あり、殊に北部平地は廣く、東北境を南流する義州江とその支流との流域に位置し、且つ義州水利組合の灌漑地域に属するを以て各種の農産に富む。耕地はその他丘陵地にもよく発達し、農産に米・小麦・棉・果實等あり、養蚕・養蠶も盛なり。社稷義海嶺は中央を走り長海山・末力の二群(何れも大正十三年設置)あり、また義州・海州間二等道路を始めバスを通ずる道路ありて交通不便ならず。長海山北麓には古刹あり、附近は楓葉林をなす。西北境に義州水利組合の大貯水池明水地あり。

【長春郡】朝鮮慶尙北道義州郡の西南部。郡邑義州の西南約五軒。西境に走馬山(五〇七米)峰あり、その山脚北に延びて西境を劃するも一般に低平にて僅かに丘陵起伏するに過ぎず。耕地よく発達せるも灌漑一般に不利にして畑作農産行はる。住民の大部は農業に従事し、副業として養蠶・養蠶に従ふもの少なからず。産物は米・大豆・大豆等を始め、明神・綿布・産毛等の工業品にして、鐵産に金・マンゲステン等の埋蔵あるも、後者は未だ採行に至らず。東北方榮州より来る三等道路は面の略中央を過ぎ西南方龍泉に至る。

同じく漢嶺を越え鐵路と並走して長城に至りこれより東南方州府に通ず。其他龍光・松汀里・潭陽・高敞等に五三等道路ありて交通頗る便なり。本郡はもと百濟の古戸伊・蒙山・丘斯珍等の三縣ありしにして、新羅眞德王の時に碑城・珍原の諸縣となり、高麗朝に至り長城縣と稱す。宜祖の時珍原縣を合し、邑を長城郡山山に移し、高宗の時(明治二十八年)始めて郡守を置く。大正三年府郡廢合に際し、龍光郡の一部たる義漢・義西の二郡、咸平郡の一部たる東北面の一部を編入し、甲地郡を潭陽郡に割き十三面となし、同十一年郡廳を現地に移し、昭和七年長城・北三兩郡を廢合して今日に至る。

【長城郡】朝鮮全羅南道長城郡の東部。東境に佛臺山(七三八米)聳え、其餘勢東中部を占めて山地を成せども西中部は低平にして黃龍江其間を流し、地味肥沃にして農産力に富む。住民の多くは農業に従事し、又長城邑には少数の商工業者あり。農産物に米・大豆・大豆・雜穀・煙草・棉花等、また工業物には紙・陶磁器・漆器・笠・吹・絹布等ありて一般に富裕なり。東南方光州府に通ずる一等道路は面の西部を西北に縱貫し又支線として東方潭陽に三等道路を成り、鐵道湖南線長城郡西南境に近く位置し此地を起點として前記諸道にバスを通じ交通便なり。粟落は主として西部低地に分布す。長城は

建し、平川にして車馬の通行自在なるも其他は等外路線にて道幅狭く不便なり。面邑盤邱里には警察官駐在所・學校及び診療所あり。八の日に開く市場あり。

【愛知縣】の略稱。 長州 長門國(山口縣)の略稱。

潮州 臺灣高雄州二市七郡の一。州の東南部に位置す。東は中央山脈に依り臺東縣に接し、北は隘寮溪を隔て、屏東縣に對し、南は竹坑溪及尖山鼓翠山・女仍山脈を以て恒春郡に接し西は一部東港郡に接する外大部分海に面す。面積の三分二は蕃地にして山嶽起伏し東北に大武山あり。河川は北に隘寮溪、南に楓港溪西流し、その間に東港溪・林邊溪・スゴン溪あり、何れも海を中央山脈に發す。十月より四月に至る間は乾燥期にして降雨稀なるも、五月より九月までは豪雨降る。來り一年の雨量二千乃至四千に達す。夏季長くて冬季短く、四季を通じて気温の差少し。もと平地番マカッサオ部族、アイイ(カキ)の所在地なり。清康熙中葉、閩の泉人施文標なる者此地地方に來り土蕃の地を墾得してより移民相次ぎ、又始と同時に粵人の移住者北部地方を根據地として來り乾隆中葉には潮州街を形成せり。此等の地方は鳳山縣の管轄なりしが光緒元年(明治八年)恒春縣新設さるゝ

や、枋山庄の地(スゴン溪以南)は其の管轄に編入され、他は阿敏分縣、枋寮分司に統治せられたり。領臺後臺南縣・鳳山縣・臺南縣・阿敏縣等に屬せしが大正九年、阿敏縣は高雄州に屬し、潮州・枋寮・枋山の三支廳を合して潮州郡とし郡役所を潮州に設けり。産業は農業を主とし米四三八萬圓・甘蔗一三八萬圓・芭蕉六〇萬圓・甘藷二八萬圓・蔬菜二二萬圓・柑橘四萬圓・畜産は牛六萬圓・豚五十五萬圓・鶏一萬圓、其他八萬圓、水産はゴウ・イシモチ・鰯等二萬五千圓、其他木炭五萬圓、鹽詰・竹細工・木製品・煉瓦等を産す。

【潮州街】臺灣高雄州潮州郡の一街。雍正四年、廣東省潮州府の住民此地に移住し來り、未墾の地を開きて農業を開始せしが、其後逐年移住者増加し、乾隆年間には臺南より商賣の來住するあり、同二十五年頃には皮仔街を形成せり、俗稱潮州街を以てせしが後年これが本名となれり。清朝時代鳳山縣に屬せしが、領臺以後臺南縣・阿敏縣に屬し大正九年改正により高雄州潮州郡潮州街と稱し、更に昭和十一年十月街制施行、潮州街と稱するに至れり。産業は農業を主とし米六十五萬圓・甘蔗二十五萬圓・甘藷七萬圓・芭蕉六萬七千圓・蔬菜七萬圓等とし、畜産は牛十三萬圓・豚十七萬圓等。その他工業百十二萬圓とす。(潮州神社)北白川宮能久親王を奉祀、昭和十一年建立。

【潮州街】臺灣高雄州潮州郡の一街。雍正四年、廣東省潮州府の住民此地に移住し來り、未墾の地を開きて農業を開始せしが、其後逐年移住者増加し、乾隆年間には臺南より商賣の來住するあり、同二十五年頃には皮仔街を形成せり、俗稱潮州街を以てせしが後年これが本名となれり。清朝時代鳳山縣に屬せしが、領臺以後臺南縣・阿敏縣に屬し大正九年改正により高雄州潮州郡潮州街と稱し、更に昭和十一年十月街制施行、潮州街と稱するに至れり。産業は農業を主とし米六十五萬圓・甘蔗二十五萬圓・甘藷七萬圓・芭蕉六萬七千圓・蔬菜七萬圓等とし、畜産は牛十三萬圓・豚十七萬圓等。その他工業百十二萬圓とす。(潮州神社)北白川宮能久親王を奉祀、昭和十一年建立。

長城郡廳の所在地にして警察署・地方法院出張所・郵便所・金融組合・耕作組合・畜産組合・森林組合・米穀大豆及び吹檢査所・小學校等ありて内地人居住者三五〇餘人の多きに達す。鐵道湖南線長城郡は鈴泉里にありて長城の南方四軒に位置し湖南線開通と共に發達を見し交通繁盛にしてまた經濟の中心繁華を成し、現住人口三千餘人に達し、米豆蠶賦檢査所・小學校・朝鮮會社出張所等ありて内地人居住者三〇〇餘人に達す。また月坪里市場ありて市場取引物は棉花・生牛類を主とし米穀その他の年取引額二〇餘萬圓に達す。(東山神社)無格社。祭神、明治天皇・昭憲皇太后。大正六年創立。例祭、四月十五日・十一月三日。

チヨー

【潮州街】臺灣高雄州潮州郡の一街。雍正四年、廣東省潮州府の住民此地に移住し來り、未墾の地を開きて農業を開始せしが、其後逐年移住者増加し、乾隆年間には臺南より商賣の來住するあり、同二十五年頃には皮仔街を形成せり、俗稱潮州街を以てせしが後年これが本名となれり。清朝時代鳳山縣に屬せしが、領臺以後臺南縣・阿敏縣に屬し大正九年改正により高雄州潮州郡潮州街と稱し、更に昭和十一年十月街制施行、潮州街と稱するに至れり。産業は農業を主とし米六十五萬圓・甘蔗二十五萬圓・甘藷七萬圓・芭蕉六萬七千圓・蔬菜七萬圓等とし、畜産は牛十三萬圓・豚十七萬圓等。その他工業百十二萬圓とす。(潮州神社)北白川宮能久親王を奉祀、昭和十一年建立。

【潮州街】臺灣高雄州潮州郡の一街。雍正四年、廣東省潮州府の住民此地に移住し來り、未墾の地を開きて農業を開始せしが、其後逐年移住者増加し、乾隆年間には臺南より商賣の來住するあり、同二十五年頃には皮仔街を形成せり、俗稱潮州街を以てせしが後年これが本名となれり。清朝時代鳳山縣に屬せしが、領臺以後臺南縣・阿敏縣に屬し大正九年改正により高雄州潮州郡潮州街と稱し、更に昭和十一年十月街制施行、潮州街と稱するに至れり。産業は農業を主とし米六十五萬圓・甘蔗二十五萬圓・甘藷七萬圓・芭蕉六萬七千圓・蔬菜七萬圓等とし、畜産は牛十三萬圓・豚十七萬圓等。その他工業百十二萬圓とす。(潮州神社)北白川宮能久親王を奉祀、昭和十一年建立。

【潮州街】臺灣高雄州潮州郡の一街。雍正四年、廣東省潮州府の住民此地に移住し來り、未墾の地を開きて農業を開始せしが、其後逐年移住者増加し、乾隆年間には臺南より商賣の來住するあり、同二十五年頃には皮仔街を形成せり、俗稱潮州街を以てせしが後年これが本名となれり。清朝時代鳳山縣に屬せしが、領臺以後臺南縣・阿敏縣に屬し大正九年改正により高雄州潮州郡潮州街と稱し、更に昭和十一年十月街制施行、潮州街と稱するに至れり。産業は農業を主とし米六十五萬圓・甘蔗二十五萬圓・甘藷七萬圓・芭蕉六萬七千圓・蔬菜七萬圓等とし、畜産は牛十三萬圓・豚十七萬圓等。その他工業百十二萬圓とす。(潮州神社)北白川宮能久親王を奉祀、昭和十一年建立。

【潮州街】臺灣高雄州潮州郡の一街。雍正四年、廣東省潮州府の住民此地に移住し來り、未墾の地を開きて農業を開始せしが、其後逐年移住者増加し、乾隆年間には臺南より商賣の來住するあり、同二十五年頃には皮仔街を形成せり、俗稱潮州街を以てせしが後年これが本名となれり。清朝時代鳳山縣に屬せしが、領臺以後臺南縣・阿敏縣に屬し大正九年改正により高雄州潮州郡潮州街と稱し、更に昭和十一年十月街制施行、潮州街と稱するに至れり。産業は農業を主とし米六十五萬圓・甘蔗二十五萬圓・甘藷七萬圓・芭蕉六萬七千圓・蔬菜七萬圓等とし、畜産は牛十三萬圓・豚十七萬圓等。その他工業百十二萬圓とす。(潮州神社)北白川宮能久親王を奉祀、昭和十一年建立。

【潮州街】臺灣高雄州潮州郡の一街。雍正四年、廣東省潮州府の住民此地に移住し來り、未墾の地を開きて農業を開始せしが、其後逐年移住者増加し、乾隆年間には臺南より商賣の來住するあり、同二十五年頃には皮仔街を形成せり、俗稱潮州街を以てせしが後年これが本名となれり。清朝時代鳳山縣に屬せしが、領臺以後臺南縣・阿敏縣に屬し大正九年改正により高雄州潮州郡潮州街と稱し、更に昭和十一年十月街制施行、潮州街と稱するに至れり。産業は農業を主とし米六十五萬圓・甘蔗二十五萬圓・甘藷七萬圓・芭蕉六萬七千圓・蔬菜七萬圓等とし、畜産は牛十三萬圓・豚十七萬圓等。その他工業百十二萬圓とす。(潮州神社)北白川宮能久親王を奉祀、昭和十一年建立。

【潮州街】臺灣高雄州潮州郡の一街。雍正四年、廣東省潮州府の住民此地に移住し來り、未墾の地を開きて農業を開始せしが、其後逐年移住者増加し、乾隆年間には臺南より商賣の來住するあり、同二十五年頃には皮仔街を形成せり、俗稱潮州街を以てせしが後年これが本名となれり。清朝時代鳳山縣に屬せしが、領臺以後臺南縣・阿敏縣に屬し大正九年改正により高雄州潮州郡潮州街と稱し、更に昭和十一年十月街制施行、潮州街と稱するに至れり。産業は農業を主とし米六十五萬圓・甘蔗二十五萬圓・甘藷七萬圓・芭蕉六萬七千圓・蔬菜七萬圓等とし、畜産は牛十三萬圓・豚十七萬圓等。その他工業百十二萬圓とす。(潮州神社)北白川宮能久親王を奉祀、昭和十一年建立。

【潮州街】臺灣高雄州潮州郡の一街。雍正四年、廣東省潮州府の住民此地に移住し來り、未墾の地を開きて農業を開始せしが、其後逐年移住者増加し、乾隆年間には臺南より商賣の來住するあり、同二十五年頃には皮仔街を形成せり、俗稱潮州街を以てせしが後年これが本名となれり。清朝時代鳳山縣に屬せしが、領臺以後臺南縣・阿敏縣に屬し大正九年改正により高雄州潮州郡潮州街と稱し、更に昭和十一年十月街制施行、潮州街と稱するに至れり。産業は農業を主とし米六十五萬圓・甘蔗二十五萬圓・甘藷七萬圓・芭蕉六萬七千圓・蔬菜七萬圓等とし、畜産は牛十三萬圓・豚十七萬圓等。その他工業百十二萬圓とす。(潮州神社)北白川宮能久親王を奉祀、昭和十一年建立。

【潮州街】臺灣高雄州潮州郡の一街。雍正四年、廣東省潮州府の住民此地に移住し來り、未墾の地を開きて農業を開始せしが、其後逐年移住者増加し、乾隆年間には臺南より商賣の來住するあり、同二十五年頃には皮仔街を形成せり、俗稱潮州街を以てせしが後年これが本名となれり。清朝時代鳳山縣に屬せしが、領臺以後臺南縣・阿敏縣に屬し大正九年改正により高雄州潮州郡潮州街と稱し、更に昭和十一年十月街制施行、潮州街と稱するに至れり。産業は農業を主とし米六十五萬圓・甘蔗二十五萬圓・甘藷七萬圓・芭蕉六萬七千圓・蔬菜七萬圓等とし、畜産は牛十三萬圓・豚十七萬圓等。その他工業百十二萬圓とす。(潮州神社)北白川宮能久親王を奉祀、昭和十一年建立。

【潮州街】臺灣高雄州潮州郡の一街。雍正四年、廣東省潮州府の住民此地に移住し來り、未墾の地を開きて農業を開始せしが、其後逐年移住者増加し、乾隆年間には臺南より商賣の來住するあり、同二十五年頃には皮仔街を形成せり、俗稱潮州街を以てせしが後年これが本名となれり。清朝時代鳳山縣に屬せしが、領臺以後臺南縣・阿敏縣に屬し大正九年改正により高雄州潮州郡潮州街と稱し、更に昭和十一年十月街制施行、潮州街と稱するに至れり。産業は農業を主とし米六十五萬圓・甘蔗二十五萬圓・甘藷七萬圓・芭蕉六萬七千圓・蔬菜七萬圓等とし、畜産は牛十三萬圓・豚十七萬圓等。その他工業百十二萬圓とす。(潮州神社)北白川宮能久親王を奉祀、昭和十一年建立。

【潮州街】臺灣高雄州潮州郡の一街。雍正四年、廣東省潮州府の住民此地に移住し來り、未墾の地を開きて農業を開始せしが、其後逐年移住者増加し、乾隆年間には臺南より商賣の來住するあり、同二十五年頃には皮仔街を形成せり、俗稱潮州街を以てせしが後年これが本名となれり。清朝時代鳳山縣に屬せしが、領臺以後臺南縣・阿敏縣に屬し大正九年改正により高雄州潮州郡潮州街と稱し、更に昭和十一年十月街制施行、潮州街と稱するに至れり。産業は農業を主とし米六十五萬圓・甘蔗二十五萬圓・甘藷七萬圓・芭蕉六萬七千圓・蔬菜七萬圓等とし、畜産は牛十三萬圓・豚十七萬圓等。その他工業百十二萬圓とす。(潮州神社)北白川宮能久親王を奉祀、昭和十一年建立。

チヨー

にして、樹海遠く連り、良材を出すこと多く、また砂金・金・銀・鉛等各種の礦産に富む。上流は沿岸に産出する。近年この山間平地を利用して人造湖長津湖をつくり水力電気事業起る。上流に沿ひ新興鎮道長津湖通じ、咸興より北上する二等道路江津を縫うて平安北道に至りバスの便あり、途中三浦里江口より本流に沿うて新架坡鎮まで同じく二等道路を通ず。流域は人煙稀薄の處多く、ただ三浦里江津の長津邑や若谷。並に咸興江

す。地南北に長く、面積五三二平方軒あり。四境殆ど山脈を以て蔽らし、天然に一部を隔對す。東境は小白山脈の主脈南北に長く連り、西境は德裕山(一五〇八米)・白雲山(一二七九米)等あり最も峻峻にして、西・北・南の山脈はやや高度低きも、餘隙内に互りて平地に乏し。白雲山より西走する一山支は郡内を横斷して分水嶺をなし、北に錦江、南に錦津江を發源せしめ、流域に狭小なる平地拓けて農耕行はる。半島の最内陸部に在る地方の一なるを以て氣象は一般に大陸的にして、ただ雨量の多きは一特色とし、年一四〇〇耗を超過する處あり。地勢かくの如くなるを以て墾墾の發達著しからず、人口密度一方軒に付九六八にして、鎮安・茂朱兩郡と共に本道中最も人口稀薄なり、内地人の居住者も二七五八(昭和十年末)に過ぎず。住民は農を主生業とし、自作兼小作又は小作農最も多し、山間には今尙火田民の存するもの尠からず。農産物は米最も多く、棉・烟草・麥・粟・大麻等これに次ぎ、特に棉と烟草とは本郡の重要作物なり。副業には養蠶及び獸製造等行はる。林野面積四・三萬ヘクタールを越え、木炭・薪材を出すこと多く、製紙工・乾柿製造等も近時山間部落に普及せり。工業は精米・酒造・菓子業等を主とし、家内工業としては機械・石器製造や若る。鑛床の分布廣く木鉛・金・雲母等あり、長水鎮山は有名にして水鉛

の産額九〇、三〇〇(昭和二年)餘、昭和十年)朝鮮第一なり。二等道路全州・晉州線は北部を横斷し、茂朱・南原線は中央を南北に縱走し、何れも改修せられ、前記一等道路の如き、全州府より東境の六十嶺(最高點七三四米)の嶺を越えて慶尙南道に至る定期自動車の往復あり、長水・全州間にもバスの運轉ありて近時大いに面目を改むるに至れり。郡内を七箇面に分ち、郡廳を長水面長水里に置く。長水面の地は古く雨坪・高潭等と稱し、高麗の初め長川と改め南原府に屬し、李朝太祖に至りて長水鎮と稱す。光武十年南原郡より蔚山・山清の兩面を併せ、大正三年府郡廢合に際しては何等の變更なく今日に至る。

棉花・繭等の集散多し。邑内に斷介之神・忠徳丁敬孫の碑あり。東部の長安山下には龍湫の絶景あり。

チヨーセー 長生 千聖廟上總國の東部。千聖廟十二郡の一。東は太平洋に臨み、北は山武郡、西は市原郡、南は禹陽郡に隣す。西半より南境附近にかけては丘陵地にて森林あり。東半は九十九里濱沿岸平地の南部を占めて、南白龜川・一官川東流しまた沼地・潟湖の處多し。水田・畑地多く、米・麥・蕎麥を産し、養蠶も行はる。海岸は九十九里濱の南部にして平坦なる砂嶺をなし、砂丘發達し、蠶の澱漬業行はる。南端部のみは丘陵地に迫りて斷崖をなし、大東嶺は殊に峻嶒をなす。省線房總東線は山武郡より東部に向ひて、海岸沿ひに禹陽郡に通ず。また南境鐵道は茂原町より西南に走り、市原郡内田村に通ず。明治二十九年長柄郡と上城生郡とを合して本村を建つ。

チヨースイ 長水

【長水面】 朝鮮全羅北道二府十四郡の一角。道の東境に在り、東は慶尙南道に接

【長水面】 朝鮮全羅北道長水面のほぼ中央。西面山地を以て圍繞し東境に長安山(二九七米)・南境に蛇頭嶺、西境に仙角山・八公山(一一五一米)等並立し、之等山地に發源せる諸流は中央の盆地に集まり灌溉して北流し錦江上流を成す。長水面は地味肥沃にして農産に富む。農産物は米・麥・大豆・蕎麥・鮮菓・漆・漆等を主とし兩部山地よりは薪炭・柿類を産す。道路網よく發達し、南方南原、北方茂朱、南西栗樹郡に通ずる各三等道路には乗合自動車を通じ交通便なり。長水面は盆地の中央に位置し、郡廳・公立小學校・郵便所・金融組合・警察署等あり。精米・酒造・蠶業など盛に行はれ、烟草・

【長生鎮山】 西坡野村(山口縣)

チヨーセー 長生浦 大

チヨーセン

【朝鮮】 アシヤ大陸東部の一大半島。

【朝鮮】 アシヤ大陸東部の一大半島。

【朝鮮】 アシヤ大陸東部の一大半島。

【朝鮮】 アシヤ大陸東部の一大半島。

れら丘陵の斜面に發達し、麥・棉等の農産多く、また隆弘嶺山ありて金・銀・銅・鉛を出す。西南邊を京釜街道走り、東南部には大邱、安東兩二等道路横きりて何れもバスの便あり、交通不便ならず。西部の京釜街道に沿ふ下場湖は地方的交通の中心にして、市場・金融組合・學校等あり、商取引盛なり。

西に互りて國境附近を測し、その主峰白頭山(二七四四米)は高く國境線上に聳え鴨綠江・豆滿江は源をこの山地に發し、東西に岐れ、鴨綠江は流程七九〇軒餘、内流を通じて第一の長流をなす。白頭山の南には蓋馬高原横はりて地文・人文ともに特異の現象を示すものあり。長白山脈の一脈は南に延びて東に赴き嶺山脈、西に狼林山脈等を連れ、主脈は更に南走して江原道に入る。中部及び南部朝鮮にありては低山性の山地と淺き谷谷との發達を見、主要分水界は著しく東に偏す。兩して東朝鮮は斜面急峻にして河川は短く且つ急流をなすもの多く海岸に平野乏しきも、表朝鮮の河川は大同江・臨津江・漢江・錦江・總津江等の如く緩流して處處平野多く、舟楫の便、灌溉の利に富み地味肥沃に肥沃なり。主要分水界は即ち長白山脈にして、東海岸線に沿うて南に走り、半島の脊梁をなし、中に金剛山・雲岳山・五臺山・大白山等を屹立せしめ極めて高峻にして、金剛山は半島唯一の勝地たり。而して五臺山より西南に車嶺山脈を、また山脈の中央大白山脈より西南に斜に半島を横斷する小白山脈を派生し、小白山脈中には島嶼・秋風嶺等の嶺、俗離山・德裕山・智異山等の峻嶒あり、德裕山附近より西に廣嶺山脈出でて黃海に達す。全半島を通じて東部海岸には雄基・羅津・清津・城津・元山等の諸港あるも、水興灣・迎日灣のほか著しき出

入なく、沿岸には殆ど島嶼を缺き、海は益に深度を増すに反し、西部及び南部海岸は屈曲出入極めて多く、島嶼も無數にして海は多く遼淺なり。此方面には鎮南浦・龍碧浦・仁川・蔚山・木浦・羅水・釜山等の良港あり。潮汐干満の差も、東海岸は極めて小なるも、西海岸にありては我國第一の較差を示し、江華灣内の如き一〇米に及ぶところあり。また西南部の海岸は小白山脈の海に没する所にして多島海を現出し、且つ黃海斜面の河口がすべて喇叭狀入江をなすことは内地の河川と異なり、寧ろイギリスのそれに類似するものあり。

【氣候】 南部の氣候は中國・北九州等と大差なきも、京城・平壤・新義州と北するに従ひ、寒暑の差大となり、大陸の影響を蒙ること著し。所謂三寒四温とは全く大陸の氣候の變化に左右されて生ずる現象にほかならず。降水量は南より北するに従ひて減じ、また東岸より西岸に少く、朝鮮海峽の遼瀋は寒暖潮流の影響による。年平均気温は南部海岸に於ては一三度餘にて、北進するに従ひ次第に遞減す。中央部は一〇度内外にて、國境附近に於ては三・四度となる。また東部海岸は西部海岸に比すれば氣候温涼にして、夏季を除きては約二度内外高温なるを常とす。蓋しこれは、西部海岸は冬季に北西季節風多きも、東部海岸は脊梁山脈のため風勢微弱にて、且つ海水温度

は西部海岸に比し高温なるによる。なほ寒氣は南北に於て大差あるも暑氣はその差極めて少し。アシヤ大陸の東部は一般に季節風多きを以て、朝鮮に於てもまた季節風によりて主風方向はほぼ一定す。即ち冬季大陸方面より来る風は朝鮮附近に於て北西風となる。夏季は一般に偏南の季節風となり、兩季節風の交替期なる春秋の候は、風向區々にして一定せず。また兩季節風は音に風向相反するのみならず、冬季は寒氣一般に乾燥し天氣晴れ、氣壓の傾斜極めて急峻にして、風力強きも、夏季は空氣濕潤にして、曇天雨天の日多く、且つ氣壓の勾配緩なるを以て風勢甚だ弱し。また冬季季節風は夏季季節風に比してその間長く、西部海岸は冬季北西風を受くるを以て風力強きも、東部海岸はこれに反し、脊梁山脈に遮らるるにより風勢極めて弱し。なほ全區を通観するに風勢は沿海に於て強く、内陸に於て弱き傾向あり。雨の年量は概して少なし。即ち全土の大半は八〇〇—一〇〇〇耗を示し、南東部海岸はやや多く、北部は北西方面に至るに従ひ次第に遞減す。即ち釜山より元山に互る沿岸は年量一五〇〇耗に達し、中部は約一〇〇〇耗を測るも、北部地方は遙に減少し七〇〇耗内外となる。就中、咸鏡南北道の高原地方は最盛雨にて年量五〇〇耗に充たざる處あり。また降雨は季節により差異著しく十月より翌年三月に至る間は乾燥期にて

雨量極めて少く、六月乃至八月は降雨期に属す。南部地方に於ては降雨最盛期は七月なるも、東部海岸の北部は八月にて時に九月に亘る。かくの如く各地方を通じて雨期と乾燥期と截然たる區別あるは、この半島の一特色なり。初霜は北部海岸地方にて早くも九月上旬に現はれ、他は概ね十月上旬乃至十一月上旬にして四月中に終るを一般とし、北部地方にては五月に入りて終るを常とす。而して南部にても往々五月中旬晩霜を見ることあり。朝鮮近海に至る所濃霧を発生す。就中最も多きは多島海附近にて、濃霧日数一年中七十日内外に達し、西部近海及び北東岸地方はこれに亞ぎ、その他は二十乃至五十日の間にあり。また濃霧は沿岸に近づくに従ひて減少し、内陸に入りては殆ど皆無となり、冬季に於ては概してこれを見ず、初春より漸次発生し晩春・初夏の候を最盛とし、盛夏季に入るに及びて減退す。降雪期は年々遅延あれども初雪は釜山高嶺地方に最も早く、大抵十月上旬なり。他は概ね十一月にして、南東海岸地方は最も遅く、十二月下旬にこれを見る。降雪は北部國境地方最も遅く、四月末に屬し、釜山地方最も早く、三月上旬なり。その他は三月中旬乃至四月中旬の間にあり。しかし冬季は一般に雨雪量少きため、積雪三〇—六〇割に及ぶは北東部山地に限られ、中部以南の平原に於ては一五割を越ゆること稀なり。

〔産業〕 一 農業 古來朝鮮に於ける産業の第一にして、住民の七割強は農業に従事す。鮮内到處農業行はるるも、殊に南部地方にては氣候温暖にして降水量も多く農作物の發育最も佳良なり。冬季は寒氣強きも冬の如き農作物の枯死する處なく、年中概ね寒氣乾燥せるを以て收穫物の品質良好なり。但し夏作物中水稻の如きは氣候の關係上生育良好なるべきに拘はらず、従来用水不十分なるため屢次旱害を被りたることあり。由來朝鮮は内地に比すれば雨量少く、且つ古來森林の保護を怠りたるため山地の大部分は荒廢し、従ひて平地も灌溉の便乏しく原野多くして耕地の割合も少く、旱害も少からず。近年水源の涵養・灌溉設備等々々々發達し來りし爲、耕地面積も増加し、旱害も漸次その度を減じつつあり。舊(内地の田)の面積は約一、七〇四、七〇〇ヘクタール、田(内地の畑)の面積は二、七六三、〇〇〇ヘクタール、耕地總面積は四、九〇二、〇〇〇ヘクタール(火田を含む)なり(昭和十一年末、以下之に準ず)。固有未墾地約九〇萬ヘクタール、干潟又は沼澤地約二〇萬ヘクタールの内開墾可能面積は約七三萬ヘクタールあり、内約二分一は埋立完了せり。農業者は大地主は多く都會に居住し、土地所在地に代理人(即ち會社)を置き、小作地を管理し、小作料を徵收するを普通とす。農業者の内譯は内地人八、〇三一戸、朝鮮人三、〇四

八、六一四戸、滿洲國人及支那人二、八五八戸にして、之を更に内譯すれば自作一七％、自作兼小作二四％、小作五一％の割合、殘餘は火田民及び被傭者にして、純火田民はなほ七四、七二七戸を數ふ。農作物の主なるものは、米・大豆・麥・棉・人蔘等にて、農事改良により年々產額増加しつつあるも、米・棉の増加率は殊に大なり。米は農業生産額中首位を占むるものにして、總督府始政當時嘗て荒廢甚しく、反當りの收量少く且つ品質劣等なりしが、改良増殖を圖りし結果、今日に於ては收量・品質共に面目を一新し、その作付反別は約一、六〇〇、〇〇〇ヘクタール、生産高は一、九四一萬石にして全國生産高の二一％に當り輸出高八四七萬石、價格二五、〇九五萬圓に達す。大豆は品質・收量ともに佳良にして各道到處に栽培せらるるも、殊に西北鮮には優良品を産し、内地及び滿洲に比較すれば蛋白質に富めるを以て、豆腐・味噌・醬油の原料として賣ばる。その作付反別約七八一、〇〇〇ヘクタール、生産高は三七八萬石、輸出額一、〇五五萬石、價格二二、三九七萬圓に達し米と共に重要輸出品に屬す。麥は大豆・小麥を主とし、稈麥は南部に限らる。小麥は近年生活程度の上により鮮内消費額益々増加するも、なほ米・大豆に次ぐ主要輸出品なり。大豆の作付反別は約八五四、四〇〇ヘクタール、産額は六八一萬石、小麥の作付反別

は約三三八、六〇〇ヘクタール、産額は一六一萬石に達す。粟は西北鮮に於ける主要作物にして該地方の重要な常食となり、その栽培は古くより盛んに行はるるも未だ鮮内の需要を充つに足らず。甘藷は南部地方に、馬鈴薯は北鮮地方に多く生産し、品質佳良にてその栽培年々増加しつつあり。果實は風土その生育に適し、各地に栽培に従事するもの年々増加し、その主なるものは蘋果・梨・葡萄・桃・柿・栗等なり。蔬菜は従來白菜・蘿蔔・南瓜・南瓜・水芹・香葱等の栽培多く行はれ、成歐甜瓜及び開城・京城白菜のごときはその尤なるものなり。棉は咸鏡南道の一部及び咸鏡北道を除く外、各地殆どこれを栽培せざる所なきも、特に全羅南道・慶尚南道及び平安南道はその主産地に於て、朝鮮は陸地棉を、中鮮及び西北鮮は多く在來棉を栽培す。在來棉は纖維太くして短く、弾力に富むも、織造歩合低く、且つ品質優良ならざるを以て、漸次これを收量・織造歩合共に多く纖維細長にて紡績原料に好適せるアメリカ種陸地棉を以て代へ、昭和十一年度には栽培面積六二、九〇〇ヘクタール、栽培戸數九五、六二七の多きに達し、なほ陸地棉に不適なる北部地方には在來棉を獎勵しその栽培面積も約六四、〇〇〇ヘクタールに及ぶ。二種の棉の總栽培面積は約二二六、七〇〇ヘクタール、産額一三、七三三萬石(但し天候不順による激減。昭和十

年二一、三七五萬石)、輸出額は二、二四萬石に達す。烟草は平安北道及び咸鏡北道を除く各道より産し、内地種・朝鮮種及び黃色種(米國種)の三種あり、耕作人員一〇・九萬人、面積約一七、四〇〇ヘクタールを耕作し、收量二〇、六二六萬石に及ぶ。人蔘は殆ど各道に亘り産出せらるるも、古來高麗人蔘と稱して世に賣ばるるものは開城附近に於て生産せられ、政府はこの人蔘を原料として紅蔘を製造す。紅蔘製造高は三九、八二〇斤、販賣價格約一七五萬圓なり。其他特産に芋麻・楮・莞草等あり。麥蘆もまた氣候好適し、且つ政府の大正十四年以降十五年間に産額百萬石に達せしむる計畫に基づき勸奨の結果、麥蘆戸數八二・六萬戸、産額七三三、二〇〇石を示し、生絲産額は約一、八八五、〇〇〇疋、價格一、八九七萬圓に達す。而して幼稚なる在來製絲法は漸次機械製絲法による輸出向優良生糸の製造に代はれつつあり、工場生産は京畿・忠北・忠南等を主要産地とし、この方法による生絲製造額一、二二萬疋、一、三七〇萬圓を示し、近年産額の趨勢にして

一 牧畜業 牛の飼養に到る處處にして頭数は内地より多く、各地に牛市開かる。皮革及び生牛の内地に移出せらるる數量は年額五—八百萬圓に達し、朝鮮移出品中重要な位置を占め、施設當時七〇萬餘頭に過ぎざりし畜牛數は今や一七〇萬餘頭を算するに至れり。馬は在來のもの

は一般に體軀矮小にして力量持久力に乏しきもの多く、よつて蒙古馬に内地産馬を交配して實用的なる新朝鮮馬の増殖を圖りつつあり、年々内地馬及び洋馬増加し在來馬は減少を見る。現在飼養頭數約五萬二千。騎率は近年朝鮮の風土に適するコウデール種を選び、咸北明川郡及び平南順川郡に國立種羊場を設け、全国的に獎勵されつつあり。譯はその數、牛に次ぎ、一五七萬頭にして、うち改良種(パーターナル種)は約六三％を占む。その他、養鶏・養蜂もまたよく行はる。

三 林業 林野の總面積は約一六〇〇萬ヘクタールを算し、全土の七三％強を占むるに拘らず、古來林政不備にして、一般人民の自由採掘に委して顧みざりし爲その大部分は荒廢に歸し、僅に鴨綠江・豆滿江の流域等に於て林相を保つに過ぎず。されば近年、保安林の設定、造林・砂防事業の進展と共に林地・林相は年々革まり、現在林野總面積中、立木地は七一％に達し、無立木地は僅に一六％を示すのみ。林産物は全鮮を通じて最近一箇年一億圓以上に達し、その殆ど全部が鮮内に於て消費せらるる外、年々多量の用材・竹材・竹製品等移入せられ、輸出として少量の用材・木炭・葉質等を擧げ得るに過ぎず。而して固有林約一五五萬ヘクタール中、約六六％を營林署の管轄とし建築用材・鐵道枕木等の外、近年物價急騰の製紙・人絹・人造羊毛・無水酒精等の

鱈(黒鱈)・山野月明・小宮黒船・成昌(以上秋田県)等の各山あり。...

大魚漁業の王座を奪はんとしつつあり、鱈種は一八〇六萬圓、鱈魚油は二三六三萬圓の産額を示す。...

も産田面積は全鮮にて二一七セヘクタール餘、製造高四七、二一四千延にして、天日鹽と合するも全消費量の約四割を不足す。...

約七二、八六九萬圓、うち二二、八二〇萬圓は家内工業又は副業による生産なり。...

業種別工業産額(昭和十一年)
紡織工業 九八、三五〇
金属工業 三三、一七〇
機械器具工業 一三、九一〇
化学工業 一五、八五〇
印刷製本工業 一〇、一〇〇
瓦斯及電気工業 三九、九〇〇
食料品工業 一四、六四〇
其他の工業 一〇、〇二〇
計 七二八、六九〇

産にして莞草(一種の三角蘭)の表皮を以て織成し、京畿・全南・慶北の各道を主産地とし、年産約一二二萬圓に及ぶ。...

色工業の発達を見つつあり。平壤を中心とする靴下製造は盛にして三四二萬圓を出し、縫紉工業は本浦を中心に年産一六〇〇〇延、一五一三萬圓に達す。...

興南・釜二浦等にそれぞれ大規模の工場設けられ、殊に興南の工場は延江の水力電氣を利用して硫安・硫酸安、其他を合せ年産三六五〇萬圓(昭和十一年)に及ぶ。...

(交通) 朝鮮の鐵道は國防並に統治上重要な使命を有し殊に民衆の向上、産業開發に密接なる關係を有す。...

及び國境地方の林・礦産品を開採すべき
満浦・惠山・白茂嶺、並に東海中
部を起點とし、京元線清涼里を終點と
する中央線等にして、中央線を除く外、
何れも既に其一部を開業す。國有鐵道の
一部、成鏡線清涼・會亭間、會亭炭礦線
及び國有線は昭和八年京國線の全通に伴
ひ同年十月より南滿洲鐵道會社の委託經
營する所となり委託線(鐵道總局北鮮線)

の延長三二八・五軒、之を除く國營線の
現在延長三五七・九軒を算す。また私
設鐵道は北鮮に成南線・成北線・成興一
西湖津線・成南新興一赴戰湖新線・上通一
泗水線等、西鮮に黄海線、中部に天安一
長湖院線・天安一長項線、鐵原一内金剛
線(電車)・木原一聖州線・木原一仁川港
線、南鮮に金泉一安東線等あり總延長一
二九五軒に達す。更に下關・釜山間海上
二四〇軒の聯絡船は鐵道省の經營に係り
所要時間七時間半乃至八時間、現在七千
噸級船二隻、三千噸級船四隻を以て晝夜
運航しつゝあり。(海運) 航路は東海岸
にては元山・清津、南海岸にては仁川、
西海岸にては釜山の各港を中心として、
内地及び支那と連絡す。ただ春・夏の間
と冬季の風波とが航海を困難ならしむる
事あり。定期航路は昭和十二年四月現在
にて二百一十一艘、三五六隻、二五三九〇二
噸あり。(航空) 昭和四年四月東京・大
連間に定期航空路開けたるを最初とし、
航空事業の發達に順應して、今日定期航

空路のみにて約九千軒に達し、京城・蔚
山・新義州・清津・大邱の各地に飛行場
を設け、京城を中心として大邱・蔚山を
經て内地の各地へ、また平壤・新義州を
經て大連・奉天・新京・哈爾濱・天津等
へ通じ、更に滿洲國の新京・琿春線は清
津まで乗り入れ、鮮内にては京城・裡里間
に定期航空路拓かる。

併合後、政府の産業上に於ける
諸般の設備と、民間企業の勃興により
漸次増進の趨勢を示し、殊に歐州戰亂以
來急激の伸幅を示せり。輸移出入額は昭和
十一年、五九三三・一萬圓、輸移入額は七六
二四二萬圓。貿易の相手國は廣く世界の
各方面に亘るも、内地との關係最も密接
にして輸移出貿易の八七・五(一八〇五
萬圓)及び輸移入貿易の八五・五(六四七
九二萬圓)は内鮮間の貿易に屬し、外國
貿易は輸出の一三・三、輸入の一五・五に過
ぎず。また諸外國のうち主要なるものは
輸出にありては滿洲國・關東州・中華民
國・北米合衆國、輸入に於ては滿洲國・中
華民國・暹羅・印度・北米合衆國・關東州・
イギリス等の地位にあり。朝鮮の開港は
仁川・釜山・新義州・清津・元山・鎮南
浦・蔚山・木浦・清津・雄基・城津・龍
巖浦の十二港あり。各港の貿易額は釜山
第一位を占め、仁川これにつぐ。この兩
港は實に朝鮮の二大關門にて、釜山港は
内鮮間貿易の樞要となり、仁川港は關東
州・支那その他歐米諸外國貿易の中心を

なす。その他輸移出に於ては清南浦・蔚山・
清津・木浦・新義州等、輸移入に於ては清南
浦・新義州・清津・元山・京城・蔚山等
を主なるものとす。輸移出は農産物・
礦産物及び水産物を主とし、特に米・肥
料・大豆は實に三大貿易品なり。其他粗
鋼・鐵・生絲・棉花・魚類・魚油・棉織
物・木材・金銀・石炭・生牛等は何れも
重要な輸移出品にて、最近に於ては海
苔の増加また顯著なり。工業なほ盛なら
ざるを以て輸移入品は多く工業製造品に

Table with columns for '輸移出 (千圓)', '輸移入 (千圓)', and '重要品價額 (昭和十一年)'. Rows list various goods like rice, oil, and minerals with their respective values.

屬し、鐵・機械類・肥料・綿織物最も多
く、人絹織物・蠶油・棉花・栗・石炭・
木材・肌衣・毛織物・紙類等これに次ぎ、輸
移入品の勃興に伴ひ、各種原料品の輸移
入益。増進の趨勢を示しつゝあり。開港
に於ける貿易船の出入船は、米・油・
蠶油・鐵・生絲・棉花・魚類・魚油・棉織
物・木材・金銀・石炭・生牛等は何れも
重要な輸移出品にて、最近に於ては海
苔の増加また顯著なり。工業なほ盛なら
ざるを以て輸移入品は多く工業製造品に

(商業) 朝鮮人の商業は市場に於て行は
るるを一般の慣例とす。近時店舗を常設
して商業に従事する者漸次増加するに至
れるも、此等在市場は依然地方重要の
商業機關にして、その數全鮮を通じて一
五〇七箇所、その取引額、年三一四〇〇
萬圓以上に達す。此等の市場は概ね毎月
五、六回定期開市せられ、市日には附近
の住民は勿論、遠く八、九里の地より購寄
來集す。内地人の商業は穀物・海産物・
牛皮等朝鮮物産の輸移出入又は各種雜貨・
綿絲布類・肥料・石油・砂糖・機織物等
の移入貿易を主とし各種商品の卸賣小賣に
従ふ者もまた多く、日用雜貨・炭・酒・
醬油・文房具・菓子・花物及び各種物類の
商品は概ね京城・仁川・釜山等の卸商より
各地の小賣商に供給せらる。取引所は
朝鮮取引所(京城・仁川)を始め蔚山・木
浦・大邱・釜山・鎮南浦に未設取引所、
釜山に正米市場あり。商工業者の自治機
關として京城ほか十五箇所商會議所
あり朝鮮商會議所により聯合せらる。
また果物・蠶繭・ゴム靴其他の重要物産
同業組合約三〇あり、製品検査、品質
の統一及び共同販賣・購入に當り、産業
組合は販賣・購買及び利用の三種にして
組合數昭和十二年に一一〇、組合員數約
一四萬人、出資金二二五萬圓を示す。

中樞院を設く。總督の補助機關として政
務廳(親任)をはじめ局長以下の職員あり
りて、それぞれ官房・内務局・財務局・
殖産局・農林局・法務局・學務局・警務
局等に配屬せられ、又鐵道局・逓信局・
專賣局等の事業官廳その他を設く。地方
行政上、朝鮮全土を京畿道(道廳所在地、
京城)、忠清北道(清州)、忠清南道(大田)、
全羅北道(全州)、全羅南道(光州)、慶尙
北道(大邱)、慶尙南道(釜山)、黃海道
(海州)、平安南道(平壤)、平安北道(新
義州)、江原道(春川)、咸鏡南道(咸興)、
咸鏡北道(羅南)の十三道に區別し、更に
之を分ちて十八府・二百十八郡・二島・
六十三邑・二千三百七十七(昭和十二年現
在)となす。之に道知事・府尹・郡守・
島司・邑面長を置き官廳事務の執行者た
らしむると共に、道・府・邑面及び學校
組合の各公共團體の事務を執らしめ、道
には官房・内務部・警察部及び産業部(京
畿・全南・慶北・慶南の四道のみ)を置
く。前記の府は内地の市に相當す。裁判
所は總督に直屬し、地方法院・覆審法院
及び高等法院の三階級により構成せられ
内地の三審制と同様なり。

會學に第二飛行團司令部を設け、第六(平
壤)第九(會亭)の二飛行團隊を統轄す。
鎮海・元山及び羅津に要塞司令部を置き
又憲兵司令部を京城に、憲兵隊を京城・
大邱・平壤・咸興・羅南に置く。鎮海に
は要港部あり、第三海軍區に屬し、朝鮮
の全海岸及び對馬海峽の防禦・警備等に
當る。

(教育) 従來朝鮮に於ける内地人と朝鮮
人との教育はその系統を異にせしが、時
勢の進歩に伴ひこの差別は漸次撤廢せら
れ、内鮮人共學の原則による新なる教
育系統の樹立を見るに至れり。即ち普通
教育にありては従來國語を常用する者
(主として内地人)と國語を常用せざる
者(主として朝鮮人)の二種に分ち、前
者の教育機關として、官立小學校二、公
立小學校五〇三、公立中學校一六、公立
高等女學校二九あり、後者には、官立普
通學校六、公立普通學校二五〇三、同上
附設補習學校九二七、公立高等普通學校
一六、公立女子高等普通學校一一、私立普
通學校九二、私立高等普通學校一一、私立普
女子高等普通學校一〇(昭和十二年現在)
を以てその教育機關となし來りしが、昭
和十三年四月學制の改革により普通學
校・高等普通學校等の名稱は廢せらるに
至れり。書堂は古來朝鮮に於ける少年子
弟唯一の教育機關なりしが、普通教育の
普及に伴ひ漸次廢止の氣運に向ひつつあ
るも、なほ昭和十二年に於て書堂數五九

四四を算す。専門教育はその内容に於て
全く内地と變るところなく、法學・商業・
農林・醫學・工業等の専門學校は官立五、
公立二、私立八を算し、實業教育に於ては
官立實業一、公立實業三、公立商業一
六、私立商業八、公立水産三、公立職業
五、公立實業補習一〇七、その他の學校
設けらる。また京城に京城帝國大學を設
け、現在法文學部及び醫學部を置き、そ
の組織内容は共に内地の帝國大學と殆ど
同様なるも、それぞれ地域的特殊の研究
をもなして特色を發揮し、大學職員六一
五人、學生五四二人、預科職員五一人、
生徒四四八人(昭和十一年)を有す。師
範教育も内鮮人共學を本體とし、京城・
大邱・平壤・全州・咸興の各師範學校及
び京城女子師範學校を設く。

々。内地人の移住者は増加しつつあるも未だ總數の二・八%に過ぎず。その原籍地は西南日本のもの多し。

〔沿革〕 朝鮮半島の原住民族には一定の稱呼なかりしもの如く、また南部と北部にては全然別個の發達を辿りしもの如し。今より凡そ二千七百年前、支那殷末、周初の頃、箕子始めて朝鮮國を開きて王險城(平壤)に都し、次いで燕人衛滿亡命して朝鮮に入り箕子を逐うて自ら國王と稱せしが、その孫右渠の代に至り漢武帝に討たれ衛氏朝鮮は治世百年に滿たずして亡ぶ(皇紀五五三)。かくて北部は滿洲南部の地と共に漢に服して樂浪等の四郡置かれ、半島南部の土著人は新たなる關係を此等郡縣と結ぶこととなれり。これ即ち樂浪郡時代にして、當時樂浪は平壤郊外の古墳等に出土する遺物により當時の朝鮮たる物質文明を窺ふを得べし。樂浪郡は九七三年に至り亡びしが、此の頃半島南部には馬韓(弁辰)辰韓の三韓あり。次いで馬韓に起りし百濟と辰韓より起りし新羅と、鴨綠江附近に建國せし高句麗との三國對立の時代を現出す。新羅は文武王の時、遂に半島一統の事業を完成せしが(一三二九、五十六王、九百九十二年にして滅び(一五九五)、高麗王王建立ち三十四王、四百七十五年續きたる後、武將李成桂擁せられて王位に即く(一〇五二)。是より先、我國と朝鮮との關係を見るに、西日本と朝鮮とは

その地理的の近距離より相互に交渉あり、既に樂浪時代に我が西邊との交渉活潑なるものを見る。この頃任那に日本府の設置を見たが、新羅の我が平和を脅すに及び神功皇后は新羅に親征し給ひ、かくして日本の政治的權力の半島に確立すると共に、朝鮮よりの移住者多く我國に來朝して、勞働力と新しき學問技術とを齎らし、原始的氏族制度は急激に變革せられ、更に儒教・佛敎・曆法等大陸文化の移入は中央集權的國家の結成に契機を與へ、かくて大化改新を招來するに至れり。のち新羅は唐の支持によりて覇を唱ふるや、大陸の文化は支那より直接にまた新羅を通じて間接に、絶えず我が流入し、以て奈良朝の巨大なる文化は築き上げらる。高麗時代の末葉、高麗は西方の蒙古に壓迫せられ、多くの軍兵・職官、兵糧等を負擔して我國に來攻し、爲に經濟的打撃を蒙ること甚かりしが、我國に於ても元寇による直接的・間接的影響によりて經濟上・政治上の變化を生じ、その一の現はれとして地頭・商人等の新興階級の協力による海外進出、即ち倭寇の跳梁を導き、爲に朝鮮半島南半一帶はこれが侵襲の目標となり、高麗に對して致命的打撃を與ふるに至りしが、我が室町時代に至りて漸く平調に歸し、兩者間の貿易促進せらるるに至れり。李朝の始祖李成桂位に即く(一〇五二)、時に内訌しきりにして創業困難なりしかば、明國

に頼り、已に不利なる鄭夢周等の一派を除きて自己獨立の形勢を講尋し、次いで都を漢陽(京城)に遷して、天下の人心一新に力む。第三代太宗は英明にして政治上・社會上に大改革を斷行し、また活字による古書刊行を盛にし、佛敎が高麗朝に毒害を及ぼせしに繼ぎ、儒敎を奨めて佛敎を抑壓し、明朝に忠節を誓ふことまた依然たりき。第四代世宗また傑出せし君主にして、文運大に振ひ、李朝五百年の基礎ここに全く定まる。歷朝の實錄を始め高麗全史・東國輿地勝覽・經國大典等が編纂せられ、また國字(諺文)の創作が行はれしは何れも此頃なり。前述の海寇が平常なる貿易關係に轉換せんとしたるも亦この時代にして、世宗の時、齊浦(熊川)・富山浦(釜山)・梁浦(蔚山郡)の三浦を以て彼此貿易の地と定め、對馬の宗氏はこれに優先の權利を掌握せり。第十代燕山君の世に、士禍、即ち朝臣間の内訌甚しく、戊午(一一五八)・甲子(一一六四)の二大禍を始めて黨争の兆漸く顯はる。燕山君廢せられて中宗立ち、大に風敎の振興、政治の改革に意を用ひしがその効なく、明宗につき第十三代宣宗位につき及び、士林間に東人・西人相分れ反目して抗争を續け、李朝の衰亡を招くに至らしむ。王は人材の登用に意を用ひしかば、李滉・李承谷などの碩儒みな朝に出て列たり、相戒めて朋黨の禍を阻止せんとせしが勢の赴くところ如

何ともする能はず。これより先、前述の三浦に居留する我が國人、事によりて朝鮮官吏と争ひ、遂に三浦は閉鎖せられ、兩者の關係一時杜絶せしが、室町幕府の交渉によりて永正九年(一四七二)に三浦の間に締結せられ、三浦のうち齊浦のみに貿易復活し、幾許もなく居留・貿易の港は釜山に遷さる。織田氏の時、齊浦の開港・日本人の居留・商船の派遣等に關して交渉せしも成立せず、宣祖の時豊臣秀吉この方針の下に朝鮮をして三浦を開港せしめ、支那(明)との貿易を促進せんとして交渉し、その容れられざるや、遂に文祿・慶長の役は起れり。この戦役後、日鮮の交通杜絶せしが、徳川家康の時代となり、對馬藩主宗氏(宗義)により慶長十二年彼我の交通再び開けたり。宣祖に於て光海君立ちしが、滿洲の女眞人より起りし大金國(後の清國)現はれ、次の仁祖の代に至り、大金國の太祖が兵を朝鮮に加へたるに對し、朝鮮はこれを防ぐ能はず、遂に兩國兄弟となることを始めとして不利の條件を承諾す。二二九六年、大金は太宗の時國號を清と改め、更に朝鮮討伐の兵を發し、朝鮮敗れて全く清に降り(二二九七)、王子を質とすることを約して臣屬するの止むを得ざるに至れり。次の孝宗は清への報復を志して遂げず、後に英祖も同じく力を盡して成功せず、第二十五代哲宗立つて後嗣なく、英祖の玄孫李熙を立つ(二五二四)。

これ後の李太王にして、即位の頃年なほ幼なく、その父大院君(李显應)が政治の實權を握り、外戚の專横を抑へて、黨弊を除き政治の面目を一新せしが、景福宮造營のために國庫を竭らし、深くキリスト敎並に西洋人を忌みて、鎖國主義を勵行す。李太王の五年に日本は明治元年となり、幾ばくもなく日鮮修交についての紛糾を生じ(征韓論)、大院君は日本との修交を肯んぜざりしが、大院君と王妃閔氏の不和により大院君は引退することとなれり。李太王の十二年(明治八年)日本軍艦が江華島に於て砲撃せられ、日鮮の紛糾起りしが、其の頃は大院君の勢力既に墜ちて閔妃の一黨が和議を決し、初めて日本との修好條規を締結せり。これより後、日本は公使を京城に駐在せしめ、朝鮮も開港政策を取ることとなりしが、閔妃一黨と大院君の勢力争ひにより、明治十五年京城事變起り、居留日本人は迫害を被り、大院君再び勢力を得て、閔族は斥けらる。その際清國は兵を京城に送り干渉を加へ、日本も開港の使を遣はし、日本人迫害の件は清物浦條約によつて解決せり。この條約の後、朴泳孝は修信大使として日本に來り、徐光範・金玉均等これに隨行せしが、彼等は清國の干渉を脱して、朝鮮の獨立を固らんとし、開化黨を結び、閔族は清國の力によりて權勢を固らんとして軍火黨と呼ばる。明治十七年、清國が安南のことに關

してフランスと戦を開くに及び、朴泳孝・金玉均の一黨は閔族を排撃して一時政權を占めしが、京城駐在の清兵を指揮したる袁世凱が清兵を率ゐて王宮に亂入せしため、朴泳孝・金玉均は日本に亡命し、閔族が更に勢力を振ふこととなれり。我國に於ては朝鮮に關する日支間の紛争を永久に避くるため、伊藤博文を全權として清國に遣はし、その結果明治十八年四月天津條約を結び、爾後朝鮮國の獨立を尊重せしめ、なほ今後朝鮮へ出兵の必要起る時は互に通告することと約す。偶々明治二十六年全羅地方に東洋黨の亂起るや清の李鴻章は朝鮮を屬國とする目的を果さんとす。日本も居留民保護のため兵を發し、日清兩軍遂に戦を交ふるに至れり。而して清軍大いに敗れ清國は地を割きて和を求め、馬關條約成立し、之に清國は朝鮮の獨立を承認す。之より先、閔妃は清國の干渉を免れんとして密かにロシアとの和親を圖り、日清戦役後ロシアの勢力大いに京城へ伸び、閔妃はその勢力を恃み日本勢力の排撃を企てしが、明治二十八年十月不慮の變に遭ひて斃れぬ。同三十年に至り國王は皇帝の位につき國を大韓と號す。されどロシアの壓迫は甚しく、明治三十三年北清事變の起るやこれを利してロシアは滿洲占領を企て、勢に乗じて朝鮮を脅し、これを併呑せんとし、我國は北方の生命線維持のために驚然としてこれを排撃し

遂に日露の衝突を見るに至れり。この役に於て我國は大勝して結局韓國は我國の保護を受くるに至れり(明治三十八年十一月)。かくて伊藤博文、韓國統監として京城に駐在し國政の改革に努む。然るに明治四十年萬國平和會議のオランダ海牙に開かるるや、韓帝の密使と稱する者參列を請ひしといふ事件の責を引き、韓帝(李太王)讓位し、皇太子位に即く、これを李王とす。明治四十二年伊藤博文は重要使命を帯びてロシアに向ふ途中、ハルビンに於て不逞韓人のために暗殺せられ韓國上下恐慌を來せり。時に一連會と稱する韓人有志の一派は時勢に鑑みて日韓併合の必要なることを上奏せり。韓帝も亦東洋平和の爲め日韓兩國の併合が最も時勢に適する所以なるを思はれ、茲に日韓合邦の氣運次第に熟し、明治四十三年八月二十九日、韓國併合の條約の公表を見るに至れり。ここに於て韓國の名稱は廢せられ、朝鮮の舊名を復し、朝鮮總督府が日本新領域たる朝鮮に設けらるることとなれり。李成桂國を建てて以來五百二十九年とす。

西南部の沈降の結果生じたる多島の海にて、慶尙南道南部海上、全羅南道の南部及び西部の海上に跨りて散布する島の數は慶尙南道南部海上二七七、全羅南道一三〇四を算へ合計一五八一島の多きに達し、東部の巨濟島、中部の南海島、西部の珍島及び釜山南方海上の濟州島が大なるものにて、面積狭小、飲料水を缺く等のために無人島一〇〇〇餘島に達す。この廣漠たる海域は、水深概ね一〇〇米内外にして、漁具の使用に便なるのみならず、寒暖兩海流の影響を受けて魚獲の分布頗る豊かなり。また市場に近く、沿岸島嶼には良港多く漁港に富み、九州・中國方面との連絡も容易なるをもつて、内鮮人の漁業共に進歩し、殊に九州・中國・四國地方より出漁する者多し。釜山・馬山近海に於ける鱈・鰈・鯖・鰯の漁業、羅老・青山・巨文の各島及び所安島近海の鯛・鯖・鰈・鰻漁業、濟州島沖に於ける鱈・鰈・鰻・鯛・鰻・石花菜の漁業、汝自海及び附近に於ける鰻、慶水河に於ける玉環貝漁業等の如き、また光陽灣以西木浦に至る沿岸各地の海苔養殖等は近年大に發展し、なほ開拓の餘地豊富にして將來を囑目せらる。その製成品もまた頗る豊富、中にも純膏・麗水地方の煮乾鰻、濟州島の乾鰻及び臘鰻、汝自灣の乾鰻・貝柱、木浦の海苔類はその主要なるものなり。その他海産品・和布・海苔・天草等の海産品の採取も盛んなり。

【朝鮮鐵道】朝鮮の私設鐵道。慶北線・忠北線・黄海線・咸陽線・成北線を含む。

【朝鮮京畿鐵道】社線。朝鮮京畿道水原郡水原邑にある總督府鐵道京釜本線の水原驛より慶州郡内面の慶州驛に通ずる七三・四軒の本線と、水原驛より仁川府の仁川港驛に至る五二軒の水仁線とより成る。軌間〇・七六二米、總督府鐵道と連帯運輸。

【朝鮮京南鐵道】社線。朝鮮忠清南道天安郡天安邑にある總督府鐵道京釜本線の天安驛より舒川郡馬東面の長項棧橋驛に至る一四四・二軒、及び天安驛より京畿道利川郡清溪面の長湖院驛に通ずる六九・八軒より成る。

チヨ一セン 長善村

後國中郡の中郡。峰山町の南約三軒。南部は二一三〇米の丘地ありてその山脚北に延び、嶺南半は山地を成すも北半は低平なり。竹野川東南方より東りて東北境を西北流し、西南方より来るその支流は西北境を劃しつゝ東北流し、これ等は北境に於て合して北流す。農産に米・蕎麥等あり、縮緬の産額も多し。縣道東南方より東り一は西北方に一は西方に走りバスの便あり。

チヨ一センリ 長川里

約六里、南北の幅一十二里にして、此附近の最良港たり。西港は東港の西に連なり、莞島の東側と古今島の南西側及び新智島の西端との間にありて、よく諸島を保障す。

チヨ一テン 朝天面

南道濟州島の東北部。本島の首峯漢拿山の東北斜面を占め西南部の濟州邑界に土赤岳(一四〇二米)、御後岳(一〇二五米)、南部の南元面界に沙羅岳(一三三八米)、城板岳(一一二五米)等の諸火山聳立し、中腹に丁岳・針岳・破岳・扶大岳・扶小岳・桓文岳・又田岳・泉味岳・上栗岳・下栗岳等、海岸に近く岸山岳・元堂峯等の寄生火山あり。河川は土質の關係上地下に伏流し雨季のみ河水の流れあるも雨季去れば涸涸流を成す。岸山岳の西側の成徳里には貝殻の細砂より成る見事なる貝砂岳の發達を見る。土地利用上、高所より森林・山間・中間・海岸の四帯に區分すること中文面と略ぼ相等し。但し朝天面の東境西面と相接する所は一大火山岩層原を成して農耕に適せず従つて海岸地帯の耕地は極めて狭し。産物には大麥・粟を主とし甘藷・蕎麥・棉花等あり。水産物に鮎・鱈等あり、又濟州海女の漁獲による天草・若布・鮑・蠔等あり、鮑は明鮑として滿洲・支那に輸出せらる。其他牛・馬を産し馬尾を原料とする冠細工手工藝は最も盛にして大部分富商より供給せられ年産三萬餘圓の多きに

總督府鐵道兼二浦線の一驛(大正四年設置)。黄海道黃州郡水原面にあり。

チヨ一ソ一ケイ 頂雙溪

宜寧線の一驛(大正十一年設置)。奉天省北州基隆郡雙溪庄雙溪にあり。

チヨ一ソ一ン 趙村

平南線の一驛(昭和九年設置)。朝鮮平安南道大同郡龍山面にあり。

チヨ一タン 長湍

【長湍郡】朝鮮京畿道の最北部。道管内三府二〇郡の一。東は漣川郡、西は開豊郡、南は楊州郡、坡州郡に接し、北は黄海道金川郡と境す。南北約三〇軒、東西約二〇軒あり、面積七二二方軒。郡の北部は馬息嶺山脈が黄海道との分水嶺をなし支脈域内に及ぶために地は東南に向つて段斜す。北半部は山地にして、秀麗山(七一七米)・大屯山(七六〇米)等聳ゆるも、地勢急峻ならず山間處々に平坦地・耕地を見、南半部は低地をなし、殊に臨津江沿岸には沃野相連なり耕地多し。河川は西北邊に遶成江小支凡そ二條發し北又は西し城外に出づる外は、沙尾川・砂川の兩川何れも南流し、臨津江は此等を容れて南境を劃流し、高浪浦其他の河港ありて舟運の便ひらく。農業最も盛にして米・麥・大豆・棉・大麻及び各種の野菜の産多く、特に長湍大豆は良質を以て聞ゆ。その他養蠶業も盛にして長湍絹は有名なり。工業には陶器・漆器・製紙等あり何れも家内工業の域を脱せず。總督

府鐵道京義本線は西南部を斜に通じて、長湍驛(津南面)あり、道路は京義街道を通ずる外、郡邑長湍・邑内里(郡内面)・高浪浦里(長南面)・九化里(江上面)等を小中心として道路網や發達し、臨津江の水運の便と相俟つて交通便なり。行政上十面に分ち、郡廳を津南面(長湍)に置く。長南面高浪浦里より以南、臨津江沿岸約六軒の間には、玄武岩の侵蝕によりて成れる長湍石壁の勝景あり。本郡は三韓時代臨川郡の地にして、新羅時代の長湍・臨津・臨江・松林の各縣を合併し李朝世祖これを長湍郡と改め、邑を長湍面古邑里に置きしが、光武五年之を郡内面邑内里に置き、次いで最近に至り津南面に移す。

【長湍】朝鮮京畿道長湍郡津南面の主邑にして郡廳の所在地。京義本線の長湍驛(明治四十一年設置)あり。

チヨ一ド 長土面

建す。島内一周環状道路は海岸近く東西に横斷しこの路線に沿ひ大部分の集落は海岸の源泉に據拠を求めて居住し集村形態を成す。北村里は復の防風林を繞らし特色ある集落形態を成し、濟州城内より東方に始めて防風林を此郡落に於て見、之より東進、防風林は顯著となり防風林による一地域性も現出す。朝天里は西事務所の所在地にして郵便所・駐在所等あり。朝天港は既済汽船及び朝鮮郵船の木浦濟州航路船の寄航地を成す。

チヨ一ト一 長東面

南道長興郡の東北部。郡邑長興の北東約一〇軒。南境に帝岩山(七七八米)聳立する他は著しきものなきも城内山地起伏し

府鐵道京義本線は西南部を斜に通じて、長湍驛(津南面)あり、道路は京義街道を通ずる外、郡邑長湍・邑内里(郡内面)・高浪浦里(長南面)・九化里(江上面)等を小中心として道路網や發達し、臨津江の水運の便と相俟つて交通便なり。行政上十面に分ち、郡廳を津南面(長湍)に置く。長南面高浪浦里より以南、臨津江沿岸約六軒の間には、玄武岩の侵蝕によりて成れる長湍石壁の勝景あり。本郡は三韓時代臨川郡の地にして、新羅時代の長湍・臨津・臨江・松林の各縣を合併し李朝世祖これを長湍郡と改め、邑を長湍面古邑里に置きしが、光武五年之を郡内面邑内里に置き、次いで最近に至り津南面に移す。

【長湍】朝鮮京畿道長湍郡津南面の主邑にして郡廳の所在地。京義本線の長湍驛(明治四十一年設置)あり。

チヨ一チン 鳥致院邑

朝鮮忠清南道燕岐郡の首邑。郡の東北部に偏在し、面積は約四方軒に過ぎず。されど、總督府鐵道京釜本線の一要驛(明治三十八年設置)にして、忠清南・北兩道の咽喉を扼し、南面には錦江支流なる鳥川・美湖川の兩江によりて灌溉せらるる廣闊なる平野を控へ、この平野は地味肥沃にして各種の農産に富むを以て、邑は米・棉花・菓(栗・棗)等の集散地として盛んにして、米の移出は特に多し。附近の特産に柁柳・薄荷酒・吟等あり。近時

チヨ一チクク 長直路

朝鮮南海岸の一水道。全羅南道莞島郡北部の諸島間を通ずるものにして、東口に生日島を控へ、西口は莞島によりて擁護せられ、南は靑智島に、北は古今・助桑の二島に昇し、東西二港に分たれ、又別に古今島諸地なる狭水道あり。長直路の名稱は英稱 "Long Road" の反譯に係る。この直路は各風を保障し、偶々風起るも波浪の湧起することなく、又潮流も急激ならず、頗る安穩なり。東港は助桑島・古今島と靑智島との間にあり、東西の長さ

殆んど低平地なく、耕地は緩斜面を利用し灌溉不利なるを以て、概して畑地卓越す。産物は大豆・粟を主とし馬鈴薯・粟等あり。寶城・長興街道の中間樞要位置を占め乗合自動車の便あり。

チヨ一ト一 鳥島

【鳥島群島】朝鮮全羅南道の西南部にありて、羅州群島の南端部を成す群島。東北は長竹水道を距て珍島に對し、東南は獨互群島に、西南は巨次・孟竹の兩群島に對す。主島は上鳥島・下鳥島なり。

チヨ一ト一 鳥島面

【鳥島面】朝鮮全羅南道珍島郡の一。鳥島群島のうちなる下鳥島・上鳥島を主要部となし、その西南に分布する大馬島・觀沙島・池木島・觀梅島・靑藤島・巨次群島・孟竹群島・屏風島、東南方の竹項島・獨互群島、北方に點在する諸玉島・内波島・外波島・城南島・加沙島等、及び孟竹島の西方三五軒の小中關群島、その他多數の島嶼群を以て構成せらる。加沙島北方の屬島なる足島より最南の屏風島まで約五六軒、東端の獨互群島より西方小中關群島まで六八軒あり。主島は上鳥島・下鳥島にして兩島は鳥島水道を隔てて相對し、下鳥島は面中の最大島にして東西の長さ約七軒、幅約三軒、中央の倉御里は群島の主邑にして西事務所あり、島の東北端に下鳥島燈臺(明治四十二年設置)あり。閃白色、毎一〇秒に一閃光を發し光達一八里にして、霧信號を裝備す。島の北に停舟浦の好漁地あり。又此

チヨ一ト一 長洞面

北道熙川郡の東南部。熙川面の東南に隣り、南は平安南道寧遠郡に境す。南境を狼林山脈走りて天上臺・香羅峰・舞童峰等一五〇〇一七〇〇米の諸嶺聳え、これより支脈三條北西に向つて出で一は東境を一は西境を限り漸次北方に低坂し、而して虎岩・蓮頭峰を連ぬる中央支脈を分水嶺となし諸水東西の兩支谷に集まりて北流し、清川江これ等を併せて面の北部を蛇曲西南流し、沿岸に狭長なる平地拓けて農耕行はる。南半は處々家帯樹林を交ふる森林その大部を占む。産物は大豆・粟・大麻等を主とす。邊陲に位する

を以て交通不便、僅かに清川江に沿うて自動車道路走らるのみ。清川江右岸の館洞に事務所を置く。江の上流、生洞に鳳丹城址あり。西部の支谷(元興里)には元興温泉湧出す。硫黄泉にして、温度四八度、皮膚病等に效あり。

チヨ一ド一 長道面

畿道長道郡のほぼ中央。郡邑長道を距る北東約一〇軒。北境に斐陵山(三九二米)ありてやや高く、西境には盤龍山・大徳山(二七七米)等あり。丘陵は城内にも到る處に起伏するも、地勢峻しからず。臨津江支流は諸水を集めて中央部を西南流し、耕地はこの流域の狭長なる平地と丘陵地とに發達す。産物に米・麥・大豆・棉・大麻・繭・牛等あり。東部を三等道路通ずるも交通未だ便ならず。

チヨ一トク 長徳島

朝鮮東海岸、元山港内の一小島。元山府に屬し西に東防波堤、西防波堤を連ね、島上に長徳島燈臺(明治四十年設置)あり、燈質は四白光にして毎五秒に一閃光を發す、先達距離十二浬。

チヨ一ナン 長南面

畿道長南郡の東部。郡邑長南の東北一二軒。城内に一〇〇一五〇米の丘陵起伏し西部臨川郡との境を蛇曲流する臨津江と、東境を劃する沙尾川との流域には低地拓けて、農耕盛に行はる。産物に米・麥・大豆・棉等を主とす。面邑高浪浦里に於て東より西、南より北へ通ずる二條

の三等道路交叉し、交通比較的便なり。面邑は臨津江の右岸に位する河港にして物資の集散處に、金融組合・郵便所・市場等あり。邑以南の江岸は玄武岩の險崖を成し、長道石壁と稱し、古來國王屢々遊幸してその勝景を賞せしと傳ふ。

チヨ一ナン 廳南町

畿道長生郡の西南部。茂原町の西南方にて間に五郷村を挟む。全町丘陵地にて森林多く丘陵間に狭き田地・畑地あり。米・麥・繭を産し養蠶も行はる。縣道は茂原町(約七軒)及び市原郡鶴舞町(約五軒)に通じ、茂原町に省線房總東線茂原驛、鶴舞町に小海鐵道の鶴舞町驛あり、共にバスを通ず。又町内には南鐵鐵道の長南元宿驛(昭和六年設置)・長南驛・上總鐵道驛(共に昭和六年設置)の三驛あり。この地は和名抄、植生郡坂本郷及び長柄郡車持郷の地にして中古は廳南院と稱す。古來南院の名邑として既に足利氏の中葉以來、武田氏の一族世々領有し謂ゆる廳南城下として發達す。徳川氏の初め檢地奉行暫く居を本村に定め、市街を設け、元祿の頃全村の戸數二百七十戸に達せしといふ。もと武丘村と稱せしが明治廿三年廳南町と改稱、以て今日に及ぶ。蓋し長南とは長柄郡の南部なる意より生ぜし名なるべし。町内に僧日向真(法華寺境内)・武田信豊(大林寺境内)・土橋平藏(武田境内)・大字長南町の北方山中に其址存す。康正二年、武田信長の當國

チヨ一ハク 長白

守護代として本州に入りて築く所、明應三年その子信高里具義成に降り、子孫相承けて當城にあり、天正十八年その高豐信(一に信榮に作る)の時、徳川氏の將、本多忠勝に抗して敗死し、城陥り家亡ぶ。(舎人城) 大字坂本字舎人(利根里)にあり。幾にその形跡を存す。里傳によれば廳南城主武田氏の磐なりと。(無野神社) 大字長南に鎮座。神社、事解男命、伊弉冉命、速玉男命。例祭九月二十日。(長福寺) 大字長南にあり。天台宗。大平野山と號し房總兩國に於ける同宗の檀林たり。延暦十七年八月桓武天皇の勅願に依り傳教大師の創建に係る。天正中住僧譽徳、房總三國の良材を比叡山に贈進し、根本中堂の餘材を賜りて本堂を建つ。同十八年徳川家康帝領五十石の朱印を寄す。(淨徳寺) 大字長南にあり。臨濟宗妙徳寺派。白鳥山と號し、延元四年の創建、妙覺禪院和尚の開山にして中興は大靈宗祖和尚。天正十九年徳川家康帝領五十石を附す。維新當時顯知事榮山曲一假蘇羅を本寺に設けしといふ。現堂宇は徳川家光の寄進に係り、後山の庭は夢窗國師の築きしものなりと傳ふ。(大林寺) 宇武田にあり。曹洞宗。賢王山と號し、大永五年正徳和尚の創建。天正中、領主武田信豊之を再興す。徳川家康十石の朱印を賜ふ。境内に武田氏累代の墓あり。

チヨ一ホ一 長峰島

十勝平野の沿岸に多き海成湖の一にして東北より西南への徑約一・六軒、幅〇・三一一一軒。湖線西側に入出入多きも略狹長なる形をなす。東側は約半軒の砂洲を以て海より隔てらる。附近の地勢は西一〇〇米内外の高地より東に傾き、西部山地より發したる長野川は二、三の支流の水を集めて湖中に入る。流域に宇長節村あり。海岸に鹽谷漁場あり。

チヨ一ホ一 長平

【長平面】 朝鮮咸鏡南道甲山郡の南部。蓋馬高原中に位し、最低部も海拔約八〇〇米あり。南境に楚巖嶺山脈走り、白茅(一・九〇九米)・龍峯(一八四〇米)を起し、東境に天鳳山、北境には雲嶺(一六三七米)・石衣峰(一五五六米)等聳え、地勢概ね峻峻なり。鴨綠江の一支盧川江西部を貫流し、中央部甲山附近にて俱東川を併せ北流し、沿岸に狭長なる平地ありて農耕行はる。農産に燕麥・馬鈴薯・米・大麻・亞麻等あり、南部の盧川江支流流域よりは良材を出し、又近時製麻工業勃興せり。二等道路東南の城津邑より來りて北方蘆山邑に出で、途中甲山より南方北青に支線を岐ち何れも自動車を通じて交通やや便利なり。主邑甲山は盧川江右岸に位し、人口約二千九百、郡廳・面事務所・警察署・郵便局・金融組合・地方法院支店・工場等あり。邑の南方長平山上に城あり、往時女眞都統時代の築造。城壁の周圍約八〇〇米、

チヨ一ホ一 長木面

【長木面】 朝鮮全羅南道長興郡の東北隅。郡邑長興の北方約一五軒。東境に勇玉山(四七九米)、北境に龍尾山(五〇六米)、西境に龍頭山(五一四米)聳え、城内山地を成せども西南部に稍々低地傾はる。産物は大豆を主とし燕麥・馬鈴薯・烟草・薪炭等あり。また石珍金山ありて金・銀を出す。道路は何れも等外路線にして交通未だ便ならず。

チヨ一ホ一 長豊炭嶺

【長豊炭嶺】 朝鮮咸鏡北道吉州郡の中部北偏。吉州邑に西隣し、東西約二五軒、南北約一〇軒。西境に摩天嶺山脈走り安班徳(一八三〇米)・小盤徳等聳え、支脈は北境・南境に連互し一千米以上の峻嶺を起すも、漸次東南に向つて低夷し、南大川の本支流域内を灌溉して東部にやや廣き平野拓く。農産物は大豆を主とし、米・大豆・粟等これに次ぐ。また林洞嶺山より雲母を、吉州黒鉛嶺山より黒鉛を出す。

【長平面】 朝鮮咸鏡南道甲山郡の南部。蓋馬高原中に位し、最低部も海拔約八〇〇米あり。南境に楚巖嶺山脈走り、白茅(一・九〇九米)・龍峯(一八四〇米)を起し、東境に天鳳山、北境には雲嶺(一六三七米)・石衣峰(一五五六米)等聳え、地勢概ね峻峻なり。鴨綠江の一支盧川江西部を貫流し、中央部甲山附近にて俱東川を併せ北流し、沿岸に狭長なる平地ありて農耕行はる。農産に燕麥・馬鈴薯・米・大麻・亞麻等あり、南部の盧川江支流流域よりは良材を出し、又近時製麻工業勃興せり。二等道路東南の城津邑より來りて北方蘆山邑に出で、途中甲山より南方北青に支線を岐ち何れも自動車を通じて交通やや便利なり。主邑甲山は盧川江右岸に位し、人口約二千九百、郡廳・面事務所・警察署・郵便局・金融組合・地方法院支店・工場等あり。邑の南方長平山上に城あり、往時女眞都統時代の築造。城壁の周圍約八〇〇米、

チヨ一ホ一 長豊炭嶺

【長豊炭嶺】 朝鮮咸鏡北道吉州郡の中部北偏。吉州邑に西隣し、東西約二五軒、南北約一〇軒。西境に摩天嶺山脈走り安班徳(一八三〇米)・小盤徳等聳え、支脈は北境・南境に連互し一千米以上の峻嶺を起すも、漸次東南に向つて低夷し、南大川の本支流域内を灌溉して東部にやや廣き平野拓く。農産物は大豆を主とし、米・大豆・粟等これに次ぐ。また林洞嶺山より雲母を、吉州黒鉛嶺山より黒鉛を出す。

【調布町】 東京府武蔵國北多摩郡の東南部。多摩川の北岸。武蔵野臺地南端の一部を占め畑地多く南部の多摩川流域は低地をなして水田・桑畑あり。繭・米・麥を産す。甲州街道は町の中央を西走し聚落はこれに沿ひて發達す。京王電氣鐵道線これに沿ひ町内に國領・布田・調布・上石原・飛田給及び同支線京王多摩川線の六驛を設く。この地は和名抄、多摩郡小島郷の内なるべく、近世は府中領に屬す。俗にこの地は上古マツタリの布を織りし土地なるにより調布の名出でしといふ。江戸時代には代官の支配地にして甲州街道筋の商業盛なる地なりしも省領中央本線開通以來衰へ、近年京王電氣鐵道により漸次復活しつつあり。明治天皇、明治十三年山梨・三重及び京都行幸の際、同十四年府中及び八王子行幸の際、同十五

チヨ一フ 調布

【調布町】 東京府武蔵國北多摩郡の東南部。多摩川の北岸。武蔵野臺地南端の一部を占め畑地多く南部の多摩川流域は低地をなして水田・桑畑あり。繭・米・麥を産す。甲州街道は町の中央を西走し聚落はこれに沿ひて發達す。京王電氣鐵道線これに沿ひ町内に國領・布田・調布・上石原・飛田給及び同支線京王多摩川線の六驛を設く。この地は和名抄、多摩郡小島郷の内なるべく、近世は府中領に屬す。俗にこの地は上古マツタリの布を織りし土地なるにより調布の名出でしといふ。江戸時代には代官の支配地にして甲州街道筋の商業盛なる地なりしも省領中央本線開通以來衰へ、近年京王電氣鐵道により漸次復活しつつあり。明治天皇、明治十三年山梨・三重及び京都行幸の際、同十四年府中及び八王子行幸の際、同十五

チヨ一フ 調布

【調布町】 東京府武蔵國北多摩郡の東南部。多摩川の北岸。武蔵野臺地南端の一部を占め畑地多く南部の多摩川流域は低地をなして水田・桑畑あり。繭・米・麥を産す。甲州街道は町の中央を西走し聚落はこれに沿ひて發達す。京王電氣鐵道線これに沿ひ町内に國領・布田・調布・上石原・飛田給及び同支線京王多摩川線の六驛を設く。この地は和名抄、多摩郡小島郷の内なるべく、近世は府中領に屬す。俗にこの地は上古マツタリの布を織りし土地なるにより調布の名出でしといふ。江戸時代には代官の支配地にして甲州街道筋の商業盛なる地なりしも省領中央本線開通以來衰へ、近年京王電氣鐵道により漸次復活しつつあり。明治天皇、明治十三年山梨・三重及び京都行幸の際、同十四年府中及び八王子行幸の際、同十五

のとし、此等を連れて二等道路通じ交通便なり。松浦浦は面中最も良の漁港にして西は漆川水道を隔てて七川島を望み、領海内漁業の中心たり。漁業組合・小學校等あり。日露戦役の際我が海軍は此地を假根拠地として防備隊を置き、其後これを領海防備隊と改稱せしが、明治四十五年四月、防備隊は領海に移轉せり。日本海軍の直前、東郷提督が軍艦を蒐めてバルチック艦隊との遭遇を待機せし所にして、漆川水道附近は聯合艦隊の備地たりき。

チヨ一モン 長門峡

ある峡流。萩市に於て日本海に注ぐ阿武川の上流が中国山脈を横切る所におり。交通不便のため近年まで世に現はれざりしが、近時省嶺山口線の長門峡驛(阿武郡錦山村)あり、大正十一年設置)も出来、宣傳の力と相俟ちて全国的に知らるるに至り、耶馬溪に遙らぬ絶景といはる。峡流の延長は本流に於て約一二軒、支流に於て合計約二〇軒あり。本流は東・西兩長門峡に分たれ、支流生雲川には生雲溪、支流蔵目喜川には金部溪、支流佐々畝川には蔵溪あり。そのうち長門峡驛より朽崎口の北端に至る八軒餘の東長門峡が最も豪壯雄大にして、兩岸は絶壁をなし、水は碧潭をなす。これ等峡流にはまた枯の産多く、森林には野猿、猿流には河鹿の産あり。

チヨ一ヤ 蝶屋村

石川縣加賀

國石川郡の西海岸。金澤市の北に接す。面積五・〇五方軒。手取川右岸の沖積地を占め、土地平坦にして田地拓け、西部海岸は砂浜をなす。農業を主とし米産多く、次いで水産業も行はる。省嶺北陸本線及び縣道村内を貫通し美川驛に近く、金澤市・松任町間のバス通ず。村名蝶屋は古く庄名と呼ばれ、一に長屋に作る。盛衰記の一本に木曾義仲經屋庄(異本朝屋に作る)を多田八幡に寄進する由見ゆるも、蓋し此地とす。

チヨ一ユ一 長有面

南道金海郡の西南部。金海邑の西南に隣りす。西方昌原郡との境に佛母山・龍池峰等の諸嶺連り、山脈一は東北走して遊體面との境を成し、一は東に連互して洛東江岸に達す。東北部は洛東江支流の造る沖積平野にして地味肥沃、農産物かなり。産物は米・麥・大豆・棉等の産産を主とし養蠶・製紙製造等の副業行はる。西部には栗實の産多し。金海邑との間にバスの便あり、交通未だ便ならず。面邑茂漢里は東北部に偏在し、金融組合・市場等あり、その西五軒の龍池峰中に長遊庵あり。

チヨ一ヨ一 長陽

阿蘇火口丘島嶼子嶺の西斜面を占む。東嶺に聳ゆる鳥帽子嶺(一三三七米)は放射谷をつくりつゝ廣く西方へ裾野を擴げ、西嶺にて外輪山東麓と接す。南部は南郡

谷の低地の西北部を占めて僅かに平地開く。南郡谷を流る白川は南境を西北流し北方より西境を南下する黒川を入れて西境中央にて外輪山の一角を切り西方へ流下す。村内には五箇所に地獄・垂玉・柳木戸下・湯ノ谷の温泉湧出す。戸下・柳木戸下は設備よく整ひ、夏季浴客多く、垂玉・地獄・湯ノ谷は阿蘇登山者の休息所として又夏季學生の勉強地として漸次繁榮の素地をなしつつあり。低地には田畑よく拓け米・麥を産し山麓部は草地廣く牛馬を放牧す。省嶺高森線の長陽驛(昭和三年設置)あり。垂玉温泉・柳木温泉行のバスあり。古くは和名抄、阿蘇郡衣尾郷の内に屬し、中世は附近諸村と共に南郡谷と稱せらる。大字長野字下野は神武天皇の御孫阿蘇の祭神健甕命此地を開拓し邦土を治め給ふに當り、兵武を練り兼れて善歌を除き給はんとの意を以て狩を行ひ給ひし所に於て、命乞給ひて阿蘇宮に鎮座のちも毎年二月朔日狩を罷す例となれり。此行事は天正九年廢止され、明治初年王政復古の業成るに及び此行事を復興せしめんとして終に成らずして今日に至る。(戸下温泉)泉質は石青泉。温泉は柳木温泉の熱湯を引きしもの。白川と黒川との合流點にありて阿蘇温泉郷の支働地ともいふべき位置を占め、阿蘇登山の準備地として、翠嶺四周の嶺地なるも、清流に臨みて山水水光の美に富む。(柳木温泉)古湯と新湯と

あり、古湯は觀音湯(無色透明、含鐵明礬泉)・平湯(石青泉)・熱湯(食鹽泉)の三つに分れ、新湯は無色透明の弱アルカリ性食鹽泉なり。白川の渓流に沿ひ旅館は斷崖に倚りて建てられ、翠嶺は周圍をかこみ盛夏なほ涼味を覺ゆる別天地たり。湯は寛文四年藩主御川氏の家臣阿蘇山に猪狩りせし時、傷つきし猪の傷口を浸し居りしより發見せらる。此地は阿蘇登山者の準備地なり。附近に點綴ノ瀧及び白糸ノ瀧あり。(垂玉温泉)泉質は石青泉、含鐵酸泉。地獄登山道の中程にあり海拔六六七米、こゝに至れば眼界廣く柳木戸下の温泉を俯視し、後には夜半天を衝く。温泉の起源は詳かならざるも天正年間こゝに金龍山垂玉寺といふ觀音堂ありて地方の人の遊樂場所たりしといふより見れば、その以前に發見されしものならん。(地獄温泉)新湯と舊湯とありて何れも明礬泉なり。夜半の中腹にあり。海拔七五〇米、展望廣く西方海を隔て、雲仙嶺の雲表に聳ゆるを望む。

チヨ一リン 長林

朝鮮平安北道泰川郡の南端。郡邑泰川を距る南約八軒。狹隘嶺山脈の餘脈域内に及んで丘陵地帯を成し、北部の頭嶺山(三六四米)やや等ばるも、東北部と西南部とは拓けて田畑連る。東方鐵山郡との境を大寧江南流し、その一支は西南博川郡界を劃して東南流し南方に於て合流す。耕地はその流域の外、丘陵地の到る處に發達し、米・粟・大豆・棉等の農産あり。その他鐵産あり。西部を泰川邑より来る二等道路走り、南方の京義本線嶺美驛(博川郡高陽)に近きも、交通未だ便ならず。

實等を産す。信川郡との境に近く珠連金嶺・豐金嶺山ありて金・銀を出し、其他工業に陶器あり。社嶺黄海嶺西北部を掠め野村驛(昭和四年設置)あり、中央を信川・水嶺里(蓬萊面)間の三等道路貫き、その他、面邑文川里を中心に道路四通して、交通や便なり。

チヨ一 長楊面

朝鮮江原道淮陽郡の東部。郡邑淮陽の東方約三〇軒。東西一五一一八軒、南北約四〇軒、面積約五〇〇方軒に及ぶ廣大なる地域を占む。四境山脈を以て圍まれ城内平地を乏し。即ち大白山脈は東部高城郡との境を走り、半島の名山、金剛山の主峰昆虛峰(一六三八米)を始め白馬峰・同土峰等屹立し、西境を走る山脈には板峰(一一二六八米)・玉田峰・舊斷髮嶺(一一二四一米)等あり。面の東北部は謂ゆる内金剛の勝地にして、城内に長安寺・表調寺・正陽寺・摩訶衍庵等の古刹、萬壽洞・水龍洞・望軍臺・妙吉祥・九成洞等の絶景あり。北境鶴峰の麓に金剛川發源して南流し、昆虛峰下に出づる東金剛川は東部山地の諸水を集めて、南部に於て合流し爾して北漢江に注ぐ。この流域に狭長の平地拓けて農業行はる。産物は大豆・小豆・粟・蕎麥・大麻・煙草等の農産を主とし、長楊金山より金・銀を、その他水鉛・重石等を出す。社嶺金剛山電氣西方より來り斷髮嶺(八二四米)を越えて、金剛山長安寺附近まで通じ、斷髮嶺・末嶺

チヨ一 長陽

里(以上昭和五年開業)・内金剛(昭和六年開業)・三驛の設けあり、末嶺里を中心に道路網や發達し、金剛山麓にありては温泉嶺(八五八米)を越えて温井里(外金剛)に自動車道路通じ、また内嶺在嶺(一一七五米)・外嶺在嶺(一一九七米)を越ゆる探勝路あり。面邑末嶺里は一に北倉とも呼ばれ金融組合・市場等あり、地方物の集散地なり。その東約四軒の塔瓦里は往昔長陽寺ありし舊址にして、新羅時代の三重塔(大理石造、高さ四・四米)遺存す。密金剛山(長安寺)内金剛の瓦刹にして、新羅法興王元年(一一七七)眞表律師の創建と傳ふ。爾來再三重修を經、文殊殿の兵火に罹り一時法燈絶えしを、李朝中世以後漸次復興重建せしものにて規模甚だ大きく、凡て六殿・七間・四樓・一門あり。特に大雄寶殿・四聖之殿は特別保護建築物にして、朝鮮中期の藝術美を具現す。附近に長慶庵・安樂庵・地蔵庵・靈源庵・兜率庵等の末寺あり。長安寺の境内に長安寺ホテルあり。(表調寺)内金剛二大寺の一。新羅文武王十年(一一三三)表調律師の創建。現在の堂宇は李朝七代世祖王の時(一一一六)の重修に係り、般若寶殿・極樂殿・龍船殿を始め殿堂樓閣十餘棟、その多くは朝鮮近代の建築手法に出づ。寺寶中、高麗朝僧懶翁の建てし石燈籠(高さ約四米)、高さ約三〇米の岩に彫出せる彌陀坐像は何れも國寶。正陽寺・摩訶衍・白華

庵等の名刹は末寺にして、正陽寺の藥師坐像(石造、新羅末期)・三重石塔(高さ五米餘、高麗中期)・石燈籠(高さ約四米、作期間前)・白華庵の西山大師碑等は又何れも國寶に編入せらる。

チヨ一 朝陽面

朝鮮平安南道价川郡の中部東端。价川面の東に隣り、地形東北―西南に狭長にしてその長さ二〇餘軒、幅は七八軒あり。妙香山脈の西端部に當り、東部は地勢峻峻にして、東境徳川郡界の月峰山(〇三三米)最も著はるるも、漸次西方に低夷し、月峰山に發源する价川江とその支流流域にはやや廣き平地ありて耕地發達す。米・粟・大豆・棉・蕎麥等の農産物あり、また龍洞嶺山より金・銀・鉛を出す。郡邑价川とはその西部に於て相接するも、交通未だ便ならず。本面は近年、舊内東面一團と价川面一部とを合併して新設せしものにて、面邑鳳鳴里は舊邑内に在り、従つて又、本面は經濟上价川邑の商賑に屬す。鳳鳴里の南二軒に趙馬峰(三二五米)あり、一に趙然臺と名け、善善亭あり、价川邑の公園地となれり。

チヨ一 朝陽寺會

開

チヨ一 朝陽寺會

東州普蘭店民政署管區の北東部。普蘭店會の東北にて、北は滿洲國奉天省復縣と界す。中部南北に高度一〇〇米未滿の丘陵斷續して連るも、西邊は鞍子河左岸の平地、東側は大沙河右岸の平地にて農耕行はれ高粱・落花生等の農産あり。滿鐵

連京線の普蘭店驛に達からざれば交通不便ならず。

チヨ一 長禮炭礦

朝鮮平安北道泰川郡の南端。郡邑泰川を距る南約八軒。狹隘嶺山脈の餘脈域内に及んで丘陵地帯を成し、北部の頭嶺山(三六四米)やや等ばるも、東北部と西南部とは拓けて田畑連る。東方鐵山郡との境を大寧江南流し、その一支は西南博川郡界を劃して東南流し南方に於て合流す。耕地はその流域の外、丘陵地の到る處に發達し、米・粟・大豆・棉等の農産あり。その他鐵産あり。西部を泰川邑より来る二等道路走り、南方の京義本線嶺美驛(博川郡高陽)に近きも、交通未だ便ならず。

チヨ一 長禮炭礦

朝鮮平安北道泰川郡の南端。郡邑泰川を距る南約八軒。狹隘嶺山脈の餘脈域内に及んで丘陵地帯を成し、北部の頭嶺山(三六四米)やや等ばるも、東北部と西南部とは拓けて田畑連る。東方鐵山郡との境を大寧江南流し、その一支は西南博川郡界を劃して東南流し南方に於て合流す。耕地はその流域の外、丘陵地の到る處に發達し、米・粟・大豆・棉等の農産あり。その他鐵産あり。西部を泰川邑より来る二等道路走り、南方の京義本線嶺美驛(博川郡高陽)に近きも、交通未だ便ならず。

チヨ一 長禮炭礦

朝鮮平安北道泰川郡の南端。郡邑泰川を距る南約八軒。狹隘嶺山脈の餘脈域内に及んで丘陵地帯を成し、北部の頭嶺山(三六四米)やや等ばるも、東北部と西南部とは拓けて田畑連る。東方鐵山郡との境を大寧江南流し、その一支は西南博川郡界を劃して東南流し南方に於て合流す。耕地はその流域の外、丘陵地の到る處に發達し、米・粟・大豆・棉等の農産あり。その他鐵産あり。西部を泰川邑より来る二等道路走り、南方の京義本線嶺美驛(博川郡高陽)に近きも、交通未だ便ならず。

チヨ一 長禮炭礦

朝鮮平安北道泰川郡の南端。郡邑泰川を距る南約八軒。狹隘嶺山脈の餘脈域内に及んで丘陵地帯を成し、北部の頭嶺山(三六四米)やや等ばるも、東北部と西南部とは拓けて田畑連る。東方鐵山郡との境を大寧江南流し、その一支は西南博川郡界を劃して東南流し南方に於て合流す。耕地はその流域の外、丘陵地の到る處に發達し、米・粟・大豆・棉等の農産あり。その他鐵産あり。西部を泰川邑より来る二等道路走り、南方の京義本線嶺美驛(博川郡高陽)に近きも、交通未だ便ならず。

チヨ一 長禮炭礦

朝鮮平安北道泰川郡の南端。郡邑泰川を距る南約八軒。狹隘嶺山脈の餘脈域内に及んで丘陵地帯を成し、北部の頭嶺山(三六四米)やや等ばるも、東北部と西南部とは拓けて田畑連る。東方鐵山郡との境を大寧江南流し、その一支は西南博川郡界を劃して東南流し南方に於て合流す。耕地はその流域の外、丘陵地の到る處に發達し、米・粟・大豆・棉等の農産あり。その他鐵産あり。西部を泰川邑より来る二等道路走り、南方の京義本線嶺美驛(博川郡高陽)に近きも、交通未だ便ならず。

チヨ一 長禮炭礦

朝鮮平安北道泰川郡の南端。郡邑泰川を距る南約八軒。狹隘嶺山脈の餘脈域内に及んで丘陵地帯を成し、北部の頭嶺山(三六四米)やや等ばるも、東北部と西南部とは拓けて田畑連る。東方鐵山郡との境を大寧江南流し、その一支は西南博川郡界を劃して東南流し南方に於て合流す。耕地はその流域の外、丘陵地の到る處に發達し、米・粟・大豆・棉等の農産あり。その他鐵産あり。西部を泰川邑より来る二等道路走り、南方の京義本線嶺美驛(博川郡高陽)に近きも、交通未だ便ならず。

チヨ一 長禮炭礦

朝鮮平安北道泰川郡の南端。郡邑泰川を距る南約八軒。狹隘嶺山脈の餘脈域内に及んで丘陵地帯を成し、北部の頭嶺山(三六四米)やや等ばるも、東北部と西南部とは拓けて田畑連る。東方鐵山郡との境を大寧江南流し、その一支は西南博川郡界を劃して東南流し南方に於て合流す。耕地はその流域の外、丘陵地の到る處に發達し、米・粟・大豆・棉等の農産あり。その他鐵産あり。西部を泰川邑より来る二等道路走り、南方の京義本線嶺美驛(博川郡高陽)に近きも、交通未だ便ならず。

チヨ一 長禮炭礦

朝鮮平安北道泰川郡の南端。郡邑泰川を距る南約八軒。狹隘嶺山脈の餘脈域内に及んで丘陵地帯を成し、北部の頭嶺山(三六四米)やや等ばるも、東北部と西南部とは拓けて田畑連る。東方鐵山郡との境を大寧江南流し、その一支は西南博川郡界を劃して東南流し南方に於て合流す。耕地はその流域の外、丘陵地の到る處に發達し、米・粟・大豆・棉等の農産あり。その他鐵産あり。西部を泰川邑より来る二等道路走り、南方の京義本線嶺美驛(博川郡高陽)に近きも、交通未だ便ならず。

チヨ一 長禮炭礦

朝鮮平安北道泰川郡の南端。郡邑泰川を距る南約八軒。狹隘嶺山脈の餘脈域内に及んで丘陵地帯を成し、北部の頭嶺山(三六四米)やや等ばるも、東北部と西南部とは拓けて田畑連る。東方鐵山郡との境を大寧江南流し、その一支は西南博川郡界を劃して東南流し南方に於て合流す。耕地はその流域の外、丘陵地の到る處に發達し、米・粟・大豆・棉等の農産あり。その他鐵産あり。西部を泰川邑より来る二等道路走り、南方の京義本線嶺美驛(博川郡高陽)に近きも、交通未だ便ならず。

チヨ一 長禮炭礦

朝鮮平安北道泰川郡の南端。郡邑泰川を距る南約八軒。狹隘嶺山脈の餘脈域内に及んで丘陵地帯を成し、北部の頭嶺山(三六四米)やや等ばるも、東北部と西南部とは拓けて田畑連る。東方鐵山郡との境を大寧江南流し、その一支は西南博川郡界を劃して東南流し南方に於て合流す。耕地はその流域の外、丘陵地の到る處に發達し、米・粟・大豆・棉等の農産あり。その他鐵産あり。西部を泰川邑より来る二等道路走り、南方の京義本線嶺美驛(博川郡高陽)に近きも、交通未だ便ならず。

チヨ一 長禮炭礦

朝鮮平安北道泰川郡の南端。郡邑泰川を距る南約八軒。狹隘嶺山脈の餘脈域内に及んで丘陵地帯を成し、北部の頭嶺山(三六四米)やや等ばるも、東北部と西南部とは拓けて田畑連る。東方鐵山郡との境を大寧江南流し、その一支は西南博川郡界を劃して東南流し南方に於て合流す。耕地はその流域の外、丘陵地の到る處に發達し、米・粟・大豆・棉等の農産あり。その他鐵産あり。西部を泰川邑より来る二等道路走り、南方の京義本線嶺美驛(博川郡高陽)に近きも、交通未だ便ならず。

チヨ一 長禮炭礦

朝鮮平安北道泰川郡の南端。郡邑泰川を距る南約八軒。狹隘嶺山脈の餘脈域内に及んで丘陵地帯を成し、北部の頭嶺山(三六四米)やや等ばるも、東北部と西南部とは拓けて田畑連る。東方鐵山郡との境を大寧江南流し、その一支は西南博川郡界を劃して東南流し南方に於て合流す。耕地はその流域の外、丘陵地の到る處に發達し、米・粟・大豆・棉等の農産あり。その他鐵産あり。西部を泰川邑より来る二等道路走り、南方の京義本線嶺美驛(博川郡高陽)に近きも、交通未だ便ならず。

チヨ一 長禮炭礦

朝鮮平安北道泰川郡の南端。郡邑泰川を距る南約八軒。狹隘嶺山脈の餘脈域内に及んで丘陵地帯を成し、北部の頭嶺山(三六四米)やや等ばるも、東北部と西南部とは拓けて田畑連る。東方鐵山郡との境を大寧江南流し、その一支は西南博川郡界を劃して東南流し南方に於て合流す。耕地はその流域の外、丘陵地の到る處に發達し、米・粟・大豆・棉等の農産あり。その他鐵産あり。西部を泰川邑より来る二等道路走り、南方の京義本線嶺美驛(博川郡高陽)に近きも、交通未だ便ならず。

チヨ一 長禮炭礦

朝鮮平安北道泰川郡の南端。郡邑泰川を距る南約八軒。狹隘嶺山脈の餘脈域内に及んで丘陵地帯を成し、北部の頭嶺山(三六四米)やや等ばるも、東北部と西南部とは拓けて田畑連る。東方鐵山郡との境を大寧江南流し、その一支は西南博川郡界を劃して東南流し南方に於て合流す。耕地はその流域の外、丘陵地の到る處に發達し、米・粟・大豆・棉等の農産あり。その他鐵産あり。西部を泰川邑より来る二等道路走り、南方の京義本線嶺美驛(博川郡高陽)に近きも、交通未だ便ならず。

チヨ一 長禮炭礦

朝鮮平安北道泰川郡の南端。郡邑泰川を距る南約八軒。狹隘嶺山脈の餘脈域内に及んで丘陵地帯を成し、北部の頭嶺山(三六四米)やや等ばるも、東北部と西南部とは拓けて田畑連る。東方鐵山郡との境を大寧江南流し、その一支は西南博川郡界を劃して東南流し南方に於て合流す。耕地はその流域の外、丘陵地の到る處に發達し、米・粟・大豆・棉等の農産あり。その他鐵産あり。西部を泰川邑より来る二等道路走り、南方の京義本線嶺美驛(博川郡高陽)に近きも、交通未だ便ならず。

チヨ一 長禮炭礦

朝鮮平安北道泰川郡の南端。郡邑泰川を距る南約八軒。狹隘嶺山脈の餘脈域内に及んで丘陵地帯を成し、北部の頭嶺山(三六四米)やや等ばるも、東北部と西南部とは拓けて田畑連る。東方鐵山郡との境を大寧江南流し、その一支は西南博川郡界を劃して東南流し南方に於て合流す。耕地はその流域の外、丘陵地の到る處に發達し、米・粟・大豆・棉等の農産あり。その他鐵産あり。西部を泰川邑より来る二等道路走り、南方の京義本線嶺美驛(博川郡高陽)に近きも、交通未だ便ならず。

チヨ一 長禮炭礦

朝鮮平安北道泰川郡の南端。郡邑泰川を距る南約八軒。狹隘嶺山脈の餘脈域内に及んで丘陵地帯を成し、北部の頭嶺山(三六四米)やや等ばるも、東北部と西南部とは拓けて田畑連る。東方鐵山郡との境を大寧江南流し、その一支は西南博川郡界を劃して東南流し南方に於て合流す。耕地はその流域の外、丘陵地の到る處に發達し、米・粟・大豆・棉等の農産あり。その他鐵産あり。西部を泰川邑より来る二等道路走り、南方の京義本線嶺美驛(博川郡高陽)に近きも、交通未だ便ならず。

東海道の南端を通る全長、千子宮間の官道にも、各編置の登沙河跡・香崎屯跡にも登く交通不便ならず。

チヨレン 長連面 朝鮮貢海道東部の東北端、志呂原を距る東北約一〇軒。南端に九月山脈に属する高

山脈の一角は西北に延びて二道面との界に周知山(三九一米)を起し、この山脈は更に西の北西部に二〇〇―三〇〇米の丘陵を繋ぎ、大田江に臨みて笠峰角の半出あり、其東なる豊中半島との間に深き谷を挟み、その南端には廣き平地拓けて農耕地に行はる。産物は米・小麦・棉花等を主とし、苹果その他の果實も珍ならず、大田江岸には蝦・蟹の漁獲あり。二道道路東方面より来り長連を経て江岸の今ト里に達し、これと、長連より安房郡に出づる道路とに自動車を通じ、今ト里よりは豊南浦との間に連絡道路あり、交通不便ならず。長連は人口約三千二百、郡邑股派に亞ぐ繁華地にして交通・産業の中心をなし郵便所・金融組合・小学校等あり。

チヨカリ 千代川村

波岡南桑田郡の北部。魚岡盆地の西部を占め大堰川右岸に沿ひ船井郡八木町の南に接す。面積六・五九方軒。西半は山地をなし西南端に行者山(四三二米)あり、東半は魚岡盆地の一部を占めて地形低平にして大堰川は中央を東流する支流を入

室常陸これを築き小田原北佐氏に屬す、光時嗣ぐに及び天正十八年北佐氏滅亡し豊臣秀吉此地を家康に賜ひ家康は上總・下總に使を發し居城を退く可きを命ず、諸城主皆退きしも光時従はず、其使を斬り千葉氏の領地を招集して假し敵將保科正光と戦ひ遂に滅び城廢す。朝倉磐・岩山磐・小原子磐・横山磐等は皆山室常陸の築きしものなるも、假城と共に滅亡す。〔岩山磐地〕大字岩山にあり。山室氏の區、齋藤清長の守りし所。

【千代田】 千葉縣東葛飾郡にありし村。大正十五年柏村と改む。同村はのち町制を布く。

【千代田村】 山梨縣甲斐國西山梨郡の北端。東境に黒平峠(一四六二米)・水ヶ森(一五五三米)・帶那山(一四二二米)等の諸峰連り、西境荒川の谷に迫りて花崗岩開析谷なる御嶽昇仙峽の指定名勝地を出現し、更に上流野嶽谷は兩岸古生層粘板岩による斷崖を示し、野嶽多く積み紅葉美し。土地一般に高燥にして山林多く、南部には桑園・田地も見え、養蠶・農業を主産業とし、米・麥・蕎麦の産あり。村内向山には草入水品の産あるを以て著はる。〔諏訪社〕 大字下帯郡に鎮座。郷社。祭神、武御名方命。寶曆三年社殿を再建。〔津洞院〕 下帯郡にあり。曹洞宗。金峯山と號し大泉寺本にして、同山二世殿江英心和尚、天文六年當山を草創して隱居と爲す。和尚は武田信虎の弟なるを以

れて東端に接して東南流す。其地は田畑多く拓け米・麥を産し養蠶盛なり。省線山崎線東部を走りて八木町に八木驛(北方約一・五軒)あり。古くは和名抄、桑田郡小川郷の内なり。

チヨクシ 勅使村 石川縣加賀國江沼郡の中郷。大野寺町の東方約七軒。面積七・八方軒。東半は東方山地の末端を占め、緩傾斜の山林地なれど、西半は加賀平野の一部に属し水田開く。略中央を北流する小流あり北方柴山海に注ぐ。米産を主とし、蕎麦も多少出ず。社線温泉電軌、東西に貫通し、栗津・山代に通ずる線道及び之より分岐する數條の線道あり交通便なり。省線北陸本線船橋驛へは約四軒の距離なり。村名は正保年間花山法皇の御使の駐まりし所よりかく名けらるといふ。〔法皇山横穴群〕 大字勅使の俗に法皇山と稱せらるることゝあり、凝灰岩の岩山に營まれたるものにして總數二十餘箇、多くはその規模大にして復雜な構造を有し、裏道には更に一箇若しくは二箇の小室を縦に連結せしものあり、玄室のうちには二室より成るものあり。平面は多くは長方形にして天井は穹窿狀または屋形をなす。遺物は齊資土器・土壺も多數にして横穴・高塚・横口墳・土竈・長頸甕付壇等の各種あり。また直刀・鐵製帶鈔・槍身等あり。何れも多くは説話部の小室より發見されといふ。〔狐山古墳〕 指定史蹟。勸修寺の左岸もと狐山

と稱せらるる地域にあり。前方後圓壘古墳にして、土壁は略東西に向ひ長さ約二十八間、幅約十三間半、高さ約十六尺あり。〔都部〕 都部郡に昭和七年一月勸修寺防衛隊の土砂採取場となり、工事中部然石室を見出せるものにて約後醍醐部大牛を存し南北約八間、高さ約十七尺あり、封土の構造には墳輪の破片を存す。石室は頂部より約九尺の深さにあり凝灰岩を以て組み合せ周囲粘土を以て固めたるものにして、南側面を露出せるまゝ原位置にあり。其内面は平滑に削られ全面に朱を塗り、長軸は略東西に向ひ内法長さ約九尺、幅約二尺四寸乃至二尺高さ約一尺六寸乃至二尺、底部に三箇の敷石あり大なるものは東にありて舟底形の彫り込みより之に並びて平滑なる敷石二枚を存す。人骨・漢式鏡・勾玉・管玉・頭飾・鈎・刀子・甲冑・鐵等は平滑なる敷石の上に發見せられたり。

チヨクシジ 直指寺 京葉本線の驛(大正十四年設置)。朝野慶尚北道金泉郡代項面にあり。

チヨクベツ 直別 北海道釧路國白糠郡白糠町の大字。根室本線の直別驛(明治四十年設置)あり。

チヨサキ 千代崎 下若松村(三重縣河内郡)。

チヨタ 千代田 【千代田炭礦】 茨城縣多賀郡にある炭

て、信玄殊に尊敬せり。本尊親世曾を安んず。 【千代田】 靜岡縣安倍郡にありし村。昭和九年静岡市に編入す。 【千代田村】 愛知縣尾張國中島郡の南部。名古屋市の西北約五軒。西部には日光川の支流南流し、此地は濃尾平野の南部に位置し、割合低地をなす。中部には沼田多く、桑畑附近には桑畑や畑が多く、養蠶盛にして、蔬菜は名古屋方面への供給地たり。交通には中央に東西に縣道走り、電車は佐藤村の勝橋驛に近し。此地もと吉田村と云ひ、大字大矢は梅花無處蔵に「中島郡大屋郷、瑞雲山淨土禪寺」と載せ東端にも「治水五年三月、尾張國住人大屋中三安養、隨參鎌倉申云」と見ゆ。また大字千代は神風抄に「千代氏御領、七町四反千代氏恒貞」と見え、妙興寺延文六年の寄進狀に「尾張國千代氏庄内、永吉田地之事」と見ゆ。 【千代田村】 大阪府河内國南河内郡の中郷。大和川支流石川の左岸に位置し富田林町の西南約四軒。面積三・五九方軒。和泉山脈北斜面の堆生礫地の一部を占め全村約一〇〇―二〇〇米程度の臺地起伏し東端に沿ひて北流する石川沿岸に小低地開く。田畑多く拓け米・麥を産す。社線大阪鐵道沙ノ宮驛(明治四十四年設置)あり。もと市野村と云ひしが、大正五年現名に改む。天津和義士の一人秦野藏(贈從五位)はこの地の人なり。

チヨミ 千代水村

鳥取縣因幡國氣高郡の東北端。千代川の河口左岸に位置し川を取て鳥取市に對す。面積僅に五・一一方軒。千代川が賀茂港附近にて日本海に注ぐ下流一帯の平野は所謂鳥取平野にて肥沃なる地をなし、農業盛なり。米作を第一とし、蕎麦・甘藷・果實を産し豚其他の畜産も少なからず。千代川は淡水清くして千代川鮎の名産あり。鳥取市とは縣道及びバスを通ず。千代川に沿ふ秋里は主邑をなす。古くは和名抄、高草郡能美郡の地なり。主邑秋里に古城址あり。中古、秋里玄蕃頭跡永なるもの居城なりしといふ。

チラン 知覽町 鹿兒島縣薩摩國川邊郡の東部。薩摩半島南岸に位置し、西南部は枕崎町に接し、西部は川邊町に隣り東部は掛箱郡に界し、また東北は喜入村を隔てて鹿兒島河川に近く東南は掛箱郡願社村に接く。東北より西南に細長く面積一一・九・九三方軒。東北部は金峯山脈西斜面を占めて高く東北隅に鳥帽子嶽(五三六米)あり。母ヶ嶽(五一七米)・中嶽(四二四米)・芝嶽(四九二米)等峯え、萬瀬川支流萬瀬川四流し沿岸小低地あり。西南部は略平坦。ども極めて緩き傾斜をなして南方より其北に三〇〇米程の小丘あり。南西部に平地地あり。農産類多く米・麥を産し副産としての繭の産も多し。全村は養蠶及し林産多く、畜産・鑛産・水産も、また工業も多し。社線薩

坑。我國軍軍醫官の遺骸は松岡町と稱する村に露出。現名、松岡・祖泉として探掘し年産約九百圓、使用費七六八圓(昭和十年現在)。

る裂罅に含石を以て充填せるものに... 酸性金銅床なるも硫化銅をも含有す...

チリエー 散江

【散江村】 樺太支庁支庁散江郡の一郡一... 本邦領樺太の東北端に位置し、露領樺...

東加海に、東はオホホッラ海に臨む。西... 境には東北山脈の主分水嶺連なり、露領國...

上流内・間宮林蔵等が此地に東リアイヌ... と會見せし所。今も夏季にはオロツコ...

以南島が位し、その東北三軒に知里保以... 北島あり。前者は海拔七五二米のアス...

傳ふ。牛田には牛田城址あり水野忠政の... 家臣牛田玄善の居城にて子孫相繼げり...

外二神。仲哀天皇元年の創祀と云ふ。延... 喜式内社。例祭、四月三日。

チワタ 千綿村 長崎縣肥前國東彼... 村部の中央西部。大村灣の東岸に位置す。

南流する津江上流との二斜面を形成せ... り。後者の流域は風景美の地多く、前者...

チンカイ チンサ

し。産物は主に米・大豆・棉花・紙・麻布等にして特に棉花は品質優良なり。また西部の延慶金銀よりは金・銀を出す。鎮安は交通の中心にして道路網よく発達し、東北方茂来、西方全州、東方安義(慶南)には各二等道路を通じ、北方錦山、西南方全羅道(任實郡)には各三等道路を通じ、バスの往復ありて交通便なり。鎮安は本郡最大の都邑にして人口約三千三百、郡廳・警察署・郵便局・金融組合、小學校等あり。前記の馬耳山は、一に東金山と云ひ、山容珍奇にして恰も馬の耳を聳つるに似、よりに其名あり。山腹に藥水湧出す。又山中に金塔寺あり。

チンカイ

【鎮海邑】朝鮮慶尙南道昌原郡の東南部。馬山府を距る東南約六軒。北境に長嶽山、東境に佛母山・天子峯等連なり、南部海岸に沿うて狭長なる平地あり。海岸は極めて屈曲に富み、中央に福一軒、長さ三軒の小角突出し、その東方、天子峰の山稜が延びてなす半角の間に行旅商

チンカイ

の支海を擁し、西方馬山府の河口に小屯島、南方に釜島その他の島あり。沿岸にちゆ・海鼠・鱒・牡蠣等の漁獲多く、鎮海漁業組合の昭和十年度漁獲高一六・八萬圓に達す。其他、米穀・果物等の集散地、工業に生糸あり。市街は中央突角の基部を中心に発達し、街衢井然、人口六千三百餘、うち内地人三千八百餘を數ふ。總督府鐵道鎮海線の慶和・鎮海(共到大正十五年設置)の二驛あり。邑より北方昌原に一等道路、東南熊川に二等道路走り後者はバスの便あり、海上は馬山・釜山・統營・木浦への航路開け、交通便なり。鎮海要港司令部・鎮海要港司令部・防備隊・第二八驅逐隊・港務部の軍需機關を始め、邑事務所・水産試験所養魚場・通信局海員養成所等の官公署、その他公立高等女學校・金融組合・水産會社・銀行等あり。邑は地勢上天然の要害を成すを以て露國は夙に此地を重視し、露國東洋艦隊の根據地となりしが日露役に、我が海軍の占據する所となり一躍世界的に有名となりし地にして、爾來海軍の要港として今日に及ぶ。軍港は明治四十四年の開設にして佐佐保鎮守府の管轄に屬し、翌四十五年四月、松野(巨濟島)に於ける鎮海防備隊を此地に移轉、次で大正五年要港部を置き、同十二年四月軍港を鎮海要港と改稱、壘・對馬及び朝鮮の海上及び陸上の防禦・警備並に所管の出陣準備に關することを掌る。要

チンカイ

【鎮西村】福岡縣筑前國嘉穂郡の西北部。山部山塊の東斜面に位置し飯塚市の西に隣る。西境には五〇〇米程の山地連りて東北方へ傾がり南部には六百餘米の山地縮して、其西北麓は斷崖をなして西より東北に谷をなし、山地は東部へ臺地狀に傾斜して東方を北流する嘉麻川河谷に傾く。米を産し山地は木村・新炭を供給し又炭燐炭田の一部を占め石炭の産あり。中央を東西に横斷する街道は飯塚市と西方福岡市とを結ぶ。其他村道數多走れど交通便して便ならず。古は和名抄、鎮西郡津波郷の地なるべし。安南紀に津波屯倉とあるも此地なるべく、其遺蹟の微とすべしものに明風寺(いま廢寺となり大字名に其名遺る)あり。これは屯倉の地には後世、妙見河(明風を祀る)を置くこと諸國にその例多ければなり。また此地は天正年中の秋月勢と立花勢との古戰場とす。(鎮西村ノ桂)指定天然記念物。根廻周約三三・七米、多數の支幹に分れ其の中大なるもの十數本あり柱の巨樹として有数のものなり。

チンカイ

【鎮西村】鹿児島縣大隅國大島郡の村。加計呂麻島の東半を占む。東西に長く沈降性にして、ヤス式海岸をなし、南側の伊予茂海・諸鈍海はその大なるものとす。村内は概ね山地をなし沿岸諸處に低地を見る。農産に米・甘蔗・薯等あるも地勢上水産業頗る盛んなり。また製糖業見る

チンカイ

【鎮海島】朝鮮總督府鐵道全線の一。慶尙南道昌原郡昌原面の總督府鐵道慶全南部線の昌原驛より鎮海邑の鎮海驛に至る二〇・六軒。

チンカイ

【鎮海島】朝鮮慶尙南道昌原郡の海。朝鮮海峡に臨み、朝鮮半島東南部の沈降の結果生ぜし中島部に見る良港なり。昔役には小頭防山・天子峯・長嶽山・孤雲臺・鶯峯・匡盧山・瓦流山等の諸峯を繞らし、前西南方には瓦流山横はりて海を抱き、海は東方に巨濟島横はりて朝鮮海峡に開く。海内頗る廣く、東西・南北各長徑三〇軒餘。海は更に中央部に北方より突出する設津の半島により東西の二海に分たれ、兩海とも海内無数の小島嶼を布し、東海にては釜島、西海にては猪

チンカイ

島最も大なり。東海は馬山浦深く北に彎入し、その灣頭に近く郡の首邑馬山府の商港及び馬山あり、東南の支海・頭には鎮海の要港あり。海内は頗る深く、釜島附近に於ては一〇米の深度を保持し、且つ海内廣くために僅に數十の大艦巨船を碇泊せしむることを得。曾て東海提督の率ゐし帝國軍艦の根據地となり、日本海・戦と共に世界的にその名の知られし所なり。また海岸には熊川・鎮東・尾浦・松前等の漁港あり。海内は鱒・鯉・石首魚・鰻等の好漁場として知らる。

チンカイ

【鎮西村】朝鮮全羅北道錦山郡の西北部。郡邑錦山の西方約十軒。小白山脈に屬する平安山(四七〇米)・大平山(八七八米)等聳て西境を劃し餘勢城内に及び西部及び西南地は山地を成せども北東部は甲川の支流柳等川流れ小

チンカイ

と多く、特用作物として棉・烟草は顯著にして前者は三五萬斤、後者は三八萬斤を出し、その製糖草は兩切の原料として殊に有名なり。副業として養蠶・製糖・蠶工品製造に従事するもの多く、また鎮川・柏谷・文白・草坪の各面より出す改良乾柿も特産として顯はれ、果物組合による出荷約三四萬個に上る。工業品には前記蠶工品(約四萬圓)のほか、酒類(二九萬圓)・製糖・白木綿・生糸・油脂・莞草等には産額や多く、草坪面の登山藥石を利用して産は古來名高く、近時は、需セプト・インク製造等の石を製造し、需要多し。此等の生産物は鎮川・開川・廣惠院に定期に開く市にて取引せられ三市場の取引高は農産・水産・織物・畜産を合し六三萬圓に達す。また道外輸移出入を見るに輸移出高一〇〇萬圓中、米最も多く九五萬圓、輸移入は金巾の五萬圓を第一とし明太魚・鹽・鎮油等これに次ぎ計三一萬圓を示す。交通は鎮川邑より郡内各方面に放射狀に三等道路を發し、南は清州邑、西は成歡に近く、交通の便悪しからず。行政上、七面に分ち郡廳を鎮川邑内里に置く。本郡は高句麗の今勿奴郡(一に萬野郡)、新羅の黑墳郡にして、高麗の時降州、次で鎮川と改む。のち彰義・義寧と稱せしことあるも李朝に至り鎮川縣となし、燕山君の時一時京畿道に屬せしが中宗王に至り再び本道に復す。大正三年府郡廢合に際し京畿道竹山郡の一部

チンカイ

低地横はり面中の重要地帯を成す。住民は質朴にして専ら農業に従事す。農産物は米・大豆・棉花・烟草等にしてまた白薯は古來著名なり。鎮産や多く珍山・新大昌・校村・珍良・三佳・天香の諸嶺山より金・銀を、烏項嶺山より金・銀・亞鉛を出す。道路は珍山を中心に三等道路敷修するも交通未だ便ならず。

チンカイ

【鎮西村】朝鮮全羅南道大徳郡の西部。大田府の西約六軒。西北公州郡との境に冠岩山(五六二米)聳え、山稜東に延ぶる外、南方へ數條の支脈を出すを以て、山地丘陵大部分を占むるも、東部は鎮城平野の一部を成し、西南論山郡との境を劃する錦江支流・城にも狭長の平地あり、農業比較的盛んなり。農産に米・薯・棉・莞草等あり、東南部に鳳谷金銀の鎮産ありて金を採掘す。南部に大田・論山間三等道路通じバスの便あり、北方鎮城にも道路を通じ、又南境域外を走る湖南線(論山郡豆腐磨面)に極めて近く、交通不便ならず。面邑鎮安は東部丘陵間に存在し、大正三年まで鎮安郡廳ありし地にして、郵便所・市場等あり。

チンカイ

【鎮西】中世九州の別稱。天平十五年に太宰府を一時改めて鎮西府と稱せしが一年餘にして舊に復す。この鎮西の稱が後に残り九州の稱となりしものならん。保元・新院御所各門門堅、十三の歳より鎮

チンカイ

西の方へ進む下すに、豊後國に居住し、【鎮西村】福岡縣筑前國嘉穂郡の西北部。山部山塊の東斜面に位置し飯塚市の西に隣る。西境には五〇〇米程の山地連りて東北方へ傾がり南部には六百餘米の山地縮して、其西北麓は斷崖をなして西より東北に谷をなし、山地は東部へ臺地狀に傾斜して東方を北流する嘉麻川河谷に傾く。米を産し山地は木村・新炭を供給し又炭燐炭田の一部を占め石炭の産あり。中央を東西に横斷する街道は飯塚市と西方福岡市とを結ぶ。其他村道數多走れど交通便して便ならず。古は和名抄、鎮西郡津波郷の地なるべし。安南紀に津波屯倉とあるも此地なるべく、其遺蹟の微とすべしものに明風寺(いま廢寺となり大字名に其名遺る)あり。これは屯倉の地には後世、妙見河(明風を祀る)を置くこと諸國にその例多ければなり。また此地は天正年中の秋月勢と立花勢との古戰場とす。(鎮西村ノ桂)指定天然記念物。根廻周約三三・七米、多數の支幹に分れ其の中大なるもの十數本あり柱の巨樹として有数のものなり。

チンカイ

【鎮西村】鹿児島縣大隅國大島郡の村。加計呂麻島の東半を占む。東西に長く沈降性にして、ヤス式海岸をなし、南側の伊予茂海・諸鈍海はその大なるものとす。村内は概ね山地をなし沿岸諸處に低地を見る。農産に米・甘蔗・薯等あるも地勢上水産業頗る盛んなり。また製糖業見る

チンカイ

【鎮西村】鹿児島縣大隅國大島郡の村。加計呂麻島の東半を占む。東西に長く沈降性にして、ヤス式海岸をなし、南側の伊予茂海・諸鈍海はその大なるものとす。村内は概ね山地をなし沿岸諸處に低地を見る。農産に米・甘蔗・薯等あるも地勢上水産業頗る盛んなり。また製糖業見る

チンカイ

【鎮西村】鹿児島縣大隅國大島郡の村。加計呂麻島の東半を占む。東西に長く沈降性にして、ヤス式海岸をなし、南側の伊予茂海・諸鈍海はその大なるものとす。村内は概ね山地をなし沿岸諸處に低地を見る。農産に米・甘蔗・薯等あるも地勢上水産業頗る盛んなり。また製糖業見る

チンカイ

【鎮西村】鹿児島縣大隅國大島郡の村。加計呂麻島の東半を占む。東西に長く沈降性にして、ヤス式海岸をなし、南側の伊予茂海・諸鈍海はその大なるものとす。村内は概ね山地をなし沿岸諸處に低地を見る。農産に米・甘蔗・薯等あるも地勢上水産業頗る盛んなり。また製糖業見る

チンカイ

【鎮西村】鹿児島縣大隅國大島郡の村。加計呂麻島の東半を占む。東西に長く沈降性にして、ヤス式海岸をなし、南側の伊予茂海・諸鈍海はその大なるものとす。村内は概ね山地をなし沿岸諸處に低地を見る。農産に米・甘蔗・薯等あるも地勢上水産業頗る盛んなり。また製糖業見る

チンビ チンリ

萬圓・肌衣(一一一萬圓)・洋紙(一〇二萬圓)・石炭(二三五萬圓)・煤(四三四萬圓)・金屬製品(針類・建築材料を除く、二四八萬圓)・自動車及自動車部品(一八四萬圓)・諸機械類(二五二萬圓)・木材・木製・生ゴム製品(二〇四萬圓)・肥料(三三三萬圓)・その他織物・陶磁器・鍍金・建築材料等々移入す。就中米は最重要移出品にして、東京・阪神諸港を主要仕向地とし、二五・五萬石を移出す。開港翌年以降の貿易趨勢を表示するに次の如し。(單位千圓)

Table with 3 columns: Year (年), Emigration (移出), Immigration (移入). Rows include Meiji 31, 36, 41, 46, 51, 56, 61, 66, 71, 76, 81, 86, 91, 96, 101.

〔沿革〕 往時畿南浦と稱し、現在の市街地は一帯の干潟地にして一家村に過ぎざりしが、日清戦起るや我が艦隊の碇泊地となり又陸軍兵站部の基點となるに及び漸く世に知られ、平和克復後移住者群を接し、明治三十年十月開港を見て各國の通商地となり、日支兩國領事館開設し、

漸く諸機關備はる。三十一年日本居留民總代役場を設かれ、一方韓國政府は監理署を置き、のち之を三和府と改む。三十七年日露役に當港は再び軍事上の要地となり、従つて物資集散地として殷盛を極む。三十九年領事館を改めて理事館となり、四十二年併合に及んで理事館及び三和府を廢し鎮南浦府を建て、今日に至る。チンビヨ 鎮坪面 朝鮮咸鏡南道水原府の東部。郡邑水原を距る東南約十二軒。南の一部は水原灣に臨む。東北部に秀峰・大冠峰・天御峰等の丘陵起伏するも最高三百米程度に過ぎず。西方一帯は頗る低平にて龍興江下流のつくる沖積平野を成し、地味肥沃、農産豊かなり。産物は米・大豆・麥等を主とし、南石穴嶺山より金を、寶藏嶺山より金・銀を出し、東南境大冠峰附近には石炭の産あり。二等道路西部を通じ、中央には三等道路南北に縦走して交通は便利なり。面邑鎮坪場は南部面境に近く位し人口約千二百、農産物の集散地にして、金鐵組合・市場等あり。その東北一軒半、鎮坪里に和州營地あり、高麗朝光宗王二十四年に築きし石城にして、醜鬼絶佳なり。〔寶藏嶺山〕 總督府鐵道京元線の范浦驛(仁興面)より約四軒にして本山軍務所に達し交通便なり。鐵道の地質は花崗岩及び正片麻岩にて、鐵脈は片麻岩中に脈絡せる含石英英脈なり。鐵脈は神谷脈・竹坑脈・梨子坑その他八條にして何れも

六―八米を距て、現在徳太制及び直轄にて採鑛す。品位は一箇中一五―四〇五。鎮石は手選の上、元山買鑛所に送鑛しつあり。昭和十年中産額、金銀鐵一七〇八兩、六萬七千圓、坑夫數三百餘。チンフー 珍富面 朝鮮江原道平昌郡の北部。郡邑平昌の北約二五軒。地形南北に狭長にして、其の長三四十餘軒、面積三七七方軒に及ぶ廣面積を占む。大白山脈中に位し地勢峻峻峻峻、北部の寶陽郡・麟蹄郡との境には山脈中の盟峰五臺山(一五六三米)を始め、頭老峰・桂芳山(一五七七米)等屹立し、漸次東南に低夷し、南部にも千米以上の高峰林立し、故善郡との境の加里山(一五六一米)著はる。五臺山に登する漢江上支なる五臺川は南流し、西部には平昌江源流し、これ等の流域に狭長の平地あり、耕地拓げ主耕作農業行はる。産物は米・麥・豆・牛・蜂蜜等。林野城内の大部を占め、殊に五臺山附近は美林を以て著はる。春川・江陵間二等道路西南―東北に通じバスの便あり、途中東沙里より北流せる麟蹄郡へ向け三等道路を出づり、交通本だ便ならず。面邑下珍富里は五臺川の右岸に位し、人口千七百餘、郵便所・金鐵組合・學校及び市場あり。附近に高麗時代の郡治の址あり。珍五臺川(月精寺) 下珍富里の北約二軒にあり。朝鮮佛教三十一本山の一。約千二百年前、慈藏の門弟信義開創すといふ。李朝英祖十九年、寛

保三年)重建。寺内に國立史庫ありて歴朝實錄を多く藏せしが、大正三年その全部を總督府の所藏となす。古佛像また頗る多し。チンホク 鎮北面 朝鮮慶尙南道昌原郡の西南部。馬山府を距る西南六軒。西北晋州郡との境に西北山(七三九米)屹立し、東北部にも大山・匡盧山等あり、山麓南に延びて、北部は丘陵地を成せども、南部は低平にして、美田拓く。南部の一端に於て海に臨するも海岸線延長は一軒半に過ぎず。産物は米・麥・棉・繭等。南部を馬山・同域間二等道路、東部を慶東、咸安間三等道路通じて何れもバスの便あり、交通不便ならず。チンリヨ 珍良面 朝鮮慶尙北道慶山郡の東北部。郡邑慶山を距る東北約七軒。南方龍城面・慈仁面との境に最高四〇〇米程度の丘陵地より北に向つて緩斜するも、西北一帯は開けて謂ゆる琴湖江平野の一部を成し、地味頗る肥沃、且つ城内外多数の灌溉用池ありて水利の便よし。農産は米・大豆を主とし、大麥・小麥・繭・棉花・葉煙草の産少からず。北境琴湖江の對岸に鎮道東海中郡線通じ、交通不便ならず。

「人口」に就ての斷片的な話

澤田久雄

「日本地名大辭典」第四卷附録

人口の昔話

人口及び之に關聯する諸統計を重視して、之を國家其他に大いに重用するやうになつたのは、日本に於ては極く最近のことである。かう云つたら異議を稱へる者があるかも知れない、即ち「人口統計などは、この昔から利用されてゐる」と。勿論それはさうだ。然し問題は、如何に重視し如何に利用したかといふ程度の問題にある。人口の調査は、始め戸籍に依つたものである。だから「人口の昔話」といふよりは寧ろ「戸籍の昔話」のやうになるが、我國に於ては崇禎天皇の時、既に課役の公正を計るため人民を檢したやうである。大化の改新には戸籍が作られた。戸籍は勿論人口を示し、人口は國家の歳入歳出の考慮に利用されたことであらう。

支那では現在、徴税のため戸主だけは調査されてゐるやうであるが、大寶律令の定めに従ふ戸籍簿はもつと精密なものであつた。即ち家族全體の名・年齢・身分は勿論、買部も完全な身體でない人を殘疾・廢疾・篤疾などに分けてあるし、また普通の身體の人を年令によつて正丁・次丁・老丁その他に分け、課税に際しては、正丁は一人前、次丁は其二分の一、老丁・殘疾は次丁に準じ、廢疾・篤疾は全免してゐる。而して律令の定めに行はれた範圍に就ては問題もあらうけれども、兎も角古代として整つた制度ではあつた。

其後、戸籍は漸次進歩して生死・婚姻は勿論、戸籍や領地の班點までも記載した。これは、始め公正な徴税が目的であつたけれども、今や犯罪取締乃至捜査にまで利用されるに至つたことを物語る。即ち日本書紀天智天皇九年には「造戸籍・斷盜賊與・浮浪ことある。若しこれ等王朝時代の戸籍簿が残つてゐたら、當時のわが國の人口を略推定することが出来るであらうに、不幸にして今残されてゐない。

武家時代に入りては、政治的統一者はあつても、戸籍などに就ての全國統一を計る企てもなく、豪族は各々實力乃至権力をもちつて領内に課税し、また犯罪を取締つた。戰國の頃ともなれば、課税の多少、小犯罪などは問題でなかつた、即ち此時代に於ては、人間は課税の對象でなくなくなり、強兵として兵力擴大の對象となつた。かくて假りに天下は統一されて檢地はあつても、戸籍などの定めはなく、僅に江戸時代に入つて幕府取締のため庶人だけの戸籍帳(云はゞ戸籍簿)を作つたに止る(寛永年間)。享保十一年以後は六年毎に人別帳を作り直すことになり、形こそ國勢調査に似てはゐるが、その内容に至つては遂に王朝時代の制度に及ばなかつた。

明治維新後、間もなく戸籍法が定められ、其後、戸籍簿を基礎として人口調査が行はれるやうになつた。それに依つて國勢調査以前の人口を一瞥すると、明治の初め戸籍法が定められた頃から日清戦争前までの増減率は、平均すると毎年千人に付六・九人ほどの増加であり、日清戦争前より日露戦争前までの平均は毎年一〇・七人ほどの増加、而して日露戦争前より大正五年までの平均は毎年一・五人ほどの増加で、要するに明治初年頃より大正五年頃までは、概観すれば漸次その増加率を高めてゐる。而して明治時代前半の増加率が後に比べて低いことに就ては、考へさせられる事がないでもない。江戸時代の増加率に就ては知る由もないが、江戸文化の爛熟期前後より所謂開引(人口制限)が行れた。即ち、

國勢調査以後の人口

明治初年に於ける我國の版圖は今日の所謂内地で、三十八萬餘方軒であつたが、現在では六十八萬餘方軒となつた。...

明治初年の人口は今詳かでないが、明治教育の黎明期に出来た學校唱歌に、三千...

Table with columns for 'Area' (面積) and 'Population' (人口) for various regions like Kansai (全阪) and Inner Land (内地).

さて第一回國勢調査以前の精密な面積と人口は右の通りであるが、全阪圖の五割六分にしか當らない内地には、全人口の約七割に當る人間が居住して居る。...

右によつて内地より外地の増加率の高いことを知るが、之は必ずしも外地が内地より...

餘萬兄弟どもよ、守りに守れ君が代を

いふあり、よく歌はれた國民歌だと聞くが、恐らく明治の初年頃は三千萬を越えること...

オランダのやうに本國の數十倍、イギリスのやうに數百倍もある植民地を有する國も...

Table with columns for 'Country' (國別) and 'Population' (人口) for various countries like USA, Japan, etc.

わが内地の密度は、モナコのやうな國を除けば、ベルギーの二七一人(昭和九年)・オランダの二四一人(昭和十年)・イギリスの一九三人(昭和十一年)の次に位する高い密度を有してゐる。...

世界に於て断然トップを切つてゐた北米合衆國に對し、正に伯仲する状態に至つた。...

内地の人口分布

(1)人口分布 各府縣の面積・人口・密度表は別に掲げてあるが、其内より密度の高い...

Table showing population distribution in the inner land, listing prefectures like Tokyo, Osaka, and their population and density.

神奈川縣 七八二 秋田縣 八六六 海邊であるが、此處は未だ開拓に遑する廣大な土地が移民を待つてゐるかの如くである。...

高知・宮崎・島根・福島・岐阜等の諸縣は、何れも山地多くして平野が少い。要するに面積こそ相當の廣さはあるが、生業に適する地が少いため、密度の上で低く表れて來て居るのである。...

大正九年より昭和五年までの比は、漸次男子が多くなる傾向にあつたが、昭和十年にはゲッリ減じた。之は此間に滿洲事變があつた事を想起すれば首肯されることであらう。...

Table showing population distribution by region (地方別) and sex (男女別), listing areas like Tohoku, Kanto, etc.

横須賀 一五四・六〇 佐世保 一三六・三〇 川口 一八〇・〇八 旭川 一六三・三八 大板 一四一・七七

八	一・一・〇・四
八	一・一・〇・一
戸	一・〇・八・七
東	一・〇・九・八・九
川	一・〇・九・八・八
室	一・〇・九・四・〇

前者の反対に女の多い方の市の主なるものに那覇(女百に付男八二・七五)松阪(八三・三三)倉敷(八四・七四)船岡(八六・〇九)一宮(八六・七六)前橋(八六・九〇)の諸市がある。昭和十一年に平野村を廢し、その一字の名を以て建てられた岡谷市は、右の六市を断然抜いて女百に付男五八・四九である。之は工業都市として珍しいやうであるが、實は紡織だけの工業地で女工が多い故であり、同じ工業と云つても重工業とか金屬工業などの主な都市は男が多いのである。

那覇市に女多きは神戶縣總體としてしまふであるやうに、男の出産に基くものと思ふが、其他の右に掲げた多き都市は、大體紡織等の工業が行はれてゐる爲であらう。男女の比に就て我國と列強國との比較を左に掲ぐ(女百に付男)。

アオカ合衆國	一〇二・四七(一九三二年)
日	本 一〇一・〇三(一九三二年)
イタリヤ	九五・六七(一九三二年)
ドイッチ	九四・四九(一九三二年)
フランス	九三・四一(一九三二年)
ソヴェト聯邦	九三・〇〇(一九三二年)
イギリス	九一・九五(一九三二年)

右のうち男の多いのは合衆國と我國だけであるが、合衆國に男の多いのは、男の入植者が多いためと思ふ。男女の均衡のとれてゐる合衆國と我國とが、最も健康民族らしい感じがするが、之はほんの私の詩的感じであつて、男女の比の關係は如何なることを物語るか、この方面の研究を待つものである。

人口の都市集中

明治二十一年に市町村制が公布せられ、翌二十二年我國に始めて市といふものが出来た。そしてその数は四十三であつた。明治の終りには市が六十三、市に準すべき區なるものが五、合計六十八となつた。然るに其後二十六年の今日百四十六(内地だけ)、市の數も倍以上になつたが、更に驚くべきは、市部に居る人數と郡部に居る人數との比であつて最近十七八年の間だけでも市部の人口は倍加したのである。(全國の人口が倍加するには六七十年かかる)。

明治初年以來、傳來の生産組織が拂拭せられて近代的生产組織に變つて行くといふものは、正に旋風のやうな勢であり、恰も冬から春が来たやうな變化である。開闢以來果して斯くの如く社會の舊態を一變せしめた時代があつたであらうか。かくて純農業國とも云ふべき我國が僅か七十年後の今日、純工業國とも云ふべき英國を、工業の上で到る處で壓迫してゐる。若し日本國

民が、此間に失はれた精神的或物を取戻すならば、この發展に對して何の悔があらう。それは兎もあれ、人口の都市集中の傾向は、實に右の如き生産組織の變化に伴ふ自然的結果であると云ふ。一應はさうも云へよう。然しこゝに一考を要する點があり。

年次	市		郡	
	實數	割合	實數	割合
大正九年	1,016,766	26.0	2,833,833	74.0
同十四年	3,866,885	31.6	8,011,014	68.4
昭和五年	10,000,000	33.0	20,000,000	67.0
同十年	13,666,666	33.7	26,333,333	66.3

右の表に於ては面積は一定でない。要するに市は自身の發展に伴ひ、その勢力範圍の町村を併合して地域が擴大する、同時に併合町村の住民は市民となるのである。また町は發展して市となるが、多くの場合その勢力範圍の村を併合する。同様にして村に産業などが興ると町になる。かくして市であるから、市と町とは漸次増加してゆくが村は漸次減少する。

次に市部と郡部の人口密度を一瞥する。昭和十年現在によると、市部の面積は五、〇九四・五三、郡部の面積は三七七・四五〇・八九で、其割合は一三と九八七とである。然るに住民は前表に示す如くその割合は三七と六七三とである。されば全國の平均密度が一方軒に付一八一人である。

はしまいか。即ち工業利潤と農業利潤との不均衡、これも亦、根本に於てある一大原因ではなからうか。だが此問題に本項の目的外であるから、表題の人口の都市集中の近狀を示さう(實數は昭和十年の速報に依る)。

右の表に於ては面積は一定でない。要するに、市部は四、四四九人、郡部は二二三人といふ状態である。ついでに戸數と一戸當り住人を示すならば、昭和十年には市部は四、六一三、七三三戸、郡部は八、八八五、七四九戸で市部は郡部の二分の一以上である。而して全國の一戸當り平均は五・一三人であるが、市部は四・九一人、郡部は五・二四人となる。若し生れた者が生家に住む式な自然状態であるならば、もつと市部と郡部との一戸當りの平均人數に差がある筈であるが、それが比較的近似してゐるのは、主として男から次男以下、女なら主婦、長男の嫁など以外の若人が都會に出て、而かも彼等は一戸を持つに至らぬ者が多いためであらう。右の如く郡部から市部へと人口の移入が

市部の發展

あるが、その割合は男の方が多し。かくて個々の市に就ては例外もあるが、總體として市部には男が多いし、郡部には女が多い。また同じ市でも、總體としては、大きくなるほど男が比較的が多い。次の表はこれ等を物語る(昭和十年統計)。

女百に付男	女百に付男
内地總體 100,000	市部總體 100,000
市部 100,000	上の市 100,000
郡部 98,000	六大都市 100,000

前項に於ては、郡部との比較に於て市部の發展を述べて見たが、本項では市部その物の内部をもう少し検討して見よう(内地だけ)。

先にも述べた如く、明治廿二年に始めて市政が施された時四十三市であつたのが、明治末年には六十八市となり、約二十三年間に三十五市を増加した。かうした増加は、この世紀間、外國ではなかつた。然し我國の最近、それ處の増加ではないのである。第一一回國勢調査以來、本年六月末まで約十八箇年足らずの間に八十三市が百四十六市に増加したのである。殊に著しいのは最近の國勢調査(十年十月一日)後、本年六月末までに十九の新市が出来たことである。かうした發展ぶりを老練大國はどんな目で見てゐることであらう。第一回國勢調査以後の市の數の變化左の如し(何れも十月一日現在)。

年次	次	東	京	大	阪	神	戸	京	都	名古屋	横	濱
大正九年	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
同十四年	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
昭和五年	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
同十年	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	

表 A

年次	次	東	京	大	阪	神	戸	京	都	名古屋	横	濱
大正九年	1,151,012	1,333,684	3,284,644	4,421,333	5,299,946	6,033,394	6,942,888	7,543,888	8,233,333	9,123,333	10,013,333	
同十四年	2,220,000	1,220,000	1,220,000	1,220,000	1,220,000	1,220,000	1,220,000	1,220,000	1,220,000	1,220,000	1,220,000	
昭和五年	2,220,000	1,220,000	1,220,000	1,220,000	1,220,000	1,220,000	1,220,000	1,220,000	1,220,000	1,220,000	1,220,000	
同十年	1,220,000	1,220,000	1,220,000	1,220,000	1,220,000	1,220,000	1,220,000	1,220,000	1,220,000	1,220,000	1,220,000	

表 B

年次	次	東	京	大	阪	神	戸	京	都	名古屋	横	濱
大正九年	22.2	22.2	22.2	22.2	22.2	22.2	22.2	22.2	22.2	22.2	22.2	
同十四年	21.2	21.2	21.2	21.2	21.2	21.2	21.2	21.2	21.2	21.2	21.2	
昭和五年	21.2	21.2	21.2	21.2	21.2	21.2	21.2	21.2	21.2	21.2	21.2	
同十年	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	18.2	

生活をやるやうになつた。勤め先と住宅と

は云々有機體の部分である、さればこそ

後に市域の大擴張となつて兩者が同一の市

域に包含さるゝに至つたのである。

またB表によれば、東京は震災にも拘ら

ず二・四人といふ高度の増加率を示して

ゐるに對し、横濱は二・五人であり、大正

十四年から昭和五年にかけての増加率が始

めて二〇・四人となつてゐる。之に依つて

見ても、東京の復興は敏速であつたが、横

濱は震災後暫くの間、遅々として復興が成

らなかつたことが略々推定できる。

次に、昭和五年から同十年までの間に、

最も人口増加率の高い都市を左に掲げて見

よう。

延岡 八二・六一宮 二六・四

尼崎 四二・〇小倉 二五・四

川崎 三三・四四宮 二四・七

戸畑 三一・二八幡 二四・〇

桐生 三〇・六市川 二二・六

佐世保 三〇・一名古屋 二二・八

川口 三〇・〇濱松 二二・九

横須賀 二七・六吳 二二・六

瀬戸 二七・五浦和 二〇・三

帶廣 二六・九

昭和五年より十年にかけての人口増加率

は内地一年平均七・五、市部平均一五・四

である。されば右に掲げた諸市の夫は非常

な増加率と云はねばならぬ。

業・金屬工業、纖維工業、化學工業等の何

れが盛んな地である。之に依つて都市發展

の趨勢は概して見よう。マンチエスルは

十九世紀中葉に大發展を遂げて一八八〇年

代には既に人口五十萬を突破して居た。こ

れに取組みをさせようとする名古屋は當時

市制さへ布いてなかつたが、四五十年後の

今日、英國きつての工業地マンチエスル

を大正年代に既に追越して今日では、マ

ンチエスル七四萬(昭和十年)に對し名

古屋は一〇八萬(昭和十年)である。

また英國きつての金屬工業地バーミンガ

ムも、近年遂に名古屋に追越されて了ひ、

名古屋はまたグラスゴウにも伯仲して來た

から、もう本年あたりには之をも追越すべ

あらう。さうすると英國に名古屋以上の都

市はロンドンだけになるのである。

また英國一の貿易地ヴァリアールは明治

維新の頃既に數十萬の都市であつた。當時

は赤兎のやうであつた神戸が、今や彼の八

五萬に對し九一萬(何れも昭和十年)とな

つた。同じく維新當時既に數十萬であつた

佛國第一の港マルセイユは遂に昭和十一年

に至つて明かに神戸の九十二萬六千に對し

マルセイユは九十一萬四千と追越されて了

つた。

東京市は列強の首都即ちロトマ、パリ、

モスクワ、ロンドン、ベルリンを追越して、

今やニューヨークにリードされてゐるのみ

最後は外國の都市の發展と我國のそれと

を二三比較して見よう。マンチエスルは

十九世紀中葉に大發展を遂げて一八八〇年

代には既に人口五十萬を突破して居た。こ

れに取組みをさせようとする名古屋は當時

市制さへ布いてなかつたが、四五十年後の

今日、英國きつての工業地マンチエスル

を大正年代に既に追越して今日では、マ

ンチエスル七四萬(昭和十年)に對し名

古屋は一〇八萬(昭和十年)である。

また英國きつての金屬工業地バーミンガ

ムも、近年遂に名古屋に追越されて了ひ、

名古屋はまたグラスゴウにも伯仲して來た

から、もう本年あたりには之をも追越すべ

あらう。さうすると英國に名古屋以上の都

市はロンドンだけになるのである。

また英國一の貿易地ヴァリアールは明治

維新の頃既に數十萬の都市であつた。當時

は赤兎のやうであつた神戸が、今や彼の八

五萬に對し九一萬(何れも昭和十年)とな

つた。同じく維新當時既に數十萬であつた

佛國第一の港マルセイユは遂に昭和十一年

に至つて明かに神戸の九十二萬六千に對し

マルセイユは九十一萬四千と追越されて了

つた。

東京市は列強の首都即ちロトマ、パリ、

モスクワ、ロンドン、ベルリンを追越して、

今やニューヨークにリードされてゐるのみ

日本を想起し而して今日の日本を見るなら

ば、果して如何なる感に打たれるであらう。

(附記) 國策に添ふため、種々な苦心を

したので、此度の附録統計をまとめる

のに二日はかりしか日数がなかつ

た。諸外國の統計其他と比較でもして

もう少し詳しく日本の躍進振りを述べ

たかつたが、それどころではなくて、

殆んど推考する暇もなく、粗雑な記述

をしたことをお詫びする次第である。

全國の

郷土研究家に感謝

わが地名辭典に對して寄せらるゝ全國各

地からの御後援は、我々編輯部員にとつて

身に餘る光榮と感激である。この國家的大

事業、我々には出来るだけの後援をするから、

しつかり仕上げてほしい、といふ意味の微

勸と共に、種々な資料を提供して下さい

である。その資料なるものは、全國の各家

家を訪問して歩かなければ手に入らない、

貴い資料なので、全く先方が自ら提供して

下さる以外、集めやうなければ、知るに

も山ない資料である。

米子市の早原七朗氏の如きは幾々出向い

て確かな研究を報知して下さい居られた

が、去る六月廿九日應召された。茲に頃來

御後援の感謝と共に氏の武運長久を祈つて

止まない次第である。

福井縣丹生郡西安居村の慶尾英氏も然

心な郷土研究家で、而かも前の資料に修正

すべき新資料を発見すると更に其訂正を道

告して來られるといふ風に御自分の仕事と

しても充分念入りの人でなければ出來ない

ほど念を入れた資料を提供して下さい。

鳥取縣美濃郡田村の澤江水郎氏は非常

に良心的な郷土研究家で御自分の研究を更

に權威者に検討して貰つてから當方へ送つ

て下さるといふ有様。

岡山縣津山實科高女の大岩徳二氏は御多

忙の處を、津山市のために又わが地名辭典

のために香みなく、詳細正確な研究をして

下さつた。また熊本縣水俣の中野晋氏は洪水

文庫を主宰して居られる方であるが、水俣

の貴重な資料を御提供下さい。

いづれも良い正確な地名辭典が日本に出

土記なきを國家國民のために遺憾として、

我々は敢て敢て十年間努力して出來な

らざるを以て第四卷四千頁餘、附録を入れる

と四千二百頁ばかりを世に送つた。

第五卷は来る十月、第六卷は十二月に刊行

し、本年中に完結する豫定である。全讀者

諸賢には今後とも相變らざる御後援を賜は

つて、この國家的事業の完成を建設せしめ

下さるよう切に御願する次第である。(日本

地名大辭典編輯局より)

登山季節と我等の地名辭典

我等の地名辭典の第四卷は、丁度登山シ

ーズンころ世に出るので、附録に山岳の表

をつけたと思つてゐたが、本文が一千百

頁以上にもなつたので、地名辭典編輯局は

山岳表にまで手が廻らなかつたのは残念の

至である。我等の地名辭典は、特に岡村精

一氏に御願して、山岳特に登山方面に遺憾

なきを期した。いつか岡村氏に鑑修して就

いて、山岳に就ての貴重な表を作り、讀者

諸賢へお贈りしたいものと念じてゐます。

日本地名大辭典

ニュース

第一卷は昨年の九月廿日現在を以て表現

したので、第二卷の附録に、それ以後十二

月卅一日までの主なる變化を讀者諸賢に報

告したのであつた。第二卷は十二月卅一日

現在を以て表現し、第三卷は三月卅一日現

在を以て表現したが、變化の報告を十二月

卅一日までしかしてないので、此度は十三

年一月一日より六月卅日までの主なる變化

を左に報告致します。然し第四卷は六月卅

日現在を以て表現してありますから、これが

變化は第五卷の附録に記載する豫定です。

一月一日 廣島縣安佐郡福園村は町制を

布く。

二月六日 北海道上川支廳管内多寄村を

Higashi 風連村と改稱す。

二月十一日 大阪府泉北郡神石村は併市に

併せらる。

二月十一日 愛媛縣北宇和郡立間尻村は吉

田町に併せらる。

二月十一日 高知縣安藝郡野根村は町制を

布く。

三月十七日 鳥取縣西伯郡加茂・福米・福

生の三箇村は米子市に併せらる。

四月一日 長崎縣北松浦郡相浦町は佐世

保市に併せらる。

四月一日 山形縣西田川郡温海村は町制

を布く。

四月一日 千葉縣東葛飾郡八柱村は松戸

町に併せらる。

四月一日 兵庫縣明石郡大久保村は町制

を布く。

四月一日 兵庫縣飾磨郡斐波町は飾磨町

に併せらる。

四月一日 山口縣厚狭郡高千帆村は町制

を布く。

四月一日 長崎縣西彼杵郡小樽・土井首・

小ヶ倉・西浦上の四箇村は長崎市に併合

せらる。

四月一日 北海道上川支廳管内風連村の

一部を以て多寄村を建つ。

四月一日 栃木縣足利郡山邊村は町制を

布く。

四月一日 靜岡縣田方郡土肥村は町制を

布く。

四月十五日 北海道石狩支廳管内藻岩村を

洞山と改稱し同時に町制を布く。

四月十七日 茨城縣筑波郡の鹿島村と長崎

村と合併して谷原村を建つ。

四月十七日 福岡縣糟屋郡内村は古賀と

改稱し同時に町制を布く。

四月十七日 福岡縣三池郡馬村は町制を

布く。

五月一日 埼玉縣入間郡植木村を廢し、

その大字鹿洞・上老袋・中老袋は芳野村

に編入せられ、大字下老袋・東本宿は古

谷村に編入せらる。

六月一日 和歌山縣海南郡中村は下津

と改稱し同時に町制を布く。

六月一日 茨城縣新治郡藤澤村大字龜掛

の區域全部を同郡土浦町に編入す。

謹告 兼て金箔の使用制限に際し我が辭

典は最初の許可を得て使用して参りまし

たが、此度皮革使用制限に際しましては

市の面積人口表 (内地)

市名	面積 平方キロ	人口				密度 一人あたり
		大正九年	大正十四年	昭和五年	昭和十年	
東大名京神	550.85	3,350,630	4,099,830	4,970,839	5,875,667	10,667
京阪	185.12	1,768,295	2,114,804	2,453,573	2,989,874	16,151
京都	149.95	608,127	768,558	907,404	1,082,816	7,221
大阪	288.65	702,329	826,456	952,404	1,080,593	3,743
神戸	82.04	644,471	704,375	787,616	912,179	11,117
横浜	135.63	502,413	515,077	620,306	704,290	5,200
横濱	69.88	194,055	238,651	270,417	310,118	4,436
磯	90.05	180,963	209,209	250,244	310,118	3,235
磯	48.65	159,963	169,095	190,282	231,333	4,944
磯	69.85	139,844	169,357	195,862	219,547	3,021
長八	41.10	176,534	189,071	204,626	211,702	5,127
八	38.16	110,692	127,589	168,217	208,629	5,467
八	18.80	144,749	163,972	197,252	207,430	11,036
八	147.76	130,422	156,178	174,698	200,737	1,359
八	24.17	105,182	149,314	174,179	196,541	8,127
熊	45.53	135,757	154,115	171,875	187,382	4,116
須	34.26	114,157	122,005	143,261	182,871	5,338
児	76.07	128,907	153,152	166,370	181,736	2,389
鹿	32.61	127,174	146,714	160,494	179,732	5,512
世	50.80	99,447	110,838	133,174	173,283	3,411
岡	47.49	119,219	133,707	148,667	166,144	3,499
山	20.66	136,792	147,420	157,311	163,733	7,925
川	44.20	56,893	82,920	114,294	154,748	3,501
小	55.59	108,113	134,469	144,887	153,587	2,763
堺	15.75	91,393	120,178	120,348	141,236	8,971
豊	113.89	101,820	118,515	138,713	140,735	1,214
新	20.24	92,130	108,941	125,103	134,992	6,670
下	14.65	72,258	92,152	109,478	133,338	9,102
岐	27.46	95,105	112,112	120,066	132,737	4,894
岐	44.51	83,127	105,592	117,386	128,721	2,892
門	41.74	89,360	99,104	108,130	121,611	2,911
小	35.49	64,897	71,777	88,049	110,372	3,118
大	18.31	79,959	87,603	97,298	104,992	5,734
高	47.49	76,221	87,022	100,128	103,405	2,177
徳	19.31	78,000	84,539	90,631	97,021	5,024
布	20.59	26,420	39,781	63,009	95,919	4,678
青	9.62	56,738	71,424	82,080	93,414	9,710
久	24.49	62,213	72,221	83,009	91,920	3,753
都	35.84	67,488	83,979	91,375	91,375	2,541
旭	21.97	63,312	75,737	87,225	91,021	4,141
西	27.11	42,692	58,894	72,119	89,909	3,316
宮	11.88	62,325	73,083	84,925	87,181	7,338
宇	16.72	63,771	76,138	81,388	87,129	5,211
高	10.97	62,045	71,897	79,906	86,840	7,916
宮	19.10	67,724	74,467	79,546	83,324	4,362
甲	8.27	56,207	68,275	79,447	82,664	9,996
府	17.63	64,636	74,917	82,477	81,940	4,646
長	31.06	67,702	66,555	73,912	77,325	2,490
野	47.37	49,352	58,948	65,507	77,195	1,630
崎	38.83	41,059	52,523	65,601	76,642	1,979
桐	15.76	42,368	47,367	58,293	76,145	4,832
生	4.87	69,982	60,467	66,568	75,373	15,451
市	56.06	58,022	58,923	66,092	73,345	1,303
若	18.80	63,527	63,427	72,141	78,353	3,902
松	7.19	38,461	44,241	50,064	71,072	9,912
尼	62.37	45,422	50,265	59,371	71,063	1,139
大	20.84	50,414	58,491	66,145	69,931	3,354
山	49.73	45,142	53,511	62,249	69,130	1,392
盛	9.66	33,824	37,748	51,674	67,809	6,019
戸	13.76	51,901	57,376	61,965	65,971	4,784
津						
那	5.11	53,882	54,043	60,535	65,203	12,761

市の面積人口表

府縣別面積人口表

地域區別	面積 平方キロ	人口				密度 一人あたり
		大正九年	大正十四年	昭和五年	昭和十年	
全	681,274.76	77,960,172	84,571,505	91,793,680	99,456,819	145
内	382,545.42	55,963,051	59,736,822	64,450,005	69,254,148	181
北	88,775.04	2,359,183	2,498,679	2,812,335	3,068,282	35
海	9,630.92	756,454	812,977	879,914	967,129	100
青	15,235.31	845,540	900,984	975,771	1,046,111	69
岩	291,775	961,768	1,044,036	1,142,784	1,234,801	170
宮	11,063.86	895,537	936,408	1,087,706	1,037,744	89
山	9,325.76	968,925	1,027,297	1,090,034	1,116,822	120
福	13,781.61	1,362,750	1,437,596	1,508,150	1,581,563	115
島	6,090.99	1,350,261	1,408,948	1,487,097	1,548,991	254
木	6,436.59	1,046,479	1,090,428	1,141,737	1,195,057	186
馬	6,335.87	1,052,610	1,118,858	1,189,089	1,242,453	196
埼	3,802.68	1,319,261	1,394,193	1,459,172	1,528,854	402
千	5,062.09	1,336,155	1,399,257	1,470,121	1,546,394	305
東	2,144.80	3,699,839	4,485,556	5,408,678	6,369,919	2,970
奈	2,352.81	1,323,390	1,416,792	1,619,606	1,840,005	782
新	12,578.05	1,776,474	1,849,807	1,933,326	1,995,777	159
宮	4,257.42	724,273	749,243	778,953	798,890	188
山	4,192.42	747,360	750,854	756,835	768,416	183
川	4,264.48	599,155	597,899	618,144	646,659	152
丹	4,465.87	583,453	600,675	631,942	646,727	145
野	13,626.13	1,562,722	1,629,217	1,717,118	1,714,000	126
岐	10,494.70	1,070,407	1,132,557	1,178,405	1,225,799	117
伊	7,769.91	1,550,387	1,671,217	1,797,895	1,939,860	250
知	5,081.14	2,089,762	2,319,494	2,567,413	2,862,701	563
重	5,765.28	1,089,270	1,107,692	1,157,407	1,174,595	204
三	4,050.93	651,050	662,412	691,631	711,436	176
京	4,621.20	1,287,147	1,406,382	1,552,832	1,702,508	368
大	1,813.63	2,587,847	3,059,502	3,540,017	4,297,174	2,369
阪	8,322.85	2,301,799	2,454,679	2,646,301	2,923,249	351
東	3,688.60	544,607	583,828	596,225	620,471	168
山	4,723.48	759,411	787,511	830,748	864,087	183
鳥	3,489.48	454,675	472,230	489,246	496,461	141
取	6,624.60	714,712	722,402	739,507	747,119	112
同	7,044.45	1,217,698	1,238,447	1,283,962	1,332,647	189
山	8,436.52	1,541,905	1,617,689	1,692,136	1,804,919	214
日	6,082.11	1,041,013	1,094,544	1,135,637	1,190,542	196
徳	4,143.22	670,212	689,814	716,544	728,748	174
香	1,858.73	677,852	700,308	732,816	748,454	403
高	5,667.23	1,046,729	1,096,366	1,142,122	1,164,898	204
知	7,103.62	670,895	687,478	718,152	714,980	101
高	4,939.70	2,188,249	2,301,668	2,527,119	2,755,894	558
佐	2,449.01	673,895	684,831	691,565	686,117	280
長	4,075.98	1,136,182	1,163,945	1,233,362	1,290,883	318
藤	7,437.75	1,233,233	1,296,084	1,353,993	1,387,054	186
大	6,333.87	860,282	915,136	945,771	980,458	155
宮	7,738.85	651,097	691,094	700,467	824,431	107
鹿	9,103.81	1,415,582	1,472,193	1,556,090	1,591,466	175
鹿	2,386.24	571,572	557,622	577,509	592,494	248
朝	220,768.65	17,264,119	19,519,927	21,058,305	22,898,038	104
臺	85,961.21	3,655,308	3,994,884	4,592,537	5,212,426	145
豫	36,090.30	105,899	203,504	295,169	331,943	9
關	3,700.38	919,568	1,054,074	1,328,011	1,656,727	355
東						
南	2,148.80	52,225	56,294	69,626	102,537	48
洋						
群						
島						

府縣別面積人口表

凡例 面積は參事本部陸地測量部が測定したるもの(昭和十年三月末日現在)、人口は各々國勢調査の現在人口である(各々十月一日現在)。密度は昭和十年のものにして、一方新に對する平均人口を表せるものとす。

滋賀県市町村人口

市の面積人口表

市名	面積 平方町	大正九年 人口	大正十四年 人口	昭和五年 人口	昭和十年 人口	密度 一平方町 人口
石巻市	23.89	22,067	25,594	30,743	33,530	1,404
石巻市	79.34	29,922	33,225	32,106	32,587	411
知山市	61.71	28,642	30,107	32,011	32,451	526
徳島市	23.78	19,114	20,615	22,748	32,062	1,348
徳島市	23.20	27,798	28,224	28,967	32,055	1,382
酒田新	13.77	24,752	27,864	30,280	31,866	2,314
酒田新	18.39	15,627	17,672	32,223	31,604	1,719
高橋市	15.07	24,570	27,370	29,684	31,335	2,079
高橋市	7.91	28,388	30,934	30,934	31,284	3,942
高橋市	20.08	26,140	28,005	29,149	31,058	1,033
敦賀市	52.25	24,298	25,495	27,609	30,911	592
敦賀市	3.75	26,466	27,740	29,084	30,777	8,207
八幡川市	38.76	24,687	27,221	28,980	30,500	787
八幡川市	15.44	24,214	27,049	28,563	30,328	1,964
八幡川市	13.77	22,132	25,431	28,686	29,917	2,173
丸根市	11.07	24,480	27,971	28,837	29,615	2,675
丸根市	96.06	24,491	27,439	29,787	29,898	306
丸根市	18.74	23,125	25,500	28,080	28,990	1,547
丸根市	42.88	21,914	22,940	25,231	28,962	675
丸根市	60.09	10,574	13,204	16,141	21,831	363
首里市	2.45	22,838	20,582	20,119	19,905	788

- 凡例 a) 人口はどれも国勢調査(10月1日)の現在人口である。
 b) 大正九年、十四年、昭和五年の何れの人口も、當時の當該市町村の地域に現住してゐた人口ではなくして、昭和十年の国勢調査當時の地域に現住した人口を記したものである。
 c) 統計には昭和十三年六月三十日現在の市を掲げた。昭和十年の国勢調査以後に市制を布いた市の人口は前項同様各年とも市制實施當時の地域に現住した人口である。
 d) 配列の順序は昭和十年に於ける人口の多いものより少きものへと配列した。

市の面積人口表

市名	面積 平方町	大正九年 人口	大正十四年 人口	昭和五年 人口	昭和十年 人口	密度 一平方町 人口
坂井市	75.90	56,082	50,040	55,855	65,095	858
坂井市	61.69	38,111	46,787	58,921	64,726	1,049
坂井市	28.02	45,265	55,126	59,928	64,283	2,294
坂井市	12.79	44,905	54,253	60,844	63,816	4,960
八幡川市	101.01	40,087	50,190	57,190	62,245	617
八幡川市	58.49	39,542	46,513	52,907	62,210	1,064
八幡川市	15.90	45,256	58,156	57,896	62,152	3,909
八幡川市	20.17	43,265	53,352	57,294	61,732	3,061
八幡川市	24.80	37,106	46,339	55,665	61,123	2,465
八幡川市	87.42	45,214	51,644	56,545	60,646	694
八幡川市	7.30	38,955	45,288	51,888	59,494	8,150
八幡川市	17.26	41,564	47,334	51,810	58,471	3,388
八幡川市	31.29	44,397	49,542	54,397	58,186	1,800
八幡川市	15.97	33,179	41,806	49,038	57,446	3,596
高橋市	23.07	47,249	51,393	54,642	57,249	2,481
高橋市	44.50	20,146	24,660	30,897	56,421	1,238
高橋市	40.49	39,392	42,332	51,536	56,170	1,208
高橋市	29.80	41,788	48,879	52,784	55,968	1,878
高橋市	19.85	81,242	42,984	51,367	54,709	2,756
川口市	19.43	26,183	33,945	41,324	53,716	2,765
川口市	8.30	27,263	34,746	42,229	53,376	6,431
川口市	61.03	39,270	44,803	51,080	52,494	860
川口市	11.21	41,391	44,152	48,772	52,033	4,642
川口市	13.13	34,461	42,115	48,039	51,602	3,930
防府市	64.48	40,456	42,791	44,154	51,402	799
防府市	54.17	37,720	44,254	50,357	51,289	947
防府市	18.48	43,007	44,602	44,731	50,448	2,724
防府市	9.09	39,426	42,160	46,183	50,154	5,517
防府市	12.51	30,487	38,042	44,027	49,824	3,983
大足市	15.80	32,167	38,622	41,658	49,273	3,119
大足市	9.13	33,637	39,401	42,898	48,875	5,353
大足市	8.59	35,762	41,379	45,092	48,484	5,644
大足市	25.55	33,495	38,694	42,698	48,352	1,892
大足市	40.84	42,942	44,195	44,600	47,814	1,171
瀬川市	24.25	25,773	31,279	37,809	47,553	1,965
瀬川市	22.95	17,921	29,528	37,789	46,711	2,035
瀬川市	5.75	37,549	41,952	43,731	46,199	8,036
瀬川市	12.75	35,982	40,521	43,337	46,014	3,609
瀬川市	40.24	37,118	40,089	42,137	45,335	1,127
清原市	18.63	19,951	26,959	36,846	44,328	2,379
清原市	56.50	48,288	45,493	40,072	43,943	778
清原市	7.79	33,107	37,244	38,958	42,644	5,474
清原市	38.41	44,278	49,014	53,874	41,333	1,076
清原市	33.94	23,946	30,081	34,926	40,826	1,203
飯沼市	16.16	28,876	32,757	40,009	39,629	2,452
飯沼市	4.06	29,306	32,050	35,102	39,097	9,630
飯沼市	10.87	20,344	31,777	33,498	38,348	3,528
飯沼市	20.16	28,686	32,825	35,913	37,649	1,868
飯沼市	18.90	29,904	32,456	34,783	37,291	1,974
鶴三市	16.97	28,220	31,830	34,216	37,224	2,194
鶴三市	70.54	24,611	25,359	26,880	36,831	522
鶴三市	18.58	11,577	16,977	24,394	36,688	1,974
鶴三市	11.62	26,274	31,481	35,220	36,635	3,153
鶴三市	18.92	25,741	30,421	35,512	36,575	1,933
美津市	46.30	20,663	22,499	30,601	36,230	783
美津市	39.82	29,905	31,576	34,159	36,092	831
美津市	50.71	16,081	20,208	28,135	35,095	704
美津市	17.49	26,121	31,120	33,251	35,661	2,040
美津市	20.73	29,952	32,589	35,138	35,380	1,707
彦根市	25.33	27,345	31,475	33,630	35,306	1,394
彦根市	13.33	26,695	31,905	34,205	35,192	2,640
彦根市	48.91	27,868	31,010	32,385	34,808	712
彦根市	18.20	24,141	27,840	30,112	34,716	1,907
彦根市	12.58	24,495	28,571	31,256	34,649	2,754

製複許不



日本地名大辭典
卷四第

昭和十三年七月二十八日印
昭和十三年八月二日初版第一刷發行

發行所 日本書房
發行者 澤田久雄
印刷者 君島深

發賣元 平凡社
共同印刷株式會社
王子製紙株式會社
村田文泉閣

定價十二圓

府縣別市町村數表

府縣名	大正9年	大正14年	昭和5年	昭和10年	昭和13年	府縣名	大正9年	大正14年	昭和5年	昭和10年	昭和13年
北海道	6	6	6	7	7	滋賀縣	1	1	1	1	2
市	31	42	43	46	49	町	17	20	22	20	19
町	268	221	221	218	217	村	185	181	179	177	172
市	2	2	3	3	3	京都府	1	1	2	1	2
市	15	19	23	24	25	町	21	24	29	27	26
町	153	148	141	140	138	村	249	242	234	204	195
市	1	1	1	1	2	大阪府	2	3	3	3	5
市	23	25	27	28	27	町	31	19	26	29	27
町	217	213	209	208	208	村	263	228	220	189	178
市	1	1	1	2	2	兵庫縣	4	5	5	5	5
市	36	38	39	38	38	町	38	48	67	71	74
町	167	167	162	162	162	村	383	372	349	333	319
市	1	1	1	1	1	奈良縣	1	1	1	1	1
市	43	45	47	52	54	町	18	22	28	29	29
町	196	193	190	183	181	村	136	131	123	121	121
市	2	3	3	4	4	和歌山縣	1	1	1	3	3
市	25	26	27	26	28	町	23	29	31	28	28
町	201	201	198	198	196	村	207	199	194	184	184
市	2	3	3	3	4	鳥取縣	1	1	2	2	2
市	41	45	46	48	49	町	14	14	16	17	18
町	378	363	357	354	351	村	177	173	168	159	152
市	1	1	1	1	1	島根縣	1	1	1	1	1
市	46	51	52	54	54	町	15	18	23	26	28
町	338	326	327	325	323	村	271	264	254	247	244
市	1	2	2	2	3	岡山縣	1	1	3	3	3
市	33	36	37	39	39	町	43	55	58	61	60
町	143	139	138	136	135	村	361	341	329	320	319
市	2	3	3	3	3	廣島縣	4	4	4	4	5
市	38	39	40	40	41	町	44	52	54	56	54
町	168	165	163	162	160	村	384	374	355	340	330
市	0	1	1	4	4	山口縣	1	2	3	4	6
市	44	43	47	48	48	町	20	30	33	32	28
町	330	327	321	311	307	村	205	189	184	182	178
市	0	1	1	3	4	德島縣	1	1	1	1	1
市	74	78	87	85	82	町	24	32	37	38	36
町	274	271	258	250	238	村	115	107	97	98	97
市	36	48	68	11	12	香川縣	2	2	2	2	2
町	151	141	110	87	84	町	18	20	21	22	22
市	2	3	3	4	4	村	159	154	151	150	148
市	22	27	31	35	35	愛媛縣	2	3	3	4	5
町	173	160	143	136	129	町	27	33	35	33	32
市	3	3	3	4	4	村	266	247	238	232	228
市	43	44	43	52	52	高知縣	1	1	1	1	1
町	370	363	352	346	346	町	21	24	28	28	29
市	2	2	2	2	2	村	175	171	163	161	160
市	32	32	32	33	33	福岡縣	7	8	8	10	10
町	236	235	231	228	228	町	50	50	50	49	51
市	1	1	1	1	1	村	287	277	264	251	246
市	19	22	24	27	27	佐賀縣	1	1	1	2	2
町	201	196	193	179	169	町	11	12	14	15	20
市	1	1	1	1	1	村	124	120	117	108	103
市	10	10	12	14	13	長崎縣	2	2	2	2	2
町	167	168	166	161	158	町	8	12	20	27	28
市	1	1	1	1	1	市	191	178	164	156	151
市	7	7	8	13	14	熊本縣	1	1	1	1	1
町	235	233	232	224	218	町	39	40	41	42	45
市	3	3	3	3	5	村	324	308	306	302	297
市	26	28	30	30	28	大分縣	1	2	3	3	3
町	365	356	353	354	352	町	30	33	35	33	33
市	2	2	2	2	3	村	227	223	218	212	208
市	46	49	51	56	54	宮崎縣	0	2	2	3	3
町	296	292	284	273	272	町	15	15	17	20	19
市	2	4	4	4	5	村	84	81	78	72	68
市	41	42	48	51	51	鹿兒島縣	1	1	1	1	1
町	299	283	275	264	260	町	6	19	28	38	41
市	3	4	5	5	6	村	136	125	114	101	98
市	71	72	81	81	76	沖繩縣	2	2	2	2	2
町	190	169	158	150	149	町	1	3	4	4	4
市	3	3	3	4	5	三重縣	52	51	50	50	50
市	24	25	34	35	33						
町	311	308	299	293	292						

年次市町村計
大正九年 83 1,300 10,788 12,231
大正十四年 101 1,517 10,374 11,992
昭和五年 109 1,609 10,030 11,838

昭和十年 127 1,711 9,600 11,528
昭和十三年 146 1,715 9,519 11,380

〔備考〕表中大正九年、同十四年、昭和五年、同十年は夫々十月一日現在、昭和十三年は六月三十日現在

R291.033

N77

(4)

終